

取扱説明書

 **Takakita**

細断型ホーローッパ収穫機

WB1030・WB1030DX



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**細断型自走ホールクropp収穫機**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。
シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないように
ご注意ください。

	ホーン		エンジン回転数“低回転”		エンジン回転数“高回転”
	ウインカランプ	1 	ヘッドランプ	2 	ヘッドランプと作業灯
	エンジン停止		ブレーキ		燃料
	水温		エンジン油圧		バッテリー充電

専門用語の説明

- パワーステアリングレバー・・・油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
- ブレーキターン・・・・・・・・・・左右どちらかのクローラを停止させて方向を変える旋回
- スピントーン・・・・・・・・・・左右のクローラが互いに反対方向に駆動される旋回
- ソフトターン・・・・・・・・・・左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
- デバイダ・・・・・・・・・・こくかんを分けすくい上げる部分
- ドレーン（プラグ）・・・・・・エンジンオイル・トランスミッションオイルの排栓
ラジエータの水を抜く栓
- H S T・・・・・・・・・・油圧式の無段変速装置
- アジャスト・・・・・・・・・・調節を意味する
- 主変速レバー・・・・・・・・・・“前進”“後進”の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー

目 次

 安全に作業するために	1
--	---

本製品の使用目的とサービスについて	17
-------------------	----

機体方向説明	18
--------	----

諸装置の説明	19
--------	----

1. エンジン操作関係	19	7. 車体水平制御関係	34
2. 走行操作関係	19	8. 刈取制御関係	38
3. 刈取・ペーラ関係	26	9. その他	42
4. 電装関係	28	10. リヤケース連動クラッチ	43
5. マルチナビ	29	11. キャビン関係 [D X仕様]	44
6. アクセル操作関係	33		

運転に必要な装置の取扱い	68
--------------	----

1. チャンバー開閉装置の取扱い	68	8. 使用できるネット	72
2. 安全装置の取扱い	68	9. ネット巻数の設定	72
3. 満了感知装置の取扱い	69	10. ネットブレーキの調整	73
4. ネット繰出しスイッチの取扱い	69	11. タイトチェーン注油装置の取扱い	73
5. ネット装置のスライド	70	12. パイロットランプについて	73
6. ネットをセットする	71	13. 圧力ゲージの見方・調整	74
7. 使用時にこれだけは守りましょう	72		

細断型ホールクロープ収穫機の運転	75
------------------	----

1. 新車時の扱いかた	78	3. 移動走行について	82
2. エンジンの始動と停止のしかた	78	4. 輸送について	89

上手な収穫のしかた	92
-----------	----

1. 作業ができる作物とほ場の条件	92	3. 刈取作業のしかた	94
2. 作業前の準備	93		

作業方法	109
------	-----

1. 作業手順と要点	109	4. 断続電子ブザーが鳴り、	
2. ブザーが鳴りパトライトが		ロック外れを知らせたら	111
点灯します	110	5. 誤ってネット繰出しスイッチを	
3. 連続電子ブザーが鳴り詰りを		押した時は	111
知らせたら	110		

添加器の作業方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 仕様・・・・・・・・・・・・・・・・ 112 | 3. 添加量の目安・・・・・・・・ 113 |
| 2. 作業方法・・・・・・・・・・・・ 112 | 4. 不調診断・・・・・・・・・・・・ 113 |
| 5. メンテナンス・・・・・・・・・・ 113 | |

簡単な手入れと処置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. タイトチェーンの張り調整・・・・ 114 | 4. ミッション給油・・・・・・・・ 115 |
| 2. シェアボルトの交換・・・・・・・・ 114 | 5. 各部の注油・グリースアップ・・・・ 115 |
| 3. 自動注油・・・・・・・・・・・・ 114 | 6. リヤチャンバーの清掃・・・・ 116 |

メンテナンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1. 定期点検と処置・・・・・・・・ 117 | 15. 防じんあみ、各フィンの掃除・・・・ 171 |
| 2. 各部の開閉と着脱のしかた・・・・ 117 | 16. 油水分離機（セパレータ）の
点検・排水・・・・ 172 |
| 3. 各部の掃除と注油のしかた・・・・ 137 | 17. フィルタカートリッジ類の
洗浄・交換・・・・ 173 |
| 4. 定期点検・・・・・・・・・・・・ 145 | 18. 感知装置の点検・調整・・・・ 178 |
| 5. オイル、フィルタ、類の交換と
チェーン、ベルト、クローラの張り調整 146 | 19. 各部ワイヤの点検・調整・・・・ 178 |
| 6. 廃棄物の処理について・・・・ 146 | 20. 各部ベルトの点検・調整・・・・ 180 |
| 7. 洗車時の注意・・・・・・・・・・・・ 146 | 21. 各部チェーンの点検・調整・・・・ 185 |
| 8. 定期点検一覧表・・・・・・・・ 148 | 22. カッター部の点検・調整・・・・ 193 |
| 9. 給・注油（水）点検一覧表・・・・ 154 | 23. スピンナー部の点検・調整・・・・ 196 |
| 10. 燃料、オイル、グリースの
点検・補給・交換・・ 156 | 24. 刈刃の点検・調整・・・・・・・・ 197 |
| 11. ラジエータ冷却水の
点検・補給・交換・・ 165 | 25. バッテリーの点検・交換・・・・ 201 |
| 12. ウォッシュ液の補給・・・・・・・・ 168 | 26. 電気の各配線コード、
各ヒューズの点検・交換・・・・ 206 |
| 13. クリーナの点検・掃除・交換・・・・ 169 | 27. クローラの点検・調整・・・・ 208 |
| 14. パイプ、ホース類の点検・交換・・・ 170 | 28. 刈取作業後の手入れ・・・・・・・・ 211 |

収獲機の不調と処置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. わらが詰まる・・・・・・・・ 214 | 3. 不調診断（ロールベアラ部電装関係） 217 |
| 2. その他・・・・・・・・・・・・ 216 | |

付 表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 消耗部品・・・・・・・・・・・・ 218 | 3. 配線図・・・・・・・・・・・・ 227 |
| 2. 電装の位置・・・・・・・・・・・・ 226 | 4. 主要諸元・・・・・・・・・・・・ 229 |

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

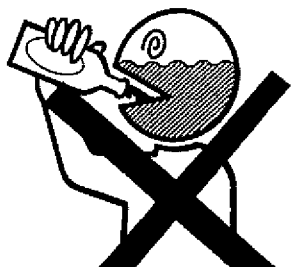
(1) 安全指示順守

- 本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは、注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。



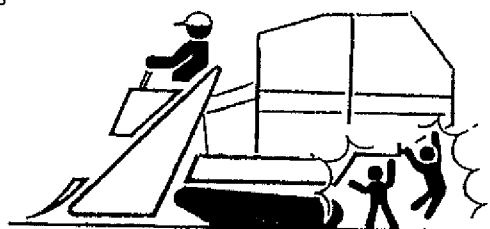
(2) 適格者運転

- 運転操作には的確な判断が必要です。
- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中のご婦人、16才未満の方、過労、病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は操作に慣れるまで低速で運転してください。



(3) 子供が近づくのは危険

- 点検・整備中及び収穫作業中、機械に子供を近づけないでください。見えない所で機体にさわったり、かくれたりして危険です。



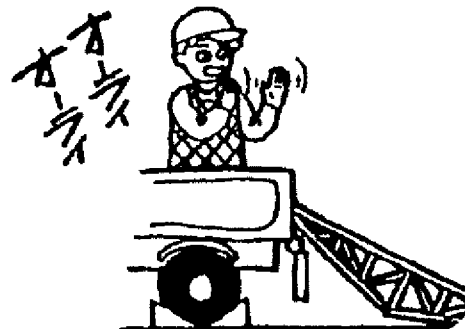
2. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへの積込み・積降しは

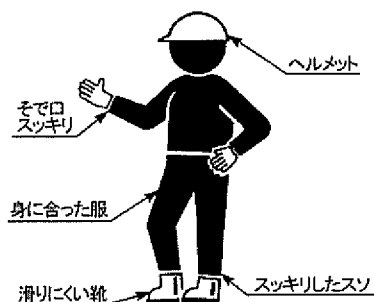
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに行なってください。積込んだ機械は車止めをし、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。



⚠ 安全に作業するために

(3) 安全な服装

- 運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。
- レバーや作動部に誤って引っ掛かり、ケガをすることがありますのでだぶついた服は、着用しないでください。また、そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き、首巻き、腰タオルの着用は禁止です。
- サンダル、スリッパなどの履物の着用は禁止です。



(4) 排気ガスに注意

- エンジンの排気ガスは有毒です。
- 屋内で運転するときは、適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け、外気が充分入るようにしてください。



(5) 燃料の取扱いは安全に一火気厳禁

- 燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いには充分注意してください。
- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいにふき取ってください。



(6) 定期点検整備

- 1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。
- フューエルパイプ、ラジエータホース、オイルドレンゴムホースは2年ごとに交換してください。（“定期交換”の項参照）
- 電気配線は毎年点検してください。（“定期点検と調整”の項参照）
- 高圧噴油が皮膚に浸入すると危険です。
- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接、手や体を触れないようにしてください。もし、高圧噴油に触れた場合、直ちに医者への診断を受けてください。油が皮膚に浸入した場合、数時間以内に取除かないと壊疽（えそ）にかかる恐れがあります。



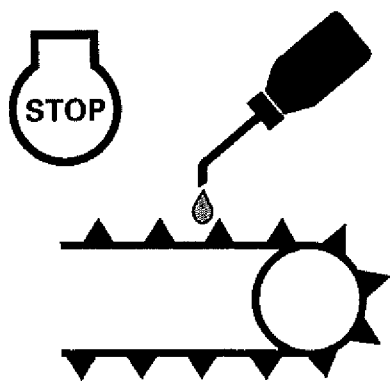
⚠ 安全に作業するために

(7) 作業前点検（日常点検）の実施

- 運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。

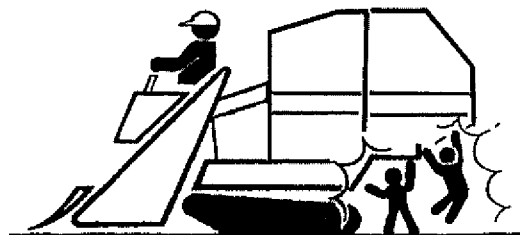


- 点検・整備・調整・掃除・給油・グリスアップするときはエンジンを必ず止めてください。
- ロールベーククラッチ・刈取りクラッチは“切”にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリー周辺に、わらくずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。
- 取外した安全カバー、保護カバーは必ず取付けて作業してください。



(8) 機械を動かす場合は安全に注意

- 機械を動かす場合は周囲の安全に気を付けてください。
- エンジンを始動するときは、運転座席に必ず座って、変速レバーを“中立”にし各クラッチを“切”にし、ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときや各クラッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなどの合図をして、機械に人を近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは、必ず周囲の安全を確認してください。

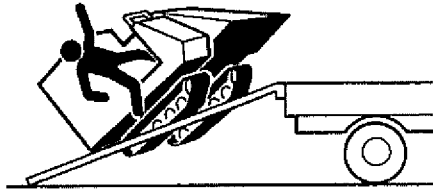


(9) 安全なトラック輸送

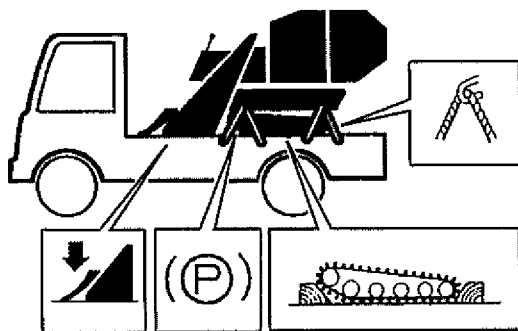
- 積み込み・積み降しはトラックの駐車ブレーキをしっかりと掛けてください。
- トラックへの積み込み積み降しは、平地を選んで、最低速で行なってください。
- あゆみ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また、あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、強度が充分ある基準にあったものを使ってください。
- あゆみ板は平行において、安定していることを確認してください。
- チャンバー内は空にしておいてください。
- 自動車体水平制御は機体を一番下げた状態にしてください。
- 積み込みは前進で、積み降しは後進で行なってください。

⚠ 安全に作業するために

- あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・駐車ブレーキを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し、再度上り下りし直してください。



- トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかり床に固定します。
- 防じんカバーが開いていると風圧で破損・脱落の恐れがありますので、必ず閉じてください。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから、絶対しないでください。

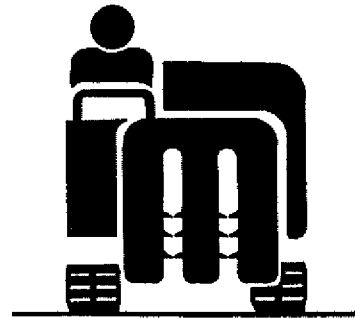


あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	60cm以上
数量	2枚
強度	1枚が2800kg以上の重量に耐えうる

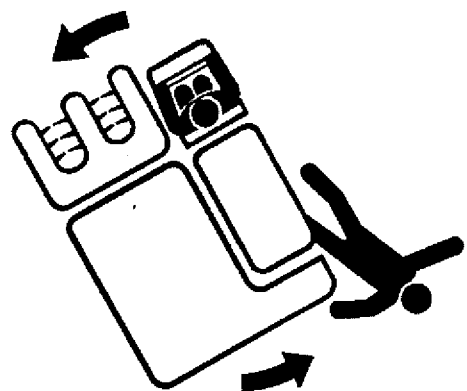
(10) 安全な移動走行

- 補助デッキ・左分草かんを収納して機体幅を狭くしてください。
- 刈取部の先にデバイダカバーを取付けてください。
- 各作業クラッチを切り、運転者以外乗らないでください。
- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。
- ロールは排出してから移動してください。
- リヤケースは必ず閉めた状態で移動してください。



(11) 高速走行の場合の注意

- 高速走行するときに、急激なパワーステアリングレバーの操作をすると急旋回し危険です。
- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。

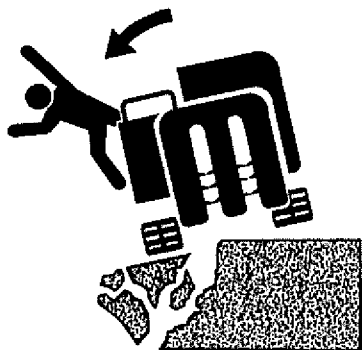


⚠ 安全に作業するために

(1 2) 転倒・転落注意

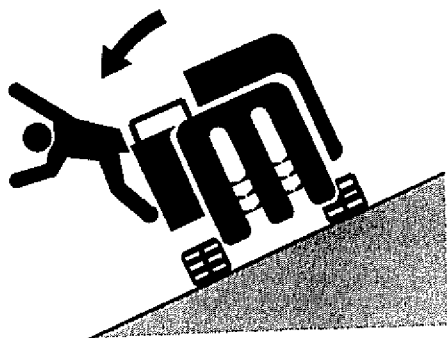
■転倒・転落は重大事故になります。

- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがありますので、走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると、転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。
- 刈取り作業時以外（特にあぜ越え時、移動走行時、運搬時、格納時）はロールを排出して、各クラッチを“切”にし、自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。

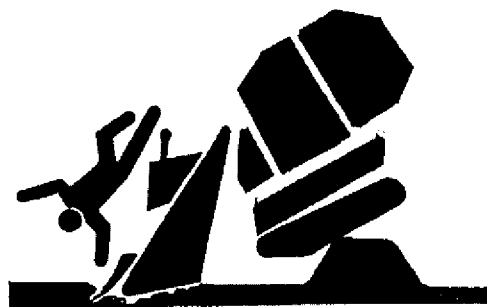


■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作しないでください。
- 斜め走行は危険です。機械を傾斜の方向に合わせた作業（走行）をしてください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。

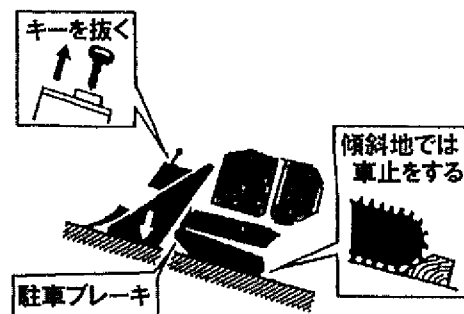


- 10 cm以上の段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さで滑り止めがある基準にあったあゆみ板を使ってください。
- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーの操作はしないでください。



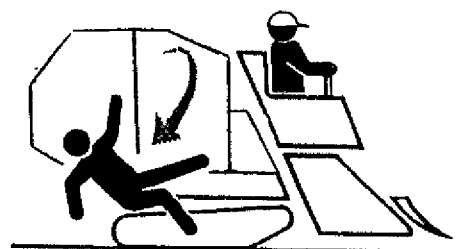
(1 3) 安全な駐車のかた

- 駐車するとき（運転席を離れるとき）は駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当るまで降しキーを抜いてください。
- 傾斜地に駐車するときは車止めをしてください。



(1 4) 運転者以外の搭乗禁止

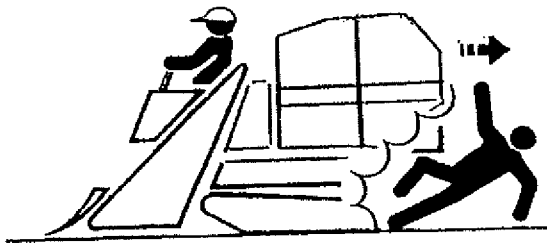
- 運転者以外の人を乗せて運転しないでください。
- ふり落とされたり、障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いている機体にとび乗ったり、飛び降りたりしないでください。



⚠ 安全に作業するために

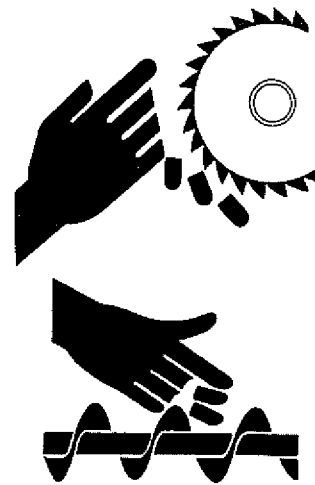
(15) 共同作業の安全確保

- 補助者は運転席から見えにくい位置にすることがあります。補助者の安全にも配慮してください。
- エンジン始動時、各クラッチを入れるときは合図し、補助者のOKをもらってください。
- 補助者が機体に近づくときは、運転者に知らせることを徹底させてください。



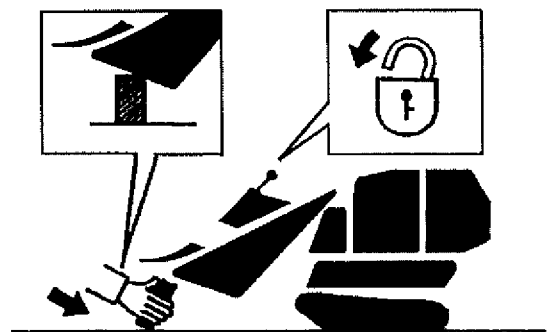
(16) 安全な収穫作業

- 異常に気付いたらすぐエンジンを止めてください。
- 危険ですので運転中にわらの巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタにわらが詰まったときは、すぐ各クラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは、厚手の手袋をして、少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には回転物があります。危険ですのでカバーの下に手を入れたり、カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口、点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを止めてください。



(17) 安全な点検・整備

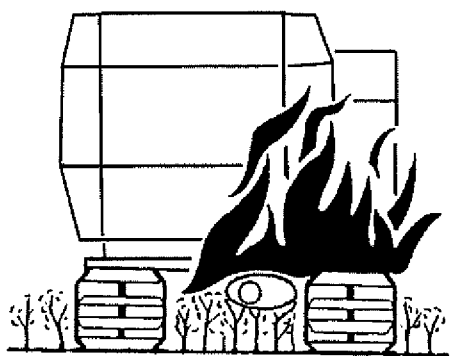
- 点検・整備は水平で平坦な場所で行ってください。
- エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて駐車ブレーキを掛けてください。
- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき、昇降部をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。
- 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしないでください。
- 刈取部の刈刃・カッタ部のカッタ刃を交換するときは手袋を着用し、刃先に手が触れないようにしてください。



⚠ 安全に作業するために

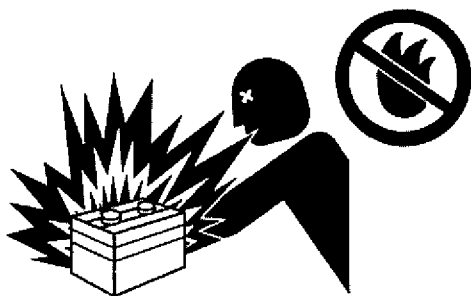
(18) 火災防止

- わらくずは燃えやすく注意が必要です。
- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリー周辺にわらくずがたまっていると危険です。作業前、作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後わらくずの上や枯れた雑草の上に停車すると、火災の恐れがありますので避けてください。
- 機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災の恐れがあります。
- 電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生する恐れがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



(19) バッテリーの取扱い注意

- バッテリーのガスは爆発の恐れがあります。
- バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。
- バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。



- バッテリーの充電時、交換時は、バッテリーの注意ラベルをよく読んでください。
- バッテリーを取外すときは、最初にマイナス（-）側のケーブルを取外してください。バッテリーを取付けるときは、最初にプラス（+）側のケーブルをプラス（+）側の端子に取付けてください。
- 充電は、機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂する恐れがあり危険です。
- 指定外のバッテリーは使わないでください。
- バッテリー液（希硫酸）に触れると危険です。
- 目、皮膚、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入った時は水でよく洗った後、医師の治療を受けてください。



(20) ヤケド防止

- 過熱された冷却水あるいは蒸気が皮膚に触れるとヤケドします。
- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は、過熱、加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け、ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。
- 高温の油が皮膚にふれると火傷をします。
- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガの恐れがあるため充分に温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。

⚠ 安全に作業するために

- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



(21) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造はしないでください。

(22) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。

(23) 長期格納するときは

機械をきれいにし、回転部およびチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。コントロールボックスは取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。

(24) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。

(25) 回転中のタイトバーには触れない

回転しているタイトバーに巻き込まれると重傷を負うことがあります。手や足で絶対に触れないようにしてください。

- (26) シェアボルトの交換や巻き付き草などを取り除くときは

クラッチを切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



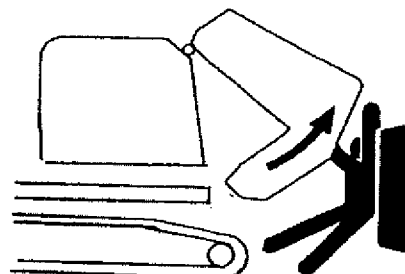
(27) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは、極力落として作業を行ってください。

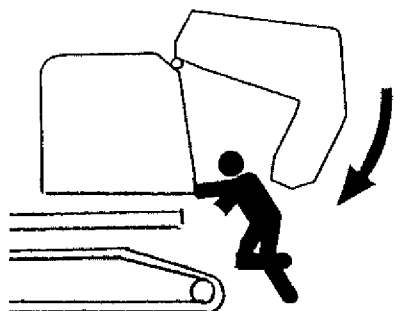
(28) ベールを放出するときは

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



⚠ 安全に作業するために

(29) チャンバーを開けて作業するときは必ずストップバルブを閉じてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で **⚠** 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

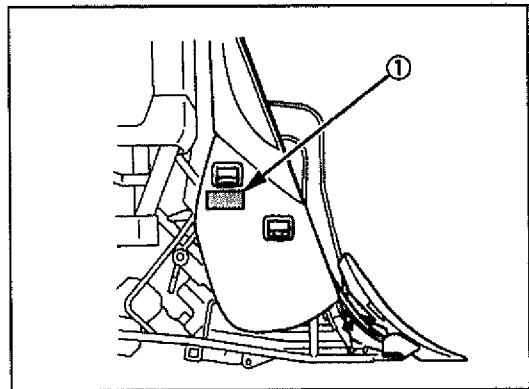
▲ 安全に作業するために

警告ラベルの貼付位置

①品番 5K190-6432-1

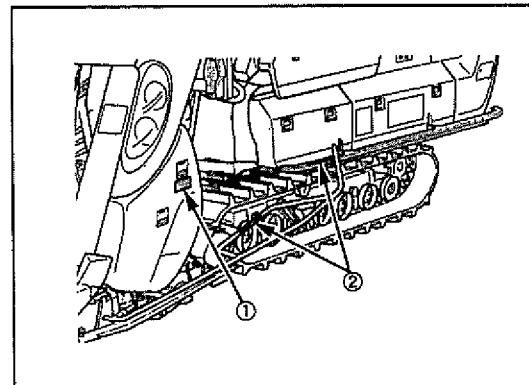
▲ 注 意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



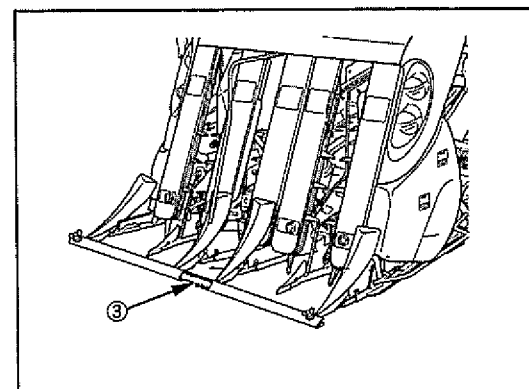
②品番 5H601-4344-1

▲注意 人に当たりケガをさせるおそれがあるので、
移動するときは必ず収納すること。



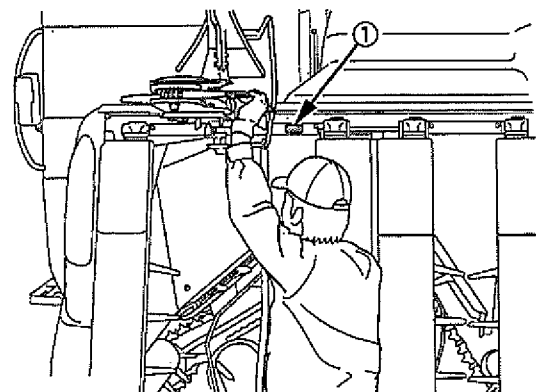
③品番 59700-4332-2

▲注意 デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品
を取り付けること。



①品番 5H803-7925-1

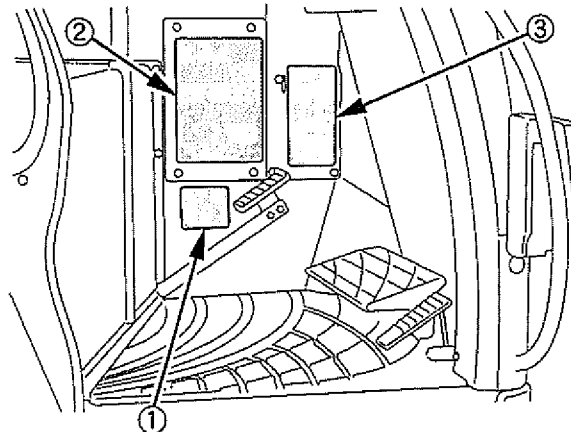
▲注意 1, 引起しオープン状態で、刈取部を
回転させると非常に危険ですので、
エンジンは絶対に始動しないこと。
2, 引起し装置が落下して身体がはさ
まれる恐れがあるので、ロック棒
で必ず固定すること。



⚠ 安全に作業するために

①品番 5H801-4342-2

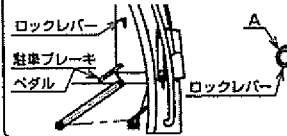
⚠ 注 意	
	エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。
	マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。



②品番 5H801-4348-1

⚠ 注 意	
作業前 - 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。 - エンジンを始動するときは、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキペダルを踏み込み、各作業クラッチを「切」にすること。 - 室内は排気ガスが溜まり易く、ガス中毒の危険があるので換気すること。 - ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。 移動・作業中 - 発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近づけないこと。 - 転落・転倒事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。 - 走行を停止するときは、主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。 ※ 主変速レバーのノブを握ると「停止」の位置がわかりにくくなるので、ノブを握らないこと。 - 道路交通法規定により、トラック運搬時（特にキャビン付）は、地上高3.8m以下で運行すること。 - 刈取作業時以外（あぜ乗越時、移動走行時、運搬時、格納時）は、「もみ」をすべて排出または降ろして、各作業クラッチを「切」にし、M仕様（車体水平制御）が一番下げた状態にすること。 積込・積降ろし - 転倒・転落事故の危険があるので、車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。 - 積み込むときは前進で、降ろすときは後進にすること。 - 副変速を作業にし、エンジンの回転を落として（2000rpm以上）、低速にすること。 - あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを直し、再度やり直すこと。 - あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使用すること。 駐・停車 - 火災の危険があるので、機械を停止するときは、切りワラや雑草の上に止めないこと。 - 急発進・暴走の危険があるので、副変速レバーを切り換えるときは、平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし、駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。 - 機械から離れるときは、エンジンを止めて始動キーを抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。	

③品番 5H801-4358-2

⚠ 注 意	
- トラックへの積み降ろし中および、走行中に駐車ブレーキペダルを踏むと急に機体の向きが変わり、転倒・衝突のおそれがあるので踏まないこと。 - 駐車ブレーキをかけるときは、副変速レバーを必ず「N」以外の位置に入れること。 ※ 副変速レバーが「N」では、油圧ロックが作動しないため、坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。 - 坂道で駐車するときは、暴走を防ぐため、必ず車止めをすること。	
駐車ブレーキの取り扱い 主変速レバーを完全に停止位置に戻してから駐車ブレーキペダルをロックがかかるまで、強くいっばいに踏んでください。駐車ブレーキペダルを踏みながらレバーを上上げると駐車ブレーキが解除されます。路上走行時はロックレバーはAの位置に引き上げておいてください。	
	

安全に作業するために

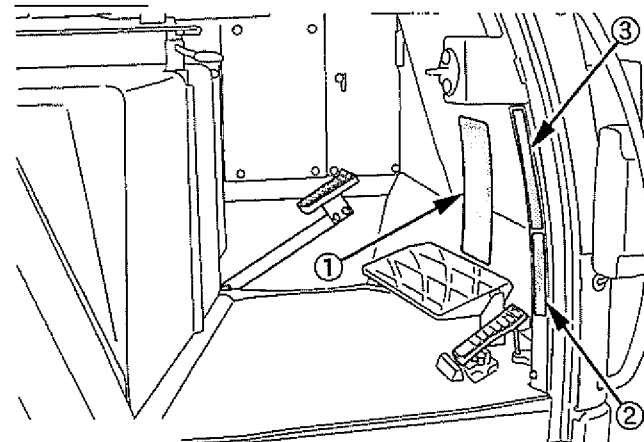
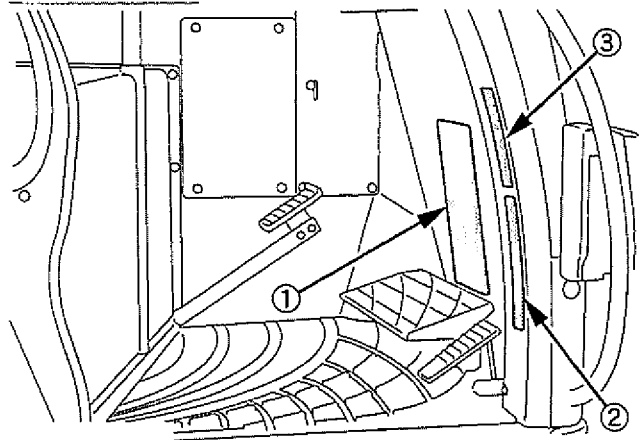
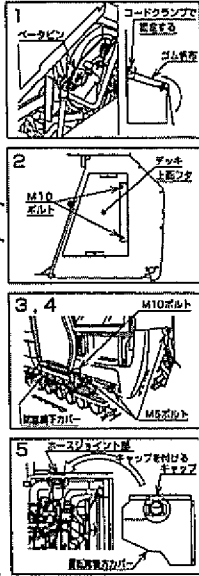
①品番 5H801-4371-5

注意

1. 運転席をオープンする際には、運転席が急に開くおそれがあるので、平坦で傾斜のない場所を選ぶこと。
 2. 運転席オープン状態では、高温部・回転部が露きだしとなり、また暴走するおそれもあるので、エンジンをかけないこと。
 3. オープン収納時は、デッキ下のボルトやフレームのフック等を確実に組み付けること。
- * 忘れると移動中運転席が動いて危険となるため。

運転席オープン手順

1. 運転席と刈取部の間にある主変速連結部のベタピンを外して下さい。またマフラーカバー上のゴム帆布を引き上げて、コードクランプで固定して下さい。
 2. 運転席のデッキマットをめくり、デッキ上面フタを取り外して、運転席を主フレームに固定するM10ボルト2本を外して下さい。
 3. 運転席デッキ下カバー（M6ボルト3本で固定）を外して下さい。また防護網下のカバー（M6ボルト2本で下から固定）を外して下さい。
 4. 運転席右側の主フレーム上にあるM10ボルト1本を外して下さい。
 5. 運転席後方カバー（M6ボルト3本で固定）を外し、吸気ホースジョイント部のハーネスのカップを外し、またホースバンドを纏めて吸気ホースを外して、パイプとホースそれぞれにキャップでフタをして下さい。
 6. 運転席をしっかりと保持しながら機体右後方に引っ張って、運転席をオープンして下さい。オープンした後は、運転席右下の補助フレームに取り付けてある固定ピンで主フレームと固定して下さい。
- * 収納時は、取り外した吸気ホースやホースバンド、ボルトや部品等を確実に元通りに組み付けて下さい。
- * 詳細は取扱説明書をご覧ください。



②品番 5H801-4323-2

③品番 5H801-4322-1

注意

刈取・脱コクONの作業状態では主変速レバーが停止位置にあっても、刈取かき込みペダルを踏むだけで、刈取部が回転するので、注意すること。

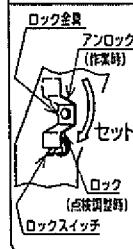


移動時の操作について

1. 移動時は、エンジン回転を2000rpm以上で使用して下さい。
2. 副変速「走行」での刈取作業は機械のトラブルの原因になりますので使用しないで下さい。

注意

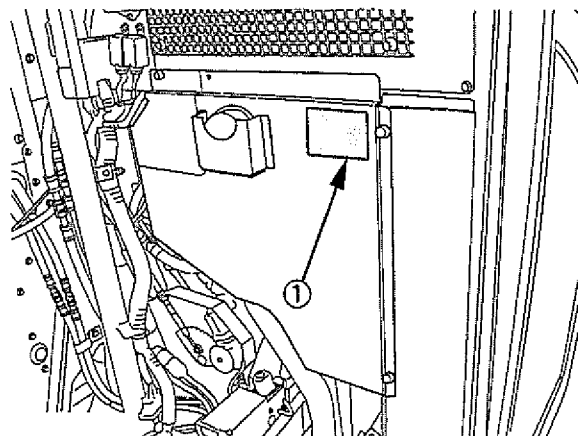
刈取部を上昇して点検調整を行う時には、必ずロックスイッチを下げてロック金具をセットすること。



⚠ 安全に作業するために

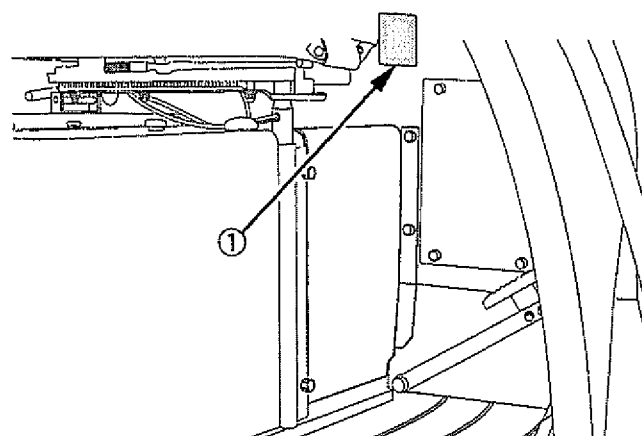
①品番 5H801-4342-2

⚠ 注 意	
	エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。
	マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。



①品番 5H801-4354-2

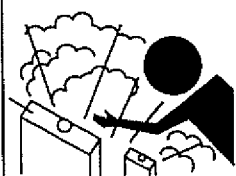
⚠ 注 意	
坂道や歩みの上で、副変速レバーを操作すると、機械が暴走する恐れがあるので、絶対に操作しないこと。	
副変速レバーの取扱い 畦の乗り越えや傾斜面を上る時などで“作業・走行”段で上れない場合は運転席と刈取部との間にある副変速レバーを押し下げて“畦越え”段に切り換えて下さい。レバー操作は機械を一旦停車して行って下さい。レバー操作後は、変速段が確実に切り換わっていることを確認してから走行して下さい。 ・通常の作業や移動時には“作業・走行”段で使用して下さい。	



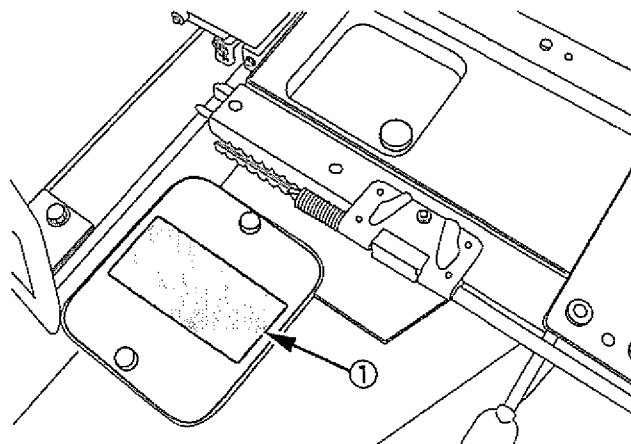
⚠ 安全に作業するために

①品番 5H801-4343-1

⚠ 注意



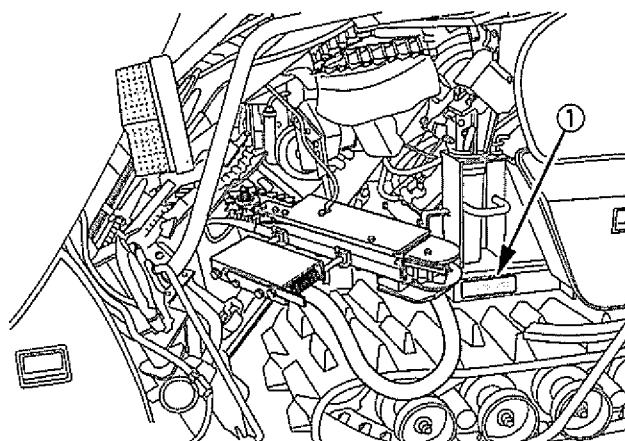
オーバーヒートで点検口を開いたり、運転席をオープンして、エンジンを点検・整備するときは、次の手順を守ることを。
 1. エンジンを止める。
 2. 必ず停止後30分以上経過してからエンジンルームを開けること。
 エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。



①品番 5H700-4367-1



1. 刈取オープン作業は平坦で安全な場所で、刈取部の昇降以外はエンジンを必ず止めて行って下さい。
2. 刈取部をオープンしたまま、走行しないで下さい。
3. 枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをして下さい。



①品番 3P200-9892-2

105E41R

ハイドロメーターの見方

良好



要充電



要交換



使用済バッテリーは再生資源として利用（リサイクル）されます。



火気厳禁



メカニカル



子ども厳禁



喫煙厳禁



火気厳禁

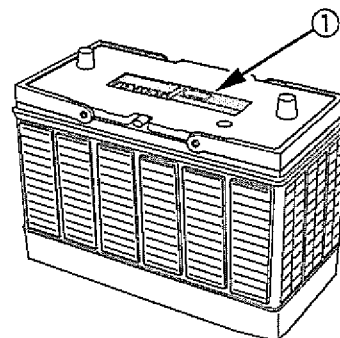


火気厳禁



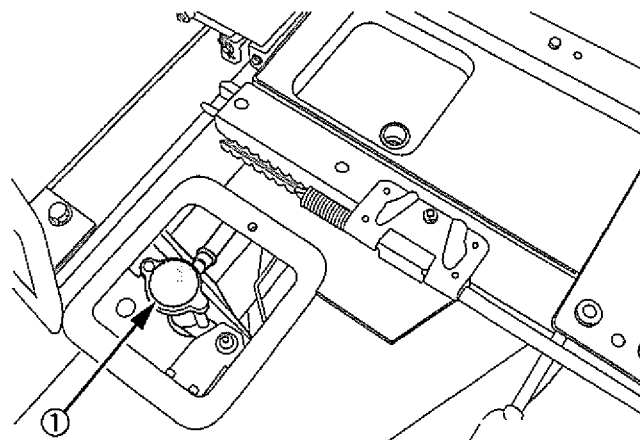
危険

- バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると火災・爆発のおそれがあります。
- この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
- 充電は換気のよいところで、ショートやスパークをさせないでください。
- フースタケーブルの使用は車両またはバッテリーの取扱説明書をお読みください。
- バッテリー液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。
- バッテリー液注入時（横倒し厳禁）
- 液漏れ注意
- 充電時火気厳禁
- 急速充電厳禁
- 密封型（密閉タイプ）



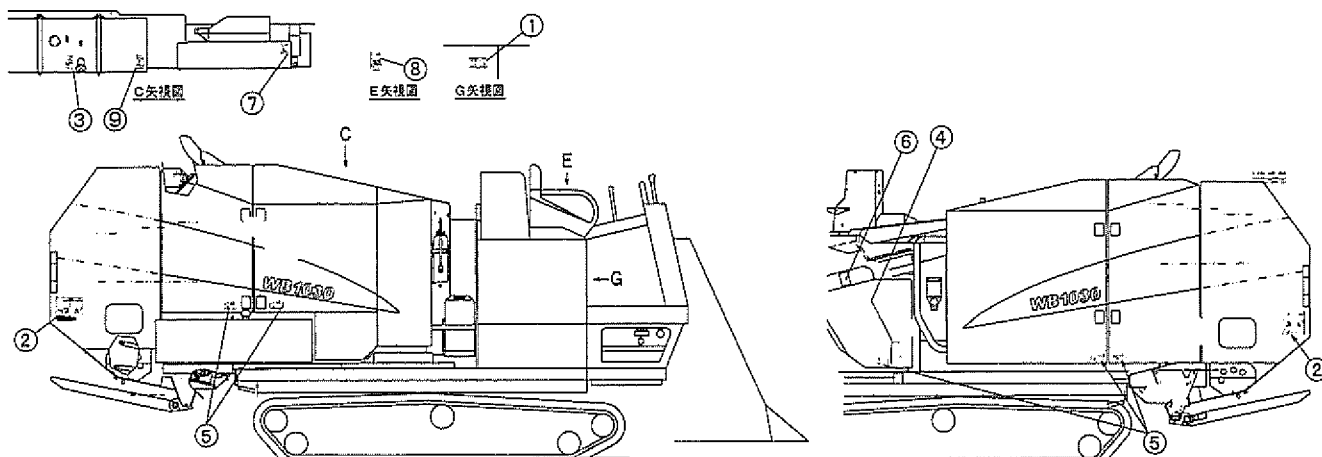
⚠ 安全に作業するために

①品番 16667-8724-1



安全に作業するために

【ローラーベアラ部】



①部品コード 001204500042

②部品コード 001206001780

③部品コード 001206001050

④部品コード 001206001530

注意

- 1 油漏れを防ぐため、必ず油漏れ防止装置を装着してください。
- 2 油漏れ防止装置の取り付けに当たっては、必ずエンジンが停止していることを確認してください。
- 3 エンジンが停止していることを確認してください。
- 4 作業中は、必ず安全帯を着用してください。
- 5 運転席を離れるときは、必ずエンジンを停止し、制動ブレーキをかけてください。
- 6 作業中の制動は、必ず制動装置を使用してください。
- 7 直後、作業中はエンジンを停止して、必ず安全帯を着用してください。
- 8 手、足、顔、顔面をエンジンに近づけないようにしてください。
- 9 公道を走行してはなりません。

危険

・チェーンは、必ず安全帯を着用してください。
・必ず安全帯を着用してください。
・必ず安全帯を着用してください。
・必ず安全帯を着用してください。
・必ず安全帯を着用してください。

危険

火気厳禁

○給油口に火を近づけると火災のおそれがあります。
○給油中は、エンジンを停止してください。

軽油

警告

メンテナンス不良や無理な作業は火災の原因になります。始動前・作業中は下記の事を行ってください。

- 1 マフラー・エンジン周り、ローラー・ベアラ部内部のウレタン、ゴム、ほこり等の燃焼を行ってください。この作業にはマフラーが燃焼するのを防ぐために、必ず燃焼防止装置を装着してください。
- 2 燃焼防止装置の取り付けは、必ず燃焼防止装置の取扱説明書に従ってください。
- 3 エンジン周り、燃焼防止装置の取り付けは、必ず燃焼防止装置の取扱説明書に従ってください。
- 4 ショートによる火災防止のため、必ず燃焼防止装置の取扱説明書に従ってください。

⑤部品コード 001206000800

⑥部品コード 001306000080

⑦部品コード 001206001020

⑧部品コード 001206001370

⑨部品コード 001204500910

注意

○カバーを取り出すときは必ずエンジンを停止してからにしてください。
○必ず安全帯を着用してください。

警告

●ベルト・チェーンが回転中は、手や足を近づけないでください。
●接触するとケガをするおそれがあります。

警告

運転中はステップに足らないで下さい。
乗ると落下し、怪我をするおそれがあります。

危険

チャンバーを開閉するときは後方に人がいないことや、障害物がないことを確認してください。

注意

燃料タンクの上に乗りません。
燃料タンクが変形し、燃料が漏れて火災の原因となります。

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにしておき、傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、柔らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながらかきつけてください。

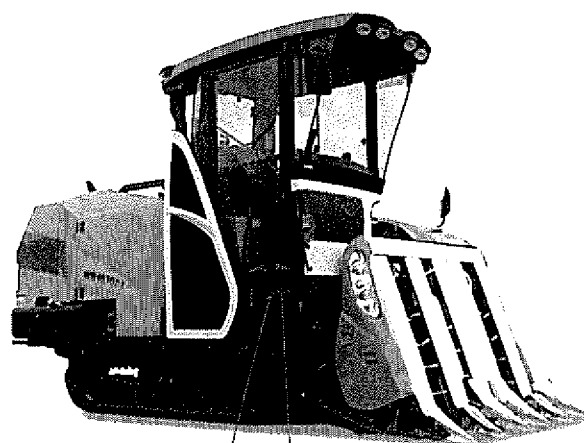
本製品の使用目的とサービスについて

製品の使用目的について

本製品は、飼料イネ、飼料麦を刈取り、ロール成形する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って
点検・処置しても、なお不具合があるときは、
お買い上げいただいた販売店、農協、
または、お近くの当社営業所までご連絡く
ださい。



台車番号・エンジン型式名
機関番号

品名・型式
機体No.

*写真はWB1030DX

【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体No. (SER-No)
- 台車番号
- エンジン型式、機関番号
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ
詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

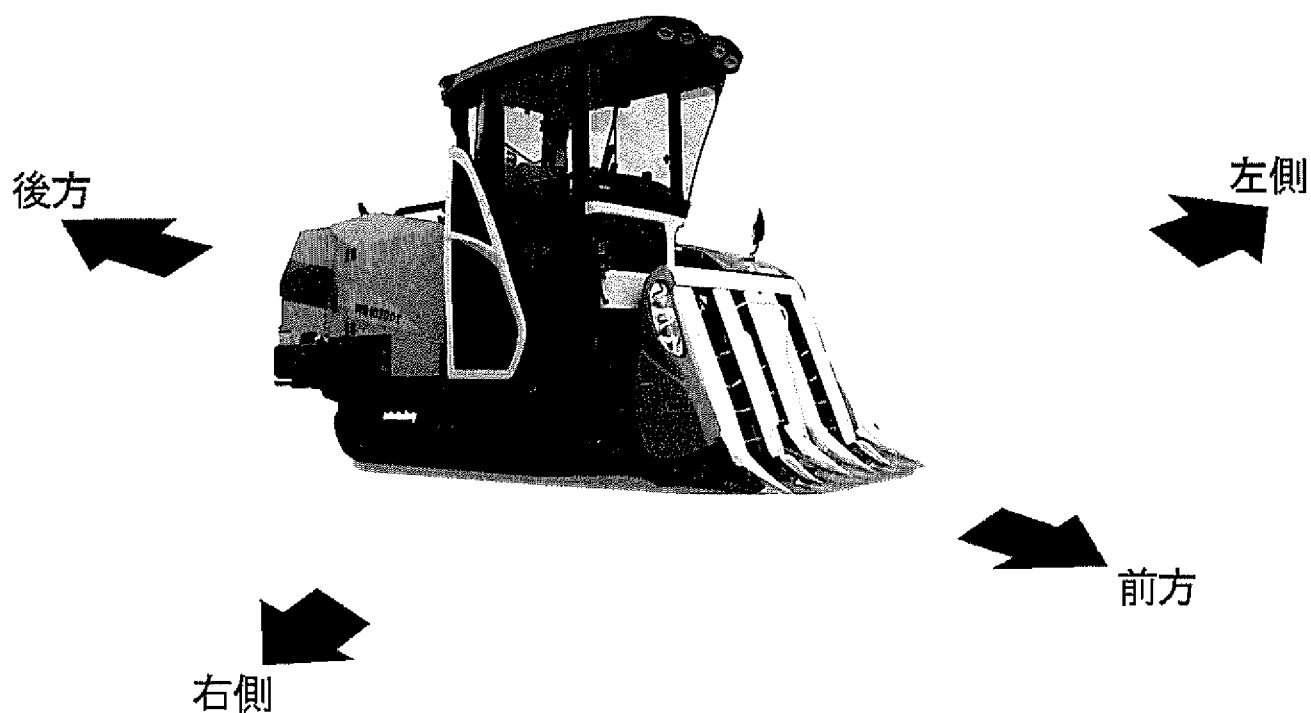
【今後参考のため、次の空欄に機体No.などを記入しておいてください。】

品名	細断型自走ホークロップ収穫機
型式	WB1030 WB1030DX
機体No.	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

機体方向説明

■機体方向説明

この取扱説明書で使用している“前後・左右・左回り・右回り”などの方向は、図示の通りに決めています。

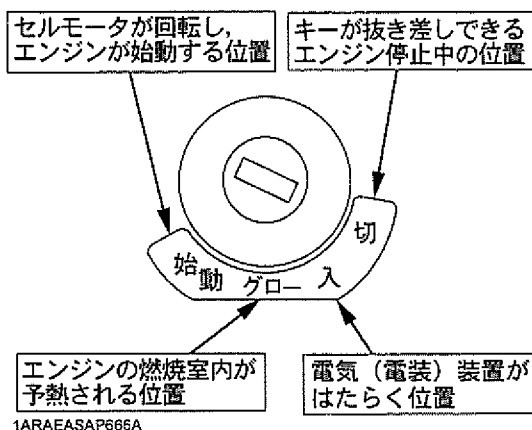


諸装置の説明

エンジン操作関係

◆メインスイッチ

コンバインの電源の入・切、及びエンジンの始動・停止を行なうスイッチです。

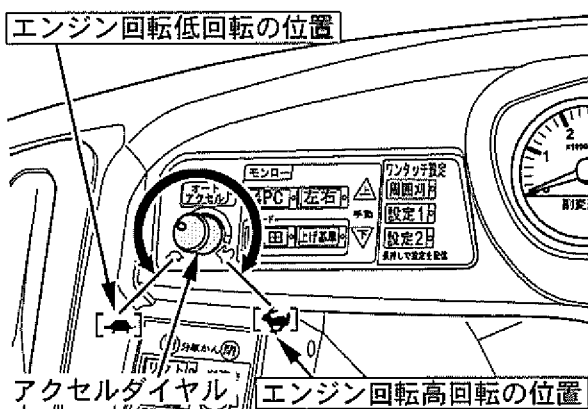


補 足

エンジン始動後、メインスイッチのキーから手を離すとキーは、【入】の位置に戻ります。

◆アクセルダイヤル

エンジン回転をコントロールするダイヤルです。ダイヤルを右に回すと回転数が上がります。



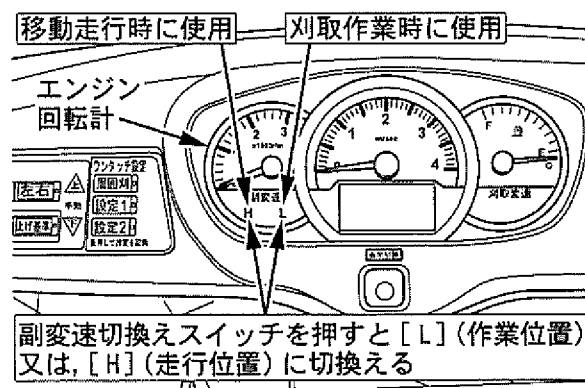
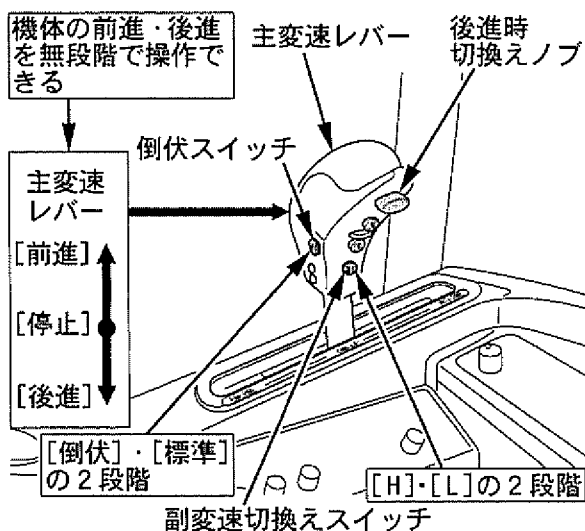
補 足

・自動アクセル制御が【入】のとき、主変速レバーが【中立】位置、ペーラ刈取クラッチレバーがペーラ【切】位置のときは、アクセルダイヤルを操作してもエンジンの回転数は変わりません。

2. 走行操作関係

◆主変速レバー、副変速切換えスイッチ

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバー・スイッチです。



重 要

駐車ブレーキがかかっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

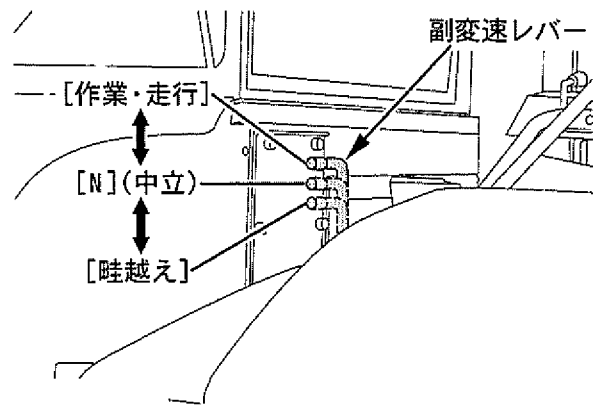
諸装置の説明

補 足

- ・ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは、**【停止】**位置に固定され、主変速レバーを操作しても動きません。
- ・ 後進するときは、主変速レバーの後進切換えノブを押しながら**【後進】**側に引いてください。**【後進】**位置にするとバックブザーが鳴り、後退灯（バックランプ）が点灯します。
- ・ メインスイッチのキーを**【入】**位置にした直後の副変速切換えスイッチは**【L】**（作業位置）です。
- ・ 副変速切換えスイッチが**【H】**（走行位置）の状態で行取作業を開始すると、**【L】**（作業位置）へ自動的に切換わります。
- ・ 刈取作業中は、副変速切換えスイッチを押しても**【H】**（走行位置）には切換わりません。
- ・ 副変速切換えスイッチを押すと、エンジン回転計の下側にある副変速の表示部が**【L】**又は、**【H】**に切換わります。
- ・ 刈取作業や傾斜地（あぜ越えやあゆみ坂）で移動走行を行なうときは**【L】**（作業位置）、通常の移動走行を行なうときは**【H】**（走行位置）で使用してください。
- ・ 主変速レバーが**【中立】**位置以外の位置でエンジンを始動しようとする、と、液晶ディスプレイに**【主変速を中立にする】**と表示します。
- ・ 副変速切換えスイッチを押すと、液晶ディスプレイに**【副変速 L 作業】**又は、**【副変速 H 走行】**と表示します。
- ・ 副変速切換えスイッチを**【H】**（走行位置）に切換えると、旋回モード切換えダイヤルで選択している位置に関係なく旋回力はソフトターンに固定されます。また、旋回力アップトリガを引いても旋回力は変わりません。

◆副変速レバー

あぜの乗り越えや傾斜地を上がる時、負荷が大きいため上がれない場合に使用する変速レバーです。

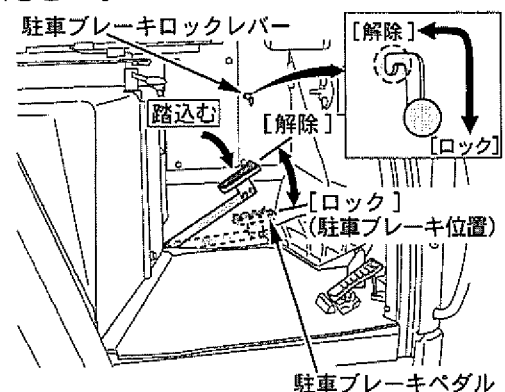


補 足

- ・ 副変速レバーを**【畦越え】**位置で走行するときは、副変速切換えスイッチを**【L】**（作業走行）位置にしてください。
- ・ 副変速レバーを**【畦越え】**位置にして走行が終わったあとは、必ず**【作業・走行】**に切換えてください。

◆ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

ブレーキペダルを踏込むとブレーキがかかります。また、駐車ブレーキロックレバーを**【解除】**位置から**【ロック】**位置にしたあと、ブレーキペダルを踏込むと、駐車ブレーキがかかります。駐車ブレーキを解除するときは、ブレーキペダルを少し踏込みながら駐車ブレーキロックレバーを**【解除】**位置に引上げてください。



諸装置の説明

重 要

駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補 足

- ・ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは、**〔停止〕**位置に固定され、主変速レバーを操作しても動きません。
- ・ 移動（路上を含む）走行時は、駐車ブレーキペダルを**〔解除〕**位置にしてください。
- ・ 駐車ブレーキペダルを踏込まないと、エンジンは始動しません。また、駐車ブレーキペダルを踏込まずにエンジンを始動しようとする、液晶ディスプレイに**〔駐車ブレーキを踏む〕**と表示します。

◆パワーステアリングレバー

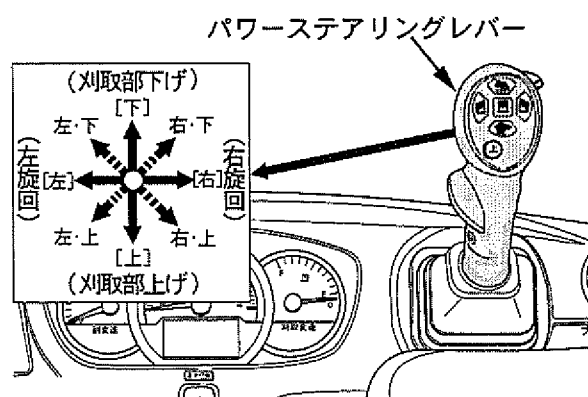
パワーステアリングレバーは、機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

〔左〕 ↔ 〔右〕…レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。
倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

〔下〕↕…レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。

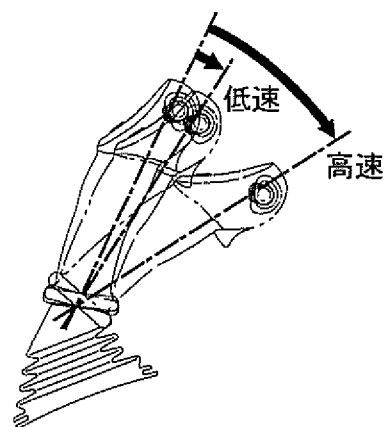
〔上げ〕

左・下 右・下
左・上 右・上
…レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に、刈取部が上下に動きます。



補 足

- ・ 刈取部の上昇 ↔ 下降操作を行なうとき、レバーを倒す量に応じて昇降速度が変化します。昇降速度は、レバーを倒す量が大きいほど速くなります。



- ・ エンジンが停止中で、刈取部が上がっているときにパワーステアリングレバーを前方（〔下〕方向）に倒しても刈取部は下がりません。

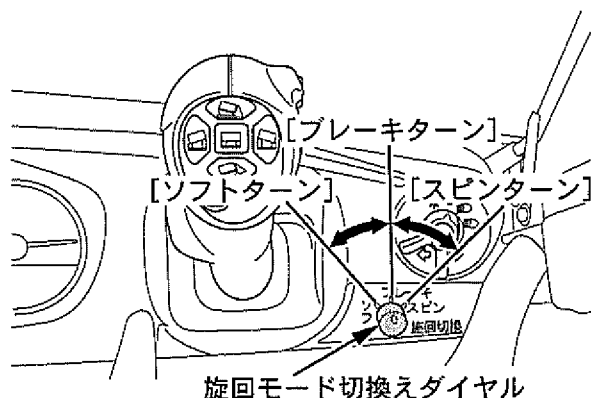
諸装置の説明

◆旋回モード切換えダイヤル・

旋回力アップトリガ

旋回モード切換えダイヤル

旋回方向を選択するダイヤルです。作業条件に応じて切換えてください。



【スピントーン】 ……

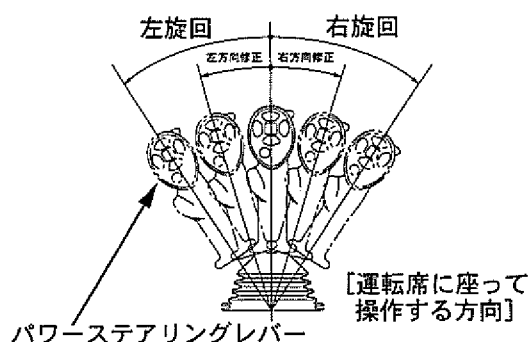
パワーステアリングレバーの倒し量に応じて旋回内輪側のクローラが逆転します。【ブレーキターン】よりもさらに小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用してください。

【ソフトターン】 ……

左右のクローラに回転差をつけ両輪で前進駆動しながら旋回します。旋回半径は、やや大きくなりますが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合や移動走行時に使用してください。

【ブレーキターン】 ……

パワーステアリングレバーを右又は、左に倒すと、倒した方向のクローラの駆動が停止した状態で旋回します。小回りが必要なときに使用してください。

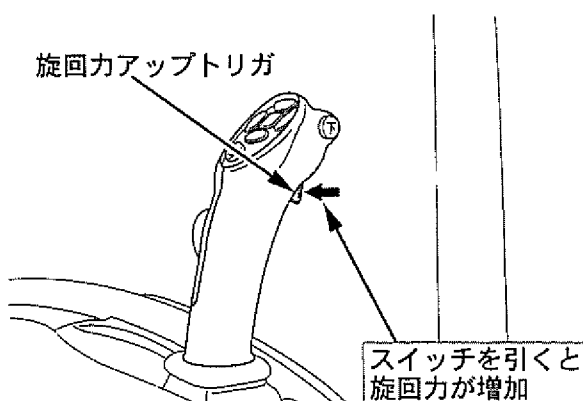


補 足

副変速切換えスイッチを【H】（走行位置）に切換えると、旋回モード切換えダイヤルで選択している位置に関係なく旋回力がソフトターンに固定されます。

旋回力アップトリガ

旋回をアップするスイッチです。



旋回モード切換えダイヤルが【ソフトターン】位置のとき、旋回力アップトリガを引くと、【ブレーキターン】と同じ旋回力となる

旋回モード切換えダイヤルが【ブレーキターン】位置のとき、旋回力アップトリガを引くと、【スピントーン】と同じ旋回状態となる



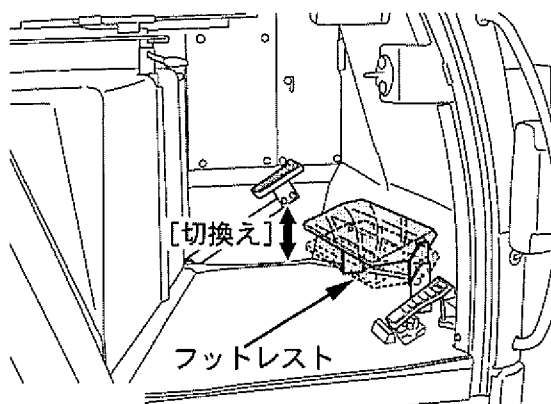
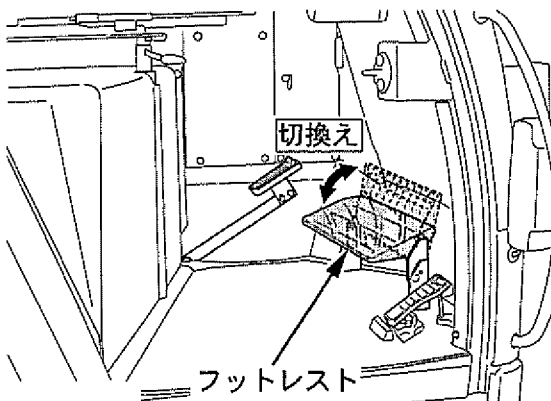
諸装置の説明

補 足

- ・ 旋回モード切換えダイヤルが[スピントーン]位置のときは、旋回力アップトリガを押しても[スピントーン]の旋回状態です。
- ・ 旋回力アップトリガは、少し引くと旋回力が切り替わります。
- ・ 副変速切換えスイッチが[H]（走行位置）のときは、旋回力がソフトターンに固定されるため、旋回モード切換えダイヤル及び旋回力アップトリガを操作しても旋回力は変わりません。
- ・ 旋回モード切換えダイヤルを操作すると、液晶ディスプレイに[旋回切替 ソフト]又は、[旋回切替 ブレーキ]又は、[旋回切替 スピン]と表示します。

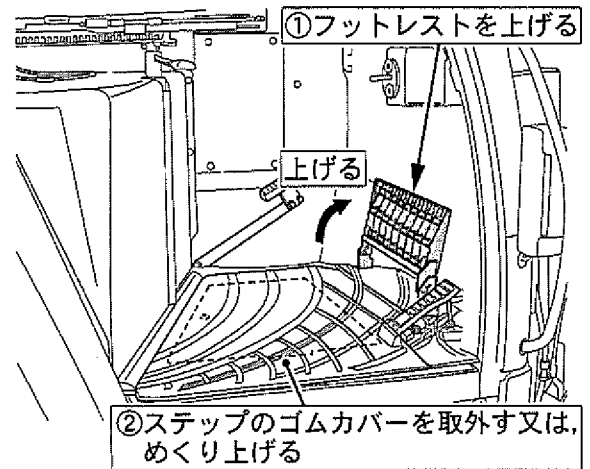
◆フットレスト（足置き）

フットレストを使用しないときは又は、フットレストの高さが低いときは必要に応じて切換えてください。

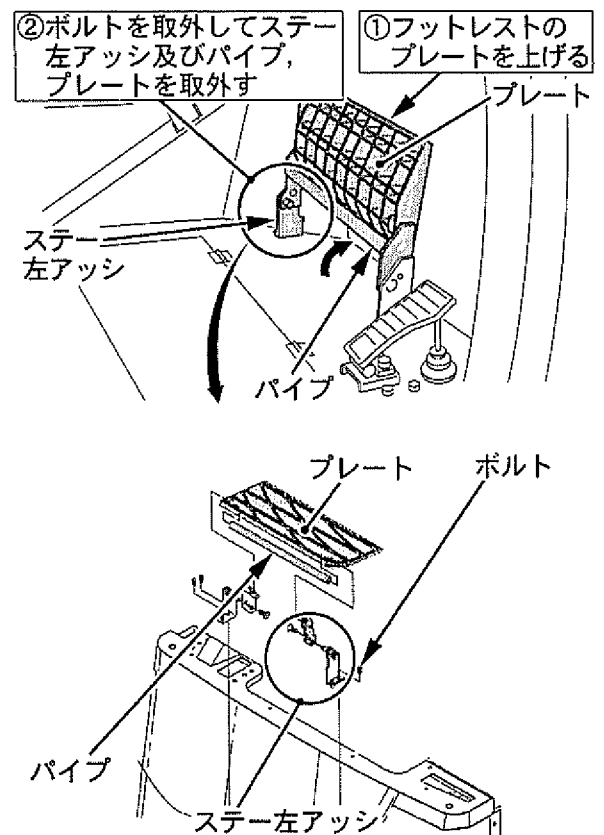


高さの切換えかた

1. ステップのゴムカバーを取外します。

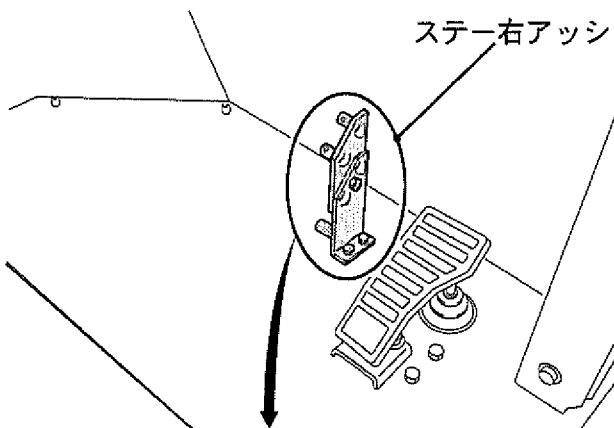


2. ステア左アッシに取り付けているステア左上の組換えを行ないます。



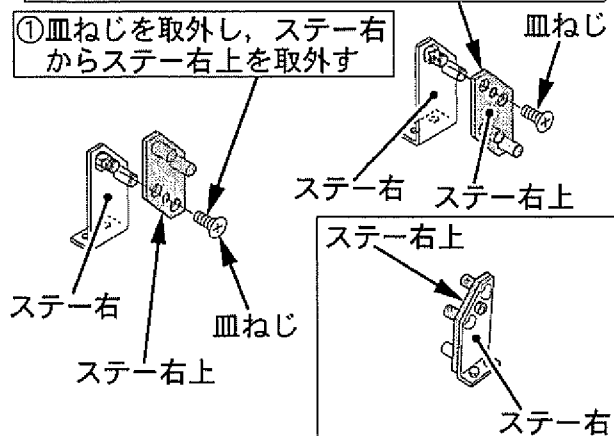
諸装置の説明

3. ステア右アッシに取付けているステア右上の組換えを行ないます。

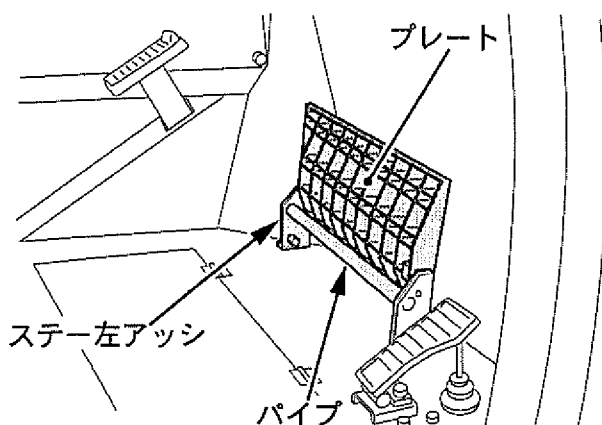


- ②ステア右上を180度反転した状態でステア右上をステア右に皿ねじで取付ける

- ①皿ねじを取外し、ステア右からステア右上を取外す

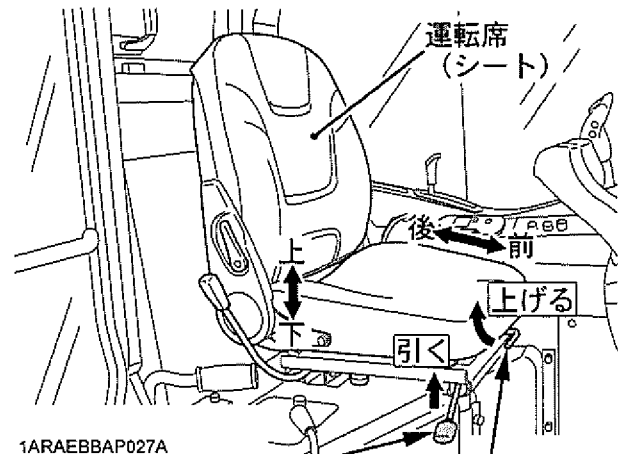


4. 手順2と逆の手順で取外したパイプ、プレート及びステア左アッシを取付けます。



◆運転席（シート）

運転席は、前、後方向及び上、下方向に調節が行なえます。調節は、前後調節レバー及び、上下調節レバーを引いて行なってください。



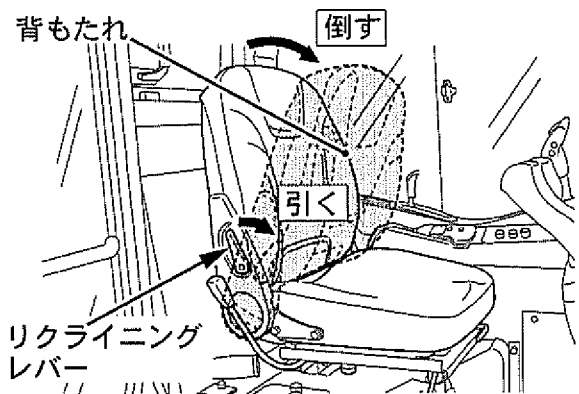
1ARAEBBAP027A

- ②上下調節レバーでシートの上下調節をする

- ①前後調節レバーでシートの前後調節をする

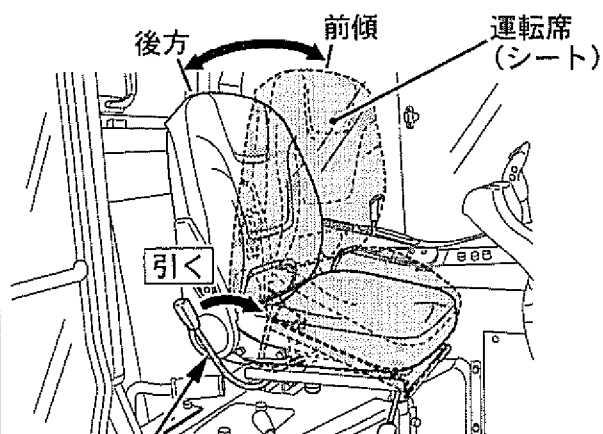
補 足

* 運転席の背もたれは、リクライニングレバーを引いて前方へ倒すことができます。元に戻すときは、背もたれをロックするまで後方に引いてください。



1ARAEBBAP027B

諸装置の説明

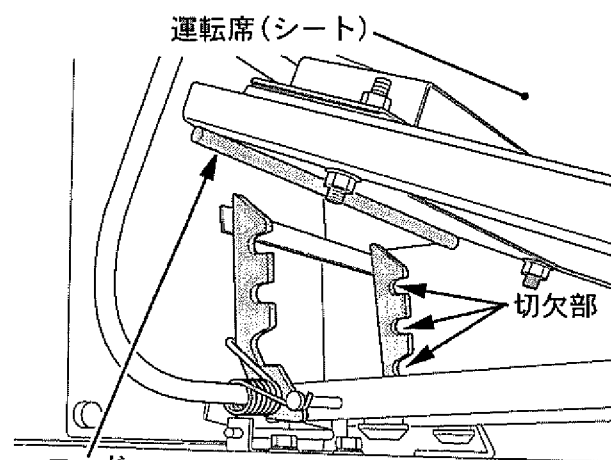


チルトレバーで運転席の傾きを調節する

1ARAEBBAP027C

補 足

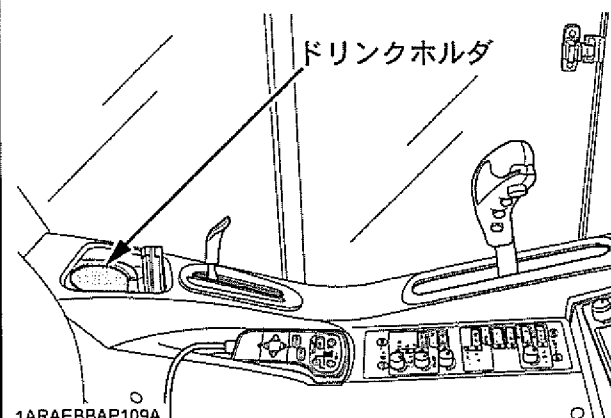
- * 前傾斜方向は3段階の調節が行なえますが、運転席後下の切欠部にロッドを必ず掛けてフックしてください。



1ARAEBBAP021B

◆ドリンクホルダ

飲料水の置き場として使用してください。



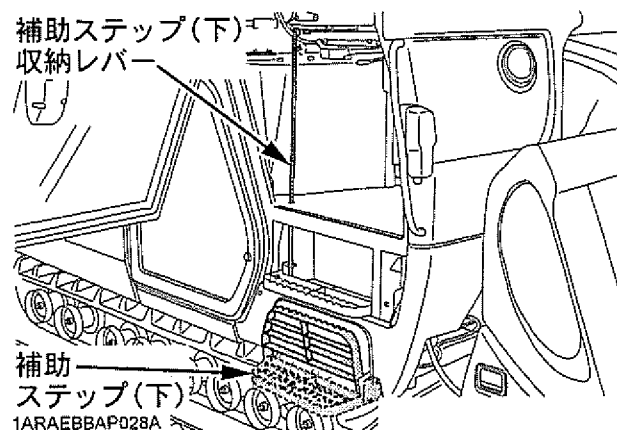
1ARAEBBAP109A

補 足

- * 飲料水がこぼれないように注意してください。

◆補助ステップ (下) 収納レバー

補助ステップ (下) のセット又は、収納を行なうレバーです。



1ARAEBBAP028A

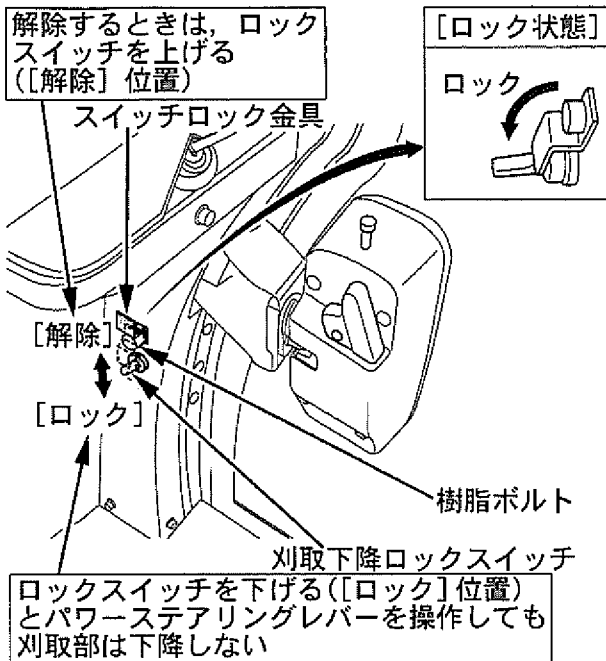
補 足

- * 移動走行や刈取作業及び納屋に収納するときは、補助ステップを収納してください。また、機械に乗り降りするときは補助ステップを倒してセットしてください。

◆刈取下降ロックスイッチ

刈取部の下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを下げる ([ロック] 位置) とパワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。

諸装置の説明



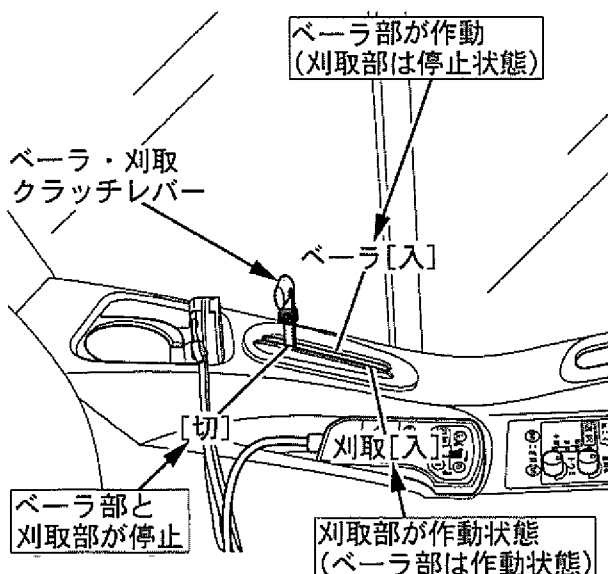
補 足

- ・ロックスイッチを下げたときは、必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。
- ・エンジンを始動しないと刈取部は上昇、下降しません。

3. 刈取・ペーラ関係

◆ペーラ・刈取クラッチレバー

ペーラ部と刈取部の動力を入・切するクラッチレバーです。



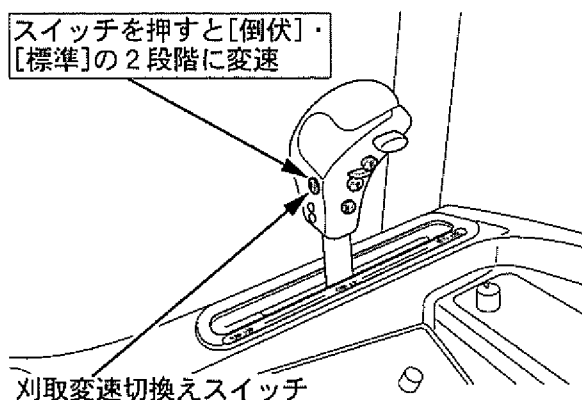
補 足

ペーラ・刈取クラッチレバーがペーラ〔入〕又は、刈取〔入〕位置でエンジンを始動しようとする、液晶ディスプレイに〔ペーラクラッチを切る〕と表示します。

◆刈取変速切換えスイッチ・

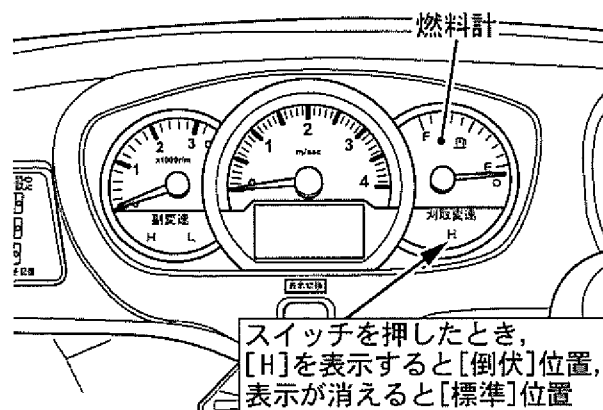
引起し変速レバー

刈取部の速度を切換えるスイッチ・レバーです。



補 足

- ・刈取変速スイッチを押したとき、燃料計下側にある刈取変速の表示部に、〔H〕を表示すると〔倒伏〕位置、〔H〕の表示が消えると〔標準〕位置です。
- ・メインスイッチキーを〔入〕位置にした直後の刈取変速切換えスイッチは〔標準〕です。
- ・刈取変速スイッチを押すと、液晶ディスプレイに〔刈取変速 高〕又は、〔刈取変速 標〕と表示します。



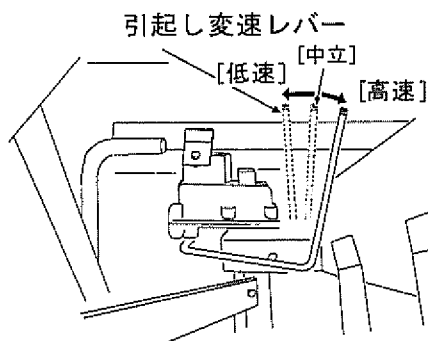
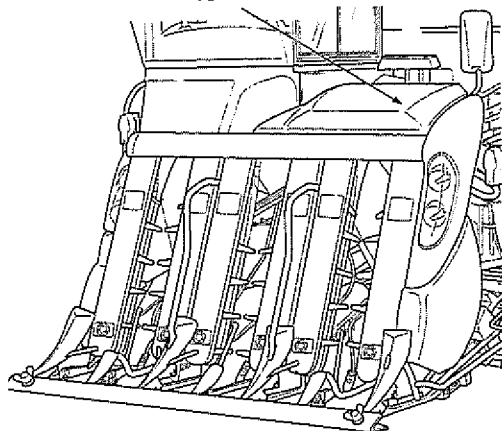
諸装置の説明

◆引きし変速レバー

レバーは刈取部のカバーの下にあります。

[刈取部]

カバー



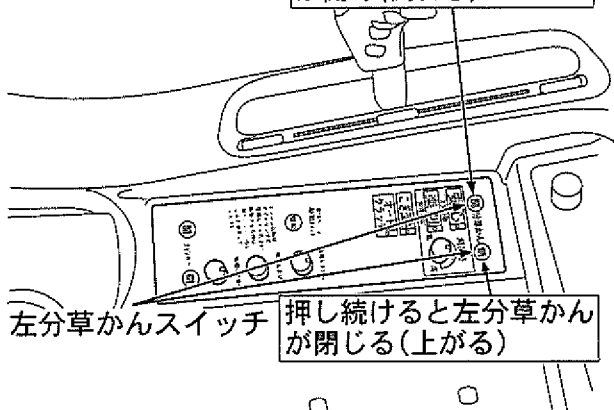
* 引きし部の開閉を行なうときは、引きし変速レバーを[中立]位置にしてください。

(124 ページ参照)

◆左分草かん開閉スイッチ

左分草かん前を開閉するスイッチです。

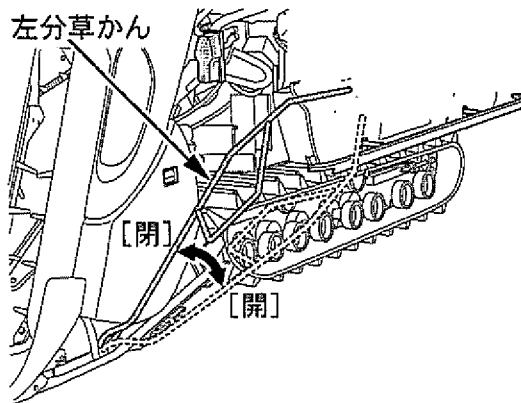
押し続けると左分草かんが開く(倒れる)



左分草かんスイッチ

押し続けると左分草かんが閉じる(上がる)

1ARAEASAP0620

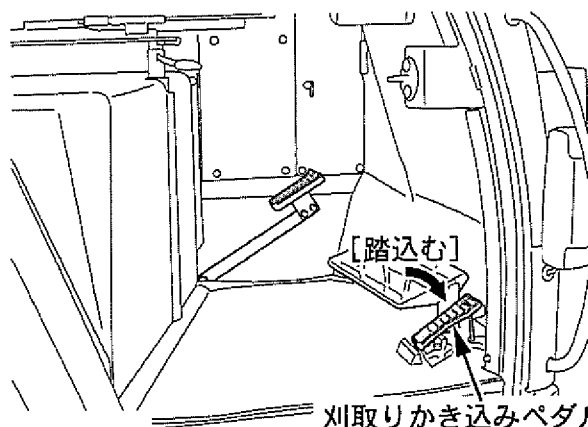


補 足

- ・分草かん開閉スイッチを操作すると、エンジン停止中でも、メインスイッチ[入]の位置で左分草かんは開閉しますが、バッテリー上がり防止のため、エンジンを始動してから操作してください。
- ・左分草かんは手動でも開閉操作が行なえます。
- ・左分草かん開閉スイッチを押すと、液晶ディスプレイに[分草かん 開]又は、[分草かん 閉]と表示します。

◆刈取かき込みペダル

あぜぎわなどで前進しながら刈取作業が行なえないときやほ場へ進入するときに低速で作物の刈取を行なうときに使用するペダルです。ペーラ・刈取クラッチレバーが刈取[入]位置のとき、かき込みペダルを踏込むと刈取部及び搬送部が動き、作物の刈取(かき込み)を行ないます。



刈取りかき込みペダル

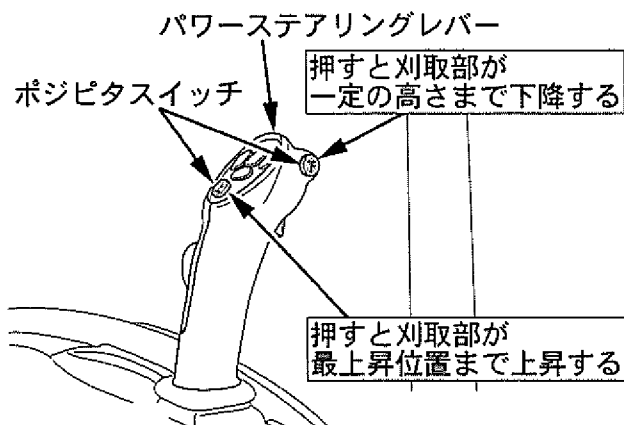
諸装置の説明

補 足

- ・ベアラ・刈取クラッチレバーを刈取[入]位置にして刈取かき込みペダルを踏込むと、主変速レバーが[停止]又は、[後進]位置のときでも刈取部及び搬送部が動きます。
- ・刈取かき込みペダルを踏込むとき、踏込み量が多いほど刈取部及び搬送部が速く動きますので、速くかき込み作業を行ないたいときは、強く踏込んでください。
- ・刈取オートクラッチがはたらいているとき、刈取かき込みペダルを踏込んでも刈取部及び搬送部は動きません。

◆ポジピタスイッチ

刈取作業中に、ポジピタスイッチを押すと刈取部が上昇↔下降します。

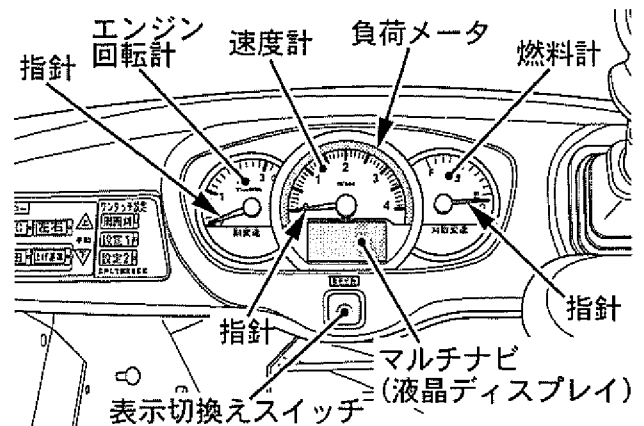


補 足

ポジピタスイッチはベアラ・刈取クラッチレバーをベアラ[入]及び刈取[入]位置にするとはたらきます。

4. 電装関係

◆ファインビューメータ



補 足

メインスイッチのキーを[切]位置から[入]位置にすると、各ランプが一定時間全て点灯（ランプ点灯確認）すると同時に、各メータの指針が動き（作動確認）します。

●各メータ

- ・エンジン回転計（単位：rpm）
1分間のエンジン回転数を指針で表示します。
- ・燃料計
燃料の残量を指針で表示（[E] [空] ↔ [F] [満]）します。
- ・速度計（単位：m/s）
1秒間に進む距離を指針で表示します。

補 足

ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。

諸装置の説明

・ 負荷メータ

刈取作業中にエンジンにかかる負担の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

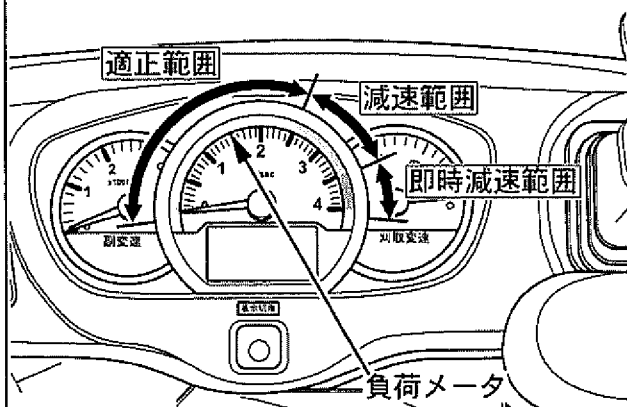
補 足

- ・ エンジン回転数は、負担が大きくなるほど下がります。負荷ランプの点灯表示で以下のようになります。

適正状態… 適正範囲：負荷メータ 8 目盛
↓
(ランプ：緑色)

減速…………… 減速範囲：負荷メータ 3 目盛
↓
(ランプ：オレンジ色)

即時減速… 即時減速範囲：負荷メータ
2 目盛
(ランプ：赤色)



5. マルチナビ

マルチナビは機械の状態や状況（通常作業時、異常発生時、誤作動時など）に応じて液晶ディスプレイに必要な情報を表示します。

補 足

表示切換えスイッチは、液晶ディスプレイに異常や警報を表示したとき、通常表示に戻す場合やメンテナンス作業で使います。

1. 移動走行・通常作業時

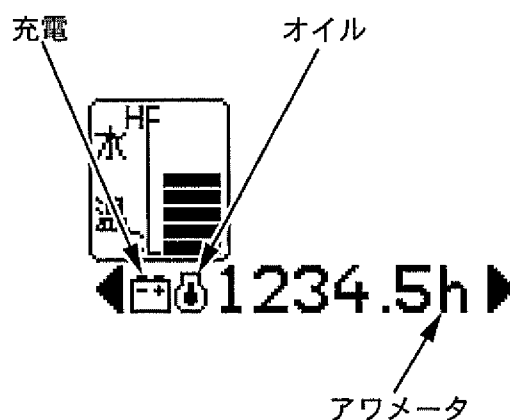
- (1) [アワメータ・オイル・充電] 表示
駐車ブレーキが掛かっていない状態でメインスイッチのキーを[切]位置から[入]位置にすると表示します。(エンジンは停止状態)

・ アワメータ表示 (単位：h [時間])

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

・ オイル・充電表示

オイルの圧力と充電状態に異常が発生したとき、警報を出す準備状態にあることを表示します。



重 要

エンジンが停止状態で、オイル又は、充電の表示が消えているときは、オイルの油圧異常又は、充電異常が発生しても警報が出ません。その場合は、直ちに購入先に連絡してください。

諸装置の説明

(2) [水温]表示

エンジン始動後、作業時の基本表示[水温]を表示します。



◀ 1234.5h ▶

補 足

エンジン始動中、異常発生時以外のは、オイル・充電表示はされません。

・表示

燃料を給油	燃料を給油 して下さい	燃料の残量が少なくなると表示します。
充電系異常	充電系統が 異常です	充電系統に異常が発生すると表示します。
エンジン油圧 異常	エンジン油圧 異常です	エンジンオイルの圧力が、異常に低下すると表示します。
オーバーヒート	オーバー ヒート	エンジンの冷却水温が高温になると表示します。
負荷	負荷	刈取作業中にエンジンに大きな負荷がかかると表示します。
こぎ深さ	こぎ深さ	自動こぎ深さ制御がはたらいっている状態で、穂先センサにわらの引掛かりなどの異常が発生すると表示します。
刈取	刈取	供給搬送部にわらが詰まり、エンジンが自動停止(エンジン自動停止装置)すると表示します。

諸装置の説明

3. 誤操作時

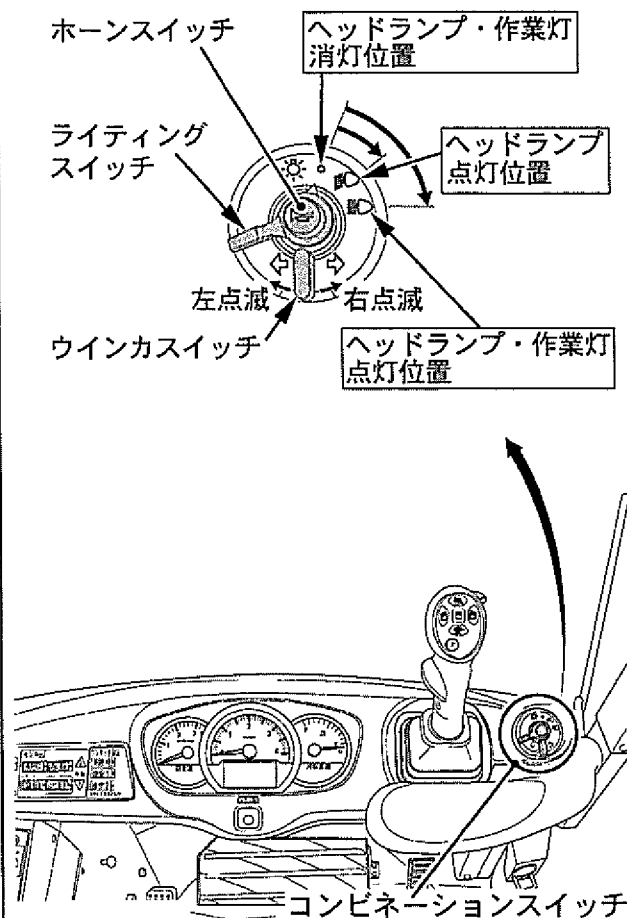
エンジン始動時にメインスイッチのキーを[始動]位置にしたとき、始動条件を満たしていない場合、その表示内容を表示します。

・表示

ベアラクラッチを切る	脱こくクラッチを切る	ベアラ・刈取クラッチレバーがベアラ[入]又は、刈取[入]位置のときに表示します。
刈取クラッチを切る	刈取クラッチ切にする	刈取変速H S Tが[中立]位置以外のときに表示します。
主変速を中立にする	主変速を中立にする	主変速レバーが[停止]（中立）位置以外のときに表示します。
駐車ブレーキを踏む	駐車ブレーキを踏む	駐車ブレーキペダルを踏んでいないときに表示します。
エンジンを確認する	エンジンを確認する	エンジンのインレットパイプが接続されていないときに表示します。 (エンジン始動防止用カブラが外れている状態)

諸装置の説明

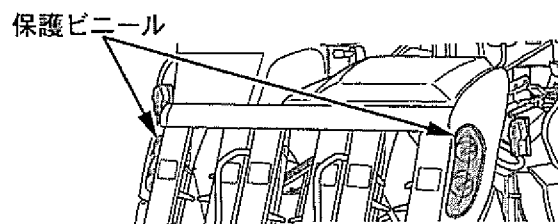
◆コンビネーションスイッチ、 ホーンスイッチ



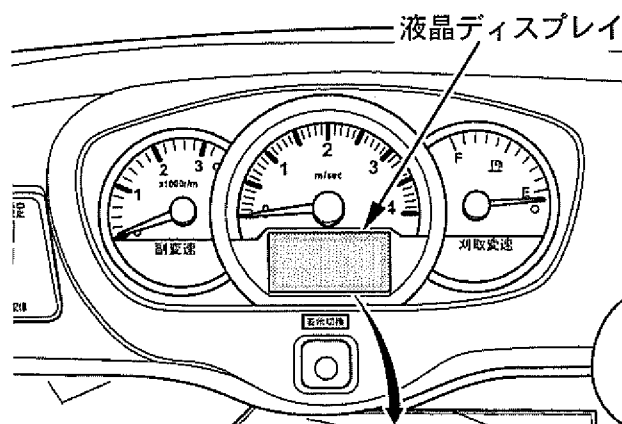
- ・ライティングスイッチ
スイッチを操作するとランプが点灯します。

重 要

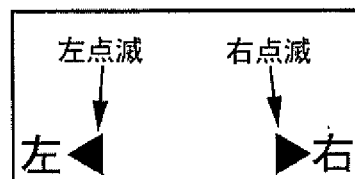
刈取部の左、右にあるヘッドランプと作業灯のカバーに保護ビニールが貼られているときは、保護ビニールをはがしてください。ランプの熱でビニールが溶けたりランプが高熱になり破損する原因となります。



- ・ホーンスイッチ
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。
- ・ウインカスイッチ
旋回方向に操作すると、ウインカランプが点滅すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイにウインカ表示が点滅します。



[ウインカ表示ランプ]

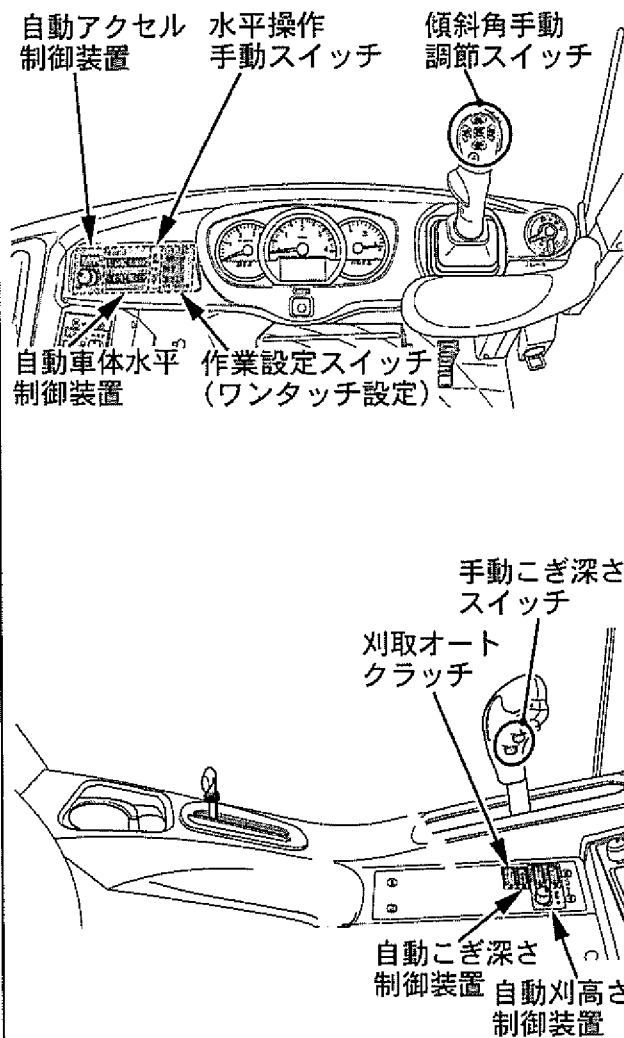


重 要

ウインカスイッチを操作したとき、ウインカ表示（[左◀]又は、[▶右]）が高速点滅（いつもより点滅速度が速い）したときは、ウインカランプの故障又は、ハーネスのカプラの接続不良が発生しています。

諸装置の説明

●自動化装置の名称とはたらき



6. アクセル操作関係

◆自動アクセル制御装置

自動アクセル制御は、刈取作業やもみ排出作業又は、移動走行時のエンジン回転数を制御する装置です。

自動アクセル制御が[入]のとき、下記エンジン回転数自動上昇条件のいずれかの操作が行なわれると、エンジン回転数がアクセルダイヤルで設定した回転数まで自動上昇します。また、下記条件の全ての操作が解除されるとエンジンの回転数がアイドリング回転数となります。

〈エンジン回転数自動上昇条件〉

- ・ ベーラ・刈取クラッチレバー
.....ベール[入]
- ・ 主変速レバー.....前進・後進操作
(副変速レバー[中立]位置以外)

自動アクセル制御[切]のときは、エンジン回転数はアクセルダイヤルで設定した回転数となります。

オートアクセルスイッチ

自動アクセル制御の入/切をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイにオートアクセル[入]/[切]を一定時間表示します。

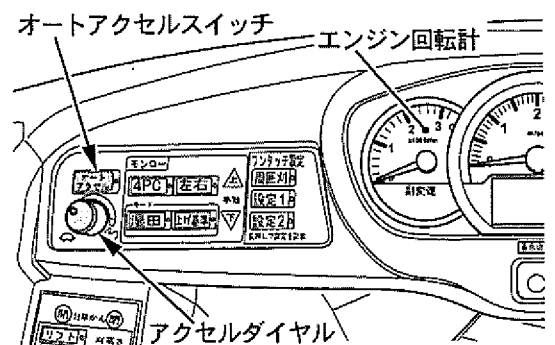
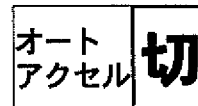
自動アクセル制御

[入]..... ランプが点灯し、自動アクセル制御が作動します。



自動アクセル制御

[切]..... ランプが消灯し、自動アクセル制御が解除されます。



補 足

自動アクセル制御がはたらいているとき、アクセルダイヤルを回すと、アクセルダイヤルで設定したエンジン回転数となります。

諸装置の説明

7. 車体水平制御関係

◆自動車体水平制御装置

(4 P C ・ S T モンロー)

自動車体水平制御装置は、機体が前・後及び左・右に傾くと、自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

補 足

自動車体水平制御をはたらかせるときは、水平自動4 P Cスイッチ又は、水平自動左右スイッチのどちらかを選択してください。

また、自動車体水平制御を使用しないときは、水平自動4 P Cスイッチと水平自動左右スイッチ両方共に[切]（ランプ消灯）にしてください。

4 P C 水平自動スイッチ

前・後及び左・右方向の水平制御の入／切をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイにモンロー [4 P C] ／ [切] を一定時間表示します。

自動車体 4 P C

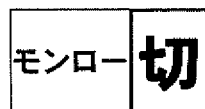
水平制御 [入] …… ランプが点灯し、



前・後及び左・右方向の自動制御が作動します。

自動車体 4 P C

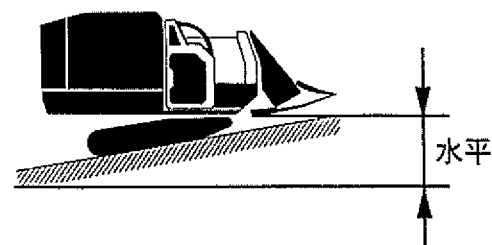
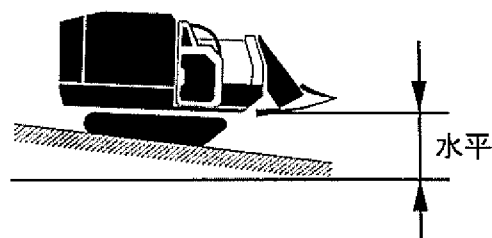
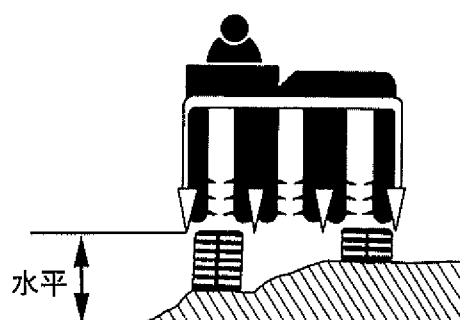
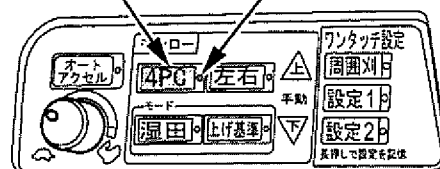
水平制御 [切] …… ランプが消灯し、



前・後及び左・右方向の自動制御が解除されます。

4PC 自動スイッチ

ランプ



諸装置の説明

左右水平自動スイッチ

左・右方向の水平制御の入／切をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイにモノロー[左右]／[切]を一定時間表示します。

自動車体左右

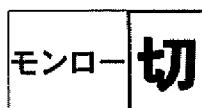
水平制御[入]…………ランプが点灯し、



左・右方向の自動制御が作動します。

自動車体左右

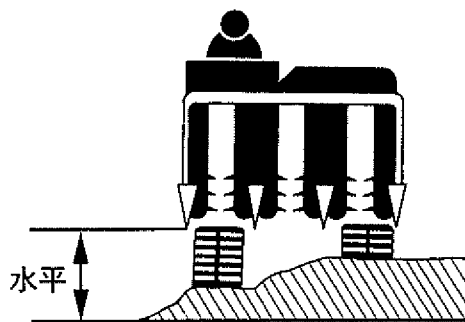
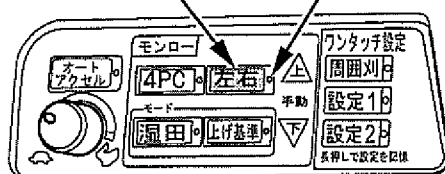
水平制御[切]…………ランプが消灯し、



左・右方向の自動制御が解除されます。

左右自動スイッチ

ランプ



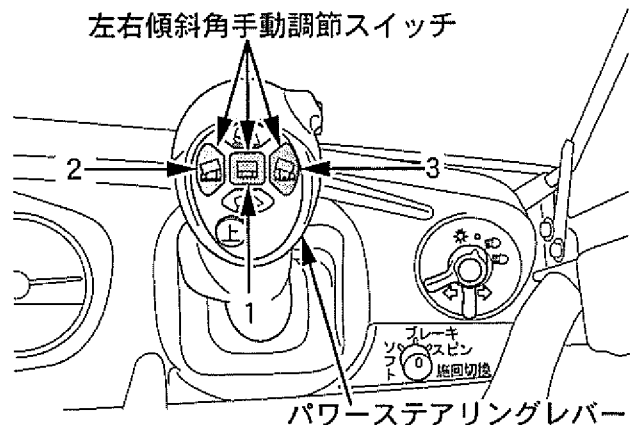
補 足

自動で作業したあと、ベアラ・刈取クラッチレバーを[切]位置にする又は、水平自動スイッチを[切]にすると、機体は前後・左右共に最下降位置まで下がります。(下限復帰) また、下降中に、水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。

左右傾斜角手動調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき、機体を左又は、右に傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに傾きを一定時間表示します。

左右傾斜角手動調節スイッチ



1 ……スイッチを押すと、前後・左右水平となる状態で制御します。

2 ……スイッチを押している間、機体が右上りになります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

3 ……スイッチを押している間、機体が左上りになります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

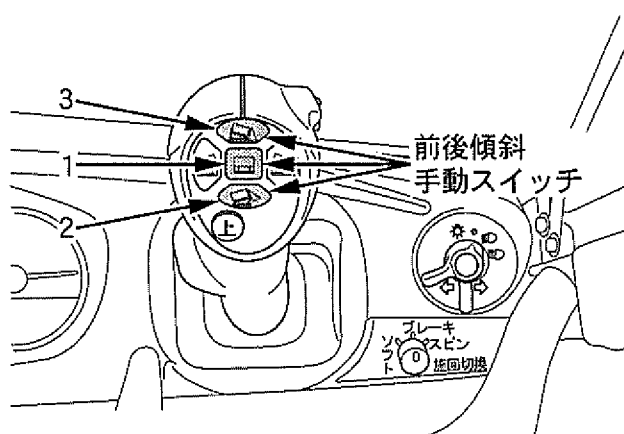
諸装置の説明

補 足

- ・ 左右傾斜角手動調節スイッチの[]又は、[]を押している間機体が傾きます。
- ・ 水平自動スイッチが[切]で自動車体水平制御が解除されているとき、[]又は、[]スイッチを押すと機体はその方向に傾きます。また、[]スイッチを押すと機体は最下降位置まで下降します。

前後傾斜手動調節スイッチ

機体の前・後方向の傾きを調整する手動スイッチです。ほ場の出入などで機体を前後に傾けたいときは、4 P C 水平自動スイッチを[切]にし、手動スイッチで操作してください。



- 1  ……スイッチを押すと、前後・左右水平となる状態で制御します。
- 2  ……スイッチを押している間、機体が前上りになります。また、スイッチから手を離すと、そのとき機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

- 3  ……スイッチを押している間、機体が後上りになります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

補 足

- ・ 傾斜角手動調節スイッチの[]又は、[]を押している間機体が傾きます。
- ・ 水平自動スイッチが[切]で自動水平制御が解除されているとき、[]又は、[]スイッチを押すと機体はその方向に傾きます。また、[]スイッチを押すと機体は最下降位置まで下降します。
- ・ 刈取作業時以外のときは、湿田／乾田モード切換えスイッチを[切]にしてください。
- ・ 左右水平自動スイッチが[入]の状態、前後方向の手動スイッチを操作すると、前後に傾斜した状態で左・右の水平制御を行ないます。
- ・ 手動スイッチの操作を行なうと機体は下記のように作動します。
[] ……機体後部が最下降したあと、機体前部が上昇します。
[] ……機体前部が最下降したあと、機体後部が上昇します。

諸装置の説明

湿田／乾田モードの切換えスイッチ

湿田／乾田モードを切換えるスイッチです。また、スイッチを操作すると液晶ディスプレイにモノロー[湿]、モノロー[乾]を一定時間表示します。

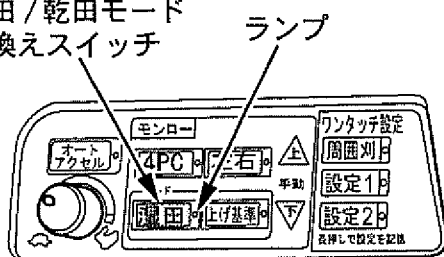
湿田モード……ランプが点灯し、湿田モ

モノロー 湿ードで水平制御が作動します。

乾田モード……ランプが消灯し、乾田モ

モノロー 乾ードで水平制御が作動します。

湿田／乾田モード
切換えスイッチ



補 足

- ・自動で作業したあと、ベアラ・刈取クラッチレバーを[切]位置にする又は、水平自動スイッチを[切]にすると、機体は前後・左右共に最下降位置まで下がります。(下降復帰)
- ・また、下降中に、水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。
- ・湿田モードを選択すると、水平制御が敏感にはたります。前後[4 P C]及び左右の動きが大きいときは、乾田モードを選択してください。

上げ基準／下げ基準モード

切換えスイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき、水平制御を行なう基準の高さを切換えるスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに上げ基準[入]／[切]を一定時間表示します。

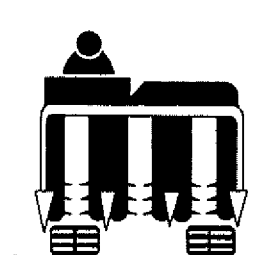
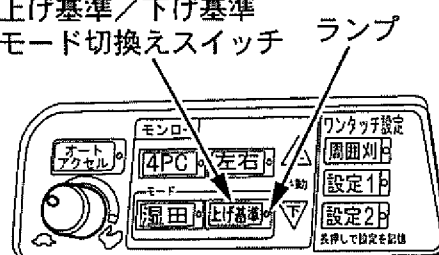
上げ基準[入]……ランプが点灯し、上げ基準で作動します。

上げ基準 入

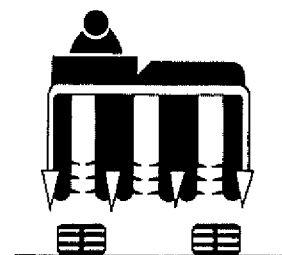
上げ基準[切]……ランプが消灯し、下げ基準で作動します。

上げ基準 切

上げ基準／下げ基準
モード切換えスイッチ



下げ基準
(最下降位置)



上げ基準
(最上昇位置)

諸装置の説明

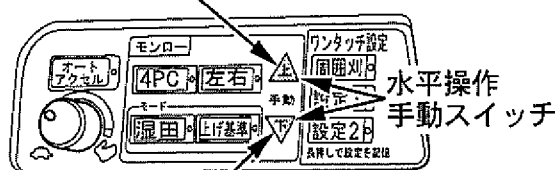
補 足

- ・通常は[下げ基準]（ランプ消灯）にて、作業してください。深い湿田での刈終り時に、旋回が困難な場合にスイッチを押して[上げ基準]（ランプ点灯）状態にさせることにより、旋回が容易になります。直進刈取状態になれば、再びスイッチを押して[下げ基準]（ランプ消灯）にしてください。
- ・超湿田で[上げ基準]を選択したまま刈取作業を行なうと、車体が深みにはまった場合、脱出不能となることがあります。超湿田の刈取作業は[下げ基準]で行なってください。

◆水平操作手動スイッチ

機体の上昇 下降を行なう手動の操作スイッチです。

押すと機体が上昇



押すと機体が下降

補 足

- ・水平操作手動スイッチを押している間機体が上昇又は、下降します。
- ・傾斜地では操作しないでください。
- ・モノロー操作時（特に全上昇、全下降）は、エンジン回転数を上げてください。

8. 刈取制御関係

◆自動こぎ深さ制御装置

こぎ深さ自動制御装置は、作物の長さに応じて、適正なこぎ深さを保つ装置です。

こぎ深さ自動スイッチ

自動こぎ深さ制御の入／切をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイにこぎ深さ[入]／[切]を一定時間表示します。

自動こぎ深さ制御

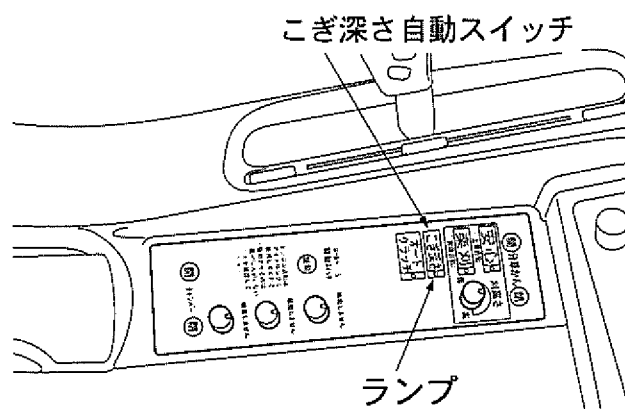
[入]……………ランプが点灯し、自動

こぎ深さ 入 こぎ深さ制御が作動します。

自動こぎ深さ制御

[切]……………ランプが消灯し、自動

こぎ深さ 切 こぎ深さ制御が解除されます。



諸装置の説明

補 足

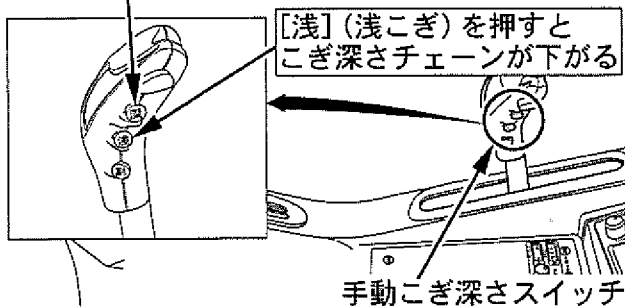
- ・穂先センサ（株元側、穂先側）に浮きわらや雑草が引っ掛かると、正常な自動制御ができませんので取除いてください。
- ・下記のときは、手動で操作してください。
 - 長かん作物（約130cm以上）を刈取るとき
 - 極端に作物の長さが不揃いのとき
 - 雑草が多いとき
 - 倒伏作物を低速で刈取るとき

◆手動こぎ深さスイッチ

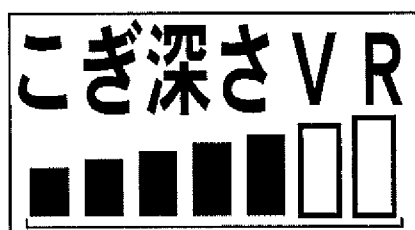
手動こぎ深さスイッチ

こぎ深さの調節を手動で行なうスイッチです。スイッチを操作すると同時に、液晶ディスプレイに7段階の目盛でこぎ深さチェーンの位置を表示します。

[深]（深こぎ）を押すと
こぎ深さチェーンが上がる



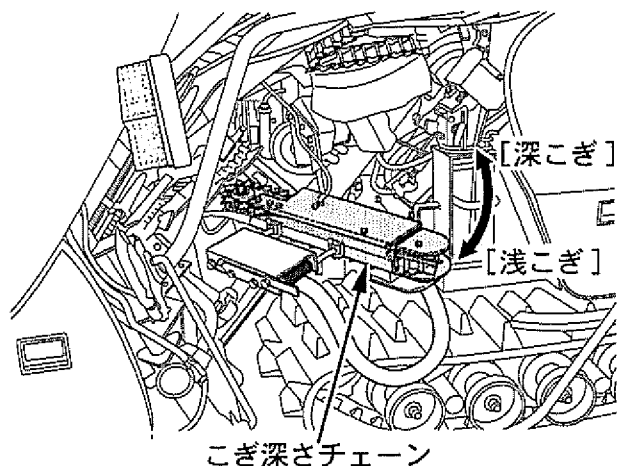
[液晶表示]



浅い ← こぎ深さ → 深い

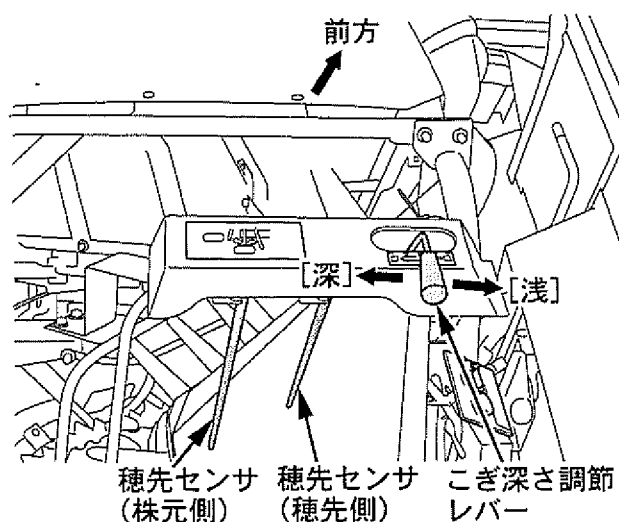
補 足

自動制御が、はたらいしているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。



穂先センサの位置調節について

通常は[ほぼ中央]に合せてください。調節は、レバーを[深]の方向に倒すと、深こぎ気味に保持され、レバーを[浅]の方向に操作すると、浅こぎ気味に保持されます。



諸装置の説明

◆自動刈高さ制御装置

自動刈高さ制御装置は、刈取作業中の刈取部の高さを地面に対して、一定以上の高さに修正する（リフトモード）又は、一定の高さに修正・保持（オートモード）する装置です。

上昇（リフト）自動スイッチ

上昇（リフト）制御の入／切をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに楽刈リフト[入]／[切]を一定時間表示します。

上昇（リフト）制御 [入]…………… 上昇（リフト）制御が作動します。

楽刈
リフト 入

上昇（リフト）制御 [切]…………… 上昇（リフト）制御が解除されます。

楽刈
リフト 切

昇降（オート）自動スイッチ

昇降（オート）制御の入／切をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに楽刈オート[入]／[切]を一定時間表示します。

昇降（オート）制御 [入]…………… 昇降（オート）制御が作動します。

楽刈
オート 入

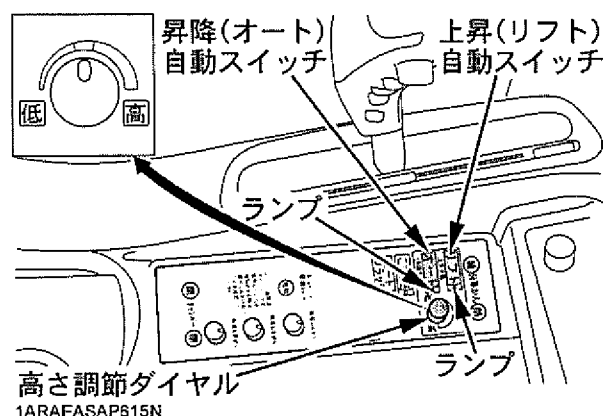
昇降（オート）制御 [切]…………… 昇降（オート）制御が解除されます。

楽刈
オート 切

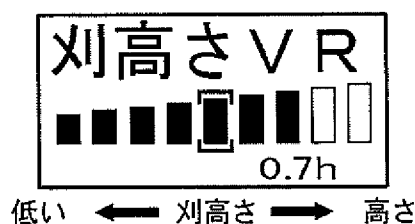
高さ調節ダイヤル

ほ場条件に応じて刈取部の高さ調節を行なうダイヤルです。

ダイヤルを時計方向に回すと刈高さが高くなり、反時計方向に回すと刈高さが低くなります。また、液晶ディスプレイに9段階の目盛で刈取部の高さを表示します。



[液晶表示]



1ARAEASAP3130

諸装置の説明

補 足

ほ場の溝やわだちがあるときは、突込み防止のため、高さ調節ダイヤルの低1～低3で使用しないでください。

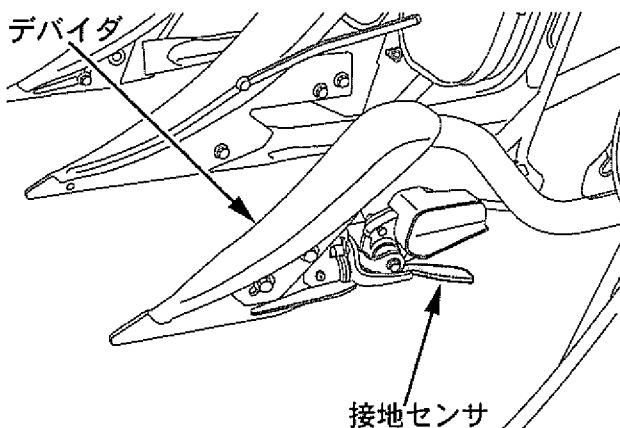
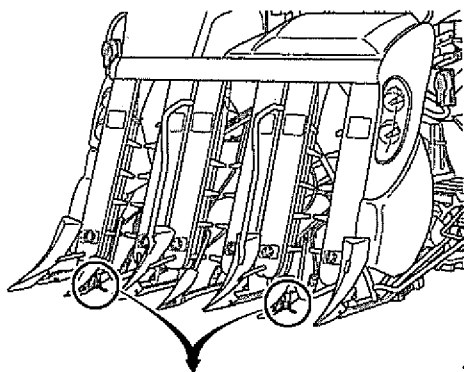
上昇自動（リフト）、 昇降自動（オート）について

上昇自動（リフト）…

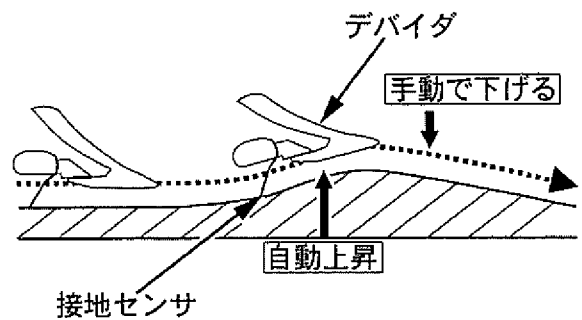
デバイダの地面への突込みを防止する制御のみを行ないます。刈取部を下降する操作はパワーステアリングレバーで行なってください。

昇降自動（オート）…

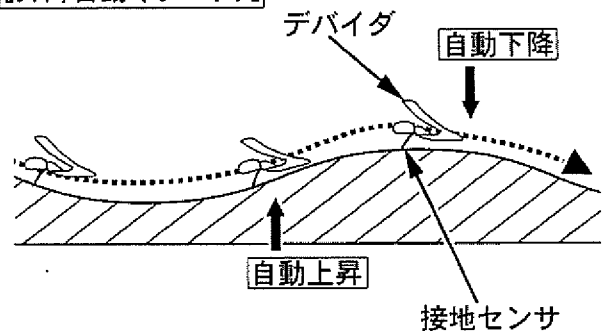
刈取部が地面の凹凸に追従し、一定の刈高さに修正・保持します。



[上昇自動（リフト）]



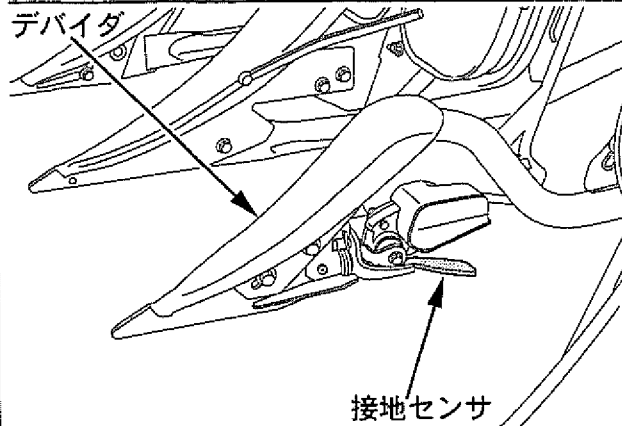
[昇降自動（オート）]



補 足

- ・ 自動制御がはたらいっているときでも、パワーステアリングレバーによる操作が優先されます。
- ・ 高さ調節ダイヤルを低い側に調整すると、地面の状態により、デバイダの突込みを生じる場合があります。
- ・ 刈始めに、切わらや土の盛上りを接地センサが検知して刈取部が上昇する場合は、前進しながらパワーステアリングレバーで、適正な高さに修正してください。
- ・ 接地センサの下部に、泥やわらが付着すると、誤動作することがありますので、エンジンを必ず止めてから泥やわらを取除いてください。

諸装置の説明



- ・左右両方の接地センサがほ場の溝やわだちの上を通ると、デバイダが地面に突込むおそれがありますので、上昇（リフト）自動スイッチ及び昇降（オート）自動スイッチを[切]（ランプ消灯）にし、パワーステアリングレバーを操作して刈取作業を行なってください。

◆刈取オートクラッチ

刈取オートクラッチは、刈取部及びベアラ部が作動中にパワーステアリングレバーやポジピタスイッチを操作したとき、刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部及び、フィードチェーンが停止し、一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

オートクラッチ切換えスイッチ

刈取オートクラッチの入／切をするスイッチです。スイッチを操作すると、液晶ディスプレイにオートクラッチ[入]／[切]を一定時間表示します。

オートクラッチ[入]…ランプが点灯し、

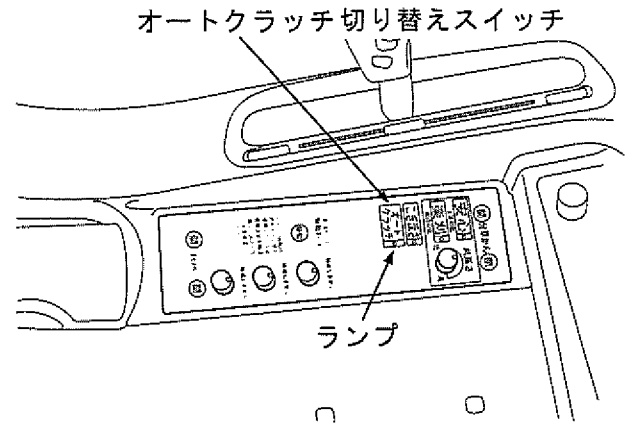


刈取オートクラッチが作動します。

オートクラッチ[切]…ランプが消灯し、



刈取オートクラッチが解除されます。



1ARAEASAP0620

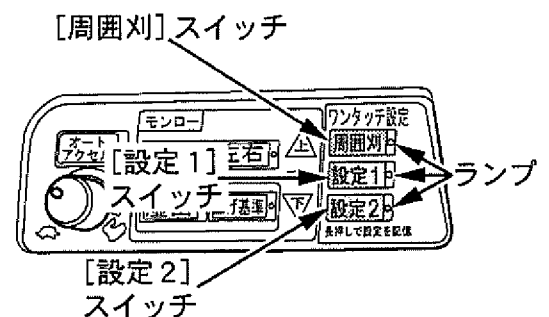
9. その他

◆作業設定スイッチ（ワンタッチ設定）

作業やほ場の条件に合わせて、はたらかせたい各自動制御装置の組合せを設定するスイッチです。

作業設定スイッチ

[周囲刈]・[設定1]・[設定2]のいずれかのスイッチを操作すると、ランプが点灯すると同時に、液晶ディスプレイにワンタッチ[周囲刈]／[切]・ワンタッチ[設定1]／[切]・ワンタッチ[設定2]／[切]を一定時間表示します。



諸装置の説明

設定内容の変更を行なうときは、はたらかせたい各自動制御装置を[入]（ランプ点灯）にしたあと、設定内容を記憶させたい[周囲刈]・[設定1]・[設定2]のいずれかの作業設定スイッチを“ピピッ”と音がするまで押してください。

設定が終わったあとは、作業やほ場の条件に合わせて3種類の各作業設定スイッチのいずれかを選び、スイッチを押して切換えてください。

補 足

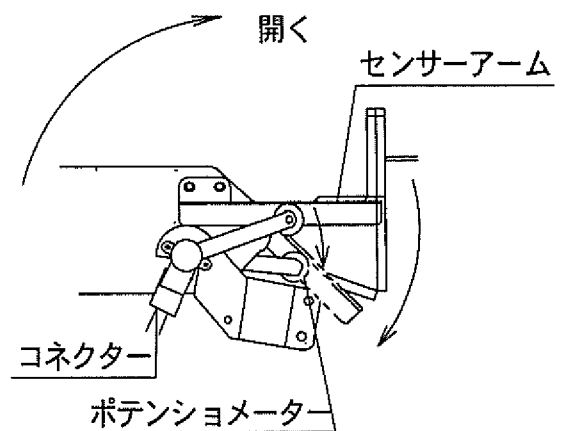
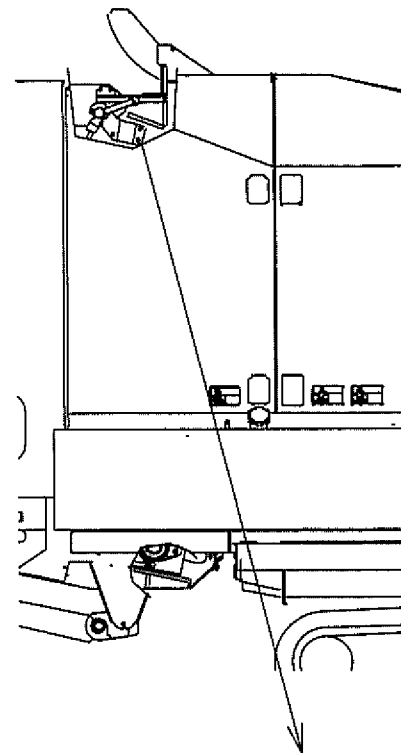
出荷時の各作業設定スイッチの自動制御装置の設定は下表の通りです。

○：[入] ×：[切]

自動制御装置		作業設定スイッチ		
		周囲刈	設定1	設定2
アクセラ		○	○	○
車 速		×	×	○
車体水平		○	○	○
こぎ深さ		○	○	○
刈高さ	リフト	×	×	×
	オート	○	○	○
刈取オートクラッチ		×	○	○

※自動車体水平制御は[4PC]位置

10. リヤケース連動クラッチ
ロール放出時ロールベアラの回転を止めることでロスを少なくする構造になっています。

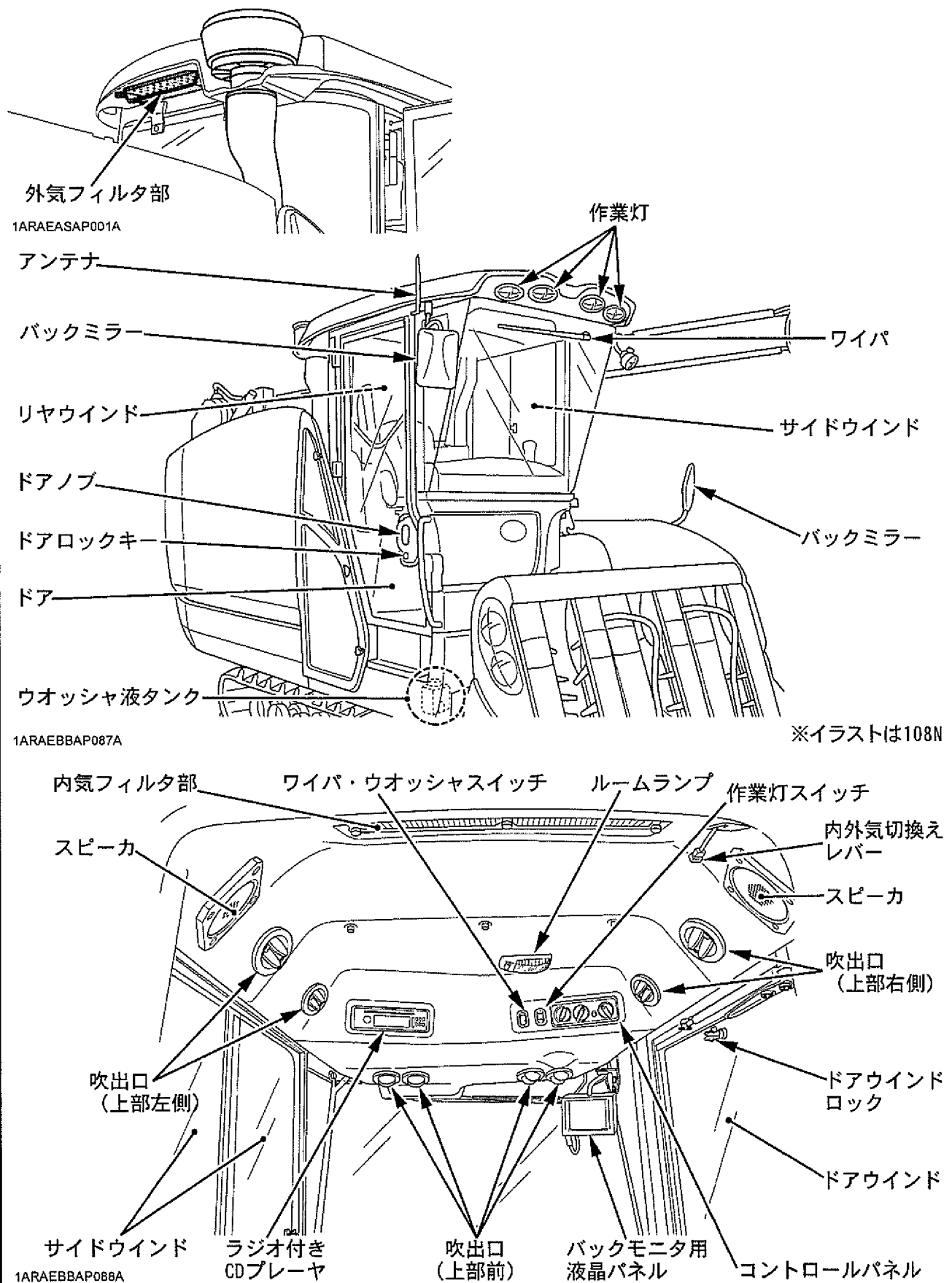


リヤケースが開くとセンサーアームがポテンシオメーターを動かします。ポテンシオメーターが動くと台車のロールベアラのクラッチが切れロールベアラの回転が止まります。リヤケースを閉じるとき、チャンバー閉スイッチを押すと、自動でエンジン回転が下がり、チャンバーを閉じるとセンサーアームが戻りロールベアラが回転し、エンジン回転が元に戻ります。

諸装置の説明

11. キャビン関係 [D X仕様]

キャビン装置の名称とはたらき



諸装置の説明

各装置の取扱い

◆ ドアの開閉、ロックのしかた



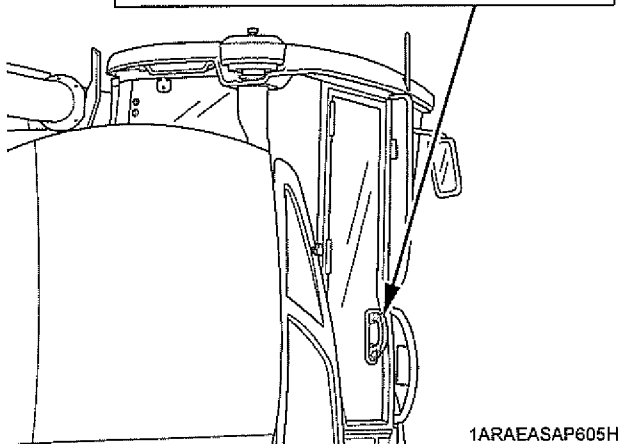
注意

1. ドアの開閉時は、周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり、ドアにあたっけケガをするおそれがあります。
2. ドアは確実に閉じてください。不意にドアが開いてケガをするおそれがあります。

◆ ドアの開閉のしかた

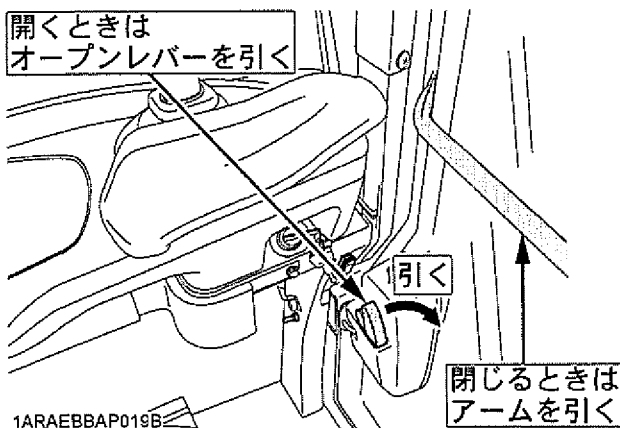
● 室外から

ドアノブを引くと開き、閉じるときは「ボタン」と音がするまで強く押す



● 室内から

開くときは
オープンレバーを引く



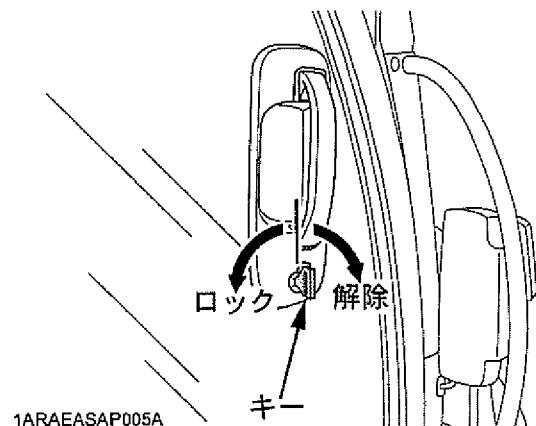
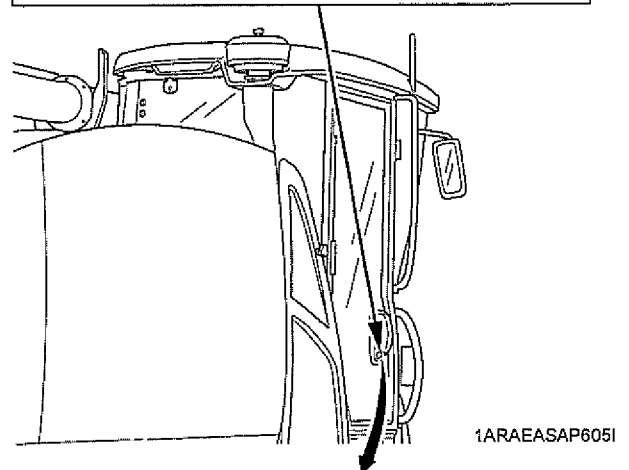
重 要

ドアにぶらさがったり、開閉範囲を越えた無理な操作をしないでください。ドアが破損するおそれがあります。

◆ ドアのロック・解除のしかた

● 室外から

ドアが閉じている状態で、ドアロックキーにキャビン用キーを差し込む



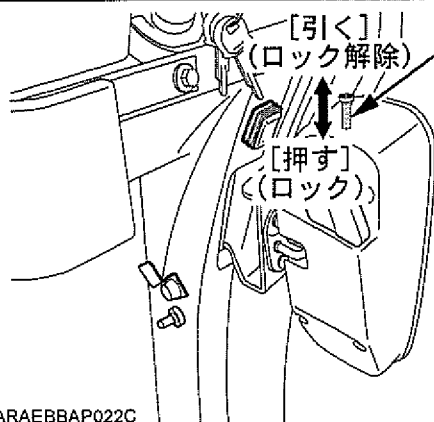
重 要

長時間コンバインから離れるときは、必ずドアのロックをしてください。

諸装置の説明

● 室内から

ドアの開閉をロックするときはロックレバーを押し、解除するときはロックレバーを引く



1ARAEBBAP022C

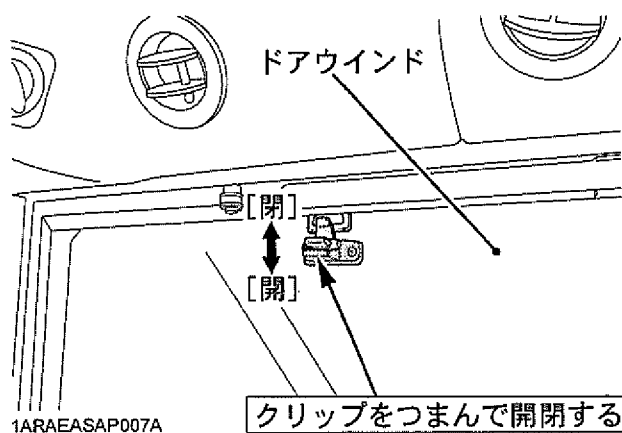
◆ 各ウインドの開閉のしかた



注意

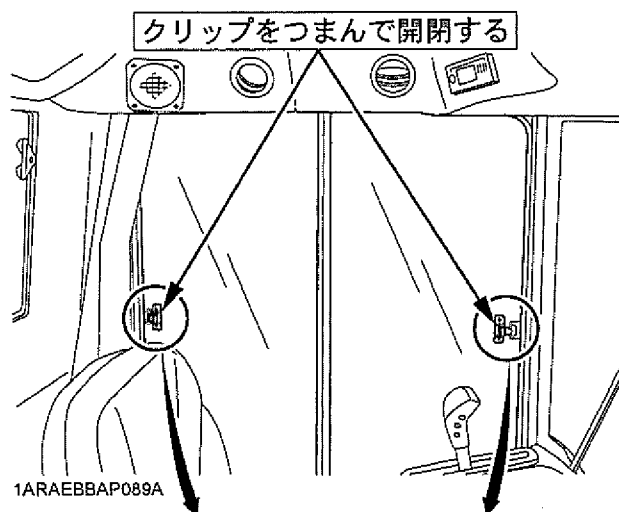
リヤウインド後方で作業する場合は、頭などを打つおそれがあるため注意してください。

◆ ドアウインド

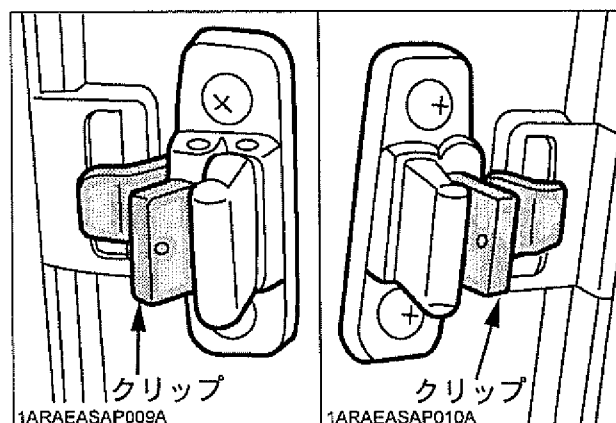


1ARAEASAP007A

◆ サイドウインド



1ARAEBBAP089A



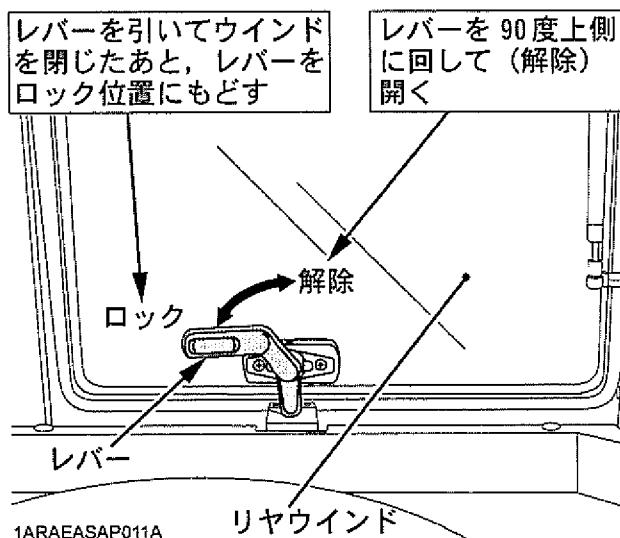
1ARAEASAP009A

1ARAEASAP010A

◆ リヤウインド

重要

リヤウインドを開放したままで、高速走行や悪路走行をしないでください。

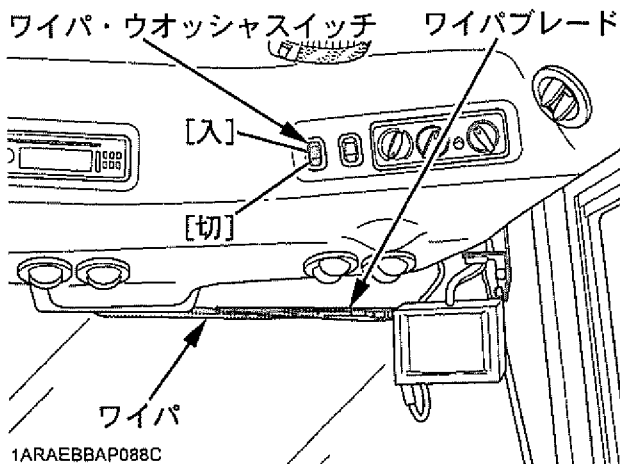


1ARAEASAP011A

諸装置の説明

◆ ワイパの使いかた

メインスイッチのキーが[入]位置のとき、ワイパ・ウオッシャスイッチの上側を押す[入]と作動し、下側を押す[切]と停止します。また、ワイパ・ウオッシャスイッチの上側又は、下側を強く押すとウオッシャ液噴射ノズルからフロントガラスにウオッシャ液を噴射します。

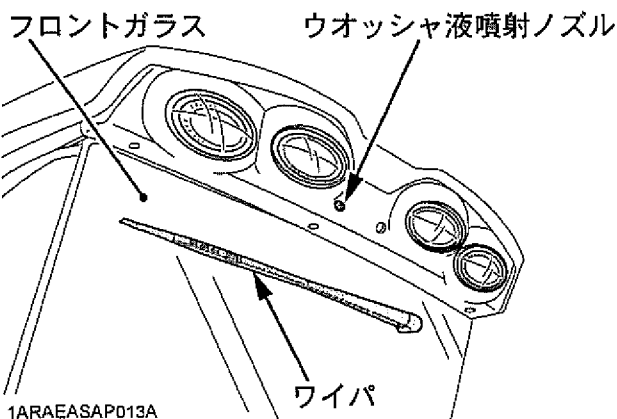


押すとワイパが作動[入]し、さらに強く押すとウオッシャ液が噴射する

ワイパ・ウオッシャ
スイッチ

押すとワイパの作動が停止[切]し、さらに強く押すとウオッシャ液が噴射する。

11RAEASAP012A



重 要

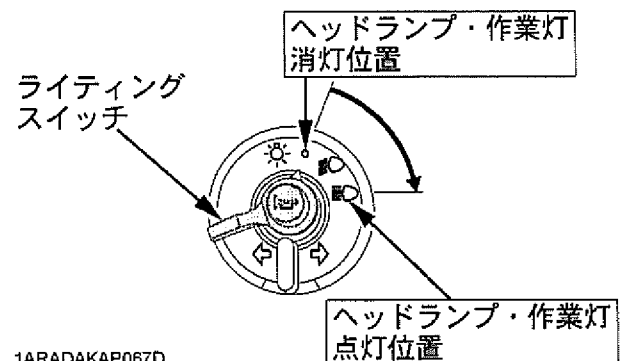
1. ガラス表面に泥などが付着している場合は、ウオッシャ液を噴射する又は、汚れの程度に応じてぬれタオルなどでふき取ってください。泥などが付着したまま動作させると、ガラスのキズ付やワイパブレード（ゴム部）の損傷の原因になります。
2. 長期使用しなかったときや寒冷時に動かすときは、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に接着していることがありますので注意してください。
3. エンジンを停止して長時間使用するとバッテリーが上がるおそれがあります。

補 足

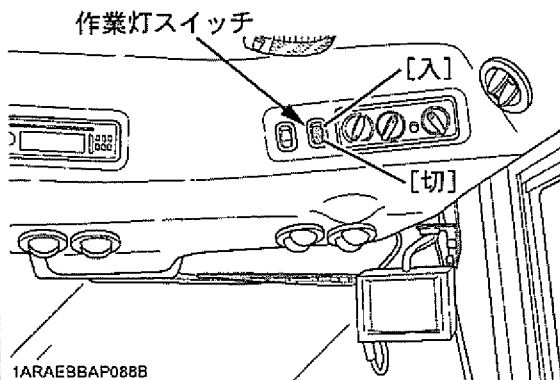
ウオッシャ液はワイパ・ウオッシャスイッチを強く押している間噴射します。

◆ 作業灯スイッチ

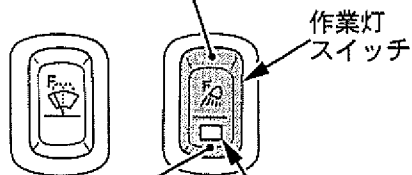
メインスイッチのキーが[入]位置のとき、ライティングスイッチを[Ⅲ]位置（ヘッドランプ・作業灯点灯）にしたあと、作業灯スイッチの上側を押す[入]と作業灯が点灯し、下側に押す[切]と作業灯が消灯します。



諸装置の説明



ライティングスイッチを [Ⅲ] 位置にし、押すと作業灯が点灯する



押すと作業灯が消灯する インジケータランプ

1ARAEBAP088B

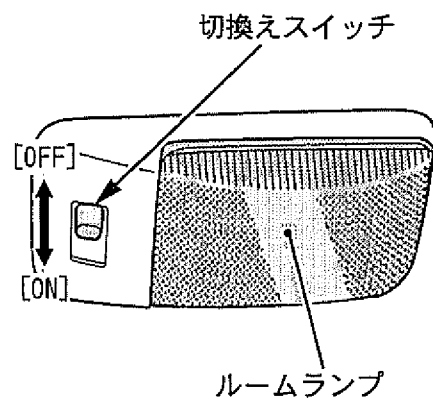
補 足

夜間など暗いときにライティングスイッチを [Ⅲ] (ヘッドランプ点灯) 位置にすると、作業灯スイッチのバックライトが点灯します。また、作業灯の点灯状態を示すインジケータランプも点灯します。

◆ ルームランプの使いかた

メインスイッチのキーが [入] 位置のとき、ルームランプの切替えスイッチを [ON] (入) にすると点灯します。

- [OFF] (切) … ドアの開閉に関係なく、ランプは点灯しません。
- [ON] (入) … ドアの開閉に関係なく、ランプが点灯します。



1ARAEBAP014A

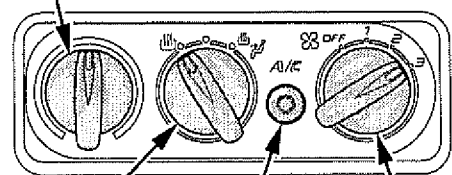
重 要

エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリーが上がるおそれがあります。

エアコンの取扱い

◆ コントロールパネル

温度調整つまみ



吹出口切替スイッチ ファンスイッチ
エアコンスイッチ
(インジケータランプ付)

1AGACBAAP069F

◆ エアコンスイッチ

エアコンの電源を入・切するスイッチです。

重 要

コンバインを1週間以上、長期放置後にエアコンを使うときは、エンジン回転をアイドリングして、 エアコンスイッチを [入] にし、1分間運転してください。エンジン回転が高いままで、 エアコンスイッチを [入] にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

諸装置の説明

補 足

エアコンスイッチを押して「入」の運転状態にすると、インジケータランプが点灯します。

◆ ファンスイッチ

風量を調節するスイッチです。スイッチを回すことにより3段階（1（弱）
←→ 2（中）←→ 3（強））の調節が行なえます。

補 足

ファンスイッチが「OFF」位置のときは、送風が停止状態です。

◆ 温度調整つまみ

温度を調整するつまみです。つまみを左側に操作すると温度は下がり、右側に操作すると温度が上がります。

◆ 吹出口切換えスイッチ

送風の吹出口及び風力を切替えるスイッチです。



..... 吹出口風向きグリル（上部前）と吹出口（上部両横）より風が吹出します。

- 吹出口（上部前）の風力が強くなり吹出口（上部両横）の風力が弱くなります。



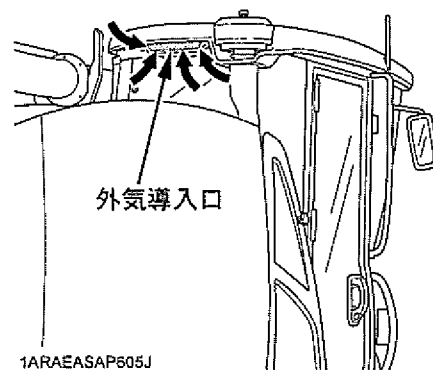
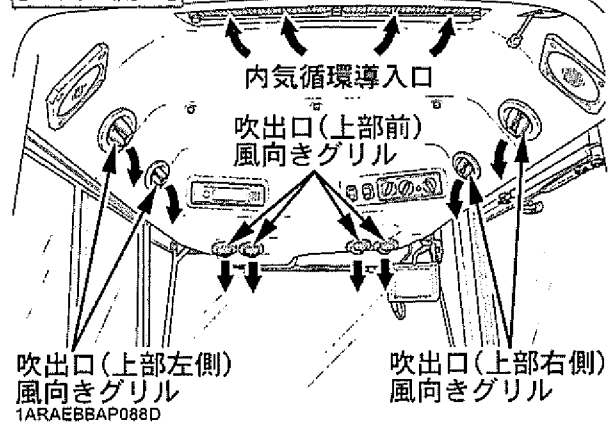
... 吹出口風向きグリル（上部前）より風が吹出します。

- 吹出口風向きグリルの調整のしかた
吹出口の風向きグリルを動かして風量や風向きの調整を行なってください。

補 足

キャビン内の空気の流れを参照して、吹出口の風量や風力を調整してください。また、外気導入口は、キャビン後部の天井下側にあります。

[空気の流れ]



◆ 内外切替えレバー

キャビン室内の空気の状態を切替えるレバーです。

外気導入... 切替えると外気を取入れます。



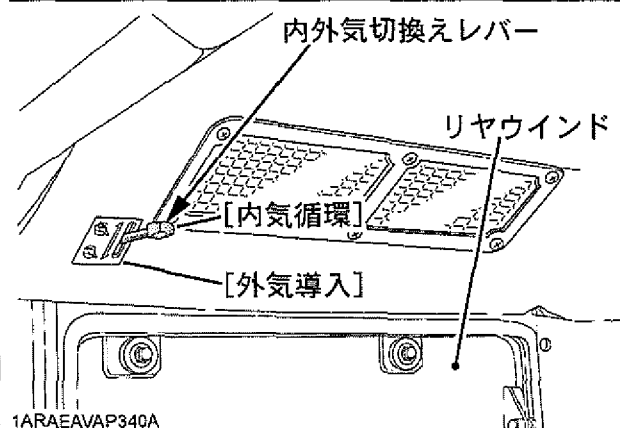
ほこりが多い作業やガラスがくもる場合に使用します。

内気循環... 切替えると内気のみを循環を行ないます。



早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

諸装置の説明

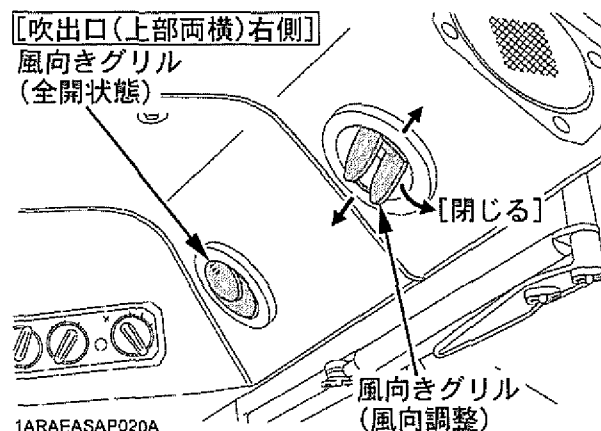
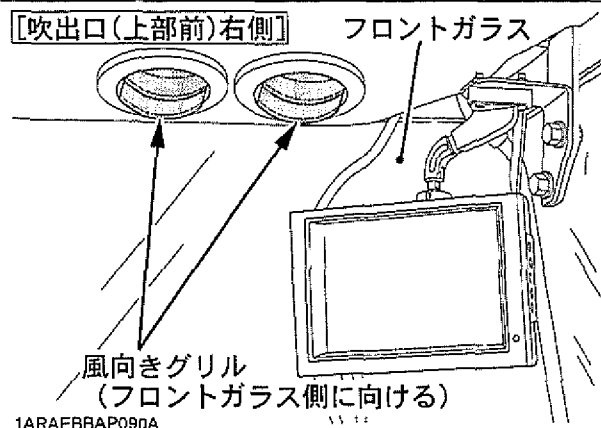


重 要

洗車を行なうとき、外気導入口に水をかけないでください。故障の原因になります。

補 足

1. キャビン室内の温度を早く下げたい又は、上げたいときは、[内気循環]位置にしてください。
2. [内気循環]での長時間暖房は避けてください。ガラスがくもりやすくなります
3. 作業中にほこりが多いときは、[外気導入]位置にしてキャビン内に新鮮な空気を入れてください。
4. 吹出口（上部前）又は、吹出口（上部両横）の風量は、吹出口風向きグリルの角度を変更して行なってください。風向きグリルを閉じると開いている風向きグリルの風量が増えます。
5. キャビン内のガラスがくもっているときは、くもりがなくなるまで待ってください。くもりを早く取りたいとき、例えばフロントガラスがくもっているときは、吹出口（上部前）の風向きグリルをフロントガラスに向けたあと、吹出口（上部両横）の風向きグリルを全て閉じてください。



◆ エアコン操作のしかた

◆ 暖房

1. 吹出口切替えスイッチを  又は、 又は、 にします。
2. 内外気切替えレバーを  [外気導入] にします。
早く室温を上げたいときは  [内気循環] にします。
3. ファンスイッチと温度調整つまみを調整します。

◆ 冷房・除湿暖房

1. 吹出口切替えスイッチを  にします。
2. 内外気切替えレバーを  [外気導入] にします。
3. エアコンスイッチを押し、[入]にします。
4. ファンスイッチを作動させます。
5. 温度つまみを冷風位置（左端）又は、中間位置に調整します。

諸装置の説明

補 足

冷房・除湿暖房の運転状態で、温度調整つまみを中間位置で使用すると、顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態となります。

◆ デフロスト

フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは、

1. 吹出口（上部前）を、フロントガラスに向けます。
2. 吹出口切替えスイッチをにします。
3. 内外気切替えレバーを[外気導入]にします。
4. ファンスイッチを[3]、温度調整つまみを温風位置（右端）に回します。

補 足

1. 湿度が高く窓ガラスがくもりやすいときは、除湿暖房を行なってください。
2. 健康上、冷房はやや弱い目に効かせてください。また、冷風は身体1箇所に集中して風を当てるのは避けてください。
3. 連続10分以上本気を前傾して冷房を使用すると、冷氣吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転は避けてください。
4. エンジンの冷却水の水温が高くなるまでは暖房ができません。

バックモニタの取扱い



警告

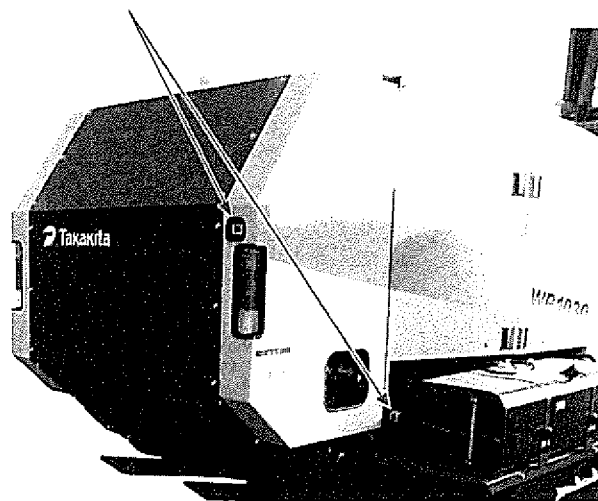
1. 後進するときは、液晶パネル画像確認以外にも、必ずバックミラーや目視で後方確認作業を行なってください。CCDカメラの死角になっている人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。
2. CCDカメラから液晶パネルに写し出される広角の画像に慣れるまでは、ゆっくりと慎重に運転してください。速度を上げて後進すると判断を誤まり、人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。
3. 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保障の対象外になるのでご注意ください。



注意

他の目的で使用したり、他の機械などで使用しないでください。感電やケガをするおそれがあります。

バックモニター用CCDカメラ



諸装置の説明

◆ 液晶パネルについて

液晶パネルに写し出される範囲（確認範囲）は左右約 12m、後方左右両端部約 12m、後方

真後で約 7m です。

◆ CCD カメラの取扱いについて

◆ バックモニタについて

バックモニタは機体後進時、機体後方周辺の安全確認を行なうための補助装置です。

リヤチャンバーを開くと、自動でロール確認用カメラに切り替ります。

下記作業などを行なう場合の確認作業に活用してください。

- 移動走行時、収穫作業時、納屋格納時などの後方確認作業。
- ほ場の出入り、枕地での切返し、あぜ際などでの機体の位置確認作業。
- ロール放出時ロールの転がりを確認し、リヤチャンバーを閉じるときの確認に利用してください。

バックモニタの液晶パネルに写し出される画像での確認範囲の前後方向の修正は、機体後方のカタ上部カバー 2 又は、結束カバー [結束機付き仕様] に取付けている CCD カメラを前後方向に回転して調整を行なってください。

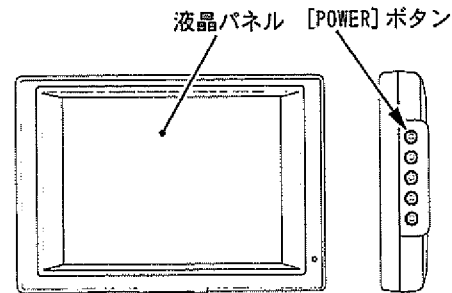
◆ 調整のしかた

1. メインスイッチのキーを [入] 位置にします。

重 要

エンジンの始動は必要ありませんが、長時間に亘り調整作業を行なうとバッテリー上がりとなります。

2. 液晶パネルの [POWER] ボタンを押すと、液晶パネルに画像が写し出されます。



1ARAEASAP305A

補 足

液晶パネルの電源が入っている状態で、機体のメインスイッチ側で電源を切り、再度メインスイッチのキーを [入] 位置にすると、液晶パネルに画像が写し出されます。

4. 液晶パネルの画像を確認し、目標とする
2. [POWER] ボタンを押して液晶パネルの電源を切ります。

補 足

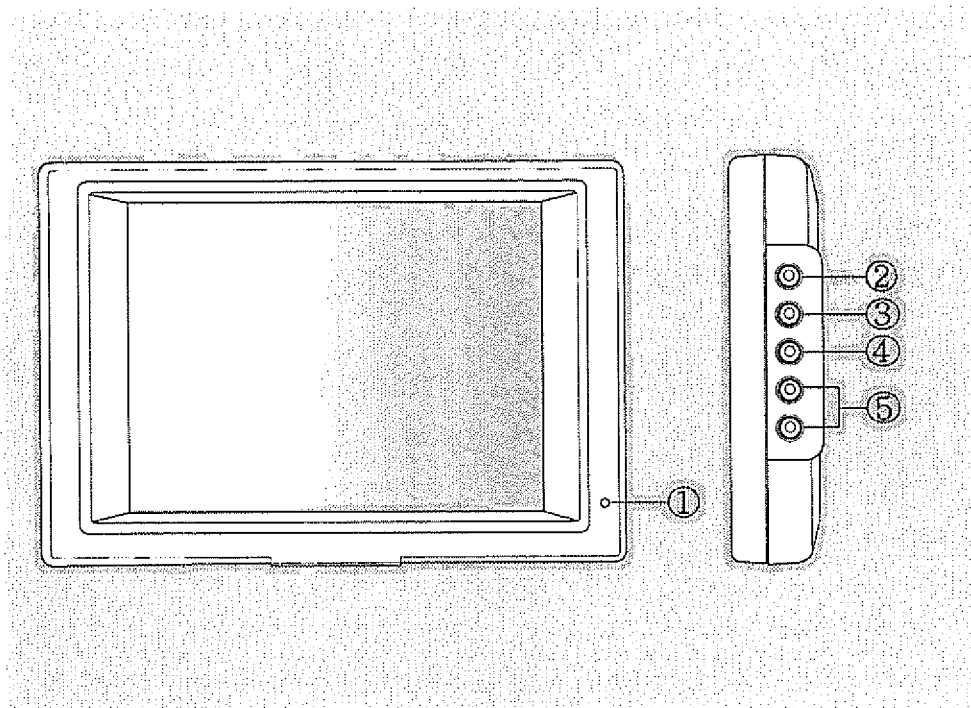
メインスイッチのキーを [切] 位置にすると液晶パネルの電源は切れます。

諸装置の説明

バックモニタの操作

◆ バックモニタの各部の名称とはたらき

◆ モニター



① S/BY LED

電源の入力状態の表示及びスタンバイ状態の表示

② POWER

電源のON/OFFボタン

③ MODE

カメラ(CAM1/CAM2)切り替え、
各種設定メニューの選択ボタン

④ MENU

各種設定メニュー切り替えボタン

⑤ UP/DOWN

調整ボタン

補 足

MODE ボタンは押さないで下さい。CAM2 に切換わると画像が消えます。もし、間違えて押したときは、再度 MODE ボタンを押して画像を表示してください。

諸装置の説明

◆ バックモニタの機能説明

1. POWER (電源)



●電源のON/OFF

- ① POWER (電源) ボタンを押す。
「スタンバイ」ランプが消灯し、電源が入る。
- ② POWER (電源) ボタンをもう一度押す。
「スタンバイ」ランプが点灯して、電源が切れる。

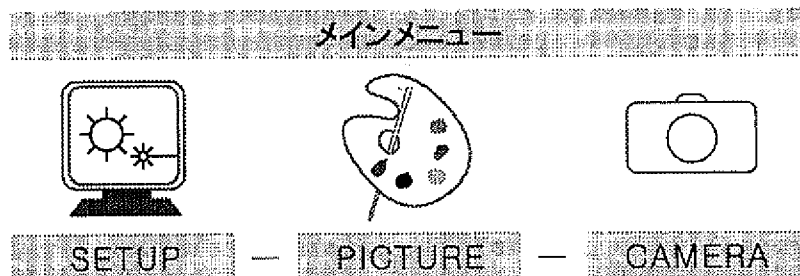
2. MENU : 設定メニュー

補 足

設定を行なうときは、表示時間が約3秒間と非常に短いため、素早くボタンの操作を行なってください。

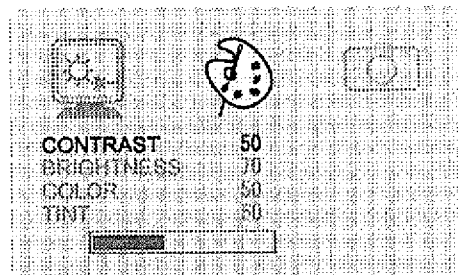
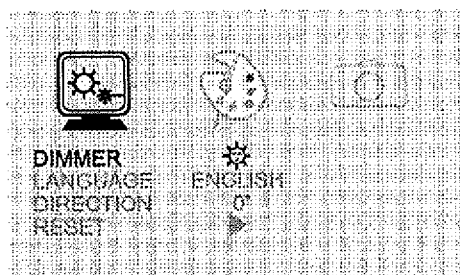
◆ 各種設定のメインメニューを切り替えます。

- MENU ボタンを押して、メインメニューを選択します。
選択すると赤くなります。



● MODE ボタンを押して、サブメニューを選択します。

サブメニューを切り替えるには、UP/DOWN ボタンを押します。



諸装置の説明

(1) SETUP

● DIMMER (モニター輝度)

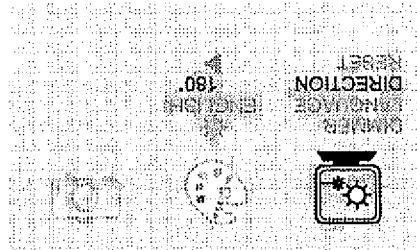
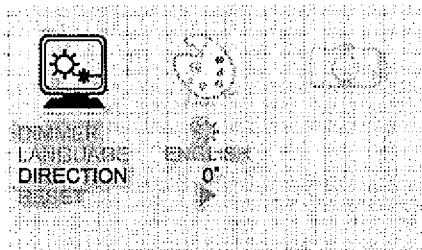


● LANGUAGE (画面表示言語)

ENGLISH - DEUTSCH - ITALIANO - FRANÇAIS - ESPAÑOL

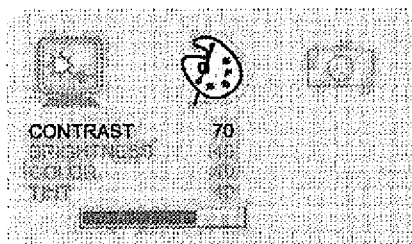
- 한국어 - 日本語

● DIRECTION (画像の向き・上下反転)



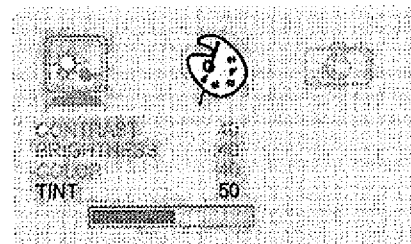
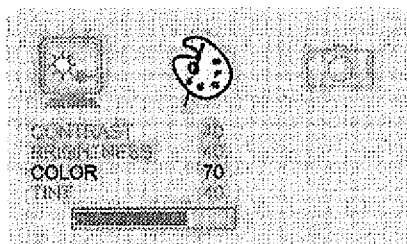
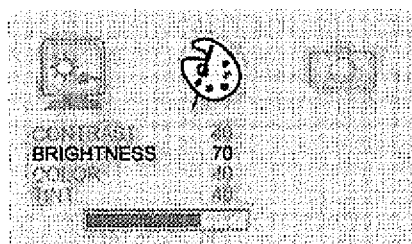
● RESET ▶ 工場出荷時の設定に戻ります。

(2) PICTURE (画質の調整)

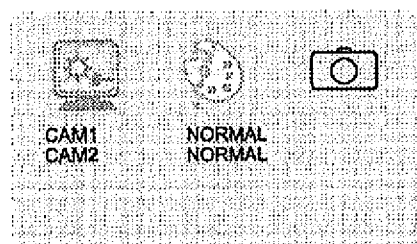


① CONTRAST, BRIGHTNESS, COLOR, TINTを選択するためにMODEボタンを使用します。選択すると赤くなります。

② UP/DOWNボタンを押します。BARと数字が変わり、画面が調整されます。BAR信号は赤色になります。



(3) CAMERA



① MODEボタンを押してCAMERA 1またはCAMERA 2を選択します。

選択すると赤くなります。

② UP/DOWNボタンを押します。NORMAL/MIRRORと文字が変わり、画面の左右反転が調整できます。NORMAL/MIRROR信号は赤色になります。

補 足

* 工場出荷時はNORMALモードです。

* 通常の作業を行なうときは、NORMAL モードで使用してください。MIRROR モードに設定すると、左右が反転した状態で映像が画面に写し出されるためトラブルの原因となります。

諸装置の説明

◆ バックモニタが故障かな？と思ったら

● 故障かな？と思ったら、修理を依頼する前に、もう一度次の点をお調べください。

症状	原因	処理
映像が出ない。	カメラの配線が正しく接続されていますか？	カメラ連動線の配線、カメラ用コネクタの接続を確認してください。
電源が入らない	電源の配線が正しく接続されていますか？	配線を確認してください。
	ヒューズが切れていませんか？	ヒューズ容量を確認し、新しいヒューズと交換してください。 再度切れる場合は、お買い求めの販売店又は最寄の弊社修理相談窓口にご相談ください。
色が薄い。	使用状況が悪い。	車内温度が0℃以下、又は60℃以上になっている場合が考えられます。車内温度を適温（25℃前後）にして確認してください。

上記対処を行っても復帰しない場合は、本体の電源を切り、お買い求めの販売店又は、クラリオンサービス(株)にご相談ください。

諸装置の説明

◆ バックモニタの取扱い上の注意

1. システムの動作中に、ケーブルの抜き差しは絶対におやめください。故障の原因となります。必ず電源を切って (OFF) から行なってください。
2. モニタ画面上の CCD カメラ映像は、広角レンズを採用しているため、人や障害物の距離が実際の距離と比べて詰まって映ります。ご注意ください。
3. 非常に寒いとき、画面の動きが遅くなったり画面が暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。常温に戻れば回復します。
4. 液晶パネルの中には、小さな黒点や輝点が出るがありますが、液晶特有の現象で、故障ではありません。
5. 液晶パネル部の表面は傷つきやすいので、硬いものでこすったり、たたいたりしないでください。
6. 液晶パネル部に水滴などをつけた状態で放置しないでください。変色、シミの原因となります。また、水分が内部に浸入すると故障の原因となります。水滴などがついてしまった場合は、すぐ脱脂綿や柔らかい布などで拭取ってください。
7. 夏季は車内温度が高くなる場合がありますので、車内の温度を下げてからお使いください。
8. 本製品は -10°C ～ $+60^{\circ}\text{C}$ の温度範囲の条件下で使用してください。
9. 本製品を分解したり、改造しないでください。火災及び感電の原因となります。
10. 車に設置時、エンジンを止めている状態で長時間使用する場合は、バッテリーが過放電される可能性がありますので、必ずエンジンをかけた状態で使用してください。
11. 水や飲料など、異物が入ると故障の原因となります。

● キャビネットのお手入れ

やわらかい乾いた布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤をやわらかい布につけて軽く拭取り、乾いた布で仕上げてください。

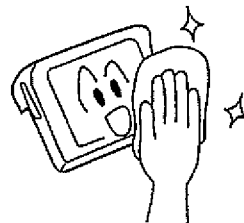


補 足

自動車用クリーナなどは、変質したり、塗料がはげる原因となりますので使わないでください。また、ゴムやビニール製品を長時間接触させておくと、シミをつくる場合があります。

● 液晶表示部のお手入れ

ホコリが付きやすいので、ときどき、やわらかい布で拭いてください。



補 足

ベンジンやシンナなどの溶剤で液晶パネル部を清掃しないでください。

◆ バックモニタのお問合わせ

このバックモニタのお問合わせは、下記メーカー窓口でもご相談いただけます。

クラリオンサービス (株)

お客様相談室

TEL 0120-112-140

(土・日・祝除く / AM9:00～12:00

PM1:00～5:30)

048-541-2964

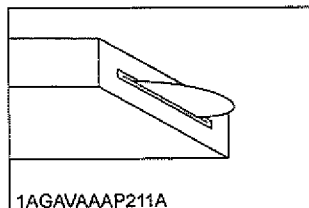
FAX 048-601-3807

諸装置の説明

AM/FM ラジオ付き CD プレイヤーの取扱い

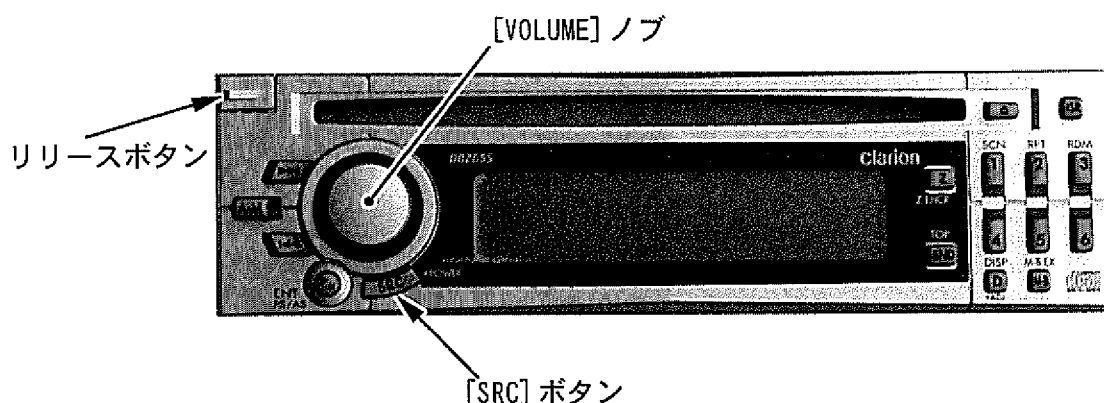
⚠ 注意

1. 運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。
2. CD が落下して頭にあたったりするおそれがあるので、下図の状態で放置しないでください。



1AGAVAAP211A

共通部の操作のしかた



1AGAVAAP147I

◆ 電源の入／切

1. [SRC] ボタンを押すと電源が入り、前回電源を切ったときのソースで始まります。
2. [SRC] ボタンを押すたびに、ラジオと CD が交互に切換わります。CD が入っていないときには、[NO DISC] と表示されます。
3. [SRC] ボタンを約 1 秒間押すとラジオ又は CD への電源が切れます。

補 足

電源が [切] 状態でも、キースイッチが [ON] 位置では、時計が表示されます。(時刻の設定は [時刻合わせ] の項を参照)

◆ 音量調節

[VOLUME] ノブを左右に調節します。右へ回すと大きくなり、左へ回すと小さくなります。

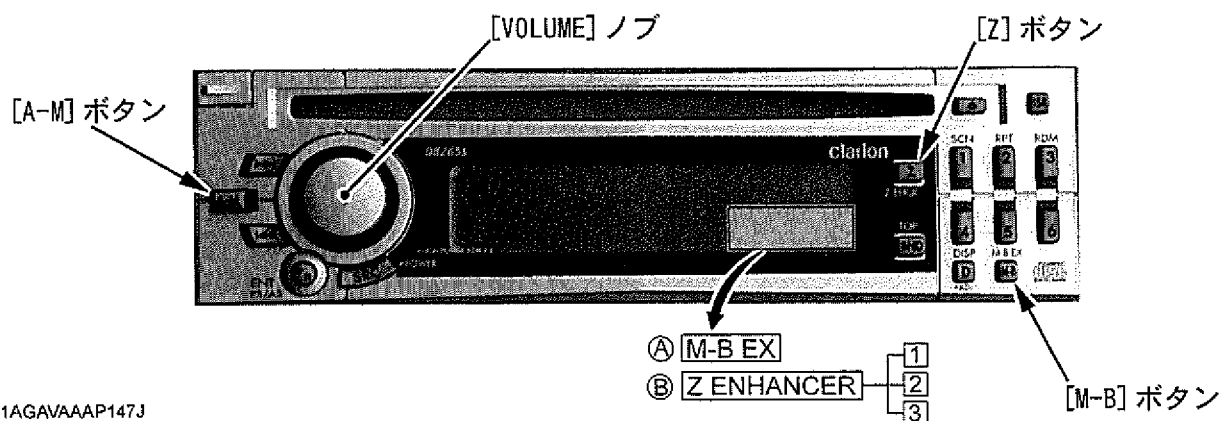
補 足

調節時はディスプレイに音量値が [VOLUME 0] ～ [VOLUME 33] の範囲内で表示されます。

◆ リリースボタン

このボタンを押すと操作パネルが外れます。操作パネルは衝撃に弱いので、必要以外には取り外さないでください。

諸装置の説明



1AGAVAAP147J

- ① マグナベース EX ON 時点
② Z エンハンサーインジケータ

◆ 音質調整

◆ 音質自動ワンタッチ設定

[Z] ボタンを押すごとにインジケータ表示が下記のように切換わります。好みの音質を設定してください。

インジケータ	備 考
Z ENHANCER 1	低音を重視したサウンド
Z ENHANCER 2	高音を重視したサウンド
Z ENHANCER 3	低音と高音を重視したサウンド
消灯 (OFF)	初期設定

◆ 音質手動設定

1. [Z] ボタンを押し、Z ENHANCER を [OFF] (消灯) にする。
2. [A-M] ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備 考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. [BASS] または [TREB] を選択し、[VOLUME] ノブを左右に回し調節します。
右へ回すと強調され、左へ回すと減衰されます。(調整範囲は、-7~+7 です)
4. [A-M] ボタンを再度押すと設定が完了します。

補 足

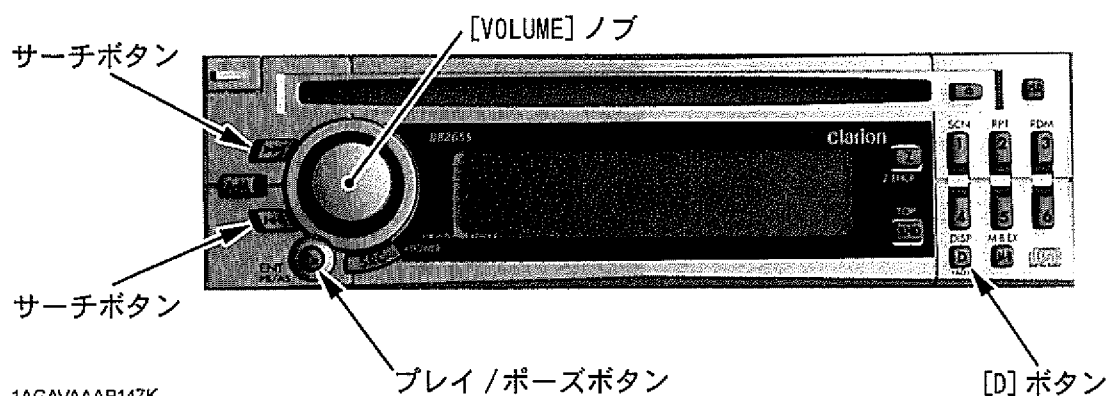
音質は Z-エンハンサ機能が [OFF] のとき調整できます。

◆ 重低音の増強

[M-B] ボタンを押すと、マグナ・ベース EX (MAGNABASS EX) が ON になり、重低音が増強されます。

[M-B] ボタンを再度押すと、マグナ・ベース EX 機能が解除されます。

諸装置の説明



1AGAVAAP147K

◆ 時計表示への切換え

[D] ボタンを押すごとに下記のように表示が切換わります。

ラジオモードの場合

	表示例
周波数表示	FM 1 83.00
時間表示	AM 10:05

CD モードの場合

	表示例
演奏状態表示	TO 1 00:01
時間表示	PM 10:05

補 足

- 常に時間を表示させるには、スクリーンセーバー機能を [SS OFF] に設定します。
([スクリーンセーバーの設定] の項を参照)
- 時計表示のときは、ラジオの選局や CD の選曲などのボタン操作時に、受信周波数やトラック No. などを表示した後、元の時計表示に戻ります。

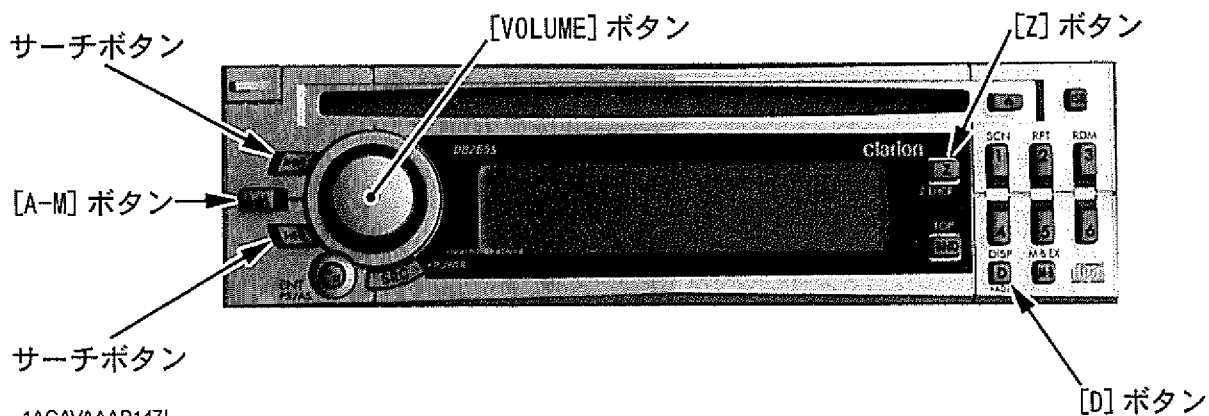
◆ 時刻合わせ

- キースイッチを [ON] にします。
- [D] ボタンを約 1 秒間押し、[SCRN SVR] を表示させる。
- サーチボタンを押して、[CLOCK<E>] を選択します。
- プレイ / ポーズボタンを押します。
調節時点 ([AM 10:16] など) の時刻を表示して、時刻設定モードになります。
- サーチボタンを押して、「時」または「分」を選択します。
点滅している項目が調整できます。
- [VOLUME] ノブを回して、時刻を合わせます。
- プレイ / ポーズボタンを押すと設定が完了します。

補 足

- 時計は 12 時間表示です。
- 時刻を合わせる途中で他のボタンを操作すると、時刻調整は解除されます。

諸装置の説明



◆ 左右スピーカの音量バランス調整

1. [Z] ボタンを押し、Z ENHANCER を [OFF] (消灯) にする。
2. [A-M] ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切替わります。

ディスプレイ	備 考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. [BAL] を選択し、[VOLUME] ノブを左右に回します。

右へ回すと右側が強調され、左へ回すと左側が強調されます。(調整範囲は、L13～R13です。)

4. [A-M] ボタンを再度押すと設定が完了します。

補 足

音質は Z-エンハンサ機能が [OFF] のとき調整できます。

◆ スクリーンセーバーの設定

1. [D] ボタンを約 1 秒間押し、[SCRN SVR] を表示させる。
2. サーチボタンを押して、[SCRN SVR] を選択します。
3. [VOLUME] ノブを回して、[SS ON] 又は [SS OFF] を選択します。

SS ON	スクリーンセーバー機能が ON になります。 演奏などの状態表示で 30 秒間何も操作しないと、スクリーンセーバー表示になります。
SS OFF	スクリーンセーバー機能が OFF になります。

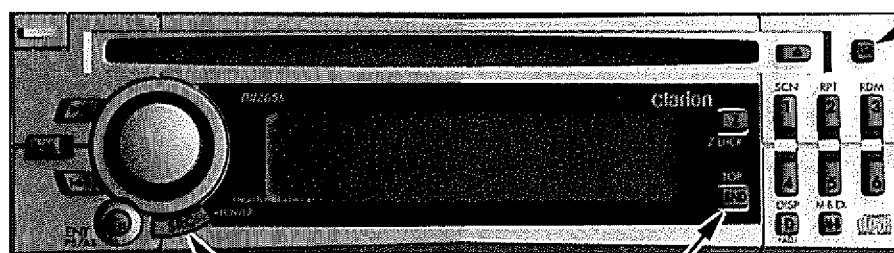
4. [D] ボタンを再度押すと設定が完了します。

補 足

初期設定は [SS ON] です。ディスプレイに演奏状態を常に表示させておきたい場合は、[SS OFF] に設定しておいてください。

諸装置の説明

ラジオを聴くには



1AGAVAAP147M

[SRC] ボタン

[BND] ボタン

[ISR] ボタン

◆ ラジオの選択

1. [SRC] ボタンを押すと受信バンドと受信周波数（[FM1 83.00] など）を表示して、ラジオが選択されます。

補 足

[SRC] ボタンを押すたびに、ラジオと CD が切替わります。

◆ 受信バンドの選択

1. [BND] ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイが切替わります。
お好みのバンドを選択してください。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

◆ クイック選局（ISR 機能）

ISR 機能とはどのソースからでもすぐに、特定の放送局を呼び出す機能です。交通情報など、運転中に聴きたい情報などをすばやく選局できます。

1. [ISR] ボタンを押すと、ディスプレイに [ISR1620] が表示されます。
2. [ISR] ボタン又は [SRC] ボタンを押すと、元のソースに戻ります。

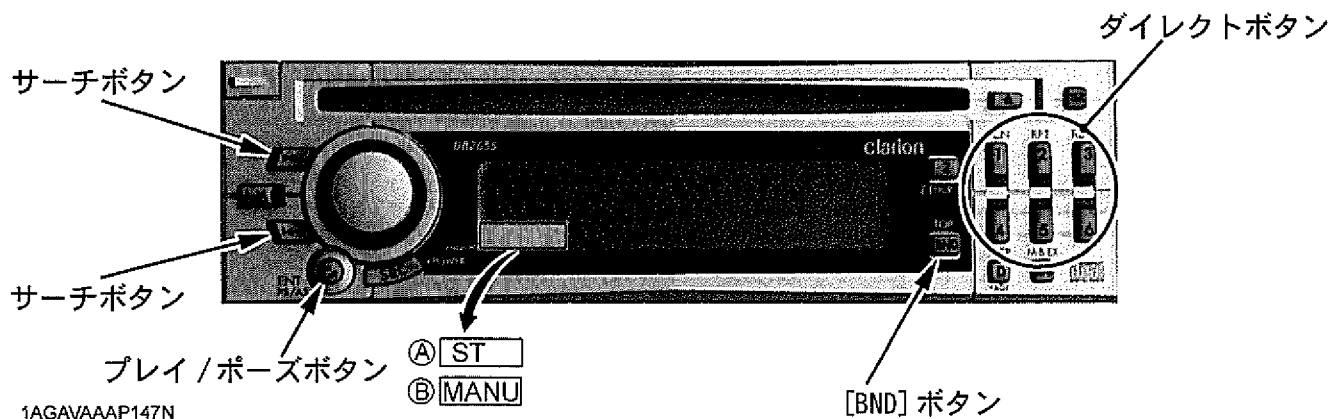
補 足

初期設定では、AM1620kHz の交通情報が登録されています。

◆ 登録のしかた

登録させたい放送局を選局し、[ISR] ボタンを約 2 秒間押すと登録されます。

諸装置の説明



①ST：ステレオ放送受信時に点灯

②MANU：手動選局モード時点灯

◆ プリセット選局

あらかじめ自動又は手動でメモリ登録しておくと、ダイレクトボタン（1～6）を押すだけで選局できます。（登録のしかたは[メモリ登録（自動選局）]又は[メモリ登録（手動選局）]の項を参照）

◆ メモリ登録（自動選局）

登録できる数はFM1、FM2、AM1、AM2の各バンドごとに6局ずつ、計24曲です。

1. [BND] ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1、FM2 または AM1、AM2）を選択します。
2. プレイ／ポーズボタンを約2秒間押します。受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン（1～6）に登録されます。

補 足

電波の弱い場所では6局すべて登録されない場合もあります。

◆ メモリ登録（手動選局）

登録できる数はFM1、FM2、AM1、AM2の各バンドごとに6局ずつ、計24曲です。

1. [BND] ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1、FM2 または AM1、AM2）を選択します。

2. サーチボタンを押して登録させたい放送局を選択します。

3. 登録させたいダイレクトボタン（1～6）を約2秒間押すと登録されます。

◆ メモリ登録の確認

プレイ／ポーズボタンを押すと、登録された放送局を順に受信します。

プレイ／ポーズボタンを再度押すと解除されます。

◆ 自動選局

1. ディスプレイに [MANU] が点灯しているときは、[BND] ボタンを約1秒間押し消灯させます。（消灯時のみ自動選局できます。）

2. サーチボタンを押します。

3. 放送のあるところで自動的に選局が止まります。他を選局したいときは、再度ボタンを押してください。

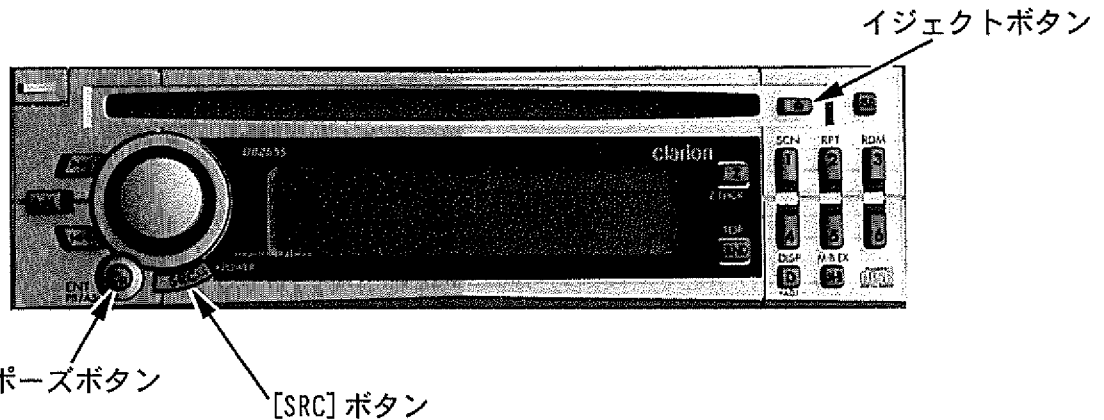
◆ 手動選局

1. ディスプレイに [MANU] が消灯しているときは、[BND] ボタンを約1秒間押し点灯させます。（点灯時のみ手動選局できます。）

2. サーチボタンを押して、放送のあるところに合わせます。

諸装置の説明

CD を聴くには



1AGAVAAAP1470

◆ CD の挿入と再生

CD の挿入口に CD を入れると
[T01 00:00] を表示し、自動的に
演奏が始まります。

8cm CD のときは、CD 挿入口の中央に入
れます。

すでに CD が入っている場合は、[SRC] ボ
タンを押して CD を選択すると、トラッ
ク No. ([T01 00:00] など) を表示し、
自動的に CD の演奏が始まります。

補 足

1. 本機は disc マーク表示の
あるコンパクトディスク
以外はご使用になれませ
ん。
2. CD-R/RW で記録されたディスクは、使用
できない場合があります。
3. CD は印刷面を上にして入れてください。



◆ CD の取出し

イジェクトボタンを押すと CD が取出さ
れます。

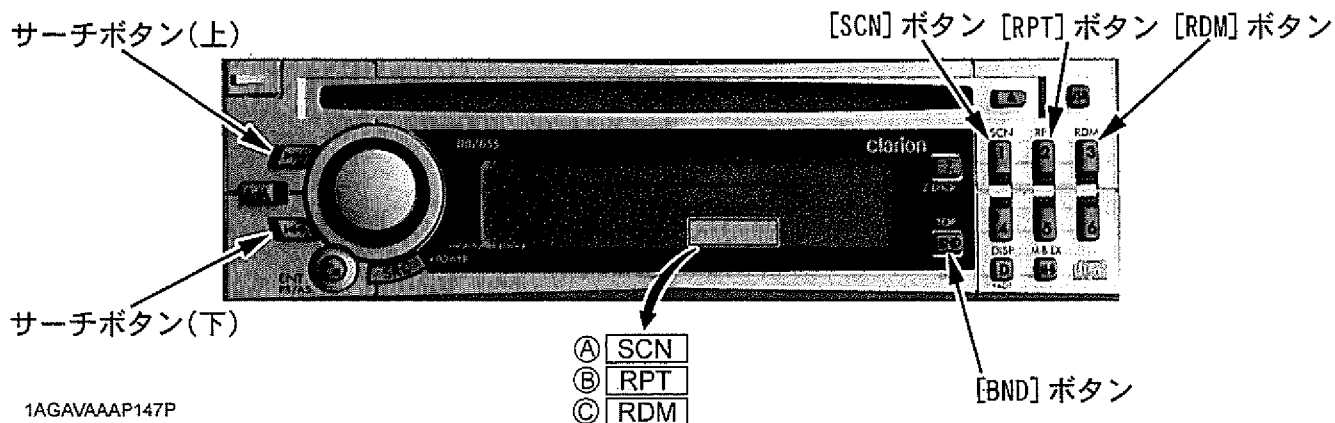
補 足

1. CD をイジェクトしたままにしておくと、
15 秒後に本機内に引き込まれます (オー
トリロード)。
2. オートリロード前に無理に CD を押し込
むと、CD にキズがつくおそれがあります。
3. 8cm CD はオートリロードされません。
イジェクトした場合は、8cm CD を取出し
てください。

◆ 演奏の一時停止

プレイ/ポーズボタンを押すと [PAUSE]
が表示され、演奏が一時停止します。
プレイ/ポーズボタンを再度押すと演
奏が再開されます。

諸装置の説明



- ①SCN：スキャン演奏時に点灯
- ②RPT：リピート演奏時に点灯
- ③RDM：ランダム演奏時に点灯

◆ 次の曲／前の曲の選択

次の曲を聴くときは、サーチボタン(上)を押します。また押した回数だけ先の曲が演奏されます。

前の曲を聴くときは、サーチボタン(下)を2回押します。サーチボタン(下)を押すと、演奏中の曲を最初から演奏します。

さらに押すと、押した回数だけ前の曲が演奏されます。

曲の頭部分を演奏しているときにサーチボタン(下)を2回押すと、2つ前の曲に戻ることがあります。

◆ 早送り／早戻し

早送りするときはサーチボタン(上)を押し続けます。

早戻しするときはサーチボタン(下)を押し続けます。

1秒以上押すと5倍速で、3秒後には30倍速で、演奏曲が早送りまたは早戻しされます。

◆ トップ機能

[BND] ボタンを押すと、最初の曲(トラック No. 1)から演奏されます。

◆ 曲を探す(スキャン演奏)

CDに収録されている全曲を10秒間ずつ演奏します。

[SCN] ボタンを押すと、ディスプレイの[SCN]が点灯して、スキャン演奏します。スキャン演奏は、演奏している曲の次の曲から始まります。

◆ 曲を繰り返し聴く(リピート演奏)

演奏中の1曲を繰り返し演奏します。

[RPT] ボタンを押すと、ディスプレイの[RPT]が点灯して、リピート演奏します。

◆ ランダムに演奏を聴く(ランダム演奏)

CDに収録されている全曲を順不同に演奏します。[RDM] ボタンを押すと、ディスプレイの[RDM]が点灯して、ランダム演奏します。

諸装置の説明

◆ AM/FM ラジオつき CD プレイヤーが故障かな？と思われたら

次のような症状は、故障ではないことがあります。修理を依頼される前に、もう一度次のことをお調べください。

現 象	原 因	修 理
電源が入らない。 (音が出ない)	ヒューズが切れている。	ヒューズ容量を確認し、新しいヒューズと交換してください。 再度切れる場合は、お買い求めの販売店又は最寄の弊社修理相談窓口にご相談ください。
CD がすぐ出てしまう。	CD を裏表逆に入れている。	CD の印刷面を上にして入れてください。
音飛びする。 ノイズなどが入る。	CD が汚れている。 CD に大きい傷やソリがある。	CD をやわらかい布で拭いてください。 CD を無傷なものに交換してください。
電源を入れた直後音質が悪い。	湿気の多いところに駐車すると、内側のレンズに水滴が付くことがあります。	電源を入れた状態にして1時間乾燥させてください。
ボタンを押しても動作しない、又はディスプレイが正確に表示されない。	ノイズなどが原因で、マイコンが誤動作しちる。	リセットボタンを、細い棒などで約2秒間押してください。 リセットボタンを押したときは、設定したプリセットメモリなどが全て消えますので、もう一度設定し直してください。

◆ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤーのエラー表示について

本機はシステム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。

障害が発生したときには、各種のエラーが表示されますので、対処方法にしたがって障害を取除いてください。障害を取除けば、通常の動作に復帰します。

エラー表示	原 因	対処方法
E R 2	本機の CD デッキ内の CD が引掛かってイジェクトされないとき。	引掛かる要素を取除いてください。CD がイジェクトされない場合は、機器の故障とされますので、お買い求めの販売店にご相談ください。
E R 3	本機の CD デッキ内の CD に傷などがあり、演奏できないとき。	傷やソリのない CD と交換してください。

※上記対処を行っても復帰しない場合は、本体の電源を切り、お買い求めの販売店又は、クラリオンサービス（株）お客様相談室にご相談ください。

諸装置の説明

◆ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い上の注意

1. disc マークのついた CD をご使用ください。

また、ハート形や八角形など、特殊形状の CD は使用しないでください。



CD-R/CD-RW で記録されたディスクは、使用できない場合があります。

CD が曇っているときは、やわらかい布でふいてください。

2. 本機はシステム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには、[エラー表示について]の項を参照して障害を取除いてください。障害を取除けば、通常の動作になります。

3. 本機は、水分や高温、多湿を嫌いますので、車内清掃や換気に十分ご注意ください。

4. 車内の温度に気をつけてください。極寒や酷暑のとき、とくに夏季は車内の温度が大変高くなる場合がありますので、車内の換気に注意し、-20~70 度の範囲で使用してください。

5. 本機操作は、安全性の面からできるだけ停止中に行なってください。また運転中の音量は事故防止のため、社外の音が聞こえる程度でお楽しみください。

6. 本機のお手入れは、乾いたやわらかい布でふいてください。固い布や、ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合にはやわらかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽くふき取ってください。

7. CD はディスク面に、傷や指紋をつけないように扱ってください。

汚れたときは、やわらかい布で、内側から外側へ向かって、よくふいてください。

8. 8cm CD をイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により、ディスクが落下するおそれがあります。

9. CD は次のような場所には保管しないでください。

- 直射日光のあたる場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 暖房の熱が直接あたる場所

◆ 推奨クリーニングディスク

クラリオン製 -CTC-007-2+0

◆ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ

この AM/FM ラジオ付 CD プレーヤのお問合わせは、下記メーカー窓口でもご相談いただけます。

クラリオン (株)

お客様相談室

TEL 0120-112-140

(土・日・祝除く / AM9:30~12:00
PM1:00~5:00)

048-541-2964

FAX 048-601-3807

運転に必要な装置の取扱い

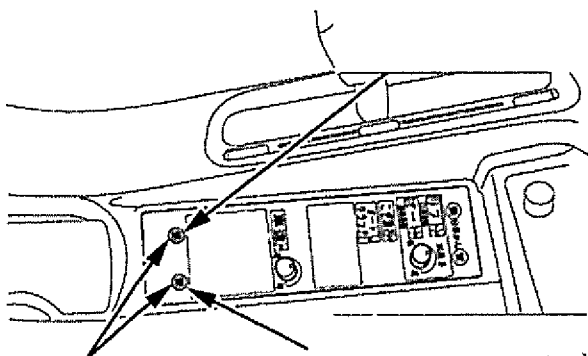
1. チャンバー開閉装置の取扱い

◆ ボタン操作

ボタン操作で開閉を行ないます。

◆ チャンバーの開閉操作のしかた

押し続けるとチャンバーが開く



チャンバー開閉スイッチ 押し続けるとチャンバーが閉じる

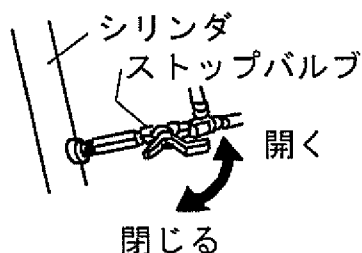
エンジンを始動させ、開閉スイッチを押すとチャンバーが開閉します。

(エンジンがかかっていないと油圧は作動しない為、チャンバーは開閉しません。)

チャンバーを開くと連続電子ブザーが鳴ります。チャンバーを閉じロックがかかるとブザーが止まります。ブザーが止まるまでスイッチを押し続けてください。ブザーが止まりロックがかかってから作業してください。

◆ チャンバーを開けたままで点検、整備するときは

点検・整備等でチャンバーを開けたままで作業するときは、シリンダ部のストップバルブを閉じてください。ロールベアラ右後ろカバー内にあります。



(チャンバーを開いた状態で移動しないで下さい。)

! 注意

チャンバーを開けた状態での油圧装置の点検整備は、必ずストップバルブを閉じてから行なってください。

これを怠ると重大な傷害事故につながる恐れがあります。

! 警告

この作業を行う場合、必ず二人で合図をしながら、慎重に行ってください。

これを怠ると傷害を発生する恐れがあります。

2. 安全装置の取扱い

◆ シャーボルトの交換

この機械には下表の様に5ヶ所にシャーボルトがあります、切損した場合、必ずエンジンを停止し、指定のボルトを入れてください。これ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。(詳細は 69 ページ参照)

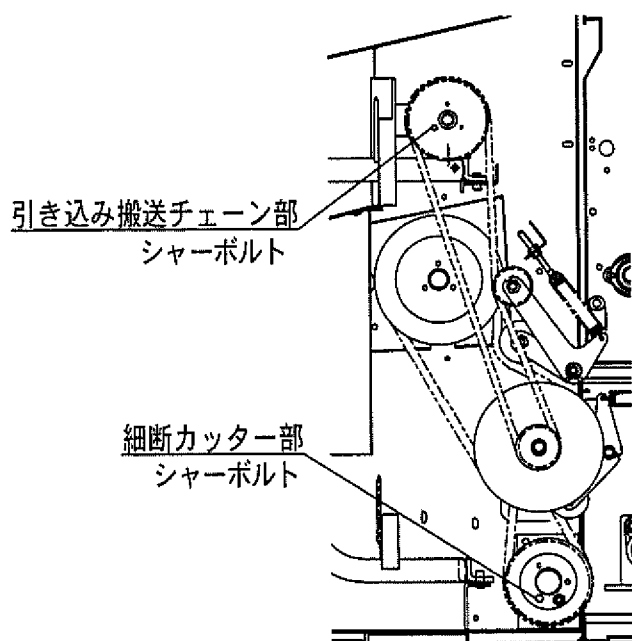
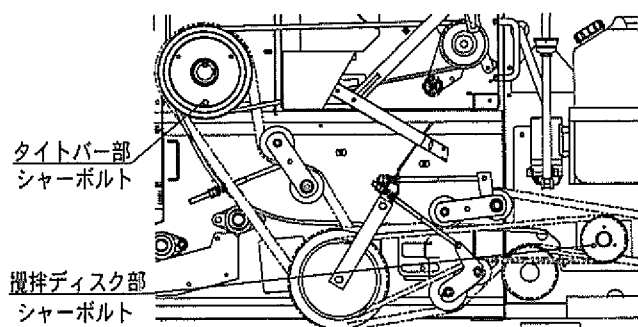
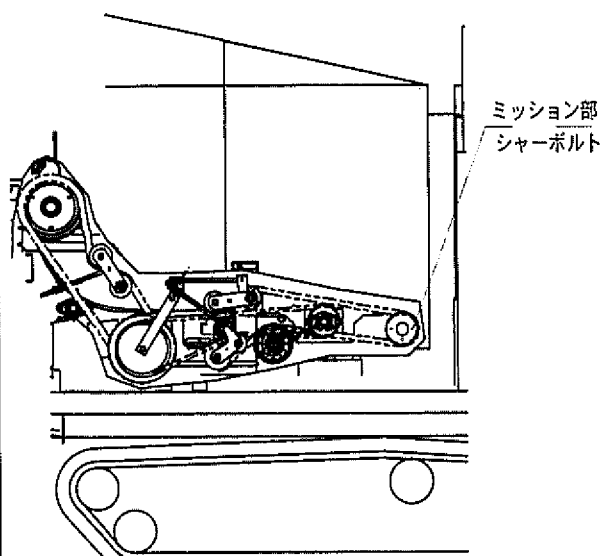
部分名	場所	ボルトサイズ
ミッション部	右カバー内	M10×35-8T 全ネジ
タイトバー部	右カバー内	M8×40-8T 全ネジ
細断カッター部	左前カバー内	M8×30-8T 全ネジ
引き込み搬送チェーン部	左前カバー内	M6×25-8T 全ネジ
攪拌ディスク部	右前カバー内	M6×25-8T 全ネジ

◆ シャーピンの交換

刈取部には6ヶ所シャーピンがあります。折損した場合購入先に連絡して交換してください。

部分名	ピンサイズ	参照ページ
引起しチェーン部	φ4×28	215
供給サポートチェーン部		215

運転に必要な装置の取扱い

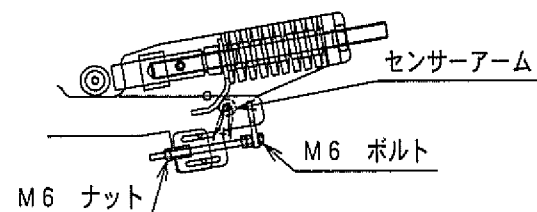


シャーボルトの部品コードは 225
ページに記載

3. 満了感知装置の取扱い

◆満了感知装置の装備位置

下図に示すように進行方向左側のサイドカバーの内側に装備しています。



◆満了感知装置の作用

梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にブザーを鳴らし、パトランプが点灯し、ネットが自動繰出しされます。

注意

感知装置は出荷時に調整済みですので調整しないでください。

調整すると機械の破損の原因となったり、十分なロール成形ができないこととなりますので、絶対に調整しないでください。

4. ネット繰出しスイッチの取扱い

◆自動ネット繰出しのときは操作不要です

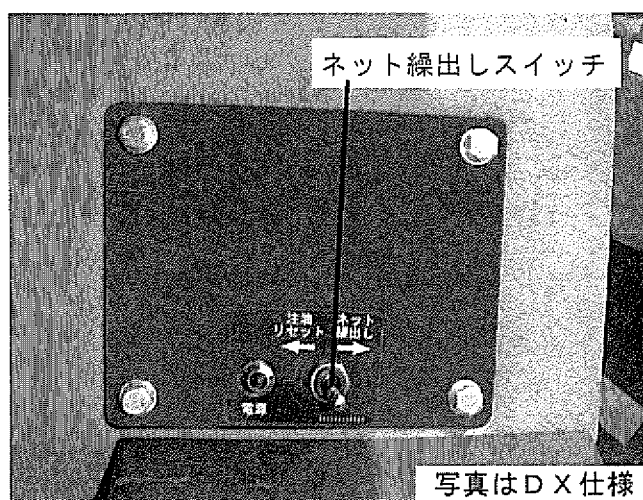
成形されるロールの圧力が、設定された圧力になるとブザーが鳴り(同時にパトライトも点灯)、自動的にネットを繰出すので、ネット繰出しスイッチの操作は不要です。

◆手動でネットを繰出すとき

成形作業の最終時、作物不足で設定圧力以下でネットを巻き放出する時は、ネット繰出しのスイッチを右へ倒すとブザーが鳴り、同時にネットが繰出されます(同時にパトライトも点灯)。

ネット繰出しスイッチは運転席左後にあります。

運転に必要な装置の取扱い



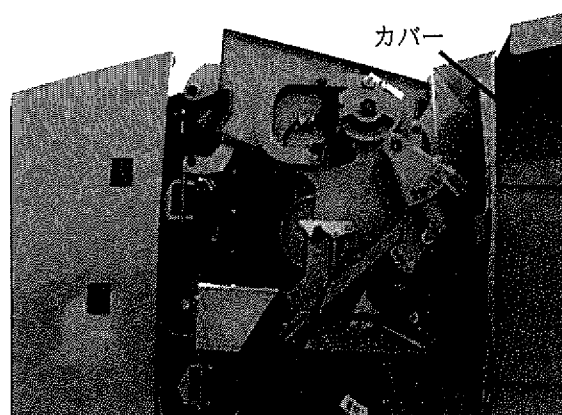
5. ネット装置のスライド

ネットの装着やメンテナンスの際にはネット装置をスライドすることができます。

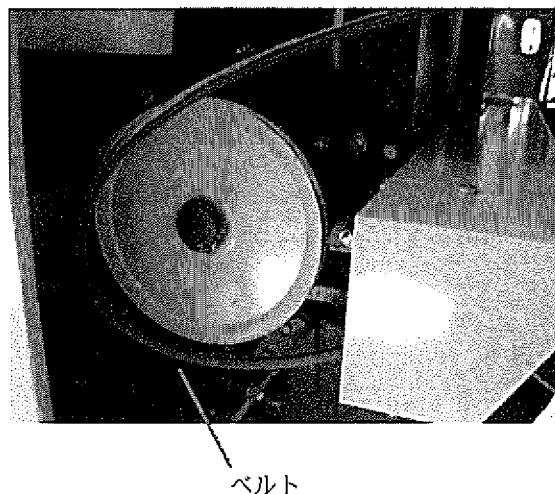
！ 注意

- ・ ネット装置をスライドする場合は、スライド部分に手などをはさまないように特に注意してください。
- ・ 切断用のナイフがありますので手を切らないように特に注意してください。
- ・ 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

1. カバーを開いてください。



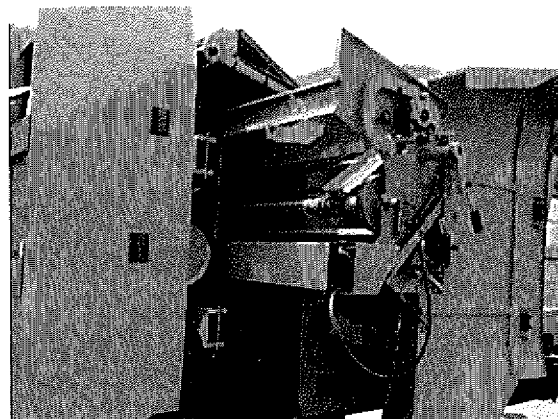
2. 駆動ベルトを外してください。



3. 固定金具を外してください。



4. ネット装置を手前に引張り出してください。



運転に必要な装置の取扱い

警告

ネット装置をスライドするときには必ず P T O を切り、エンジンを停止させてください。

これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

6. ネットをセットする

注意

- ・ ネットを通す場合は、切断用のナイフがローラーの後にありますので手を切らないよう特に注意してください。
- ・ ネットの種類によりトラブルが出ることがありますので必ずタカキタ指定のネットを使用してください。

使用できるネットは 1.0 又は 1.2 m 幅ネットです。

1. フックを①方向に持ち上げ、アームを②方向に引き出し、ドラムを③方向に抜き出してください。

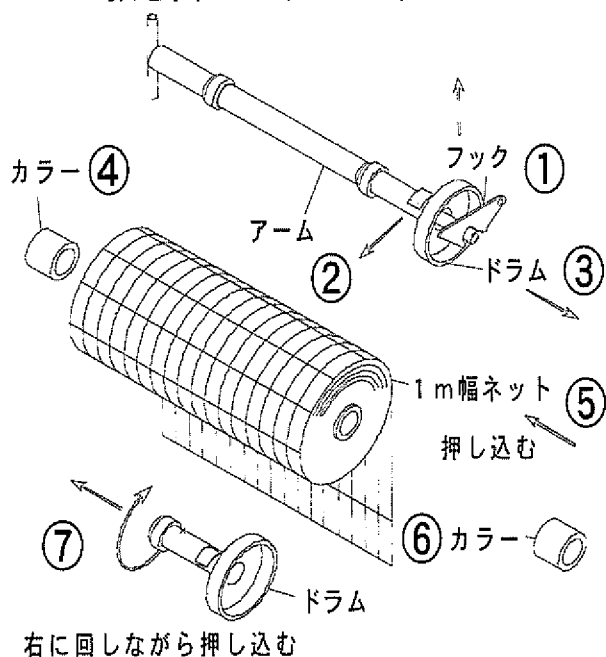


図 1 (1m ネットセット図)

2. アームにカラー④を入れてください。
(1.2 m 幅ネット装着時は不要)
3. アームにネット⑤を図 1 の巻き方で差し込んでください。
4. アームにカラー⑥を入れる。
(1.2 m 幅ネット装着時は不要)
5. アームにドラムを右に回しながら⑦押し込んでください。

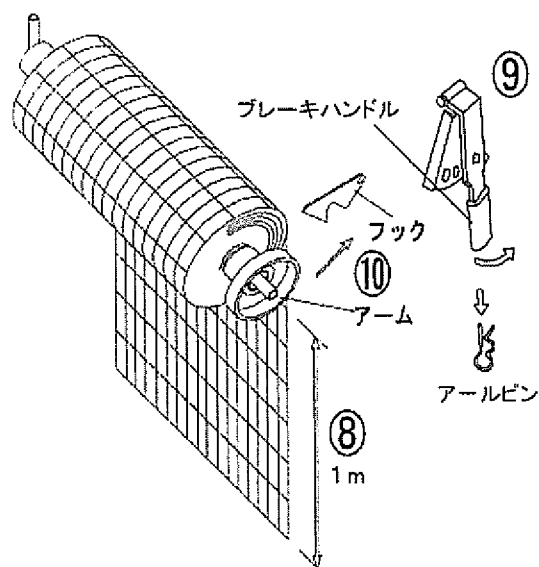


図 2 (1m ネットセット図)

6. ブレーキハンドル⑨の R ピンを抜き、ブレーキを解除してください。
7. ネットを図 2 のように 1 m 程度引き出してください。⑧
8. アームを戻し⑩、フックで固定してください。
9. ブレーキハンドルを元に戻し R ピンで固定してください。
10. ネットを束にして図 3 のように通してください。
11. 繰出ローラーを回してネットをきっちり張ると下より 20 cm 程度ネットが出る状態になります。

運転に必要な装置の取扱い

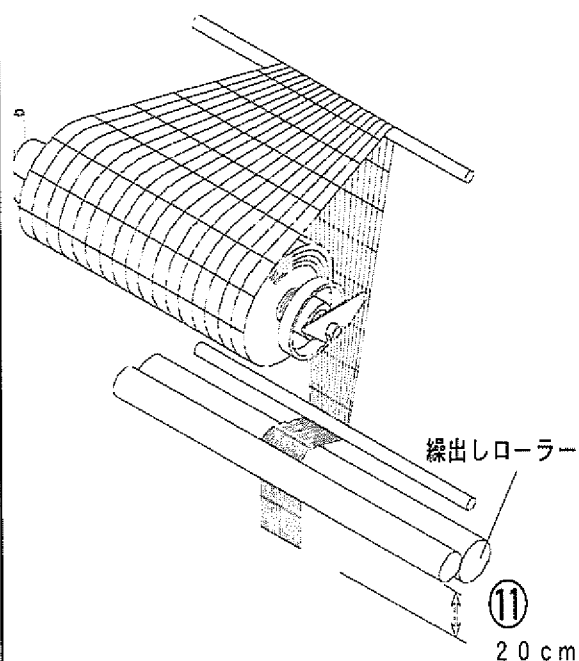


図3 (1mネットセット図)

7. 使用時にこれだけは守りましょう

- ・ナイフの刃こぼれがある場合は、研磨するか交換してください。
 - ・ネットは紙筒を使用している為、水濡れ厳禁です。
- また、屋外保管の場所は、ネットを取り外し屋内で保管してください。

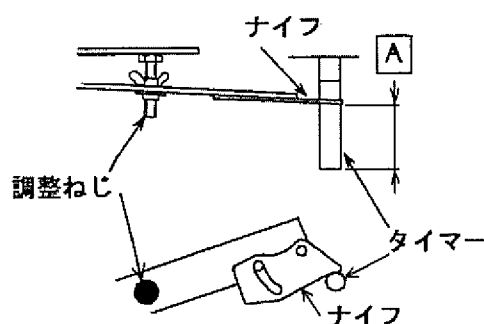
8. 使用できるネット

- ・タカキタ指定のネットを使用してください。ネットの種類によりトラブルがでることがあります。
- ネット（別売品）は当社で準備しております。
- ・ネットの幅寸法
- ネットの幅寸法を確認してください。下記のネットしか使用できません。
1. 0m幅ネット (タカキタ指定のみ)
 1. 2m幅ネット (タカキタ指定のみ)
- タカキタ指定ネットは、ネットの芯がネットブレーキ装置に適した硬い紙筒を使用しています。

9. ネット巻数の設定

◆巻き数を設定する

ネットの巻き数は無段階に調整できます。調整ねじを締め、A寸法を大きくすると多く、緩めてA寸法を小さくすると、少なく巻けます。



ネット巻数	3	4	5
A寸法	50mm	64mm	78mm

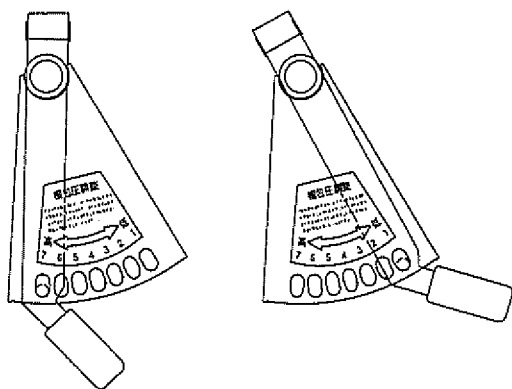
工場出荷時は4巻にセットしてあります。

運転に必要な装置の取扱い

10. ネットブレーキの調整

ネット装置のバネ調整によりネットのブレーキ力を適正に調整することができます。

ネット張力が強すぎて破れる場合は“低”方向の位置に掛け替えてブレーキ力を小さくして作業をおこなってください。

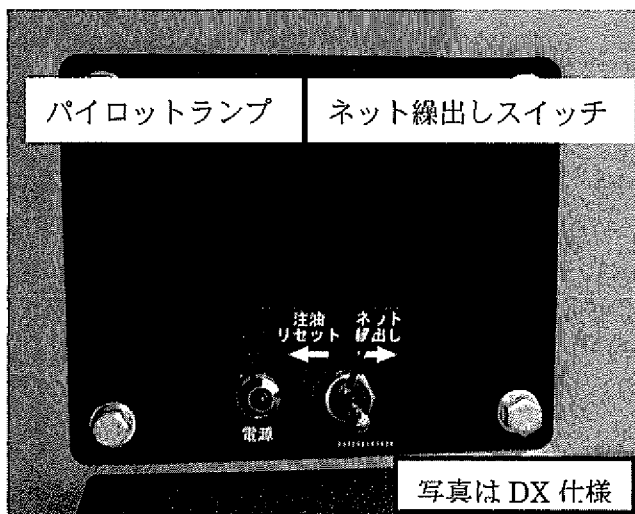


ブレーキ力大 ← → ブレーキ力小

11. タイトチェーン注油装置の取扱い

◆作業前に必ず注油してください。

タイトチェーンに十分注油してください。ロールベアラ部を回転させながらネット繰出しスイッチを左に倒してください。(1回20秒程度)



◆油の残量に注意

作業中はチャンバーを閉じた後に自動的に注油されます。

注油タンク内の油残量には、特に注意して、少なくなれば補給してください。

タンクはロールベアラ右後カバーの中にあります。

注意

注油タンクの油不足によりタイトチェーンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させます。無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

◆定期的にノズルの清掃を行ってください

注油ノズルにはワラが付着しやすく、そのまま使用されると、チェーンへの注油がされていないことがあります。定期的に左右のノズル先端部に付着したワラを除去してください。

警告

点検・清掃は必ずエンジンを止めてから行ってください。

これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

12. パイロットランプについて

左図の位置に取り付けられているパイロットランプはロールベアラの電源と繋がっています。エンジンがかかっている状態でこのランプが消えている場合は、ロールベアラのヒューズが切れている可能性がありますのでヒューズを交換してください。

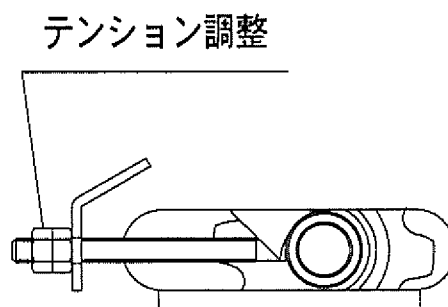
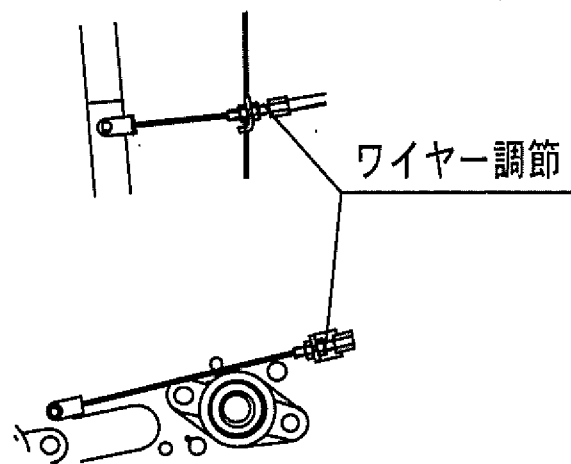
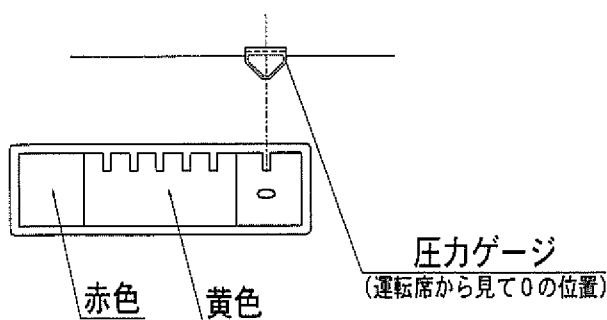
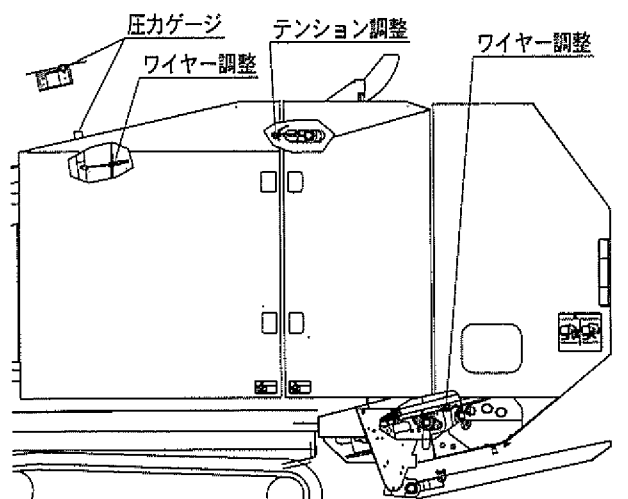
(ヒューズに関しては P206 のメンテナンスを参照してください)

運転に必要な装置の取扱い

13. 圧力ゲージの見方・調整

◆ ロールベアラに収穫物が入り圧力がかかるとゲージが動き、運転席から分かるようになっていました。作業の目安にしてください。

1. ゲージが黄色の範囲に入るとネットの巻付けが可能です。
2. ゲージが禁止の範囲に入ると入れすぎです。すぐに手動でネットを出してロールを放出してください。そのまま作業を続けると、シャーボルトが切れるおそれがあります。
3. タイトチェーンが伸びたり、ワイヤーが伸びると作業開始時、ゲージ位置が「0」でなくなります。そのときはテンション、ワイヤー調整を行って常に「0」からスタートするようにしてください。



細断型ホールクロップ収穫機の運転

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。

⚠ 警告

- ・各部の調整・点検・交換を行なうときは、エンジンを必ず停止させ、各レバー類を[切]位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。
- ・取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

⚠ 注意

- ・燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- ・運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない、磨耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
- ・使用前にはオイル、燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
- ・燃料やオイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- ・バッテリー、マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
- ・刈刃やカッタの掃除又は注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

各部への給油と交換

- ・点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
- ・使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、指定の[クボタ純オイル・スベアグリース]を必ず使用してください。
- ・燃料補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

◆機体の回りを歩いて

- 1.ボルトやナットのゆるみや脱落がないか。
- 2.車体各部の変形や破損がないか。
- 3.油もれや水もれなどないか。
- 4.機体各部にわらくずがたまっていないか等を点検します。

細断型ホールクropp収穫機の運転

■ 日常点検項目

〈ここを〉➡	〈点検し異常があれば〉 ➡	〈こうする (処置) 〉	参 照 ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル (▲ 表示ラベル) の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は、交換する 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は、部品交換をする。 4. 掃除する 5. 新しいラベルに貼替える。	— — 170 137 214 —
カッタ刃・刈刃	・ 刃の損傷はないか。	・ 交換する。	193 197
クローラ	・ たるみや損傷はないか。	・ 調整又は、交換する。	208
防じんあみ	・ 詰まりはないか。	・ 掃除する。	171
反射器・反射テープ	・ 汚れや損傷はないか。	・ 掃除又は、交換する。	—
油水分離器 (セパレータ)	・ カップ内に水が溜まっていないか。	・ 排水する。	172
エンジン周りを確認して			
エンジンオイル	・ 油量は規定量 (オイルゲージの上限線と下限線の間) あるか。	・ 規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル D30 又は、D10W-30	157
ラジエータ冷却水	・ リザーブタンクの水量は規定量 (タンクの FULL 線と LOW 線の間) あるか。	・ 清水を規定量まで補給する。	165
ラジエータフィン	・ 詰まりはないか。	・ 掃除する。	171
オイルクーラフィン			
コンデンサフィン [DX]			
プレクリーナ	・ コレクタにほこりがたまっていないか。	・ 掃除する。	169
エアクリーナ	・ エLEMENTが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。	・ 掃除又は、ELEMENTを交換する。	169
ファン駆動ベルト・ミッション駆動ベルト	・ たるみはないか。 ・ 損傷はないか。	・ 調整する。 ・ 交換する。	182
パイプ・ホース	・ 油もれや水もれはないか。	・ 取付部の締付け又は、交換する。	170
配線コード	・ コネクタの外れはないか。 ・ 被覆の損傷はないか。	・ 接続する。 ・ 交換する。	206

細断型ホールクロープ収穫機の運転

〈ここを〉➡	〈点検し異常があれば〉 ➡	〈こうする（処置）〉	参 照 ページ
運転席に座りメインスイッチを入れて			
各ランプ	・ 各スイッチを操作すると点灯又は、点滅するか。	・ 球切れ、ヒューズ切れ、配線コードの切れを調べ交換又は、接続をする。 ・ バッテリーの充電又は交換する。	207
液晶 ディスプレイ	・ 表示はされているか。 ・ 切換えスイッチを押すと表示内容が変わるか。		
燃料計	・ 作業に必要な燃料はあるか。	・ 軽油を補給する。	156
ホーン	・ スイッチを押すと鳴るか。	・ ヒューズ切れ、配線コードの外れを調べ交換又は、接続をする。	207
バックブザー	・ 主変速レバーを[後進]位置にするとブザーが鳴るか。		
バッテリー	・ エンジン始動するか。	・ 充電又は、交換する。	201
エンジンを始動して			
エンジン 回転計・ 速度系	・ 回転計・速度計の作動に異常はないか。	・ 購入先に連絡してください。	—
エンジン (マフラ)	・ 異音はしないか。 ・ 排気ガスの色に異常はないか。	・ 購入先に連絡してください。	—
各レバー	・ 各レバーの作動に異常はないか。	・ 調整する。	178～ 179
駐車ブレーキ	・ 機体は停止するか。また、遊び量は適正か。	・ 調整する。	179
エンジン停止 スイッチ	・ スイッチを押すと、ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	・ ヒューズ切れ、配線コードの外れを調べ交換又は、接続をする。	21 101

重 要

処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。

細断型ホールクロップ収穫機の運転

1. 新車時の扱い方

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが収穫機の寿命に影響を及ぼします。新車の収穫機は厳重な検査のもとに出荷されていますが各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は収穫機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、過負荷となる刈取作業は避けてください。

収穫機の性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。

新車時の取扱いは次項を遵守してください。

◆ならし運転について

1. 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
2. 寒い日や冬期、エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
3. 高速での刈取作業はさけてください。
4. 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

2. エンジンの始動と停止のしかた

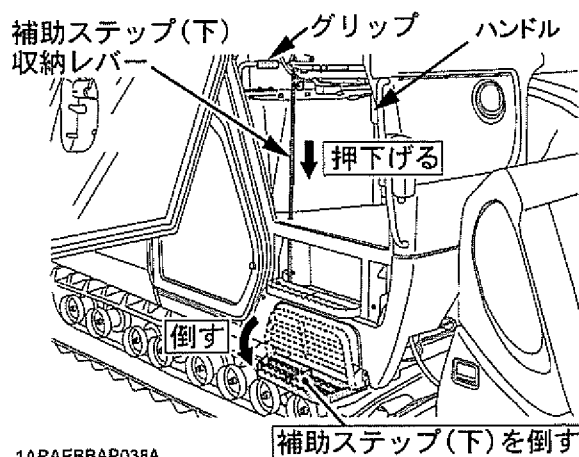
注意

1. この取扱説明書前編の黄色のページ [安全に作業するために] の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
2. 収穫機に貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
3. 収穫機に乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。
4. エンジンの排ガスによる、排気ガス中毒を避けるため、換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
5. 副変速レバーが[N]（中立）位置では油圧ロックが作動しないため、坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険ですので解除しないで下さい。

細断型ホールクropp収穫機の運転

◆始動のしかた

- 1.補助ステップ（下）用の収納レバーを押下げる又は、手で補助ステップ（下）を下側に倒します。



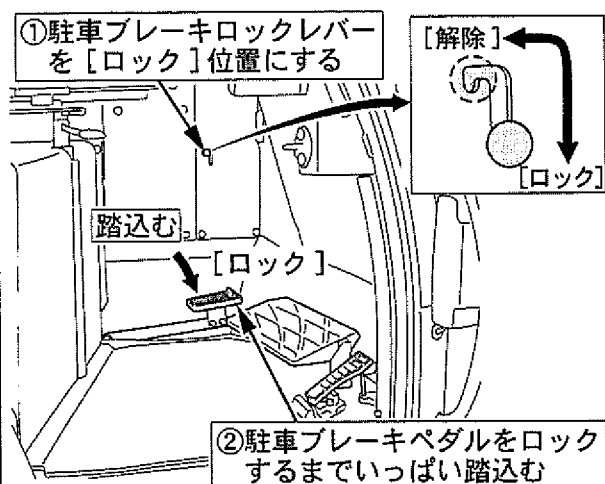
- 2.ハンドルをしっかりと握り、補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。

重 要

- 運転席に乗り降りするとき、補助ステップ（下）用の収納レバーに手を掛けしないでください。レバーが曲がるおそれがあります。

- 3.運転席（シート）の調整、及びフットレスト、アームレストの切換えを行なって楽な姿勢で運転操作が行なえる状態にします。

- 4.駐車ブレーキを掛けます。



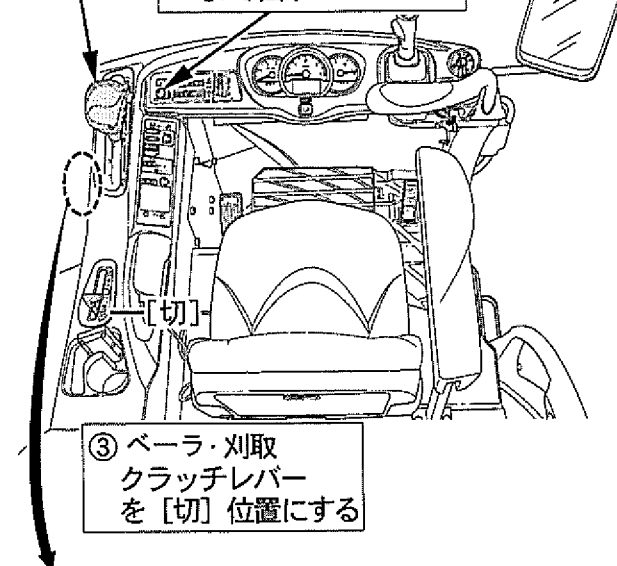
補 足

駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが[停止]位置に戻ります。また、ブレーキペダルが[ロック]位置の場合は、主変速レバーは動きません。

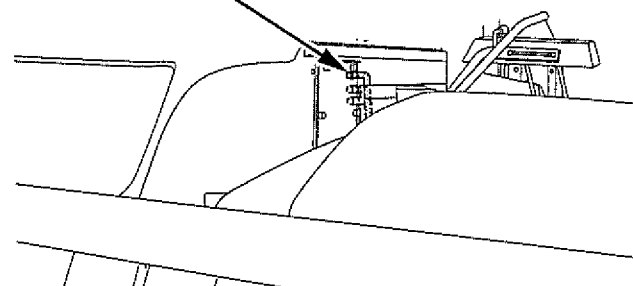
- 5.各レバー位置を確認をします。

①主変速レバーを[停止]位置にする

④アクセルダイヤルを中央ぐらいの位置まで回す



②副変速レバーを[N] (中立)位置以外の位置にする



補 足

各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと、メインスイッチを回してもエンジンは始動せず液晶ディスプレイに次の内容を表示しますので条件に合うように処置を行なってください。

細断型ホールクropp収穫機の運転

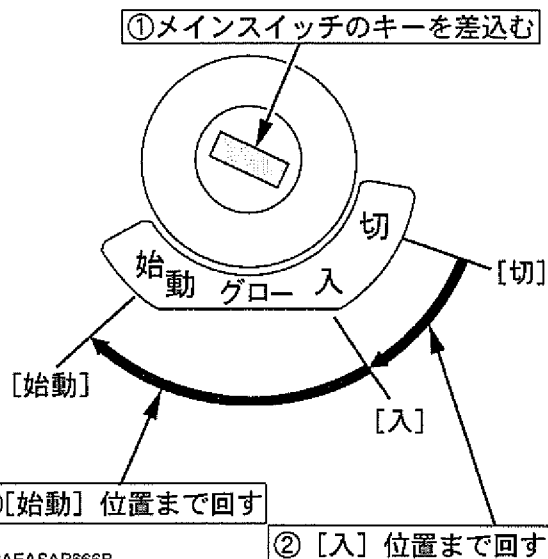
- [ベークラッチをきる]
ベーク・刈取クラッチレバーを[切]位置にする。
- [主変速中立にする]
主変速レバーを[停止](中立)位置にする。
- [駐車ブレーキを踏む]
駐車ブレーキペダルを踏込む
- [エンジンを確認する]
エンジン始動防止用カプラを接続する。
- [刈取クラッチを切にする]
ベーク・刈取クラッチレバーを 2～3 回程度[切]⇄[入]位置に動かし、再度メインスイッチのキーを回してもエンジンが始動しないときは、購入先に連絡してください。

6. エンジンを始動します。

補 足

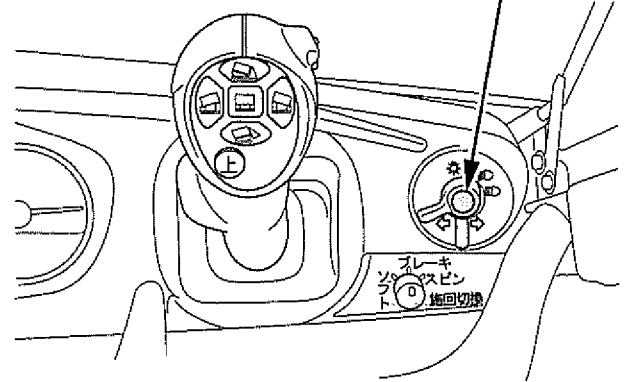
- エンジンを始動するとき、メインスイッチのキーを[入]位置から[始動]位置に回しても下記理由により、エンジンがすぐに始動しない場合があります。

作業レバーを脱こく[入]又は、刈取[入]位置でエンジンを停止した場合、次回エンジンを始動するときは、作業レバーを[切]位置にしたあと、メインスイッチのキーを[入]位置にしてからエンジンの始動条件が整うまでに約 3 秒かかります。



1ARAESAP366B

③ホーンを鳴らす



重 要

- メインスイッチのキーを[始動]位置に回し 10 秒たっても始動しないときは、いったんキーを[切]位置にして、30 秒ほど休止してから、エンジンを再始動してください。[始動]位置で 10 秒以上回すと故障の原因となります。
- エンジン回転中に、メインスイッチのキーを[始動]位置に回すと故障の原因になります。

補 足

- メインスイッチのキーを[入]位置にするとマルチナビの液晶ディスプレイに[アワーメータ・オイル (図柄)・充電 (図柄)]が表示されますが、エンジンを始動してもオイル又は、充電の図柄の表示がきえないときは購入先に連絡し、処置してください。
- 駐車ブレーキが掛かっている状態でメインスイッチキーを[入]位置にすると[駐車ブレーキ (P)]が優先して表示し、駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。
- ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

◆暖気運転について

エンジン始動後、エンジン回転数を約 1500 r p mに合わせて通常(寒冷時以外)約 5～10 分間は負荷をかけずに暖気運転を行ってください。

細断型ホールクロープ収穫機の運転

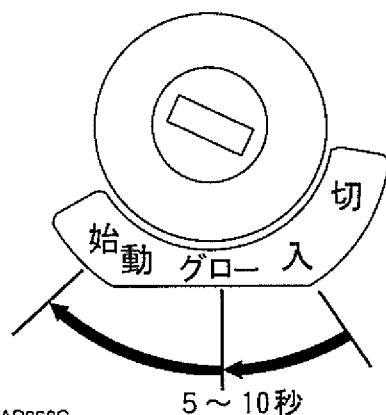
重 要

- オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるため、始動してからすぐ負荷をかけると、エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。
- 寒冷時は暖気運転を怠るとパワーステアリングが操作できなくなったり、ブレーキが効かなくなるなど油圧系統の故障につながりますので、下記の表を目安に暖気運転を行なってください。

気温	暖気運転時間
0℃～-10℃	約10分
-10℃～-15℃	10～15分
-15℃～-20℃	15～20分
-20℃以下	20分以上

◆寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは、始動する前にスイッチキーを[グロー]位置で5～10秒間予熱したあと[始動]位置に回してください。



◆燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は、

- 1.ペーラ・刈取クラッチレバー及びメインスイッチキーを[切]位置にします。
- 2.燃料タンクに燃料を補給します。
- 3.始動のしかたの1～4を確認後、エンジンを始動します。

補 足

- メインスイッチキーを[入]位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

◆バッテリーが上がったときの始動のしかた

⚠ 危険

バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり（+）端子と（-）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリーのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリー上がりによりエンジンが始動できなくなったときは、バッテリーの補充電又は交換を行なってください。

補充電や交換がすぐに行なえないときは、救済車のバッテリーにブースタケーブルを接続してください。

重 要

- 接続するバッテリーは、必ず12Vのものを利用してください。
- バッテリーを直列につないで始動しないでください。故障の原因となります。
- 充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

細断型ホールクropp収穫機の運転

補 足

- ブースタケーブルの取扱いは、ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。
 1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリーの（+）端子にそれぞれ接続したあと、ブースタケーブル（黒）を救援車のバッテリーの（-）端子に接続し、収穫機側はバッテリーから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
 2. 利用するバッテリーが車などの場合は、エンジン回転を上げます。
 3. 収穫機のエンジンを始動します。
 4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取外します。

◆停止のしかた

1. ベーラ・刈取クラッチレバーを[切]位置にします。
2. アクセルダイヤルを[]（低回転）位置にします。
3. メインスイッチのキーを[切]位置にしてエンジンを停止します。

重 要

エンジン停止中でメインスイッチのキーが[入]位置で長時間放置するとバッテリー上がりとなります。

3. 移動走行について

! 注意

- * 安全のためヘルメットを着用してください。
- * 運転者以外の人を乗せないでください。
- * 10cm以上の段差（あぜやコンクリートの畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
- * 水平操作手動スイッチで機体をいっぱい下げた状態にしてください。
- * あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は、副変速切換えスイッチを[L]（作業位置）位置にし、低速で走行してください。
走行途中に停止するときは、主変速レバーを操作して停止してください。
- * あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）の走行途中で急なパワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、ブレーキペダル、水平操作手動スイッチ、前後傾斜スイッチ、旋回モード切換えダイヤル、旋回力アップトリガを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下する危険がありますので操作しないでください。
- * あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは、速度を最低速にし、あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。

細断型ホールクロープ収穫機の運転

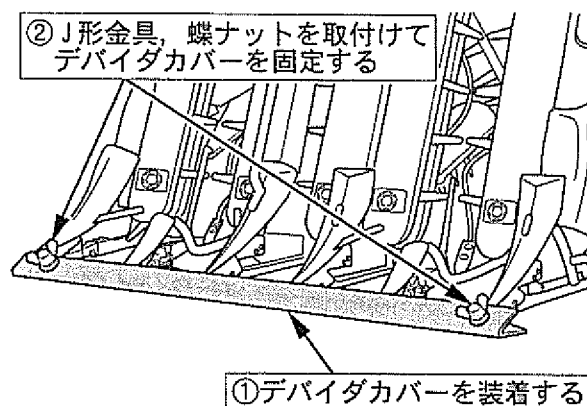
- * 下記のようなところを走行するときは、転倒しけがをするおそれがあるので注意してください。
 - 両側が傾斜していたり、溝のある道路の路肩
 - 道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）
 - 路肩の弱い道路
 - 路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ
- * スイスイデバイダなどを装着している場合は、[道路運送車両法] の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
- * [道路運送車両法] の【保安基準】に抵触するおそれがあるため、公道走行する前には必ず下記項目を確認し、異常があるときは購入先に連絡して処置を行なってください。また、異常があるときは必ずトラック輸送を行なってください。
 - 機械の周囲を回って油もれ、水もれ、燃料もれが発生している場合
 - エンジン音に異常がある場合
 - 旋回異常がある場合
 - ブレーキ、各変速、各クラッチに異常がある場合
 - 各警報（ブザー）、灯火装置（スイッチ、ランプ）に異常がある場合

◆移動走行前の準備

⚠ 注意

- 平坦で安全な場所で、エンジンを必ず止めてから行なってください。
- 準備が終われば、カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

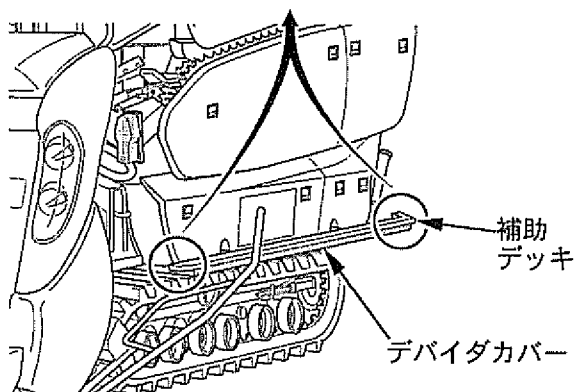
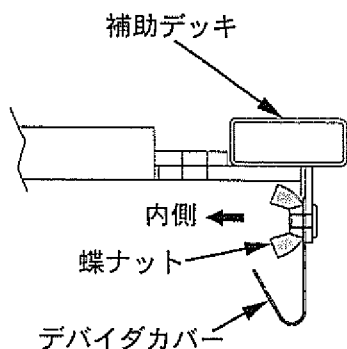
1. デバイダカバーを取付けます。



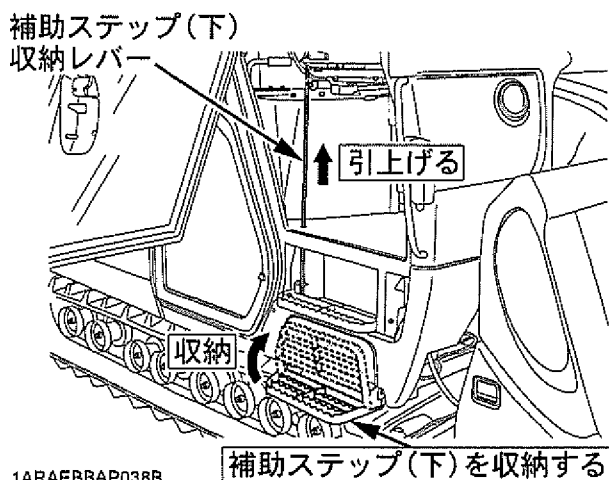
細断型ホールクropp収穫機の運転

補 足

* 補助デッキ内側に収納しているデバイダカバーを蝶ナットを外して取外し、デバイダに取付けてください。

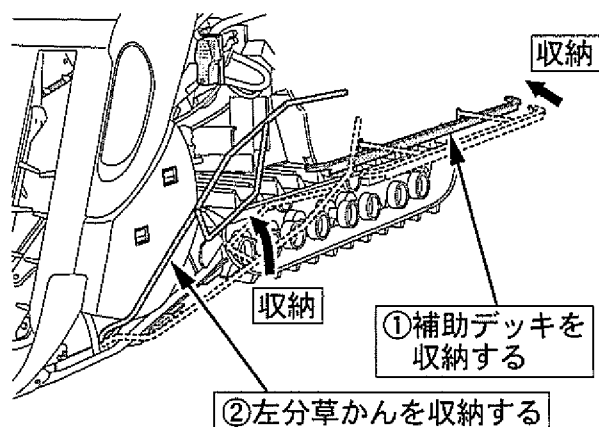


2. 補助ステップ（下）収納レバーを引上げて、補助ステップ（下）を収納します。

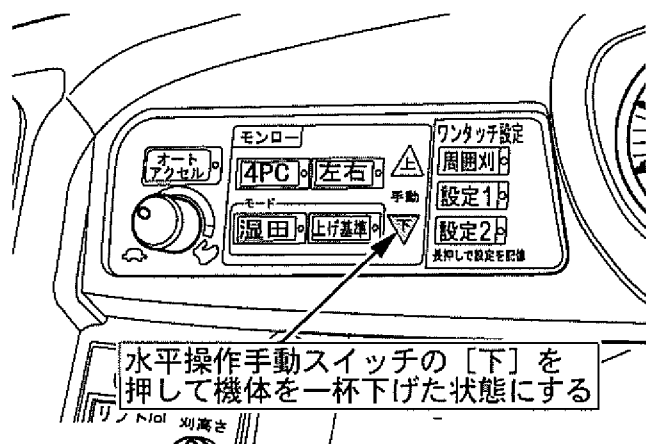


1ARAEBBAP038B

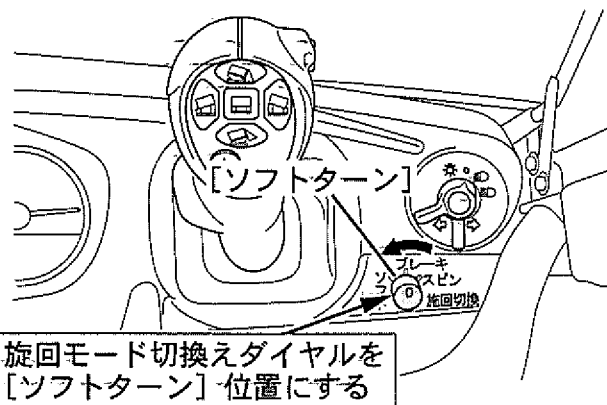
3. 補助デッキ、分草かんを収納します。



4. 水平操作手動スイッチで機体をいっぱいまで下げます。



5. 旋回モード切換えダイヤルを[ソフトターン]の位置にします。

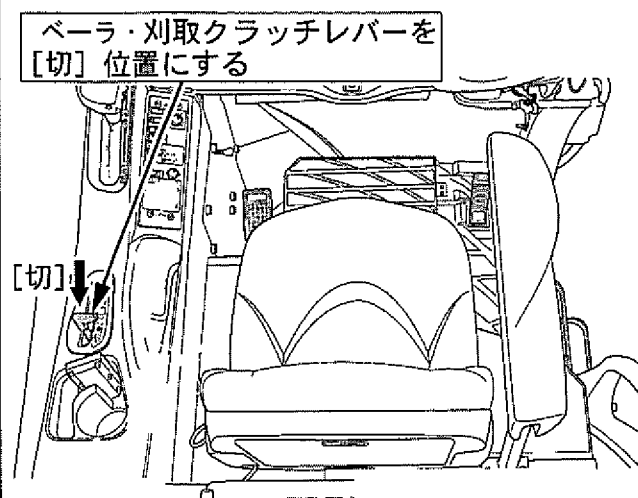


細断型ホールクropp収穫機の運転

補 足

- 副変速切換えスイッチが[H]（走行位置）のときは、[ソフトターン]に固定されます。また、旋回力アップトリガを引いても[ブレーキターン]には切換わりません。

6. ベーラ・刈取クラッチレバーを[切]位置にします。

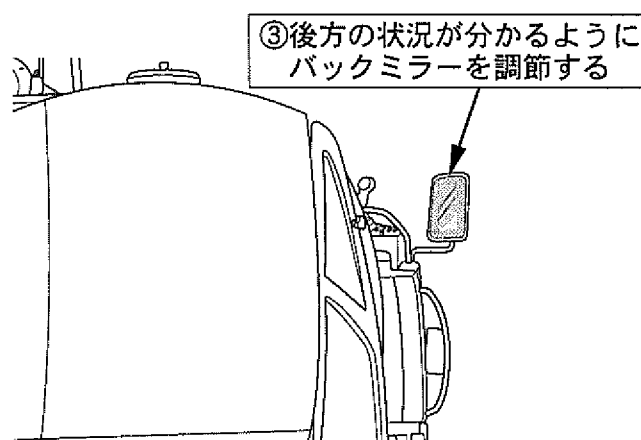
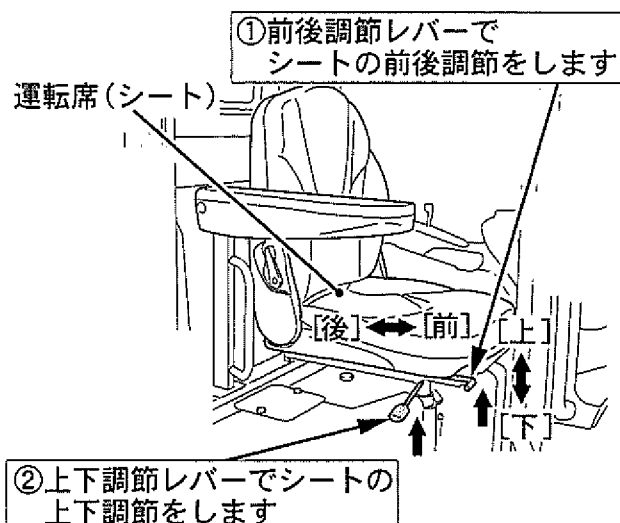


◆発進のしかた

！ 注意

- 発進をするときは、周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行ってから発進してください。
- 急発進は危険ですのでゆっくりと発進してください。
- 機体の前進を停止するとき、主変速レバーを[停止]側にするときは、後進時切換えノブを押さないでください。[後進]側に入り機体が後進するおそれがあります

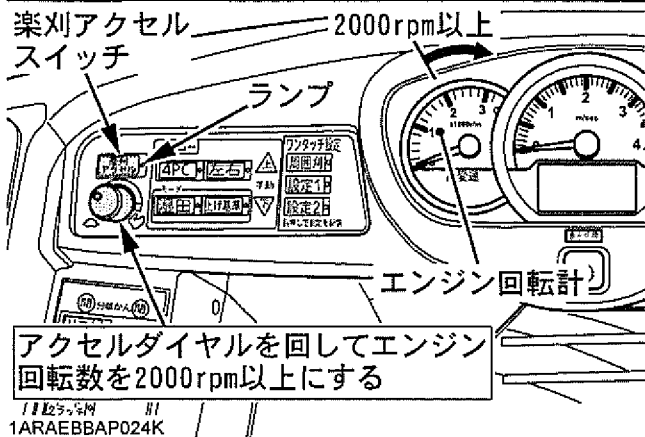
1. 運転席、バックミラーの調整を行います。



2. 乗刈アクセルスイッチを操作します。

エンジンを始動したあと、乗刈アクセルスイッチを押して自動制御アクセル制御を働かせる（ランプ点灯）又は、解除（ランプ消灯）します。自動アクセル制御を解除したときは、アクセルダイヤルを操作してエンジン回転数を 2000rpm 以上にします。

細断型ホールクロップ収穫機の運転

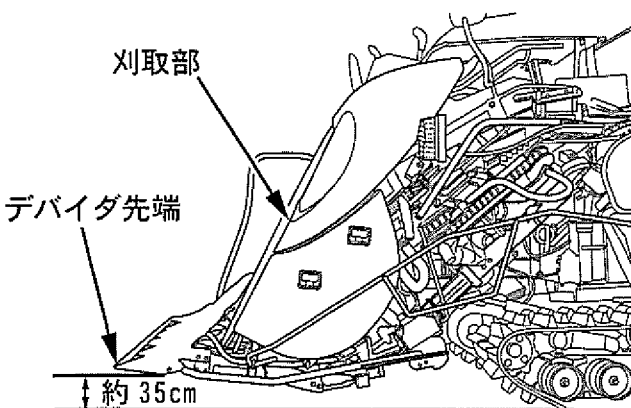
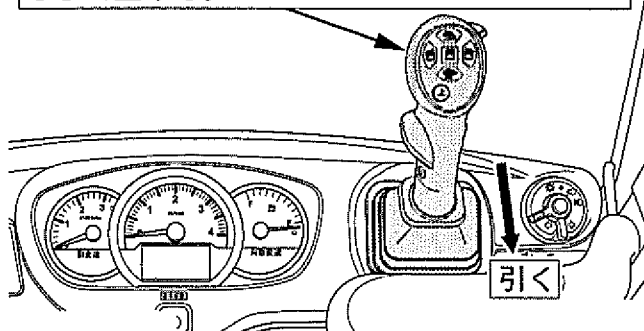


補 足

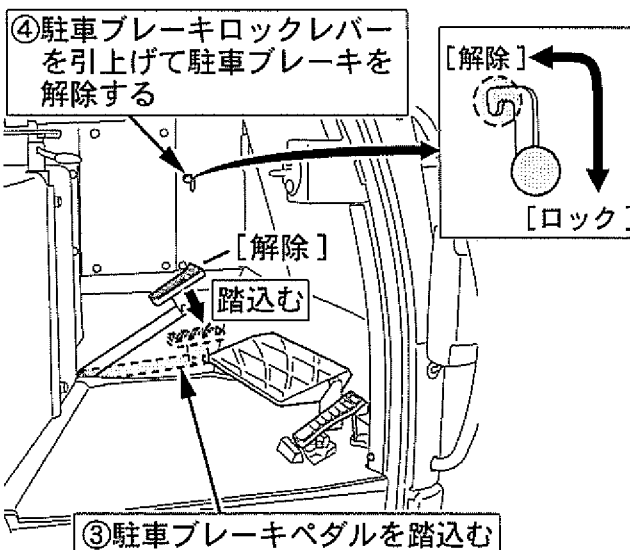
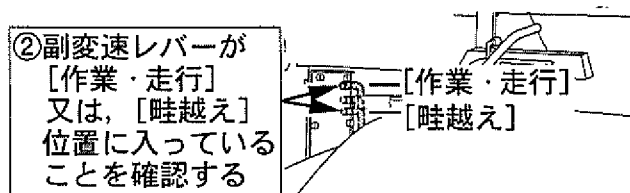
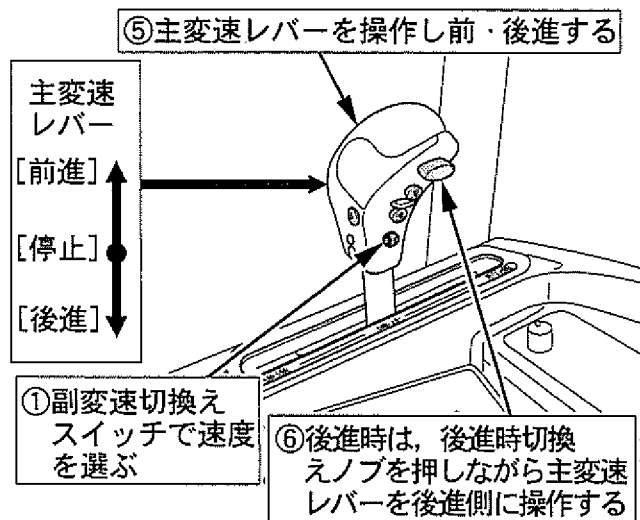
自動アクセル制御が働いているときは、主変速レバーを[前進]側又は、[後進]側に操作して車速が約 0.4m/s 以上になると刈取作業時のエンジン回転数まで自動上昇します。

3. 刈取り部を上げます。

パワーステアリングレバーを引き、刈取部のデバイダ先端部を地面から約 35cm 程度のところまで上げる。



4. 走行速度を選んで発進します。
主変速レバーを[停止]位置より前に押すと前進し、後に引くと後進します。後進するときは、主変速レバーの後進時切換えノブを押しながら[後進]側に引きます。



細断型ホールクropp収穫機の運転

重 要

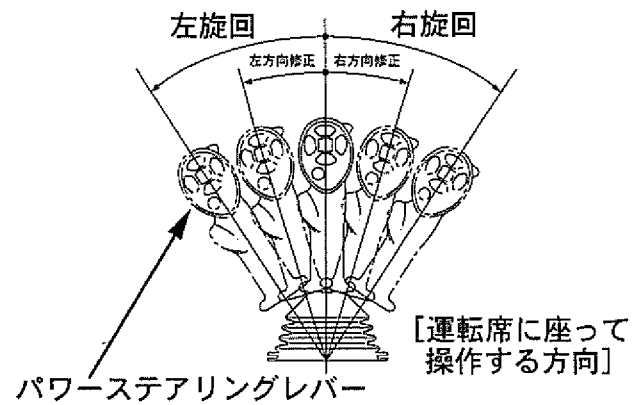
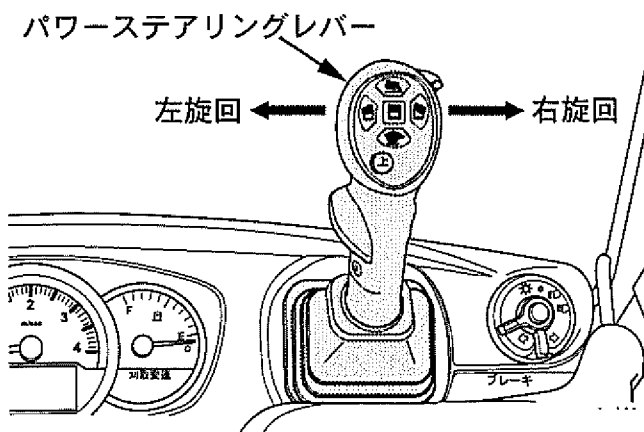
- 駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。
- 副変速レバーを[停止]位置にし、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

◆旋回のしかた

! 注意

高速走行時、パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また、いっぱいまで倒すと急旋回します。



重 要

砂利道での急旋回は、クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

◆停車・駐車のしかた

! 注意

- 収穫機を離れるときは、平たんで安全な場所に置き、刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めてください。
- やむをえず坂道で駐車するときは、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを[停止]位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重要

- 駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。

細断型ホールクロープ収穫機の運転

3. アクセルダイヤルを[] (低回転) 位置にします。
4. 副変速レバーを[N] (中立) 以外の位置にします。
5. 刈取部を降ろして地面に設置します。
6. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。

◆道路走行について

⚠ 警告

道路を走行するときは、大型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し、小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

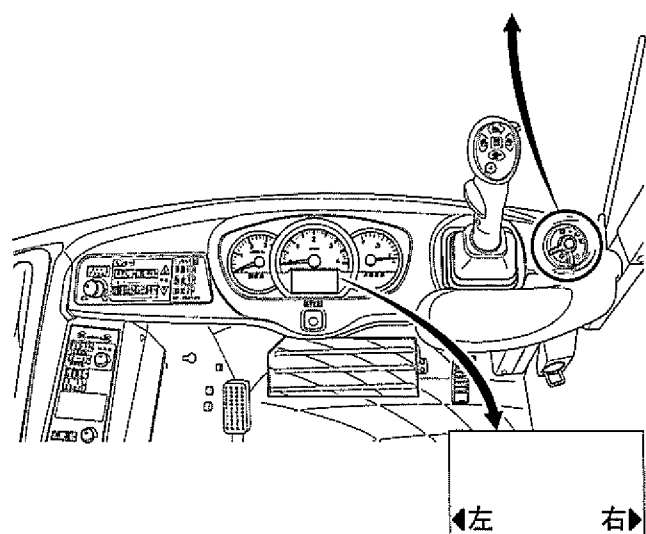
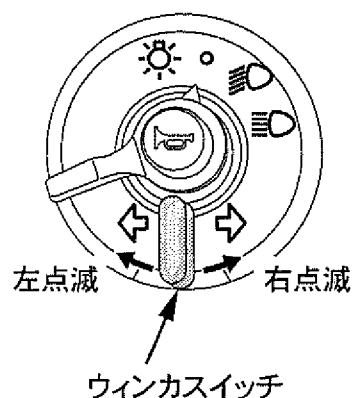
⚠ 注意

- スイスイデバイダなどを装着した状態で移動するときは、トラック輸送してください。
- 夜間など暗いときに移動するときは、ヘッドランプを必ず点灯し、作業灯は必ず消灯してください。
- 作業灯は[道路運送車両の保安基準]第42条(灯火の色などの制限)において[走行中に使用しない灯火]とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されています。

道路走行中、進路方向を変えるときは、ウインカ(方向指示器)で進路方向を他の自動車に知らせてください。

● ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると、ウインカランプが点滅し、マルチナビの液晶ディスプレイに方向を示す矢印が点滅表示します。



補 足

旋回が終わるとウインカスイッチを中央に戻してください。

細断型ホールクropp収穫機の運転

4. 輸送について

◆トラックと歩み板の準備

⚠ 注意

- 積み込み・積降しは平たん地を選びトラックの駐車ブレーキを掛け、トラックの変速レバーをR（後進）又は、1速に入れたあと、さらにタイヤに歯止めを行い、トラックが動かないようにしっかりと固定してください。
- あゆみ板は、フックが付いているもので、十分な強度、幅（クローラの1.2倍以上）、長さ（高さの4倍以上）のある基準に合った滑り止め付きのものを使用し、機体の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- 歩み板を荷台に掛けるときは、段差がなく平行で、左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

歩み板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	60 cm以上
数量	2枚
強度	1枚が2800 kg以上の重量に耐えうる

◆トラックへ積み込み時の収穫機の準備

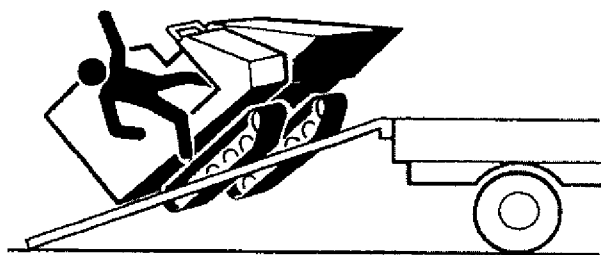
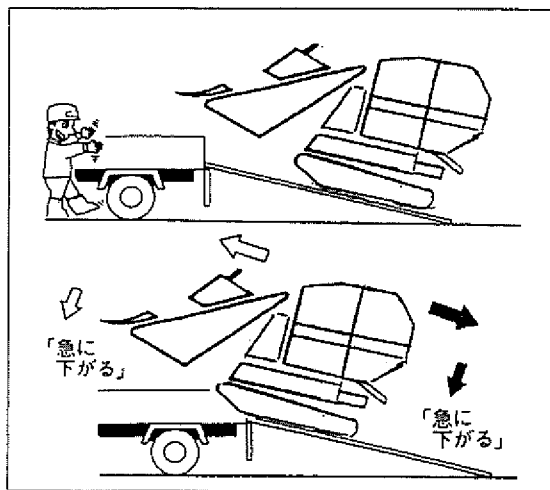
ベアラ・刈取クラッチを[切]位置にし、自動車体水平制御（モンロー）を機体いっぱいまで下げ、補助デッキや分草かんをそれぞれ収納したあと、デバイダカバーを取付けます。

◆トラックへ積み込み・積降しのしかた

⚠ 注意

- 積み込みは前進で、積降しは後進で行ってください。
- 平たん地を選びできるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また、助手以外の人を収穫機の周辺に近づけないでください。特に収穫機の前に人を近づけないでください。
- 歩み板の途中でパワーステアリングレバーの操作や副変速レバー、ブレーキペダル、水平操作手動スイッチ、前後傾斜スイッチ、旋回モード切換えダイヤル、旋回力アップトリガを操作すると、機械が急降下し落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し、再度やり直してください。
- 機体が凸部を越えるときは、急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。

細断型ホールクロップ収穫機の運転



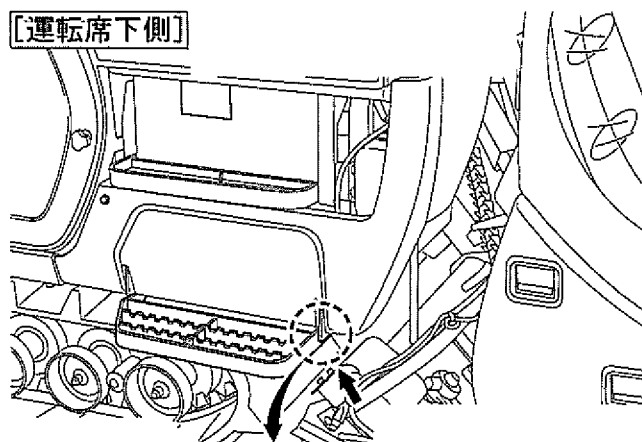
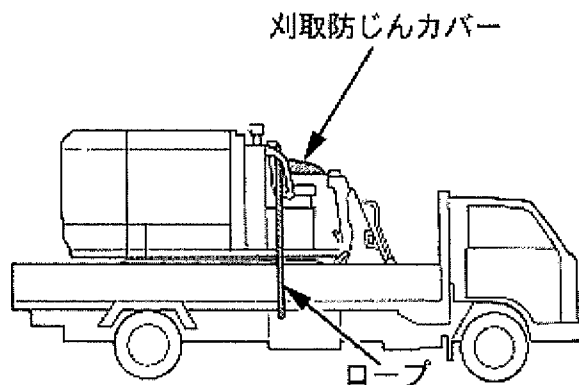
◆操作のしかた

1. 各作業クラッチレバーを[切]位置にします。
2. 水平操作手動スイッチで機体を最下降位置までさげます。
3. パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。
4. オートアクセルスイッチを[切]にし、自動アクセル制御を解除します。
5. アクセルダイヤルを操作し、副変速切換えスイッチを[L]（作業位置）位置にしたあと、主変速レバーをゆっくり操作して、低速で走行します。
6. 歩み板の前で一旦停止し、歩み板の中央に左右のクローラを合わせ、機体から降りて歩み板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。
7. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

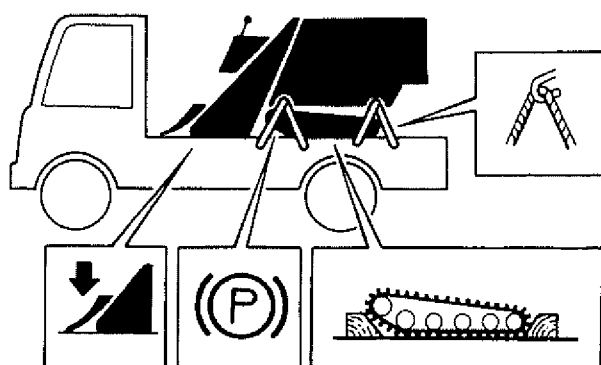
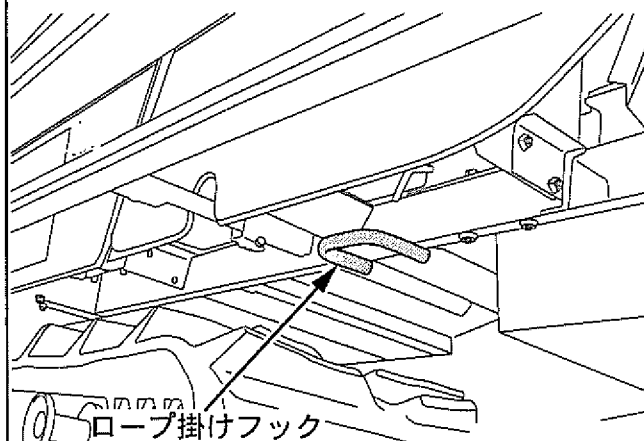
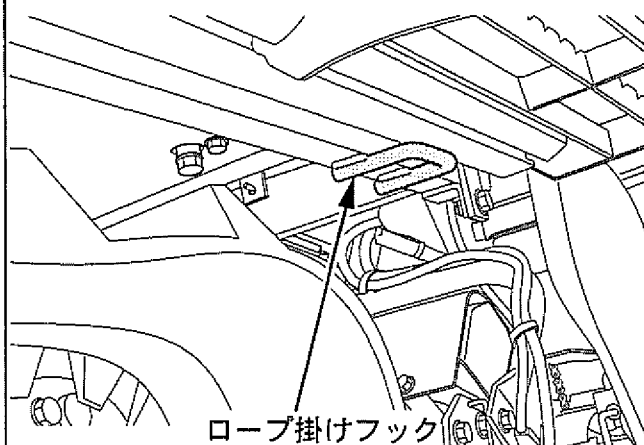
◆トラック上での処置

⚠ 注意

- 刈取部を床まで降し、駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかりとトラックに固定してください。
- トラックで輸送する場合は、風圧で刈取防じんカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、刈取部を下げて、刈取防じんカバーを閉じ、ロープなどで浮き上がりを防いでください。



細断型ホールクropp収穫機の運転



補 足

後右側のロープ掛けフックは、けん引フックとしても使用してください。

重要

- ロープ掛けフック以外の所には、ロープを掛けないでください。
- 右後方のロープ掛けフック以外のロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。

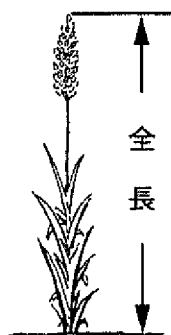
上手な収穫のしかた

1. 作業ができる作物とほ場の条件

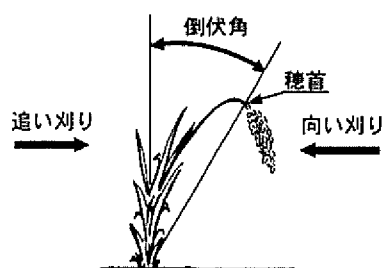
作物とほ場の条件によっては、正常な作業ができないことがあります。まず作物とほ場の条件を確認してください。

■作物の条件

- ・刈り取り長さ…
刈り取れる長さは、標準の刈高さで…全長 60～150 cm



- ・作物の倒れ（倒伏角）…
追い刈り…85度以下。
向い刈り…70度以下。



注 意

倒伏状態により作物の搬送姿勢が悪くなると切断長が長くなるおそれがあります。

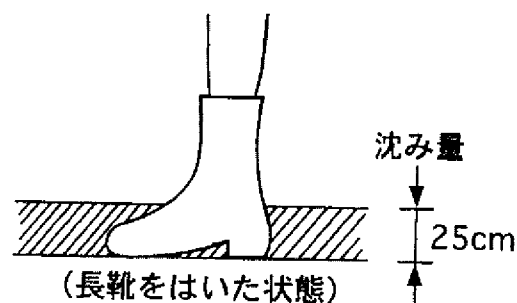
- ・作物のぬれ…乾いていること。
(手でしごいてぬれない状態)

■ほ場の条件

- ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

(1) ほ場のぬかる度合

足の沈み量を測って目安にしてください。沈み量 25 cm が限界です。



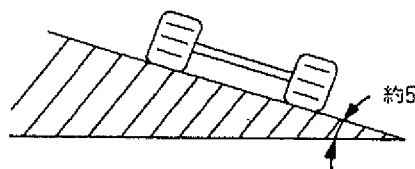
注 意

このような条件でも刈取作業はできますが、ロールを放出する時、ロールに泥が付き雑菌が混入し、サイレージの品質が悪くなります。条件の良い場所に放出するようにしてください。

補 足

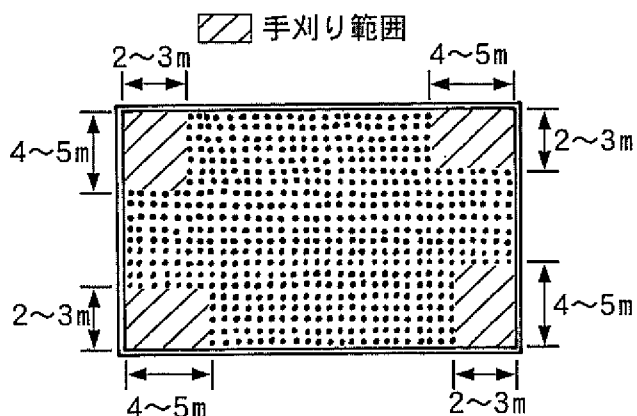
作業能率を良くする為には、圃場の水抜きを早めにし（刈取の約2週間前）圃場を乾いた状態にする事が大切です。

- (2) 機体の傾斜角度5度以上では、作業できません。



機体をほ場に入れる前に、あぜぎわの四隅で旋回が楽に行えるように、旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。

上手な収穫のしかた



2. 作業前の準備



警告

- 平たんな場所に置き、エンジンは必ず止めてください。
- 取外したかバー類は必ず取付けてください。

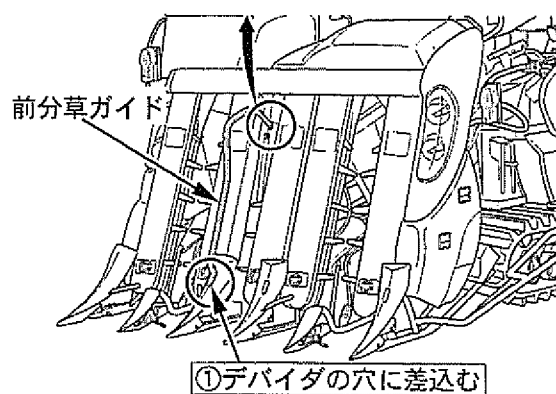
■収穫機の準備のしかた

1. 各部への注油

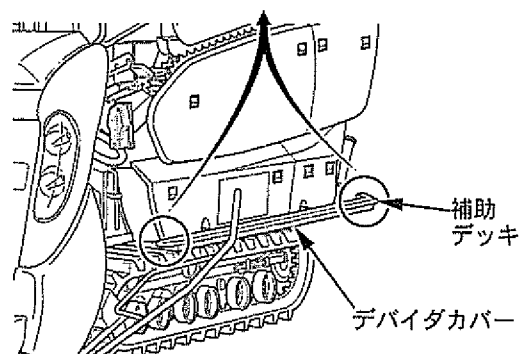
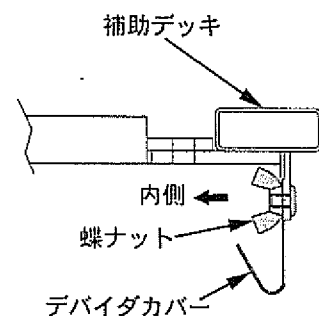
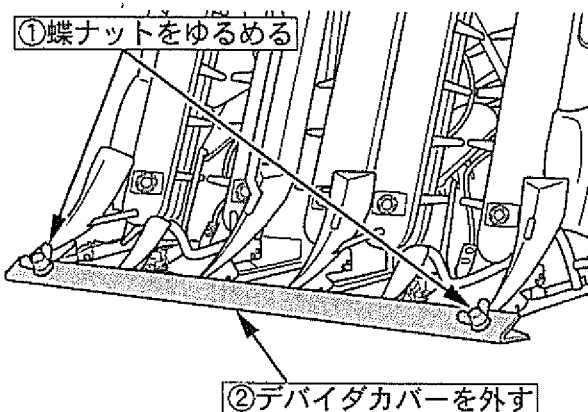
作業間前に刈刃や各チェーンに注油を行ってください。

2. 前分草ガイドの取付け

長かん作物で倒伏した作物を刈取るときは、付属部品の前分草かんガイドを取付けてください。



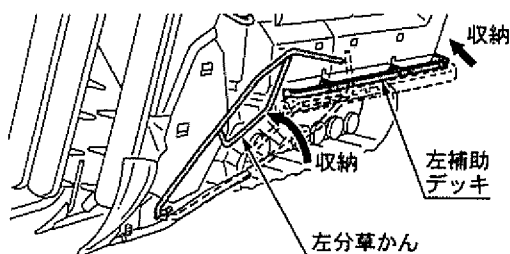
3. デバイダカバーの取外し



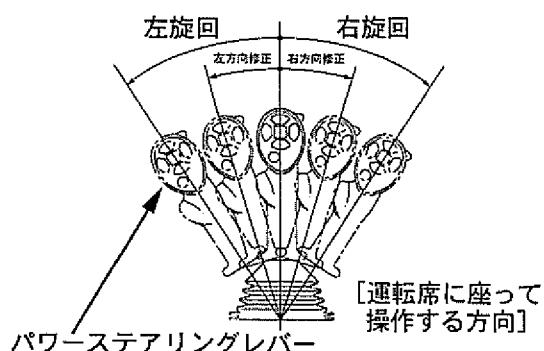
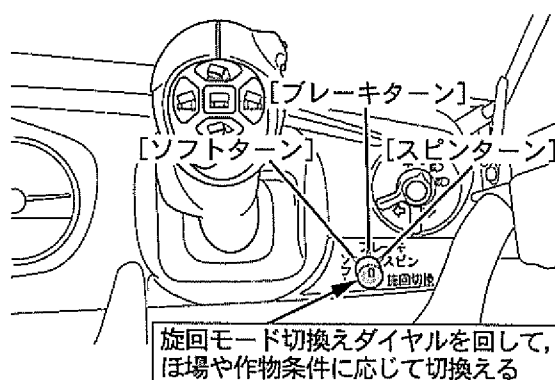
上手な収穫のしかた

4. 左分草かんのセット

左補助デッキを収納し、左分草かんを開きます。



5. 旋回モード切換えダイヤルの選択



補 足

- * 【スピントーン】位置で作業を行なったとき、機体の振動が大きいときは、【ブレーキターン】又は、【ソフトターン】位置に切換えてください。
- * 副変速スイッチを【H】（走行位置）に切換えると、旋回モード切換えダイヤルで選択している位置に関係なく旋回力がソフトターンに固定されます。

3. 刈取作業のしかた

■ほ場の出入りのしかた

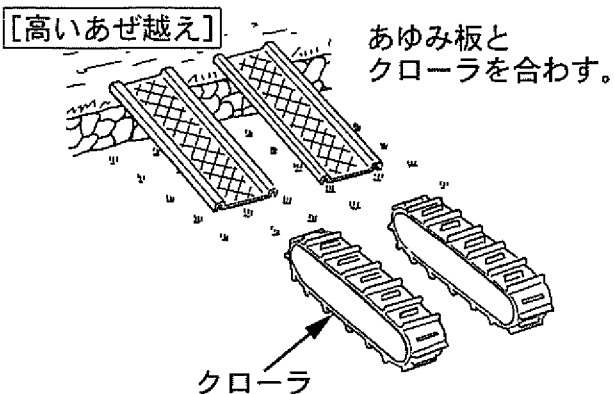
⚠ 注意

- 10 cm以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
- あゆみ板は十分な強度、幅（70 cm以上）、長さ（高さの4倍以上）のある基準にあった滑り止め付きのものを使用し、収穫機の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また、あゆみ板はあぜに直角に置いてください。
- あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは、速度を最低速にしてください。
- あゆみ板を使うときは、速度を最低速にし、あぜに対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
- あぜ超えやあゆみ板を走行するときは、自動車体水平制御（モンロー）は機体をいっぱい下げた状態にしてください。
- 後進する場合は後方の安全確認、また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
- 機体が凸部を超えるときは、重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

1. オートアクセルスイッチを【切】にし、自動アクセル制御を解除します。

上手な収穫のしかた

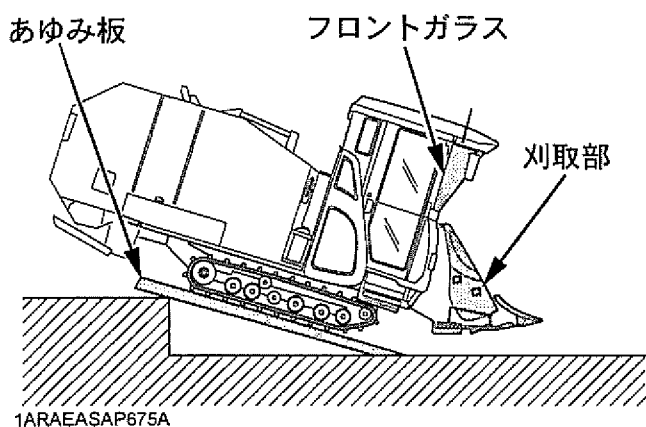
2. 副変速切換えスイッチを[L]（作業位置）にし、アクセルダイヤルを操作してエンジン回転を 2000rpm 以上にし、主変速レバーをゆっくり操作して、低速であぜ越えしてください。
3. 10cm 以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。



[DX 仕様]

重 要

あゆみ板を使用しないと刈取部が突上げられて、キャビンのフロントガラスが割れるおそれがあります。



[DX 仕様]

■刈取作業の手順



警告

- 収穫機を停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると火災のおそれがあります。



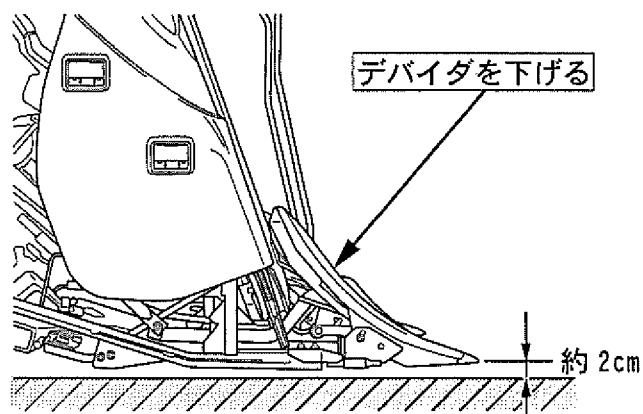
注意

- 異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。
- 小さなほ場のすみでは作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業をおこなってください。
- 傾斜地で刈取作業中にかき込みペダルを踏込むと、機体がすべるおそれがあるため、傾斜地では刈取かき込みペダルは踏まないでください。
- 夜間など暗い場所で作業するときはヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。

重 要

作業中エンジン周りの防塵カバーにゴミの付着が多くなれば、そのつど掃除してください。防塵あみ全面にゴミが付着したまま作業を続けると、エンジンオーバーヒートの原因になりますので注意してください。

1. パワーステアリングレバーを操作し、通常はデバイダの先端を地面すれすれ（約 2cm 程度）のところまで刈取部を下げます。



上手な収穫のしかた

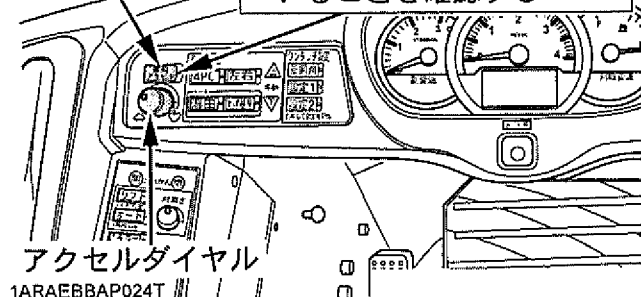
補 足

長かん作物、麦、雑草の多い作物は、高刈りしてください。

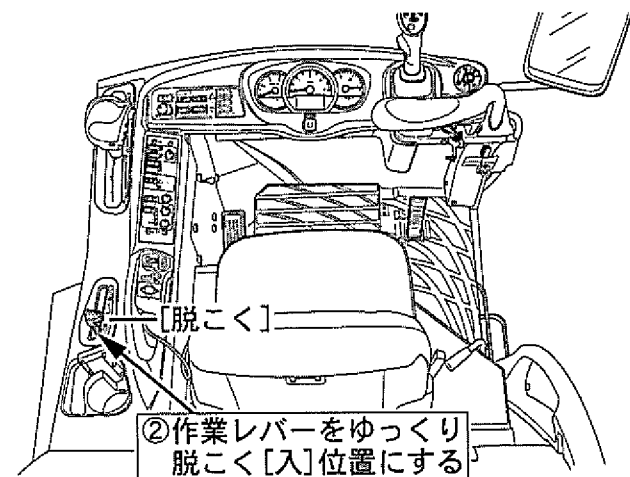
2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。

楽刈アクセルスイッチ

①楽刈アクセルスイッチのランプが点灯して自動アクセル制御がはたらいっていることを確認する



アクセルダイヤル
110km/h 120km/h



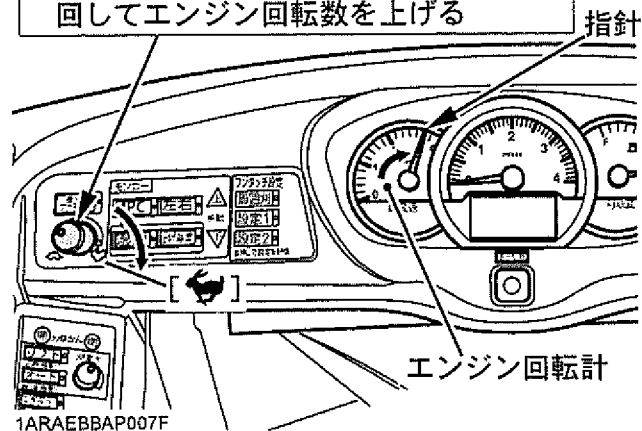
110km/h 120km/h

②作業レバーをゆっくり脱こく[入]位置にする

重 要

エンジン回転数が 2000rpm 以上のとき、ベアラ・刈取クラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

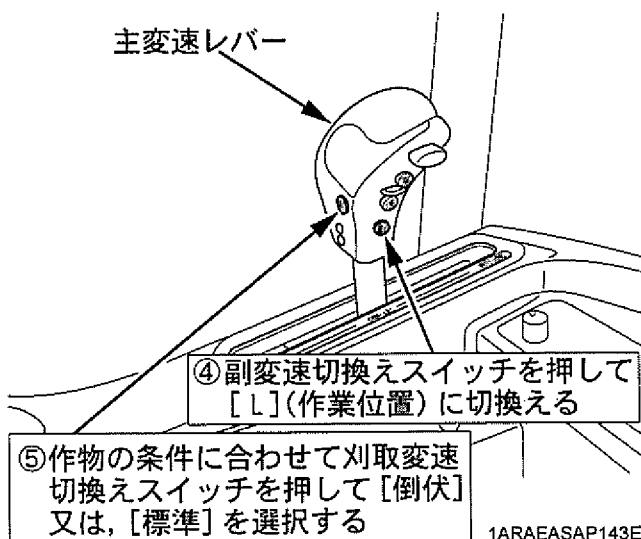
③楽刈アクセルスイッチが[切]の場合は、アクセルダイヤルを右側いっぱいまで回してエンジン回転数を上げる



補 足

- アクセルダイヤルを右側いっぱいまで回したときのエンジン回転数は約 2700rpm です。
- エンジン回転数が低すぎると、警報ブザーが鳴ります。

主変速レバー



④副変速切換えスイッチを押して[L](作業位置)に切換える

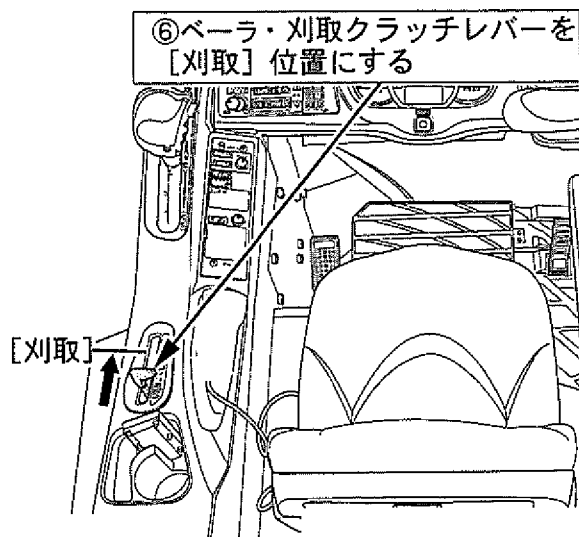
⑤作物の条件に合わせて刈取変速切換えスイッチを押して[倒伏]又は、[標準]を選択する

110km/h 120km/h

補 足

刈取変速スイッチを押したとき、燃料計下側にある刈取変速の表示部に[H]を表示すると[倒伏]位置、[H]の表示が消えると[標準]位置です。

上手な収穫のしかた



3. 作物の長さを確認したあと、刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは、主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと、自動こぎ深さ切換えスイッチを「入」（ランプ点灯）にします。
4. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバー合わせて刈始めます。
5. 作物がカッターに均等に入る様にこぎ深さを調節します。
6. ロールの形状を確認し均一なロールになる様、こぎ深さを調節してください。

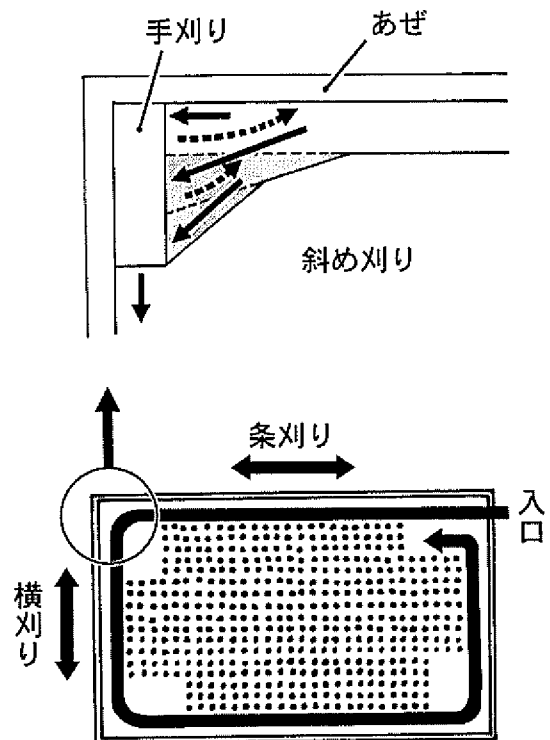
補 足

- ロールの穂先側がやわらかいときはこぎ深さを深く、株元側がやわらかいときは浅くしてください。

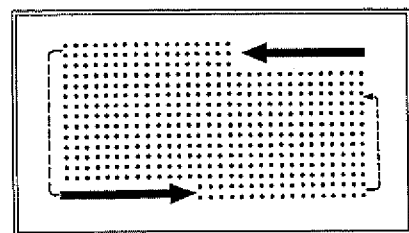
■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは、作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが、基本作業は、条刈りで左回りの2方向刈りを行なってください。

1. あぜは旋回できるまで2～4回斜め刈りします。



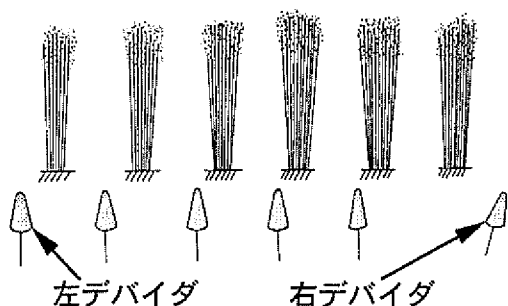
2. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら2方向刈りを行なってください。



◇デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた
作物の植幅に合わせて、右デバイダも調節してください。

- 通常の回り刈りのとき
既刈側跡に右デバイダを合わせる。
- 中割り作業のとき
 1. 右デバイダ基準で刈取ってください。
 2. 植付け条間が広い場合は右デバイダを広げてください。

上手な収穫のしかた



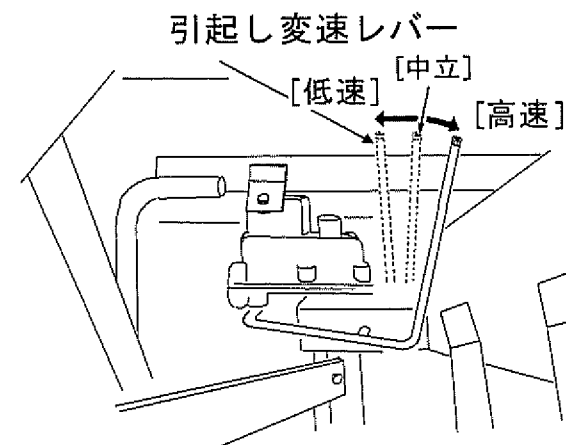
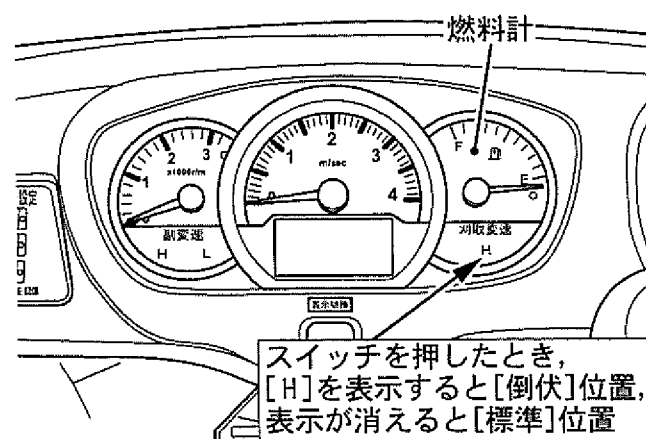
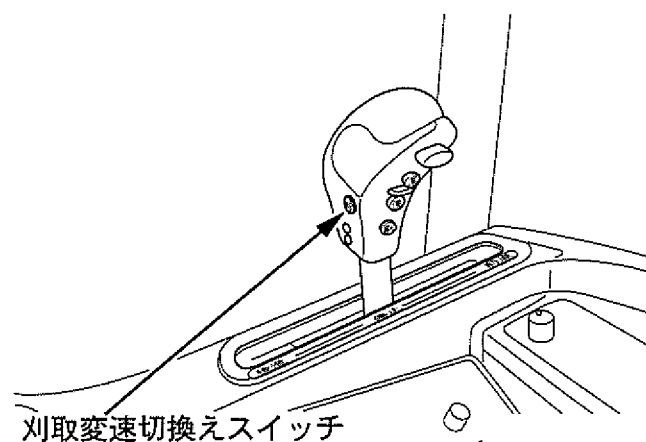
■作物に合わせた変速の選び方

作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

- ◆ 刈取変速・引きし変速の選びかた
刈取部の引きし及び搬送の速度を作物の状態に合わせて、下表を参考にして、刈取変速切換えスイッチ（[倒伏]・[標準]）の変速を行なってください。

作物状態		スイッチ、レバー位置	
倒伏度合	その他の条件	刈取切替スイッチ位置	引きし変速レバー位置
直立	一般作物	[標準]	[低速]
	周囲刈りなど 低速走行作業	[標準]（又は、 [倒伏]	
	脱粒しやすい 作物（麦穂切 れも含む）	[標準]（又は、 [倒伏]	[低速]
倒伏	45° 以下の 倒伏作物	[標準]（又は、 [倒伏]	[低速]（又は、[高 速]
	45° 以下の 倒伏作物 長 かん作物		[高速]

● 刈取変速切換えスイッチ



補 足

- 刈取変速スイッチを押したとき、燃料計下側にある刈取変速の表示部に[H]を表示すると[倒伏]位置、[H]の表示が消えると[標準]位置です。
- 変速の選びかたの表は目安です。
- 出荷時の引きし変速レバーは[低速]位置です。

上手な収穫のしかた

- 刈取部の引起し及び搬送の速度は、車速が増減すると増減します。
- 下記のような条件では、表のような作業速度では作業ができない場合があります。

- (1) 雑草が極めて多いほ場
- (2) 5度以上傾斜しているほ場
- (3) 病虫害、風水害により倒伏している作物
- (4) 根ぐされし、切れやすい作物
- (5) こくかんがくさり、ぬれているもの
- (6) 過熟して、茎が折れやすくなっている麦
- (7) 10cm以上の高うねのほ場
- (8) 極短かんで極少量作物

■ 作業に合わせた各部の調整・調節のしかた

⚠ 警告

- 調整時は必ずエンジンを止めてください。
- 衣服などが回転部に巻込まれ危険です。取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

⚠ 注意

- 平たんで安定した場所で行ってください。
- コンバインを停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると、火災のおそれがあります。

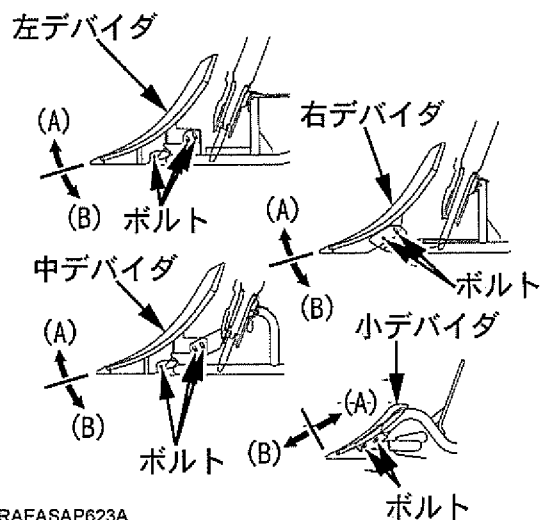
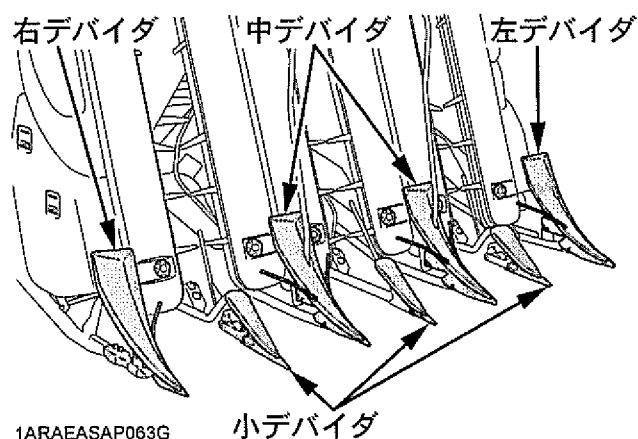
◆ 刈取部

■ デバイダの上・下調整

下表の作物条件を目安にして、調整を行ってください。調整のしかたは、ボルトをゆるめて下表を参照し調整を行ったあと、ボルトを締付けます。

作物・ほ場条件	調整方向
標準	出荷位置
湿田で前上りになるとき	(A) 方向
うね作業のとき	(B) 方向
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	

※上表は目安です。



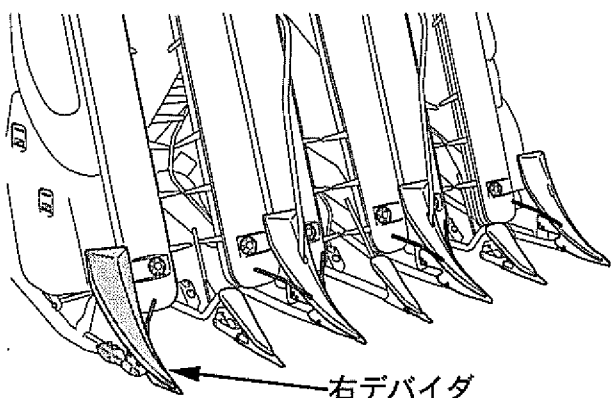
上手な収穫のしかた

補 足

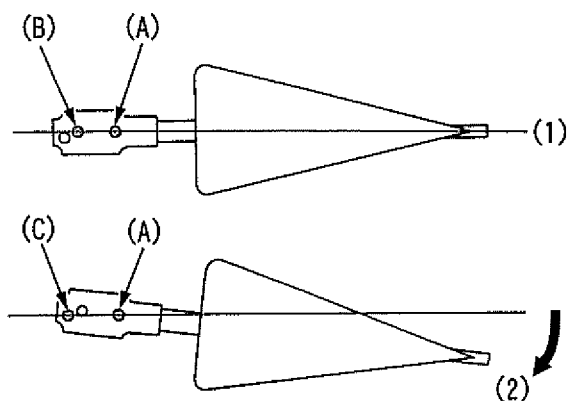
- デバイダの上下高さは、全てのデバイダを同じ高さにしてください。

■右デバイダの調整

作業条件に応じて、調整を行なってください。右デバイダは、外側に約 5.5cm 広げることができます。調節のしかたは、ボルト (A) と (B) 又は、(C) 2箇所をゆるめたあとボルト (B) 又は、(C) の取付け位置を変更して下表を参照し調節を行なったあと、ボルト 2 箇所を締付けてください。



1ARAEASAP063H



1ARAEAPAP163A

補 足

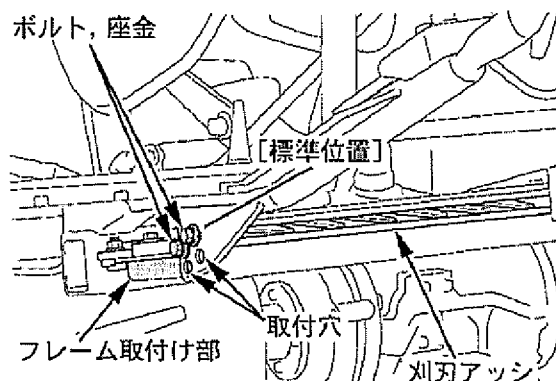
- デバイダカバーを取付けるときは、(1) (標準) の位置にしてください。

■刈刃の高さ調節

作物の刈株跡の高さを低くするときは、刈刃の高さ調節を行なってください。調節を行なうときは 2 人作業で行なってください。

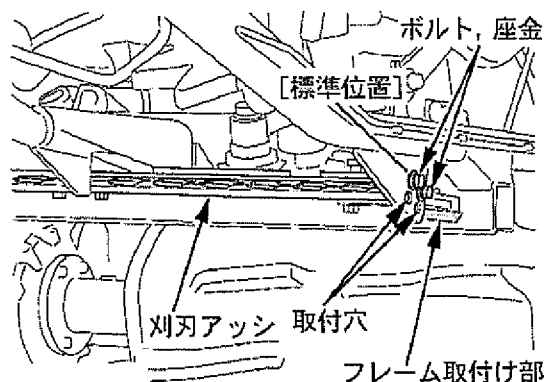
1. エンジンを始動したあと、自動水平制御装置の手動スイッチの【上】を押して機体を最上昇位置にします。
2. 刈取部を最上昇位置にしたあと、刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にして刈取部の下降防止を行なったあと、エンジンを停止します。
3. 刈刃アッシをフレームに固定している 6 箇所のボルト、座金をそれぞれ取外して刈刃アッシを下側に倒します。
4. 刈刃アッシのフレーム取付け部をフレームの【標準位置】下側の取付穴に 6 箇所のボルト、座金をそれぞれ取付けて刈刃アッシを固定します。

[右側]



[右側]

[左側]



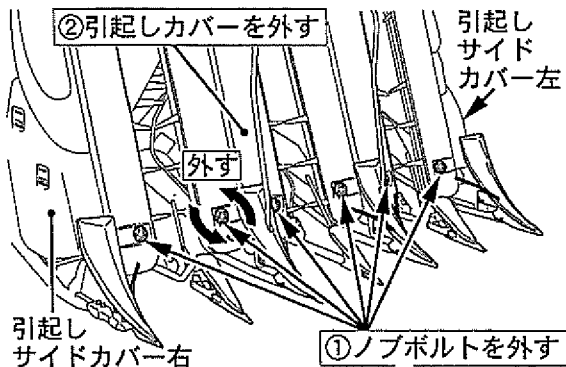
[左側]

上手な収穫のしかた

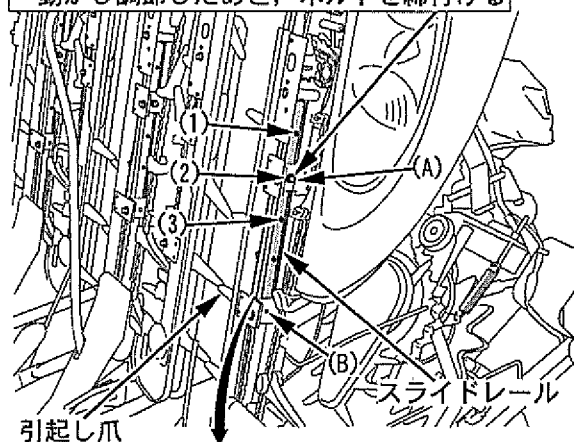
■引起し爪高さの調節

作物条件に応じて、引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

1. 引起しサイドカバー左、右を取外したあと、引起しカバーのノブボルトを外したあと、引起しカバーを全て外します。



- ③ボルトを外してスライドレールを上下に動かし調節したあと、ボルトを締付ける



		スライドレール 調節位置	ボルト 取付位置
作物 条件	標準の作物	(1)	(A)
	脱粒しやすい品種 わらちぎれの多い作物 (過熟小麦など)	(3)	(B)
	長かんで倒伏している作物	(2)	(A)

2. 引起しカバーを全て装着したあと、ノブボルトを締付けます。
3. 引起しサイドカバー左、右を取付けます。

重 要

下記条件のときは、作業のしかたにより刈刃に泥・土がかかり破損の原因となりますので標準位置（出荷時）で作業を行なってください。

- ほ場が湿田のとき
- 作物が麦などのうねのあるほ場のときや雑草が多いとき

■緊急停止スイッチ

手刈投入時万一異物などのかみ込みが発生したときは、緊急停止スイッチを押してください。



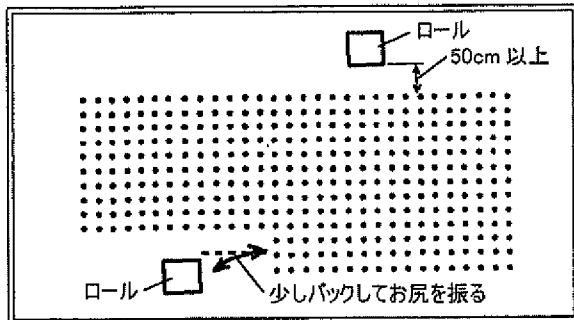
補 足

- 異物を取り除いた後でスイッチを押回しもとの位置に戻してください。
- そのまま作業を再開し、エンジンを回しロールベアを回転させると、エンジンが停止します。

上手な収穫のしかた

■ロールの放出方法

ネットを巻き付けしている間に少しバックして収穫機のお尻を振り、次行程の刈取のじゃまにならない位置にロールを放出してください。



圃場に水が溜まっているところがある場合は、さけて乾いたところに放出するようにしてください。(ロールに泥や水が付くと雑菌が入りサイレージの品質が悪くなる原因になります。)

少し離れた位置に放出する為ネットが巻き終わってから移動する時は、ロールベアラの回転を止めてください。

ロールを余分に回転させると、ネットが緩んだり、ロスの原因になります。

1日の最後で1ロールにならない場合

- ・ 8割ぐらいまでのロールの場合は手でネットを繰り出せばネットは巻き付けできます。(作物を一晩そのまま機械の中に入れたままにしないでください。悪い発酵が進みます。)
- ・ 1～2割程度刈り残しが出来そうな場合は作業速度を落として作業してください、通常より密度の高いロールが出来、全部刈り取りできることがあります。
- ・ 最後の3～4ロールで調整してください。

上手な収穫のしかた

■マルチナビによる異常と処置



警告

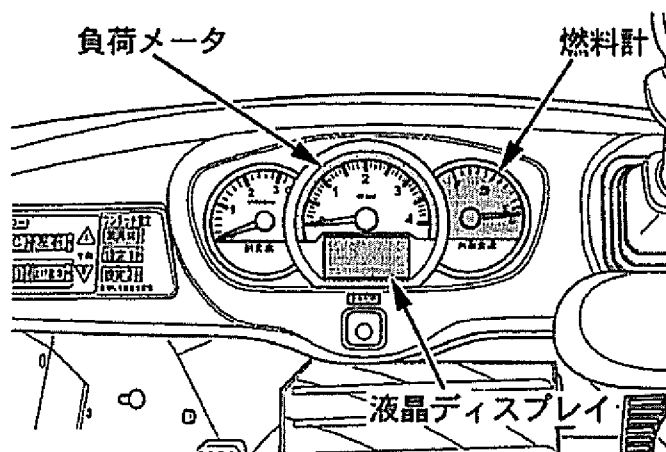
- * 各部の点検やわら詰まりを取除くときは、エンジンを必ず止めてください。
- * 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。



注意

- * エンジン停止直後は、エンジンにさわったり、ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

マルチナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは、下表を参照して処置してください。



警報の種類	液晶表示 (液晶ディスプレイ)		警報ブザー (吹鳴時間)	現象	処置	参照 ページ
	異常内容 (表示時間)	処置内容				
燃料警報	燃料を給油 して下さい (約 5 秒後消灯)		○ 断続 (約 5 秒後 停止)	・ 燃料が少なくなっています。 ・ そのまま作業を続けると... [エンジンが停止します。]	・ 燃料を補給します。	—
油圧警報	エンジン 油圧 異常です (処置後消灯)	—	○ 断続 (処置後停 止)	・ エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・ そのまま作業を続けると... [エンジンが焼付きを起こし停止します。]	・ エンジンを停止後、オイル量を点検します。 ・ オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・ バンドの増締めをします。 ・ 購入先へ連絡してください。	157 170

上手な収穫のしかた

警報の 種 類	液晶表示 (液晶ディスプレイ)		警報ブザー (吹鳴時間)	現 象	処 置	参 照 ページ
	異常内容 (表示時間)	処置内容				
オーバー ヒート 警報	← 交互に表示 → オーバーヒート アイドリングに して下さい (処置後消灯)		○ 断続 (処置後停 止)	・ エンジンの冷却水温が 上昇しています。 ・ そのまま作業を続ける と… 【エンジンが焼付きを起 こし停止します。】	・ 【アイドリングにして下さい】 を表示すると… アクセルレバーを操作して、エ ンジン回転数を最低回転位置に します。 ・ 【冷却後点検して下さい】 を表示すると… エンジンを停止し、30 分以上 たってから点検と処置をし ます。 ・ 【エンジン停止して下さい】 ↔ 【冷却後点検して下さい】 を表示すると… エンジンを直ちに停止し、 30 分以上たってから点検と処 置をします。 ・ 点検と処置 (1) 冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブ タンクに清水を補給 水もれ…排水プラグ・ラジエー タホースのバンドを増 締め (2) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (3) 防じんあみ・ラジエータフィ ンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く ・ 購入先へ連絡してください。	33
	← 交互に表示 → オーバーヒート 冷却後点検 して下さい (処置後消灯)					165
	← 交互に表示 → オーバーヒート エンジン 停止 して下さい (処置後消灯) ↓ 冷却後点検 して下さい					165
充電警報	充電系統が 異常です (処置後消灯)	—	○ 断続 (処置後停 止)	・ バッテリーに充電されて いません。 ・ そのまま作業を続ける と… 【バッテリー上がりとなり、 エンジンの始動ができ なくなります。】	・ エンジンを停止後、点検と処置 をします。 (1) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (2) バッテリー 電圧低下…充電 ・ バッテリーを充電してもエンジン が始動しないときは、交換して ください。	182 182 201 201

上手な収穫のしかた

警報の種類	液晶表示 (液晶ディスプレイ)		警報ブザー (吹鳴時間)	現象	処置	参照 ページ
	異常内容 (表示時間)	処置内容				
負荷警報	(C) 範囲のとき			・エンジンや脱こく部に負担が掛かっています。	・作業速度を落としてください。	33, 96
	← 交互に表示 → 負荷 速度を落として下さい (処置後消灯)	○ 断続 (処置後停止)	負荷 作業中にエンジン回転数が下がってきたときは、脱こく部に負荷が掛かっています。負荷メータのランプ表示を確認しながら適性範囲で作業してください。 1ARAEASAP622C 負荷メータ (ランプ表示) (A) 適正範囲 (青色) …作業を継続 (B) 減速範囲 (オレンジ色) …速度を落とす (C) 即時減速 (赤色) …主変速レバーで減速する ※警報ブザーは速度を落として、(B) 減速範囲に戻ると停止します。	・そのまま作業を続けると… 【エンジンが停止します。】	・作業条件に合った調節や調整を行ってください。	98

詰まり 各警報	自動的にエンジンが停止すると同時に表示します。 ↓		・わら詰まりをしています。	・異常の原因 (詰まり) を取除いて復帰します。	—
刈取 詰まり 警報	←交互に表示→ 刈取 詰まりを取り除く (処置後消灯)		・刈取部の供給搬送部にわらが詰まっています。	・供給搬送部のわらを取除きます。	214

上手な収穫のしかた

■マルチナビによる故障と処置

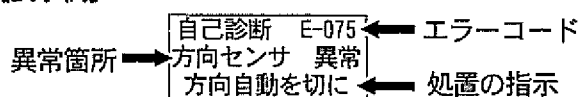
故障が発生すると、マルチナビの液晶ディスプレイに異常内容を表示します。故障による異常が発生したときは刈取作業を中止し、購入先に連絡して処置してください。

なお、故障の内容によっては、下表を参照して手動操作で刈取作業を行なうことができますが、作業終了後には必ず購入先に連絡してください。また、下表以外の異常内容が表示された場合は、直ちに購入先に連絡して処置してください。

補 足

- * 液晶ディスプレイに故障の異常内容が表示されたとき、警報ブザーは鳴りませんので注意してください。
- * 手動操作で作業を続ける場合は、下表の処置の欄の内容を良く理解し、注意をしながら作業を行なってください。
- * 液晶ディスプレイに表示される異常内容は、**エラーコード**、**異常箇所**、**処置の指示**を表示します。

[表示例]



- * 異常内容によっては異常箇所又は、**処置の指示**を表示しない場合があります。
- * 購入先に連絡する際には、液晶表示のエラーコード及び異常内容を購入先に連絡してください。
- * 故障の内容の表示は、異常内容のみの表示と異常内容と処置内容を交互に表示する場合があります。
- * 自動方向制御装置はオプション部品です。

液晶表示（液晶ディスプレイ）		異常内容	処置	参照ページ
交互に表示				
異常内容	処置内容			
自己診断 E-064 昇降レバー VR異常	---	パワーステアリングレバーを操作しても刈取部が昇降しません。	ポジピタスイッチで刈取部の昇降操作を行なうことができますが、購入先に連絡して処置してください。	28
自己診断 E-065 旋回レバー VR異常	---	パワーステアリングレバーを左、右に操作しても機体の操向操作ができません。	こぎ深さ手動スイッチで左右クラッチ旋回は可能ですが、購入先に連絡して処置してください。	33
自己診断 E-069 刈取位置センサ 異常 点滅中の自動切に	---	刈高さ制御、刈取オートクラッチ、ポジピタがはたらきません。また、刈高さ制御がはたらいているときは、警報ブザーが鳴ります。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 刈高さ自動、刈取オートクラッチ自動スイッチを「切」にしてください。	21 40
自己診断 E-072 かき込みセンサ センサ信号異常	---	刈取かき込みペダルを踏んでもかき込み作業ができません。	作業を続けて行なうことができます。	-
自己診断 E-073 こぎ深さセンサ異常	---	こぎ深さ制御がはたらきません。	手動こぎ深さスイッチの操作で作業を続けて行なうことができますが、こぎ深さに注意してください。	33

上手な収穫のしかた

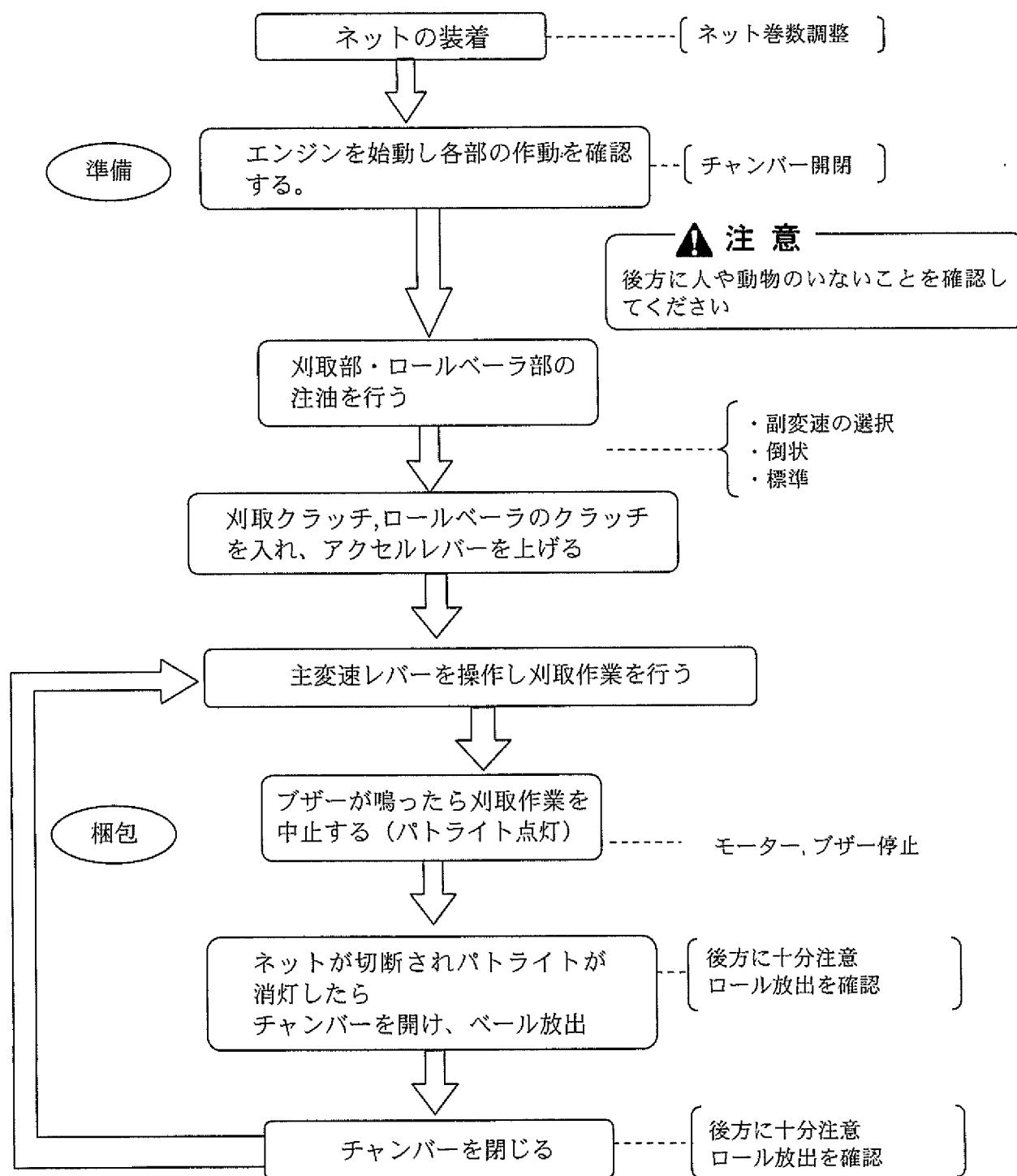
液晶表示（液晶ディスプレイ）		異常内容	処置	参照 ページ
交互に表示				
異常 内容	処置 内容			
自己診断 E-074 方向センサ異常 方向自動を切に	---	方向制御がはたらきません。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 方向自動スイッチを【切】にしてください。	21
自己診断 E-075 方向センサ異常 方向自動を切に	---			
自己診断 E-076 刈高さセンサ右 センサ信号異常	自己診断 E-076 刈高さ自動を切に	刈高さ制御がはたらきません。また、刈高さ制御がはたらいっているときは、警報ブザーが鳴ります。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 刈高さ自動スイッチを【切】にしてください。	21 40
自己診断 E-077 刈高さセンサ左 センサ信号異常	自己診断 E-077 刈高さ自動を切に			
自己診断 E-079 モノロ左前センサ異常 水平自動を切に	---	水平制御がはたらきません。	水平手動スイッチで機体を最下降位置にし、作業を続けてください。 水平自動スイッチを【切】にしてください。	34, 36, 37
自己診断 E-080 モノロ左後センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-081 モノロ右前センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-082 モノロ右後センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-083 モノロ左センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-084 モノロ右センサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-085 ローリングセンサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-086 ピッチングセンサ異常 水平自動を切に	---			
自己診断 E-087 ジャイロセンサ センサ信号異常	自己診断 E-087 水平自動を切に			

上手な収穫のしかた

液晶表示（液晶ディスプレイ）		異常内容	処置	参照ページ
交互に表示 異常内容 ↔ 処置内容				
自己診断 E-115 刈取り回転センサ センサ信号異常	---	こぎ深さ制御，車速制御， 刈高さ制御，（方向制御）が はたらきません。	主変速レバー，手動こぎ深さスイッチ及 びパワーステアリングレバーの操作で作 業を続けて行なうことができますが，刈 取速度や刈高さに注意してください。 こぎ深さ自動，車速自動，刈高さ自動， 方向自動の各スイッチを【切】にしてく ださい。	19 21 39
自己診断 E-120 脱こく SW異常		ペーラクラッチレバース イッチが故障しています。	作業を続けて行なうことができます。	—
自己診断 E-178	---	後退灯が点灯しません。	作業を続けて行なうことができますが， 購入先に連絡して処置してください。	—
自己診断 E-179	---	制動灯が点灯しません。		
自己診断 E-186	---	電動分草かんが作動しま せん。	作業を続けて行なうことができます。	—
自己診断 E-187	---			
自己診断 E-101 刈高さダイヤル センサ信号異常	自己診断 E-101 刈高さ自動を切に	刈高さ制御がはたらきま せん。	パワーステアリングレバーの操作で作業 を続けて行なうことができます。 刈高さ自動スイッチを【切】にしてくだ さい。	21 40

作業方法

1. 作業手順と要点

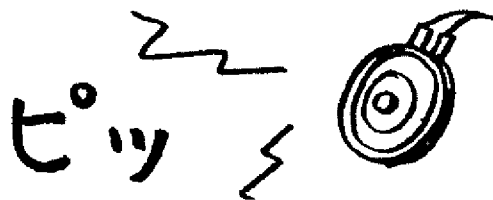


▲ 注意

後方に人や動物のいないことを確認してください。また、傾斜地では放出したロールが転がらないよう、平坦な場所に放出してください。

作業方法

2. ブザーが鳴り、パトライトが点灯します
設定圧になると、ブザーが鳴り、同時に
パトライトも点灯し、ネットが自動的に
繰り出されます。ゆっくり走行を停止し
てください。



◆結束完了を「パトライト消灯」で知らせ
ます

設定巻き数のネット結束が終ると、ネッ
トが自動切断されてパトライトが消灯
し、結束完了を知らせます。

！ 注意

後方に人や動物のいないことを確認し
てください。

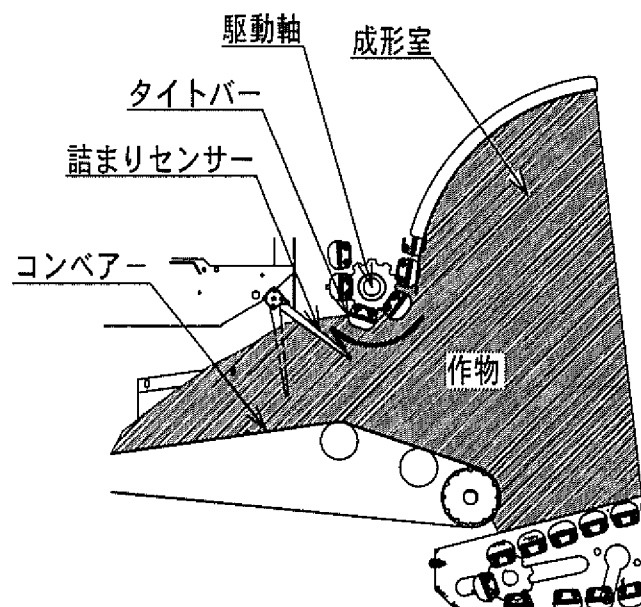
また、傾斜地では放出した梱包ロールが
転げ落ちないよう、平坦な場所に放出
してください。

◆放出確認をしてチャンバーを閉じる

チャンバーから放出できたことを確認
してから、チャンバー開閉スイッチを操
作してチャンバーを閉じ、再び作業をス
タートしてください。

3. 断続電子ブザーが鳴り詰りを知らせたら
成形室の前に詰まりセンサーがあり、詰
まると断続電子ブザーで知らせます。頻
繁に鳴るときは走行速度をおとしてく
ださい。

断続電子ブザーが成り続ける時は刈り
取り作業を停止してロールベアラの左
側のカバーを開き、コンベアーの状態を
確認してください。そのまま作業すると、
詰りシェアボルト切断の原因になりま
す。



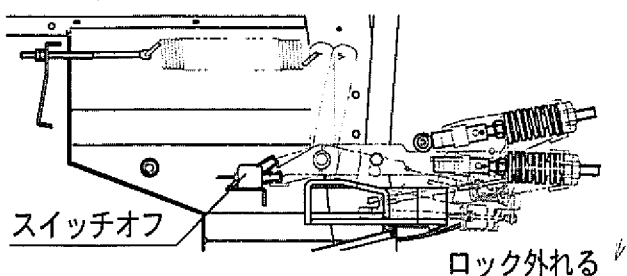
作物が詰まると、成形室に入らなくなり
ます。

このような時は、ネット装置を引き出
し右カバーを開き、長い棒などで作物を
押し込んでください。

コンベアーが見えるようになればネ
ットを繰り出しロールに成形できます。

作業方法

4. 連続電子ブザーが鳴り、ロック外れを知らせたら



- ・チャンバーロックが外れたらロック金具のスイッチがオフになり連続電子ブザーがなります。
- ・作業中に連続電子ブザーが鳴った時は、刈り取り作業をすぐに停止してください。そのまま作業すると両側のロックが外れネットが巻けなくなります。(刈取作業を中止しネットを巻きつけてください。)
- ・片方のロックが外れた状態で、ネットを巻くときは、手動でネットを繰り出してください。

5. 誤ってネット繰出しスイッチを

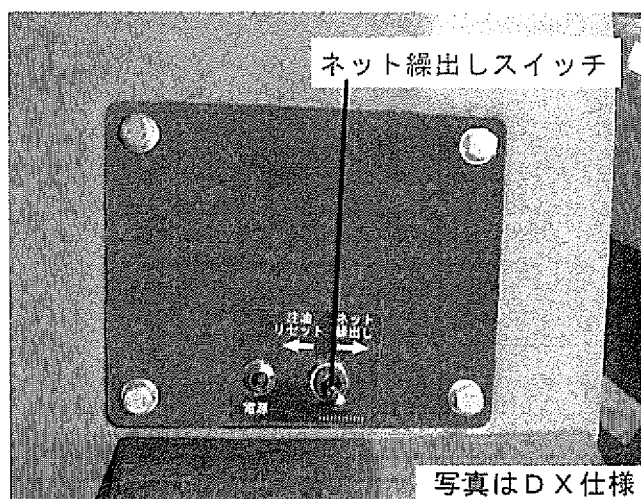
押した時は

ネットを巻く時以外に誤ってネット繰出しスイッチを押した時は必ずリセットしてください。

そのまま作業すると自動感知が効かずロック金具が外れたり、タイトバー部のシェアボルトが切れます。

リセットする方法は下記の3方法があります。

- ① 左記のロック金具のスイッチをオフにする。(チャンバーを開くと自動的にリセットします)
- ② ネット繰出しスイッチを左に倒しリセットする。



- ③ メインスイッチを「切」にする。

添加器の作業方法

このホールクロップ用添加器は、乳酸菌や酵素をロールに添加するためのものです、ほかの目的で使用しないでください。

1. 仕様

[1] モーター

電圧	DC 12 V
電流	5 A

[2] ポンプ

型式	ダイヤフラムポンプ
----	-----------

[3] タンク容量

20 L

[4] コントローラ

ダイヤル式

[5] 散布量

大量ノズル 1.0 ~ 3.1 リットル/分

中量ノズル 0.5 ~ 1.1 リットル/分

小量ノズル 0.2 ~ 0.4 リットル/分

[6] ノズルボデー

液ダレ防止弁付き

[7] ヒューズ

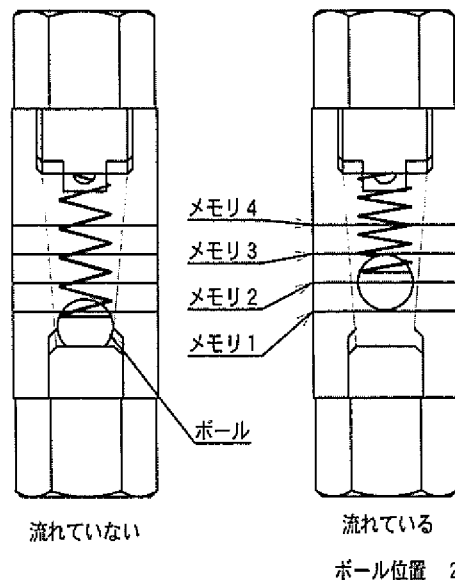
10 A 管ヒューズ

2. 作業方法

- [1] 添加量の目安を参考にして、実際の添加量に合わせてノズルチップ及びキャップを選択してください。
- [2] コントローラのノズル選定スイッチを選択したノズルチップに合わせてA、Bいずれかにセットしてください。
- [3] コントローラの電源をONにしてください。
- [4] 目安表を参考にしてダイヤルを合わせてください。
- [5] 刈り取りをはじめ作物がフィードチェーンの後方におくられると穂先センサーのスイッチが入り添加されます。作物がなくなればスイッチが切れ、自動的に添加がストップします。

注 意

- ・スイッチが切れてもすぐにストップしません。
- ・本機にはウォーターシグナルが付いており添加剤が流れているか、ボールの位置で流量がわかる様になっています。(目安としてください。)



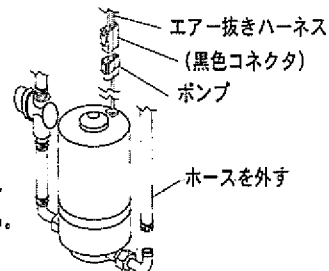
ボールの位置 (メモリ)	2	3	4
散布量(リットル/分)	0.4	0.7	1.0

- ・タンクの残量が少なくなるとシグナルに泡が流れます、その時はすぐに添加剤を補給するか、添加器の電源を切ってください。(無水で運転するとポンプ、モーターの故障の原因になります)
- ・ホース内にエアが入ると水が出ないことがあります。図のようにエア抜きを行ってください。

●エア抜きの手順

タンクが空になりホースにエアが入った場合、下記の手順にしたがい、エア抜きのしてください。

- ①エンジン停止
- ②ホースを外す。
- ③キースイッチを入れ、ポンプのハーネスをエア抜きハーネス(黒色コネクタ)に接続する。
- ④エアが抜けたらホースを元に戻しノズルから水が出ることを確認する。
- ⑤ハーネスを元に戻す。



添加器の作業方法

3. 添加量の目安

ノズル 選定	ノズルチップ No.	ノズルキャップ No.	添加量範囲 (ℓ/分)	添加量調節目盛									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A	T11010	T25610	1.0～3.1			1.0			2.0				3.1
B	T11003	T25612	0.5～1.1		0.5			1.0				1.1	
B	T11001	T25612	0.2～0.4	0.2		0.3		0.4					

注 意

1. 清水での添加量の目安です。添加剤の種類により添加量が変わることがあります。確認してから作業してください。
2. コントローラの日盛は表の設定を超えても流量は増えず、ポンプに過負荷となります。
3. 日盛が小さいとポンプが動かない場合があります。散布量の多いノズルを使用するか散布する液の濃度を薄くして散布量を多くしてください。

4. 不調診断

不 調 内 容	診 断	処 置
●水が出ない モーターが回る。	●ノズルのつまり。 ●ホース内にゼリー状物質が詰まっている。 ●サクションフィルターの詰り ●ホース内にエアが入った	●ノズルを分解洗浄する。 ●ノズルのチップをはずして流し出す。 ●分解して洗浄する。 ●ノズル横のキャップを緩めエア抜きをする。
●水がでない モーターが回らない。	●ダイヤルの日盛が小さい ●配線が抜けている。 ●ヒューズが切れている。 ●モーター故障	●ノズルを変更する。 ●散布液の濃度を薄くする。 ●配線をチェック修正する。 ●ヒューズを交換する。 ●モーター交換
●水は出るが、噴霧状態が正常でない。	●サクションフィルター、ノズルチップの部分的な詰まり ●溶液中に不純物が混ざっている。 ●ポンプ、調圧弁、循環ホース内にゼリー状物質が詰まっている。 ●ポンプの故障 ●ホース内にエアが入った	●分解して洗浄する。 ●不純物を取り除く。 ●分解洗浄する。 ●ポンプ交換 ●ノズル横のキャップを緩めエア抜きをする。

5. メンテナンス

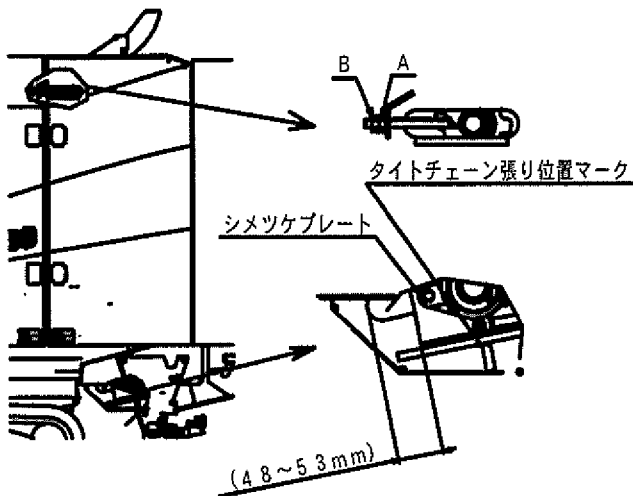
- [1] 長期間使用しないときは、タンク、ポンプ、ストレーナー、ウォーターシグナル、内を清水で掃除をし、寒冷地では必ず水抜きをしてください。しないと故障、破損の原因になります。

簡単な手入れと処置

1. タイトチェーンの張り調整

タイトチェーンが伸び、シメツケプレートが標準位置より前へ出てきたら、次の要領で調整してください。

- ①Bのナットをゆるめる
- ②Aのナットを締め込みシメツケプレートが下図の位置になるように調整する。
- ③Bのナットでロックする。



注意

チェーン張り調整は、チャンバーを閉じた状態で行ってください。調整後は空回しして、上図のようになっているかを確認してください。

2. シェアボルトの交換

各部に過負荷がかかったときボルトがせん断され、本機の損傷を防止します。

◆シェアボルトのサイズ及場所

P 68 を参照してください。

◆シェアボルトの交換

- ①カバーを外します。
- ②せん断されたボルトを除去します。
- ③スプロケットを回し、ボルト穴が通る位置にします。
- ④ボルトを入れ、ナイロンナットで締付けます。
- ⑤カバーを取付けます。

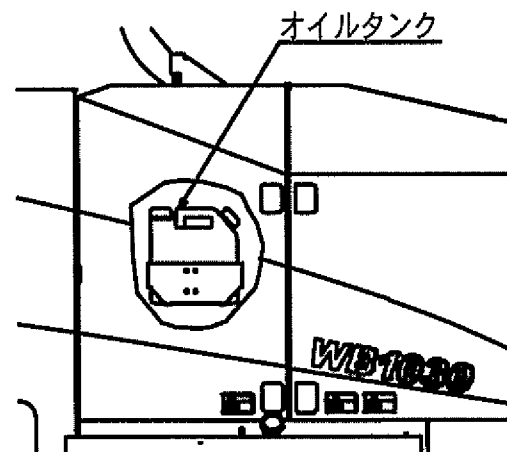
3. 自動注油

タイトチェーンには感知、ネット巻き、ロールを放出後カバーを閉めると、6 秒間自動注油されます。

作業前にベアラを回転させながら注油してください。注油方法はP 73 を参照してください。

- ①オイルタンクに約40オイルを入れてください。

オイルはエンジンオイルSAE 5W-30又は10W-30を使用ください。



注意

- ・ 無注油で運転するとオイルポンプ及びモータの故障になるので絶対に行わないでください。
- ・ 粘度の高いオイルはモータの故障の原因になるので使用しないでください。
- ・ 注油前に注油ノズル先端のゴミを取除いてください。

エンジンを低速で回転させてください。

- ④そのまま 20 秒程度注油を続け、注油ボタンをOFFにします。

簡単な手入れと処置

4. ミッション給油

使用100時間ごとに全量を交換してください。

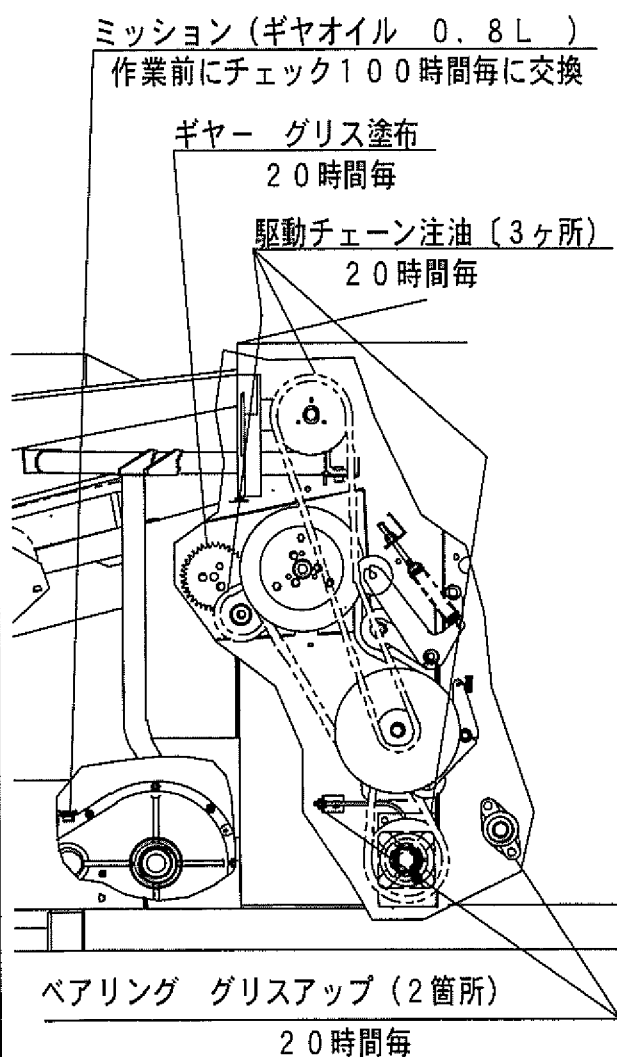
使用するオイルはギヤオイル#90を0.8ℓです。

(次項参照)

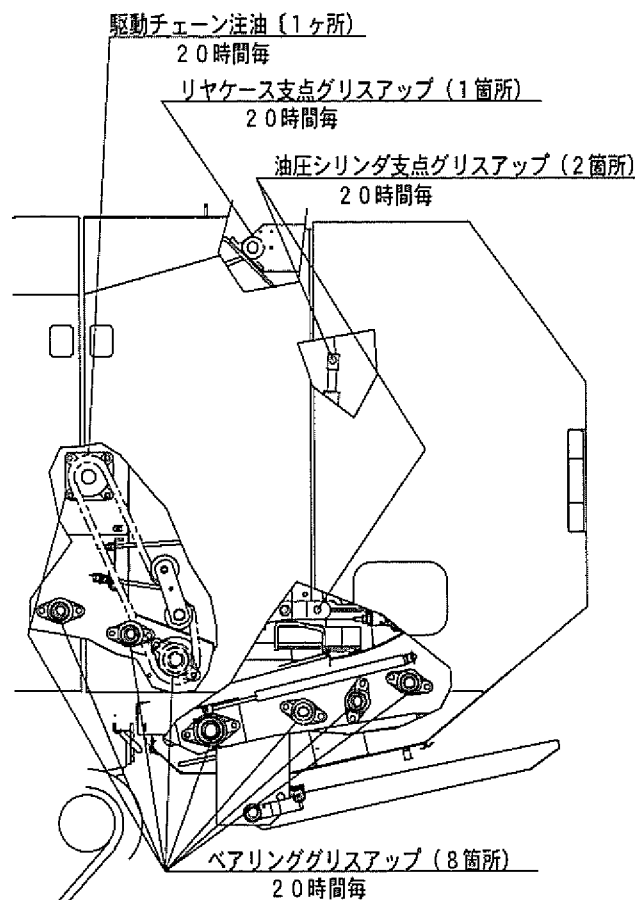
5. 各部の注油・グリスアップ

下図に従って各部に注油・グリスアップを行ってください。

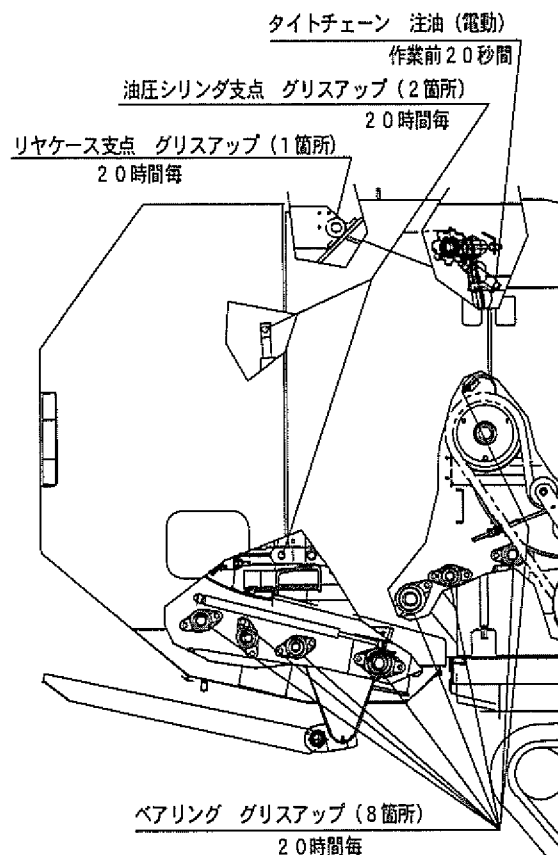
〔ロールベアラ左前部〕



〔ロールベアラ左後部〕



〔ロールベアラ右前部〕

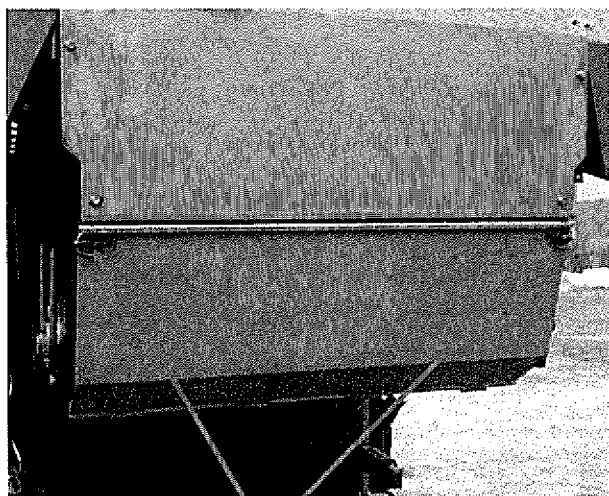


簡単な手入れと処置

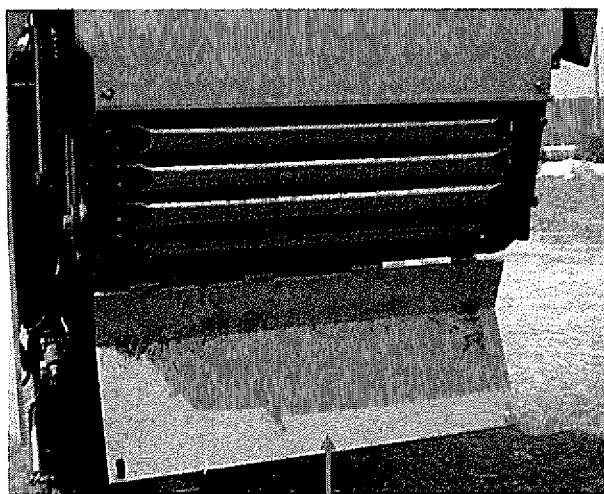
⚠ 警告

点検・調整をするときは必ずペーラクラッチを切り、エンジンを停止させてください。これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

6. リヤチャンバーの清掃



リンチピンを外す



カバーを開く

- 作業終了後、上図のリンチピンをとりカバー中の堆積物を取り出し、掃除をしてください。

注意

- ・ 掃除をしないままにしておきますと堆積した収穫物が腐敗し雑菌がロールに混入、サイレージ品質を劣化させる恐れがあります。
- ・ またタイトチェーンの油をふき取り耐久性を損なうおそれがありますので掃除を必ず実施してください。
- ・ リヤーケースを開いたまま点検する時は必ずストップバルブを閉じてください。(P 68 参照)

メンテナンス

1. 定期点検と処置

定期点検は、収穫作業を行なう人が定期的に行なう点検です。

収穫機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいては収穫機の寿命を短くしてしまいます。収穫機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。

警告

- 取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、必ず取付けてから作業してください。
- 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めてから行なってください。

注意

傾斜地では、開閉や脱着を行なわないでください。

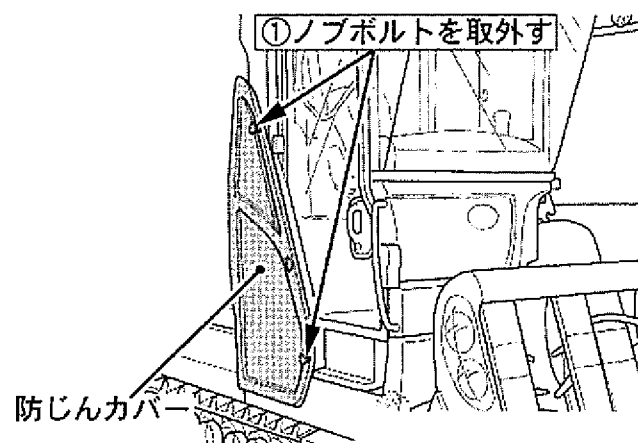
2. 各部の開閉と着脱のしかた

■ 防じんカバーの開閉と脱着

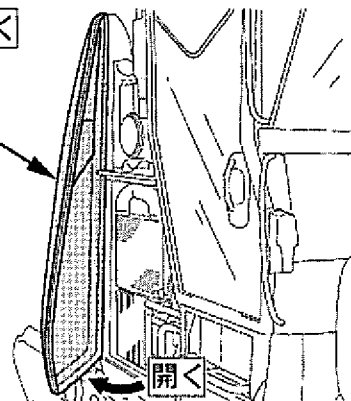
● 防じんカバーの開閉

◆ 開きかた

ノブボルトを取外して防じんカバーを開いてください。



② 防じんカバーを開く



重要

防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

◆ 閉じかた

防じんカバーを完全にロックするまで閉じてください。

重要

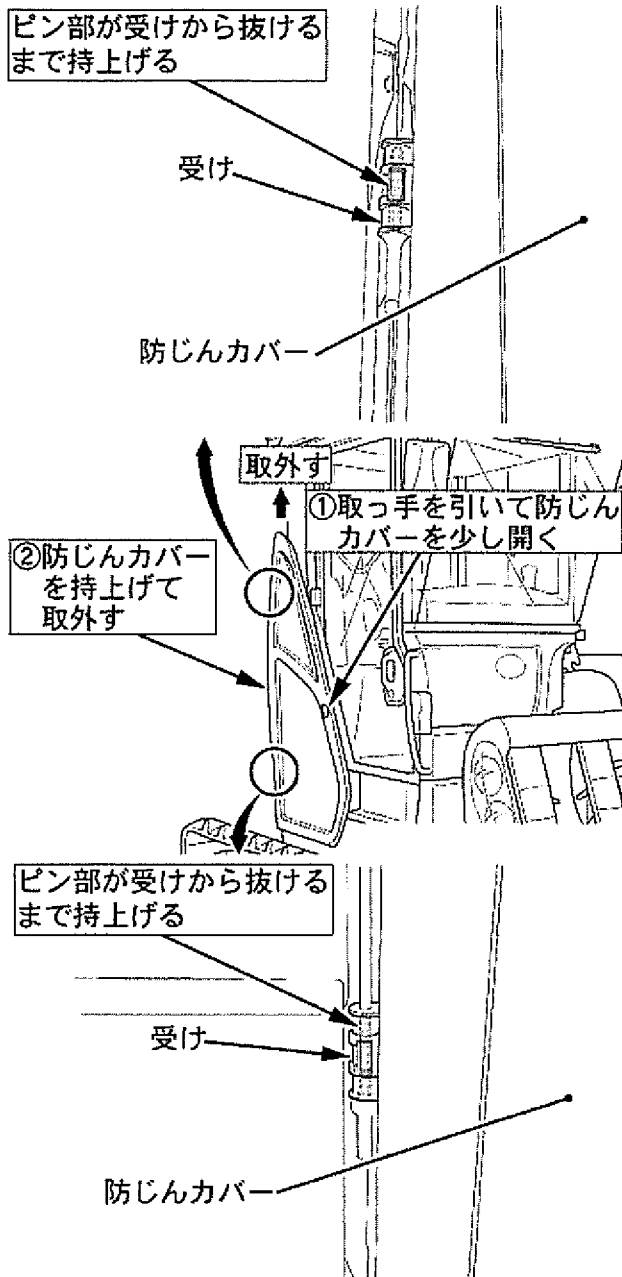
防じんカバーにノブボルトを取付けていない状態で走行すると、防じんカバーが開いて障害物に接触して破損するおそれがあります。

メンテナンス

●防じんカバーの脱着

◆取外しかた

ノブボルトを取外して防じんカバーを開いた状態で、両手で持上げて取外します。



重 要

防じんカバーの網の部分を持つと網が変形します。

◆取付けかた

取外したときと同じ位置で、防じんカバーの上下の受けをピン部に差込んで取付けたあと、防じんカバーにノブボルトを取付けます。

■刈取部の開閉

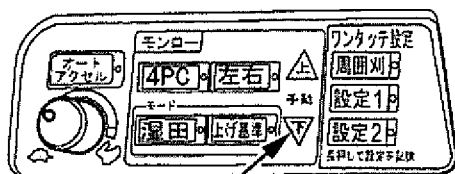
⚠ 警 告

- * 刈取部を開閉するときは、平たんで安全な場所で、刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず止めて行なってください。
- * 傾斜地では、刈取部の開閉を行なわないでください。
- * 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部を開いたときは、刈取部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。刈取部が閉じると体のはさまれてケガをするおそれがあります。
- * 刈取部を開いた状態で走行をしないでください。
- * 刈取部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

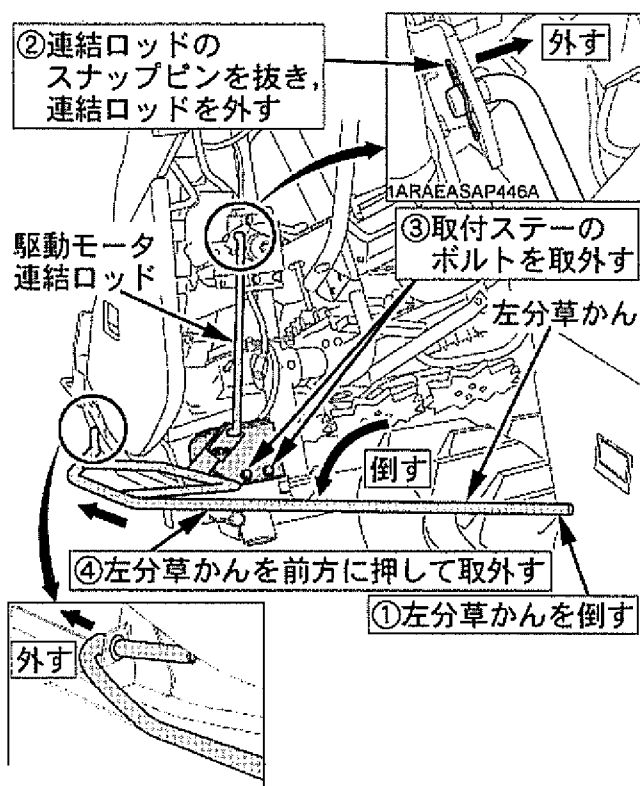
◆開きかた

1. エンジンを始動したあと、機体を最下降位置まで下げます。
2. 刈取部を地面まで降ろしたあと、エンジンを停止します。
3. 左分草かん前を取外します。

メンテナンス

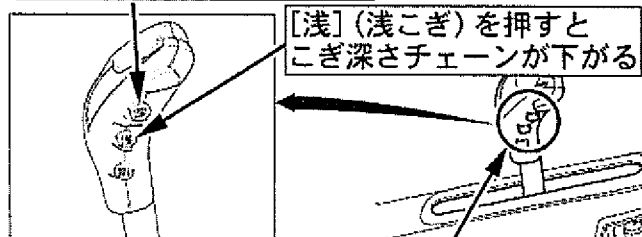


水平操作手動スイッチを押して機体を最下降位置にする

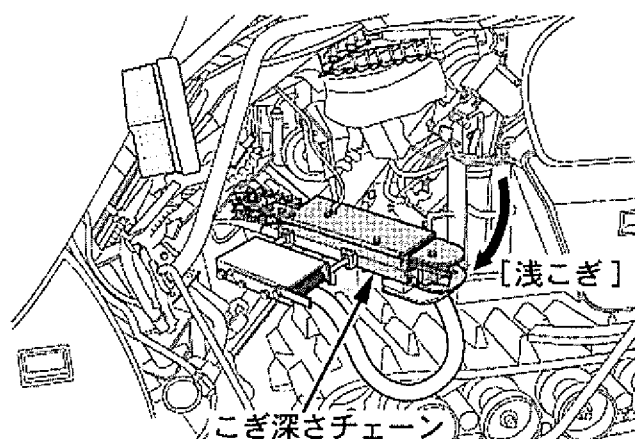


4. メインスイッチのキーを「入」位置にしたあと、手動こぎ深さスイッチの「浅」を押してこぎ深さチェーンを最下降（浅こぎ側）位置にします。そのあと、メインスイッチのキーを「切」位置にします。

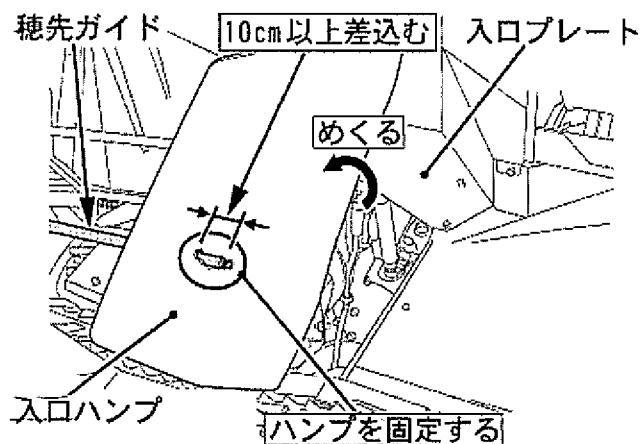
「深」（深こぎ）を押すとこぎ深さチェーンが上がる



手動こぎ深さスイッチ



5. 防じんカバーを前方いっぱいまで引出します。
6. ベーラ左サイドカバー上1, 下1を取外します。
7. 入口ハンプをめくり、穂先ガイドに10 cm 以上差込みます。

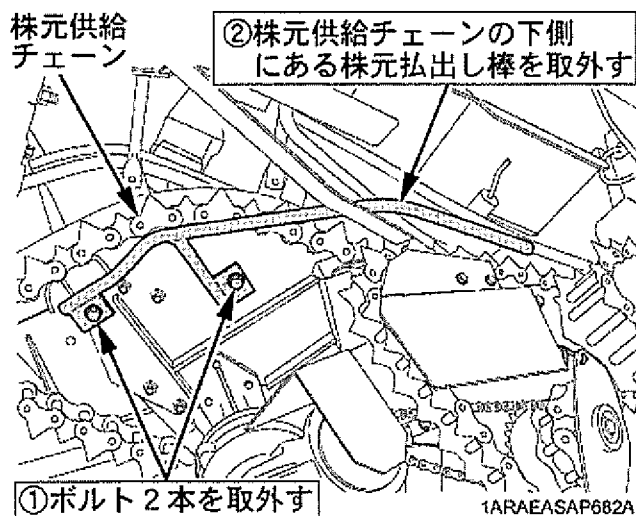


メンテナンス

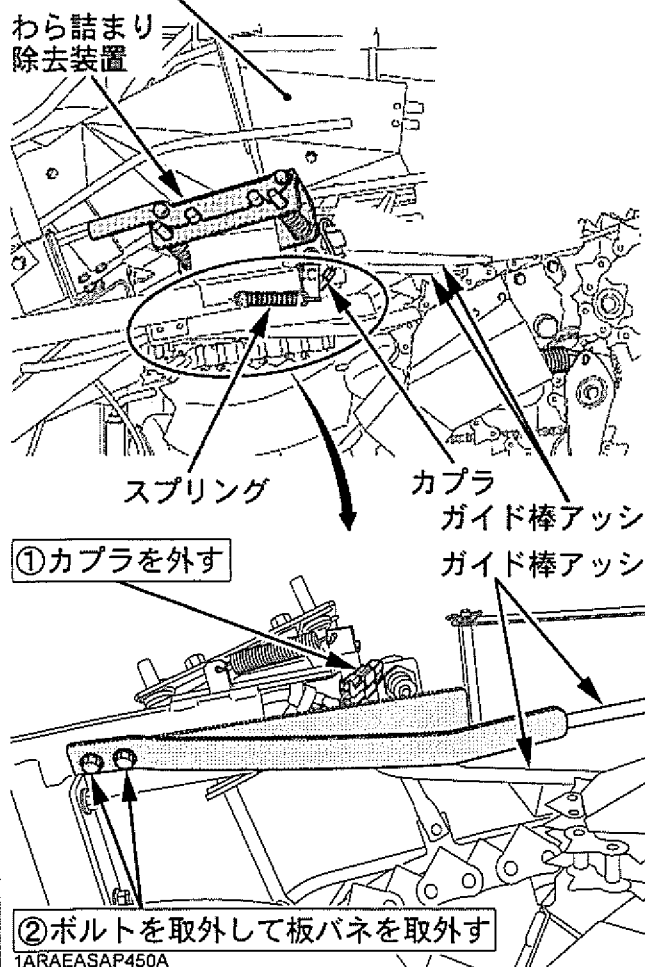
重 要

入口ハンプをめくらずに刈取部の開閉を行なうと、脱こく入口ハンプと入口プレートが接触し、穂先ガイドカバーが破損するおそれがあります。

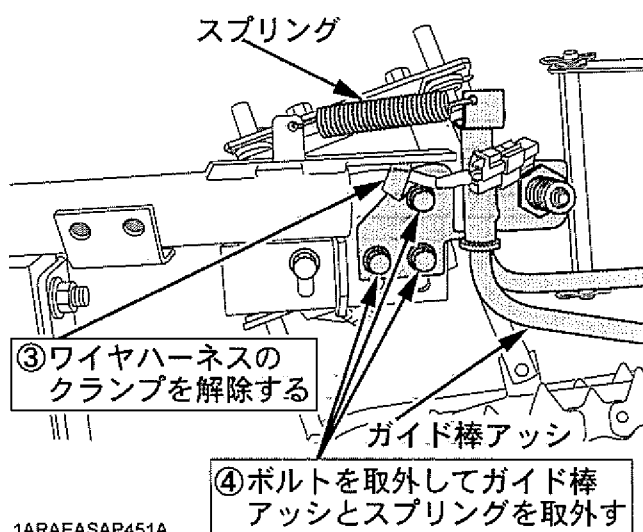
8. 株元払出し棒を取外します。



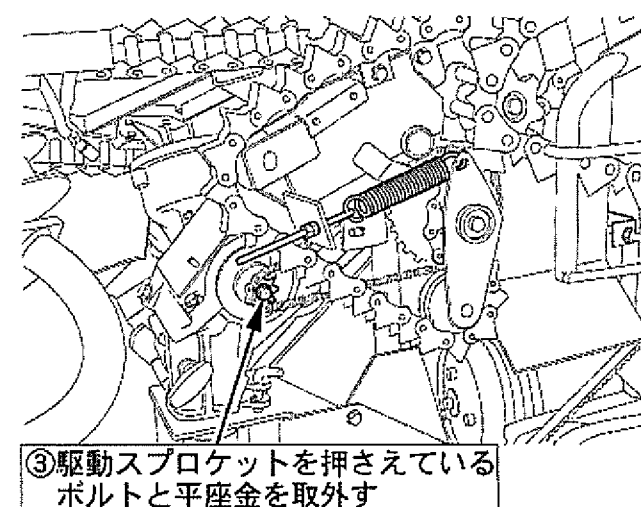
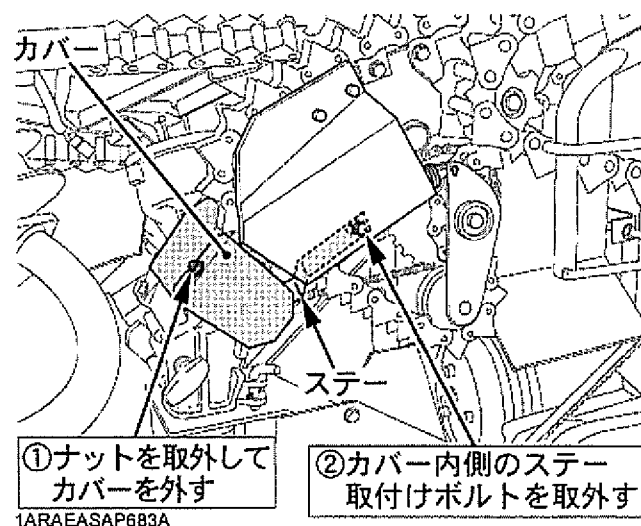
穂先ガイドカバー



9. 板バネ、カプラ、ガイド棒アッシ、スプリングを取外します。



10. 供給サポートチェーン駆動チェーンの駆動スプロケットを取外します。

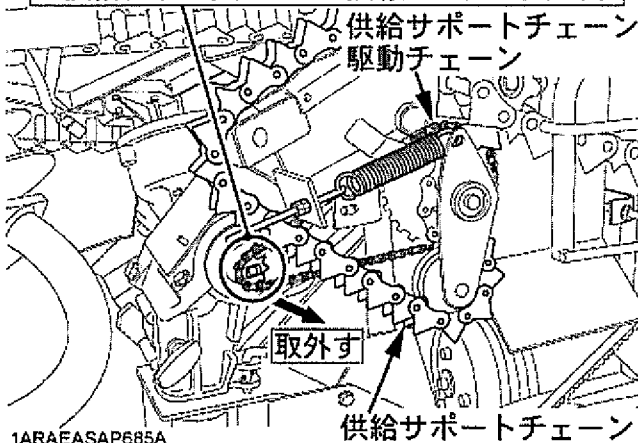


メンテナンス

重要

補強ステーを固定しているボルトを取外し忘れると、刈取部を開くときに補強ステーが引張られて破損するおそれがあります。

④駆動軸から駆動スプロケットといっしょに供給サポートチェーン駆動チェーンを取外す



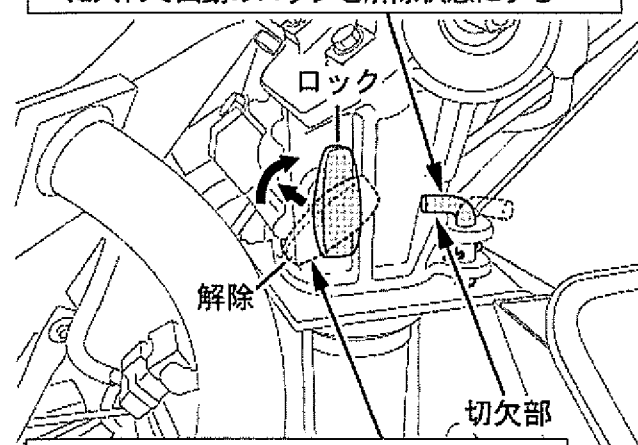
1ARA-EASAP685A

補足

供給サポートチェーン駆動チェーンは駆動スプロケットに取付けた状態で、そのまま垂らしておいてください。

11. エンジンを始動したあと、刈取部を最上昇位置にします。
12. 刈取下降ロックハンドルをロック位置にします。

②刈取部回転ロックピンを上げ、ピンを切欠部に入れて回転のロックを解除状態にする



①刈取下降ロックハンドルを押しながらロック位置まで回転する

1ARA-EASAP455A

補足

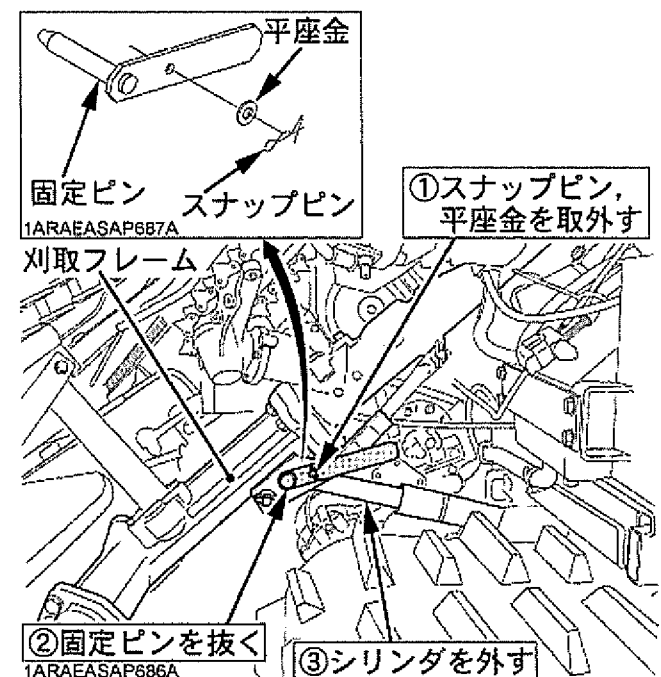
回転ロックピンがロック状態で刈取部を回転すると、回転ロックピンが変形したり、ケースが破損するおそれがあります。

13. パワーステアリングレバーで刈取部の下降が停止するまで下げます。このとき、下降が停止したあとも2～3秒間パワーステアリングレバーを押さえ続けてからエンジンを停止します。

補足

油圧シリンダの残圧が残っていると、閉じるときに刈取フレームと油圧シリンダの取付ピンの穴位置が合わなくなるおそれがあるため、2～3秒間はパワーステアリングレバーを押さえ続けてください。

14. メインスイッチのキーを【入】位置にしたあと、手動こぎ深さスイッチでこぎ深さチェーンを最上昇（深こぎ側）位置にします。
15. 刈取フレームから油圧シリンダを外します。



①スナップピン、平座金を取外す

1ARA-EASAP687A

刈取フレーム

②固定ピンを抜く

1ARA-EASAP686A

③シリンダを外す

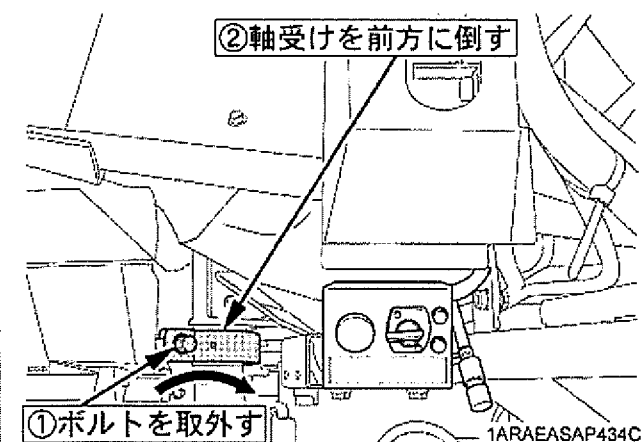
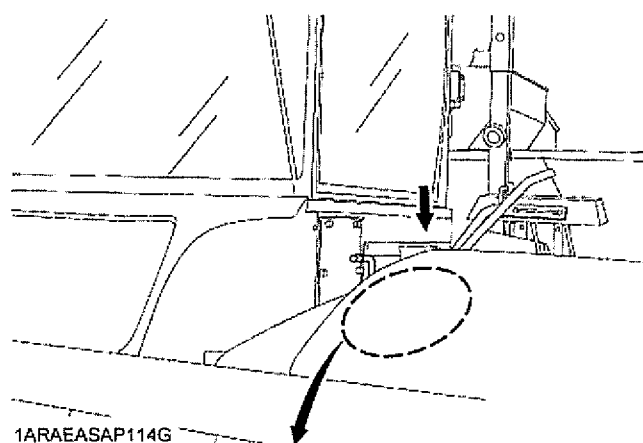
メンテナンス

16. 手動こぎ深さスイッチでこぎ深さチェーンを最下降（浅こぎ側）位置にします。そのあと、メインスイッチのキーを「切」位置にします。

重 要

刈取部を開いたとき、こぎ深さチェーンが本機側に接触し、破損するおそれがあります。

17. 右側の軸受けを外します。

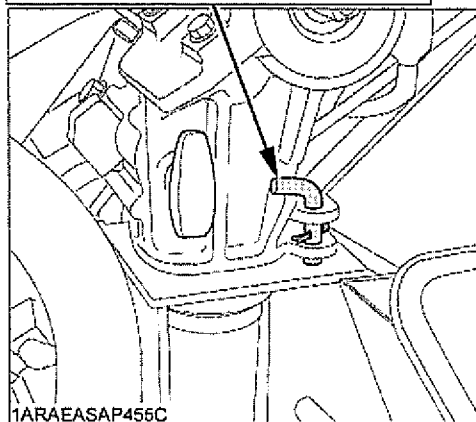


補 足

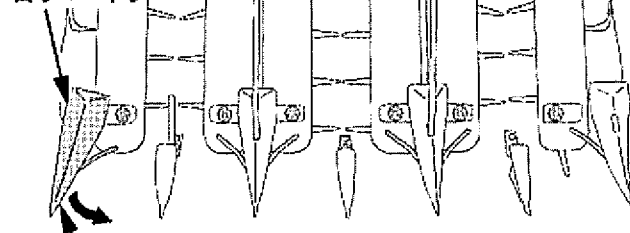
ボルトの取外し作業は、機体左側から通常工具でも行なえますが、運転席左側から行なう場合の専用工具については、購入先に相談してください。

18. 刈取部を開きます。

- ①刈取部回転ロックピンが解除位置にあることを確認する

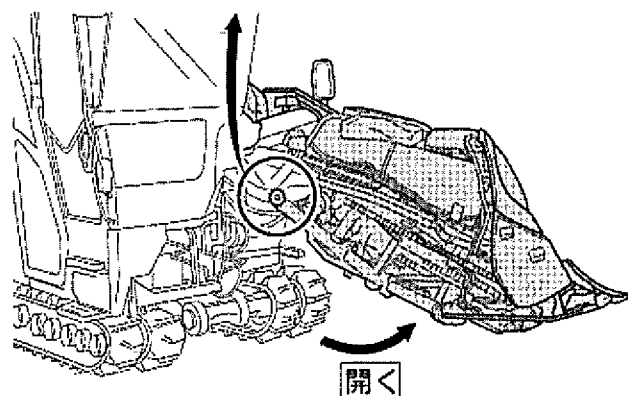
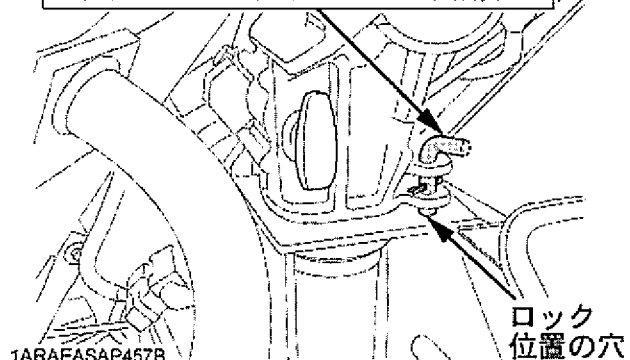


右デバイダ



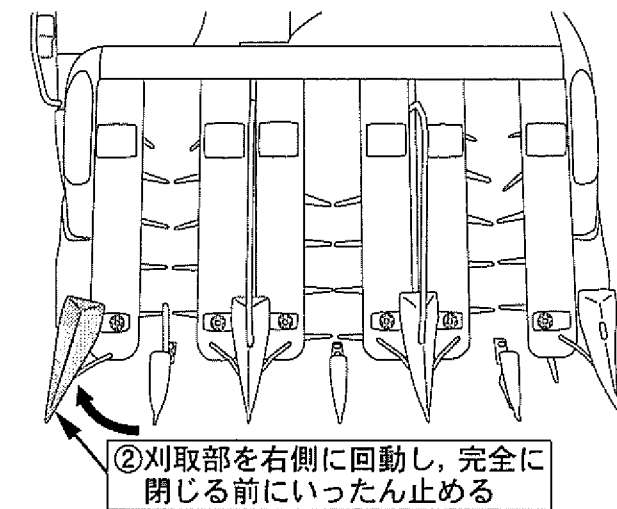
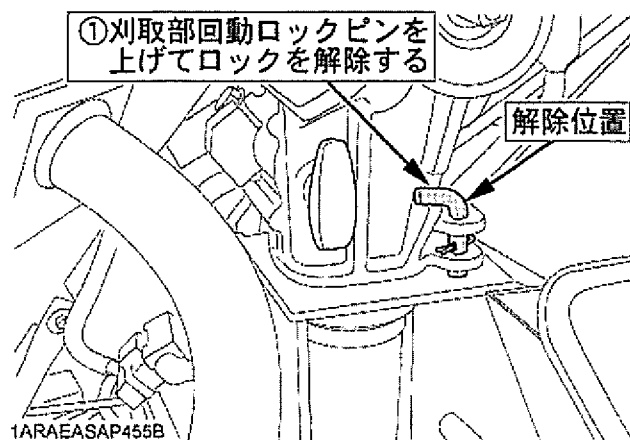
- ②右端のデバイダを持ち、機体左側へ回転する

- ③刈取部回転ロックピンがロック位置の穴に差込まれるまで回転する



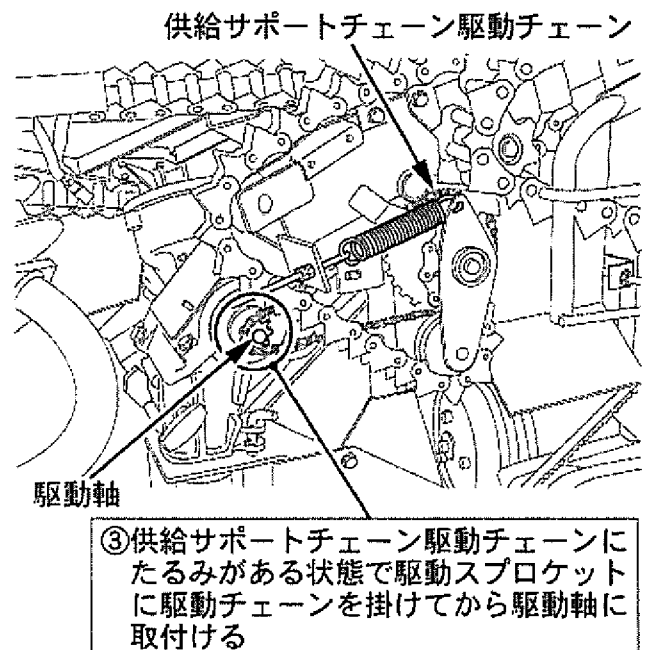
メンテナンス

1. 刈取部を閉じます。



重要

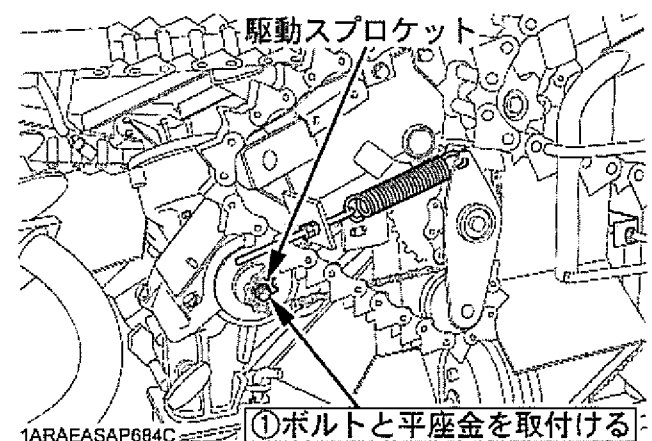
回動ロックピンがロック状態で刈取部を回動すると、回動ロックピンが変形したりケースが破損するおそれがあります。



補足

刈取部を完全に閉じると、駆動スプロケットの取付けが困難となるため、必ず刈取部を閉じる前に駆動スプロケットを駆動軸に取付けてください。

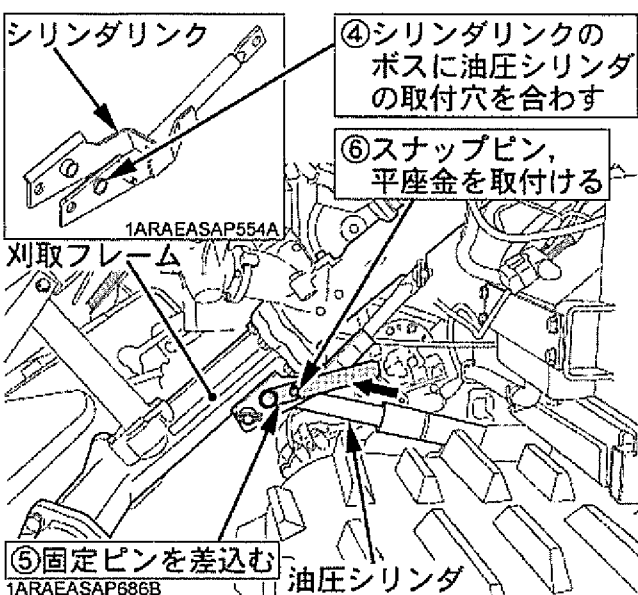
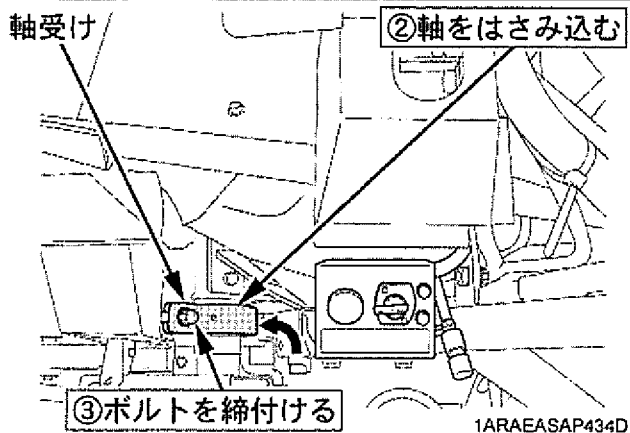
2. 駆動スプロケットのボルト、平座金の取付けを行ないます。



補足

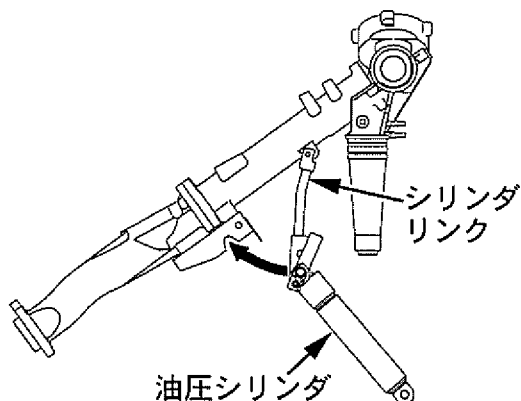
軸受けを上げる前に軸受けにグリースを塗布してください。

メンテナンス



補足

油圧シリンダが伸びたりして、穴位置が合わないときは、刈取部を再度開いて、油圧シリンダを最圧縮し、シリンダにシリンダリンクを取付けてください。



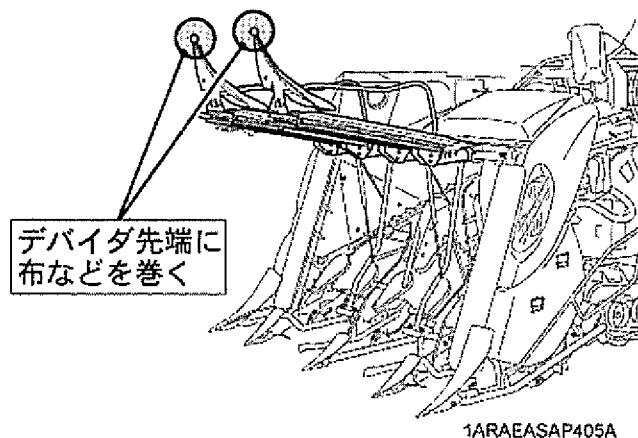
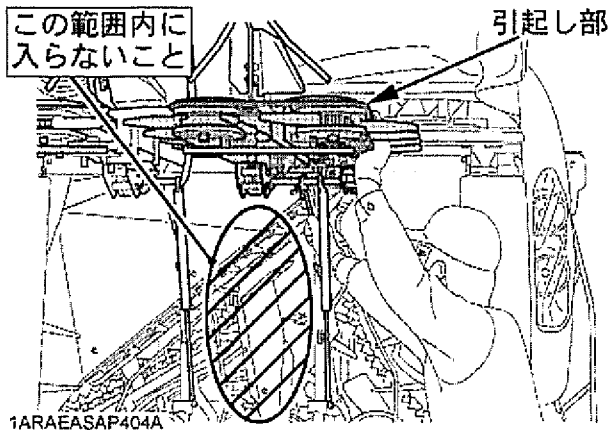
3. 開きかたの逆の手順で各部品やカバー類を取付けます。

■引起し部の開閉

⚠ 警告

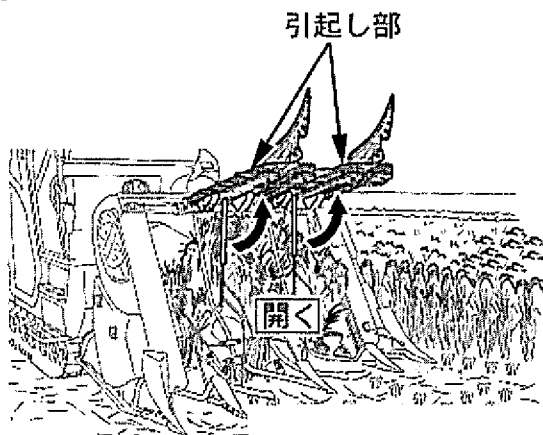
- * 引起し部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。刈取部が動くとケガをするおそれがあります。
- * 傾斜地では、引起し部の開閉は行なわないでください。
- * 引起し部の開閉作業中は、引起し部の下の位置で作業をしないでください。引起し部が落下すると体のはさまれてケガをするおそれがあります。
- * 引起し部を開いたときは、引起し部が落下しないようにストッパを必ず掛けてください。引起し部が落下すると体のはさまれてケガをするおそれがあります。
- * 引起し部を開いた状態で作業するときはデバイダ先端部に布などを必ず巻付けてください。
- * 引起し部を開いた状態で走行をしないでください。
- * 引起し部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

メンテナンス



補 足

刈取部にわら詰まりが発生したときは、引きし部を開き、わらを取除いてください。また、必要に応じて刈取部のメンテナンスを行なうときに引きし部を開いてください。

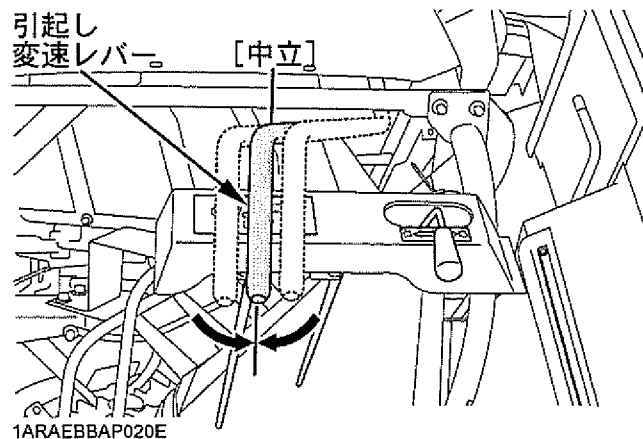


◆開きかた

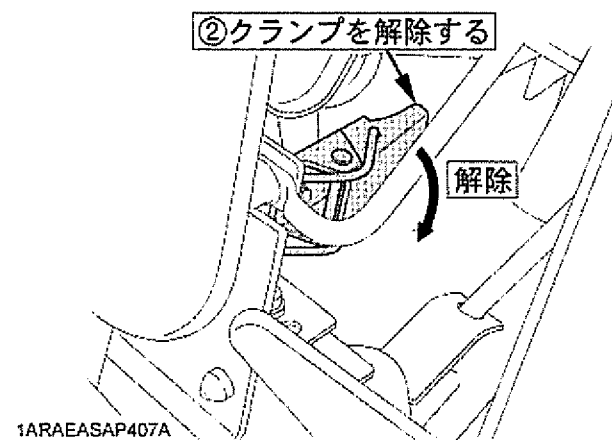
1. 刈取部を地面から5～10cmの高さまで降ろしたあと、エンジンを停止します。

補 足

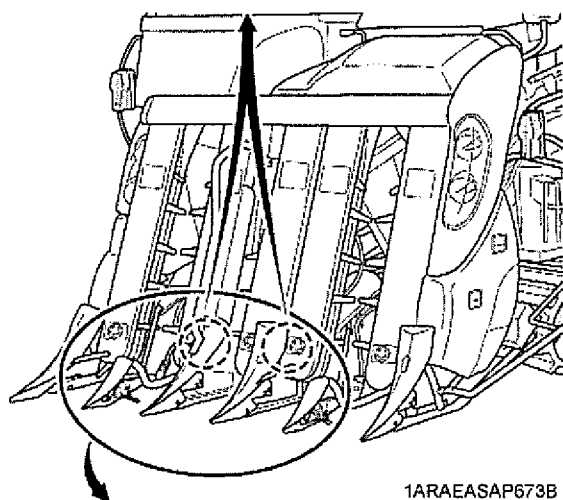
刈取部を地面に着くまで降ろすと、引きし部を開くことができません。



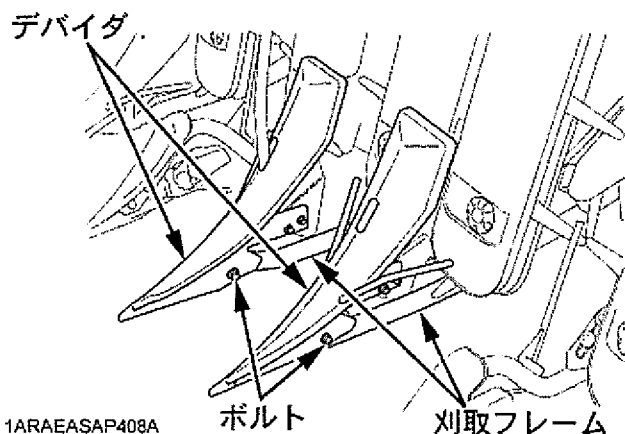
2. 刈取部の中央にある引きし部のデバイダと刈取フレームを固定しているボルト（2箇所）を取外したあと、クランプを解除します。



メンテナンス

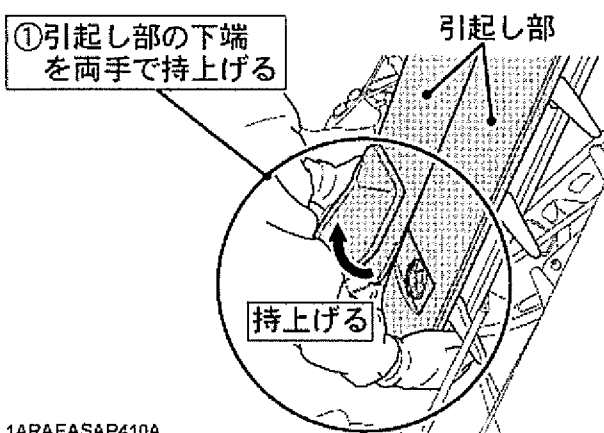


1ARAEASAP673B

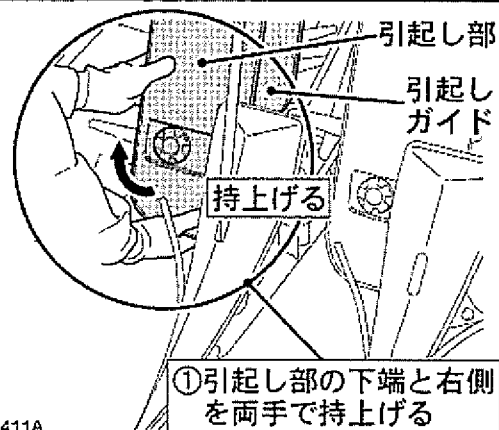


1ARAEASAP408A

引起し部を開くときは、必ず右側の引起し部を先に開いてください。



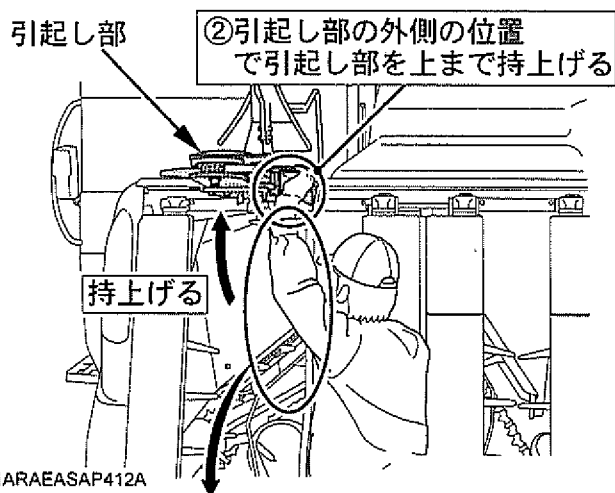
1ARAEASAP410A



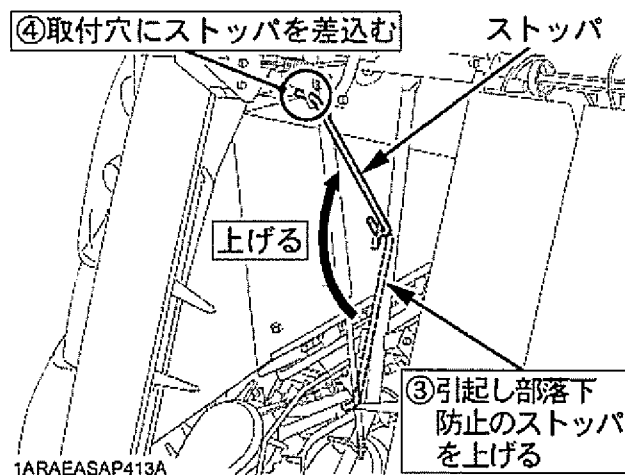
1ARAEASAP411A

重要

引起し部を持上げるとき、デバイダを持上げないでください。デバイダの取付部が曲がるおそれがあります。

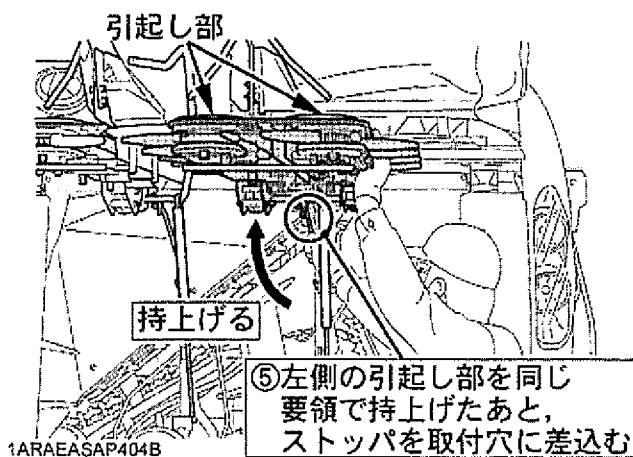


1ARAEASAP412A



1ARAEASAP413A

メンテナンス

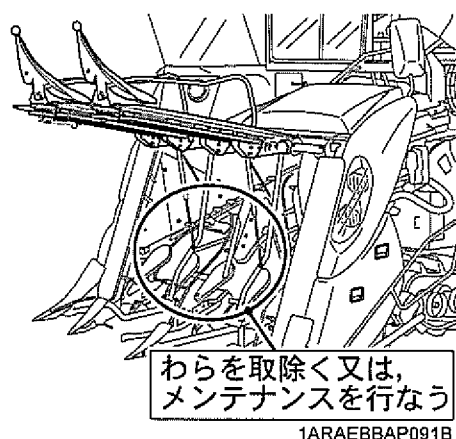


重 要

左側の引起し部を先に開くと、引起し爪が右側の引起しガイドに接触し、引起しガイドが破損するおそれがあります。

補 足

詰まったわらを取除く又は、メンテナンスを行なってください。



◆閉じかた

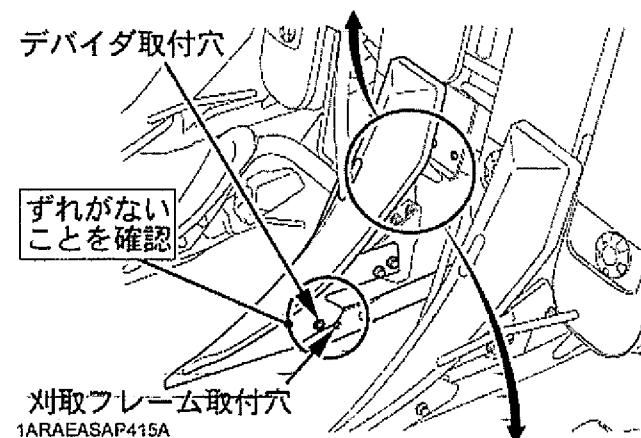
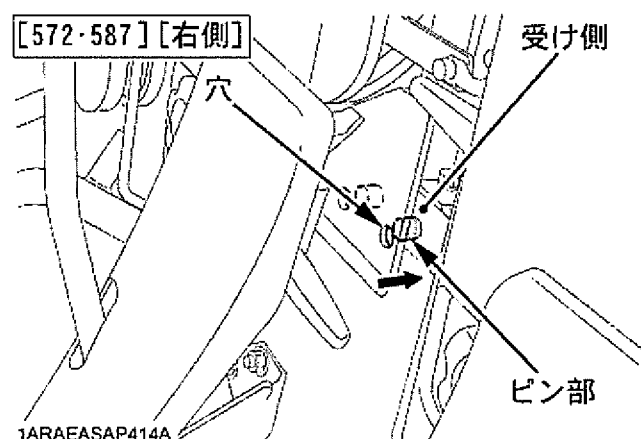
開きかたと逆の手順で閉じてください。

重 要

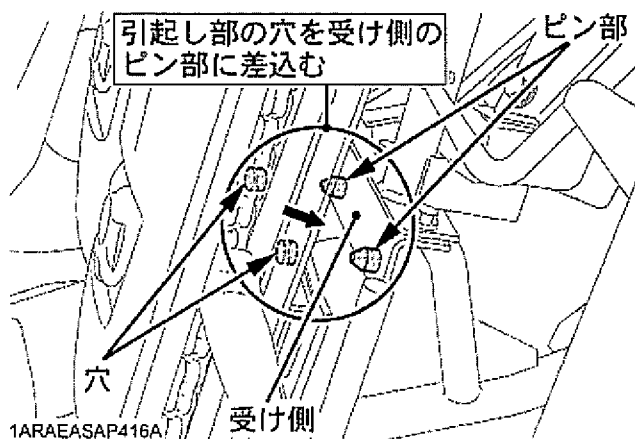
- * 引起し部を閉じるときは、左側から閉じてください。
- * 引起し部を閉じたときは、クランプとボルトで確実に引起し部と刈取フレームを固定してください。
- * 引起し部を閉じるときは、ゆっくりと閉じて最後まで手を離さないでください。勢いよく閉じると、引起し爪が刈取フレームの丸棒に接触して破損するおそれがあります。

補 足

- * 引起し部を閉じたあと、刈取フレームにデバイダをボルトで固定するとき、取付穴にずれがあるときは、引起し部を受け側にきちんとセットしてください。



メンテナンス



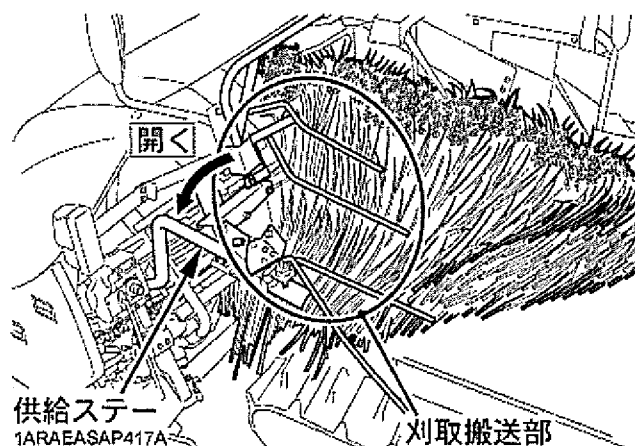
■刈取搬送部の開閉

⚠ 警告

- * 刈取搬送部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。
- * 刈取搬送部を開いた状態で走行をしないでください。

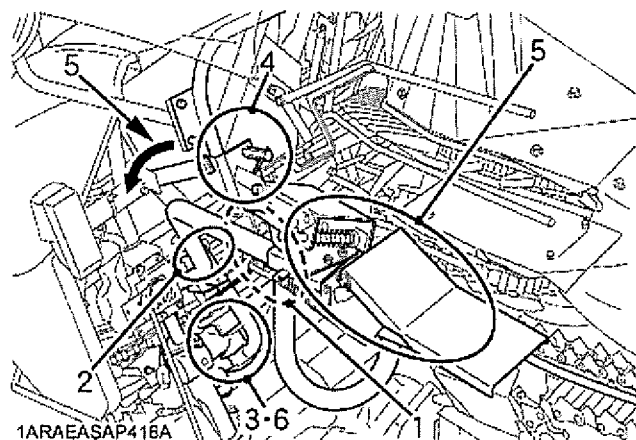
補 足

刈取搬送部にわら詰まりが発生したときは、供給ステーを開き、わらを取除いてください。

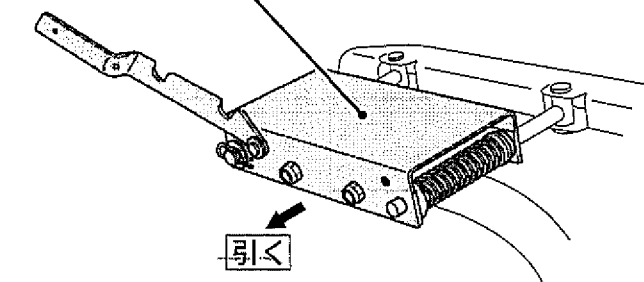
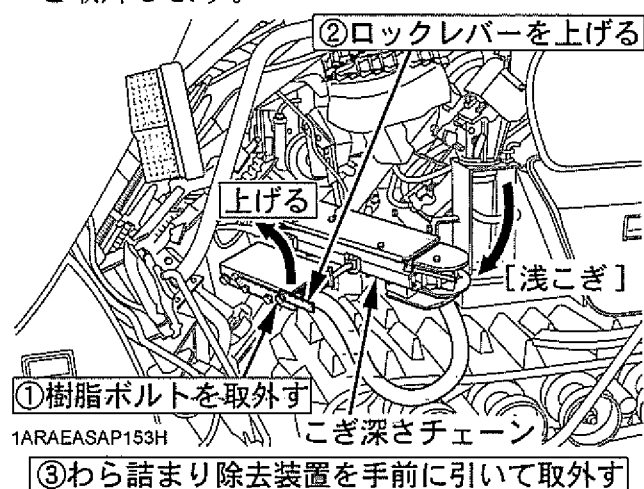


◆開きかた

機体、左分草かん及び刈取部を最下降位置にし、作業レバーを「切」位置にしてこぎ胴を詰まり除去位置にしたあと、こぎ深さチェーンを最下降（浅こぎ側）位置にしてエンジンを停止します。そのあと、下図の手順に従って刈取搬送部を開きます。

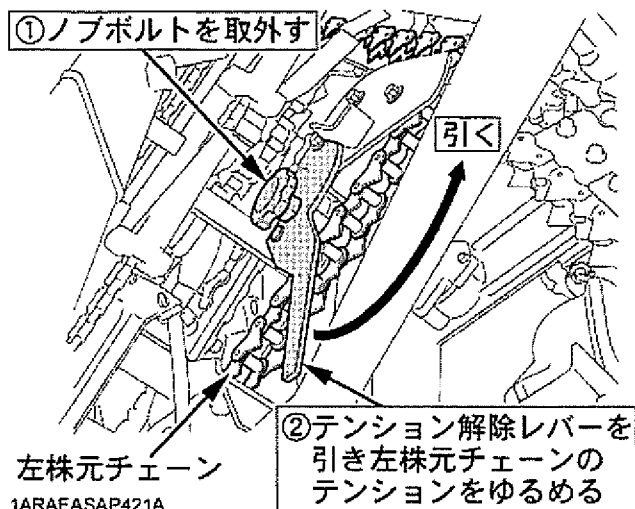


1. こぎ深さチェーンのわら詰まり除去装置を取外します。

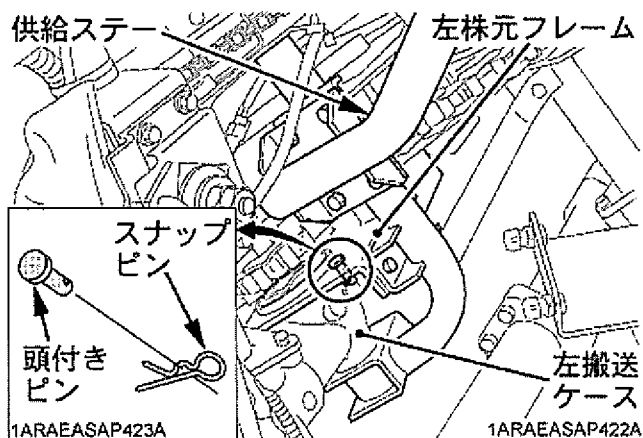


メンテナンス

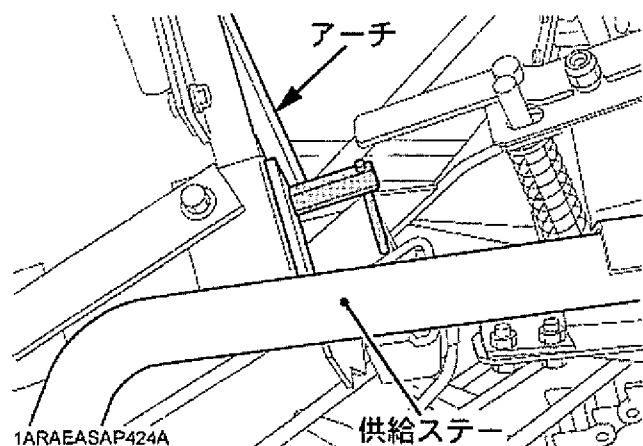
2. 左株元チェーンのテンションをゆるめます。



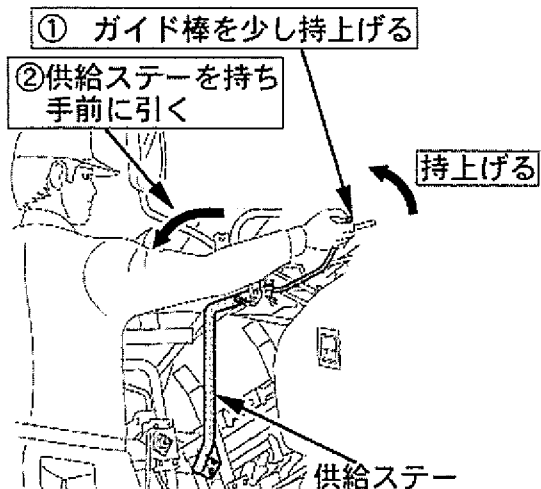
3. 左株元フレームと左搬送ケースを固定している頭付きピンとスナップピンを取外します。



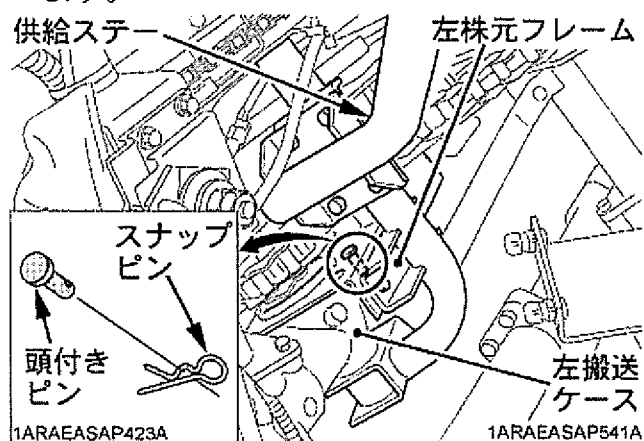
4. アーチに固定しているジャッキボルトを取外します。



5. ガイド棒を前方に少し持ち上げた状態で、供給ステーといっしょに手前に引きます。



6. 供給ステーを開いた状態で左株元フレームと左搬送ケースに頭付きピンとスナップピンを取付けて供給フレームを固定します。



補 足

詰まったわらを取除いてください。

◆閉じかた

開きかたと逆の手順で取付けてください。

重 要

取外した各部品やカバー類は必ず取付けてください。

メンテナンス

■運転操作部の開閉

⚠ 注意

- * 運転操作部を開閉するときは、平坦で安全な場所でエンジンを必ず止めて行なってください。
- * 取外したカバー類や部品は、必ず取付けてください。
- * 傾斜地では運転操作部の開閉を行なわないでください。
- * 運転操作部を開いたまま走行しないでください。
- * 運転操作部を開いた状態で運転操作部付近に入らないでください。
- * 運転操作部を開いたときは、運転操作部が閉じないように頭付きピンを必ず取付けてください。運転操作部が閉じると体がはさまれてケガをするおそれがあります。
- * オーバヒートなどで運転操作部を開けて点検・整備をするときは、次の手順に従ってください。
 - (1) 作業を中止する。
 - (2) エンジンを約5分間アイドリング回転で運転したあと、エンジンを停止する。
 - (3) エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
 - (4) 点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認する。
- * エンジンが冷えていないとき、運転操作部を開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ、あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

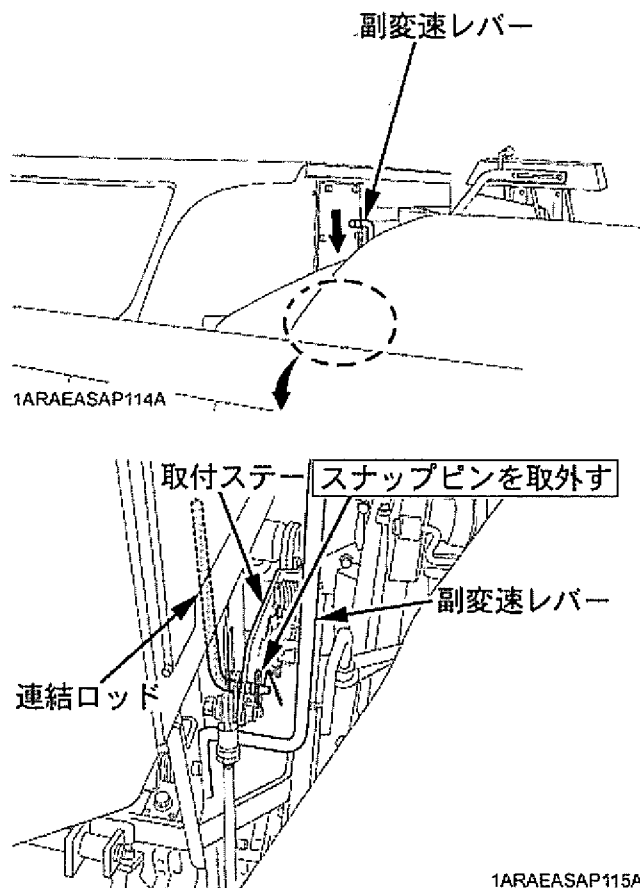
◆開きかた

1. 駐車ブレーキを解除します。

補 足

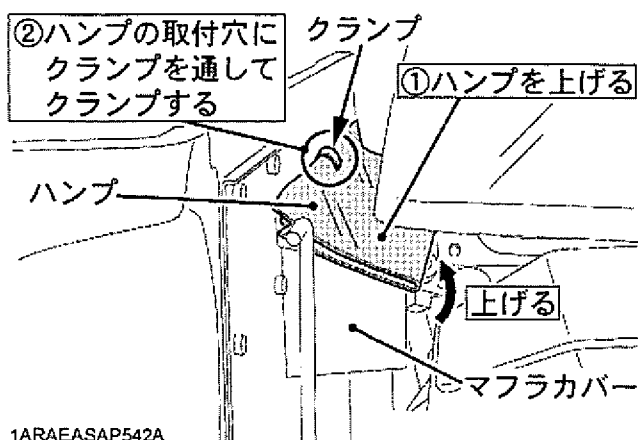
駐車ブレーキが掛かっていると、運転操作部を閉じるとき正しく閉じません。

2. 主変速レバーの連結ロッドを取付けステーから取外します。

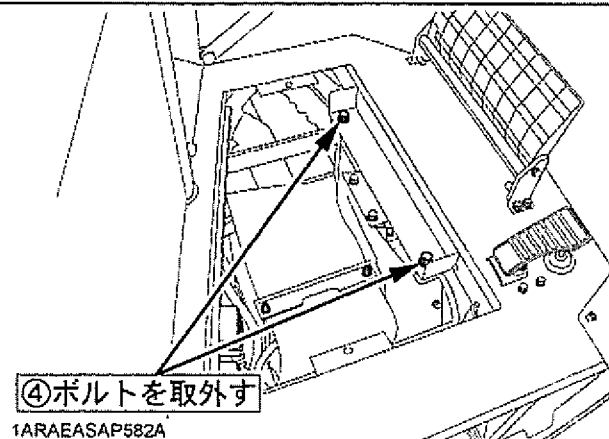
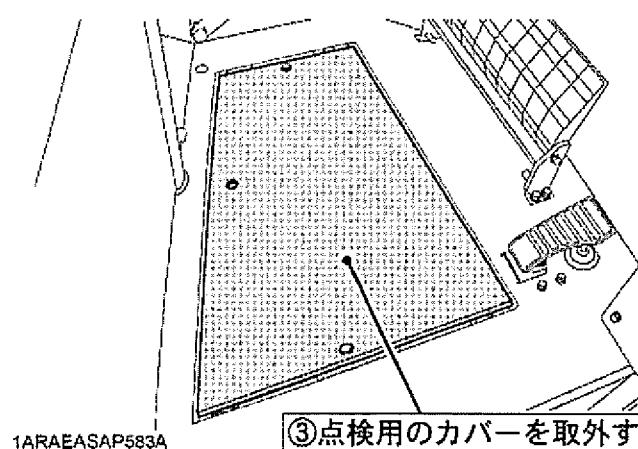
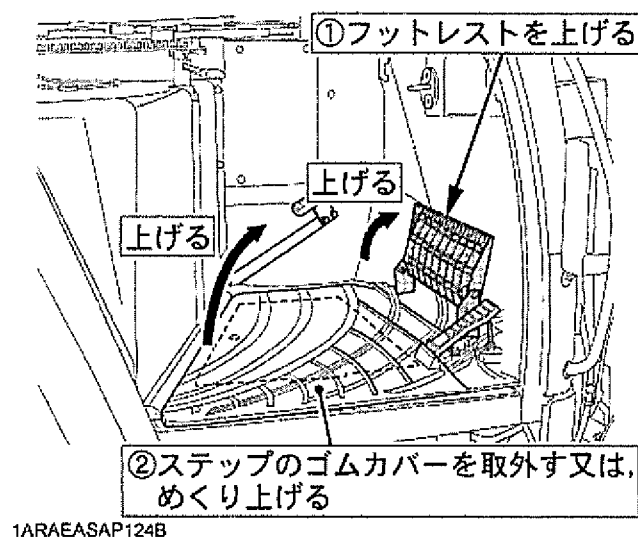


メンテナンス

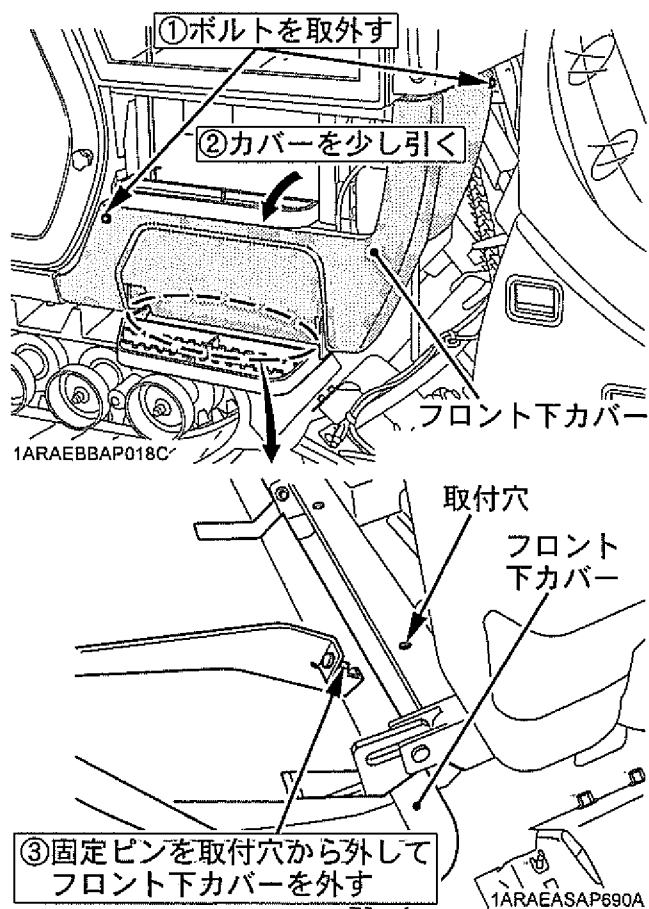
3. マフラカバーのハンプを引上げて、クランプで固定します。



4. ステップ下にある運転操作部と本機を固定しているボルトを取外します。

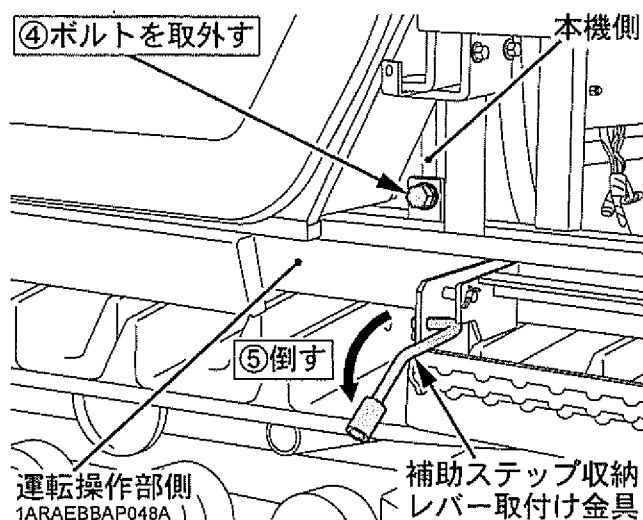
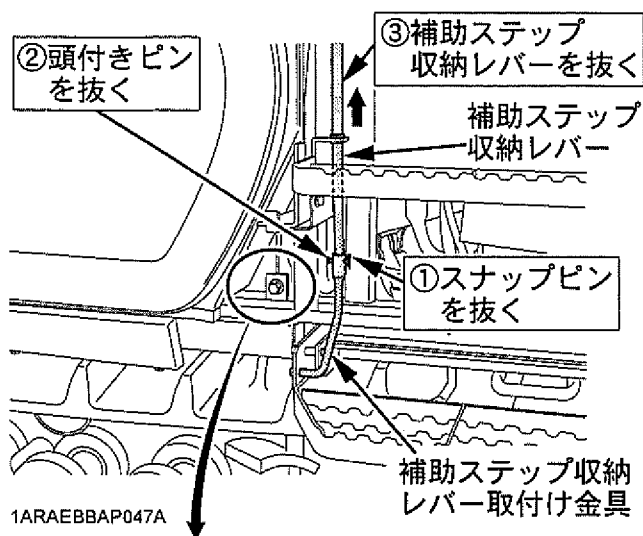


5. フロント下カバーを取外します。



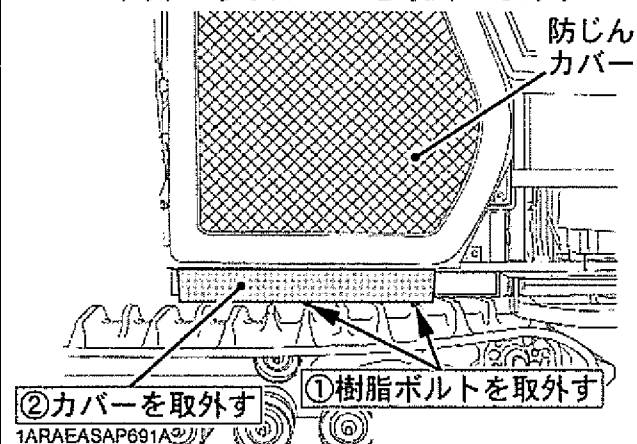
メンテナンス

6. 補助ステップ収納レバーを取外したあと、運転操作部と本機を固定しているボルトを取外します。



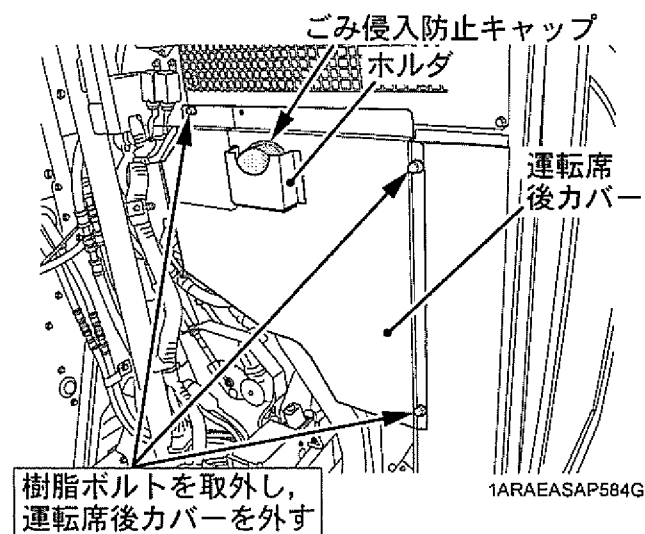
7. 補助ステップ収納レバー取付け金具を手前に倒します。

8. [DX] はドアを閉じたあと、防じんカバーの下側にあるカバーを取外します。

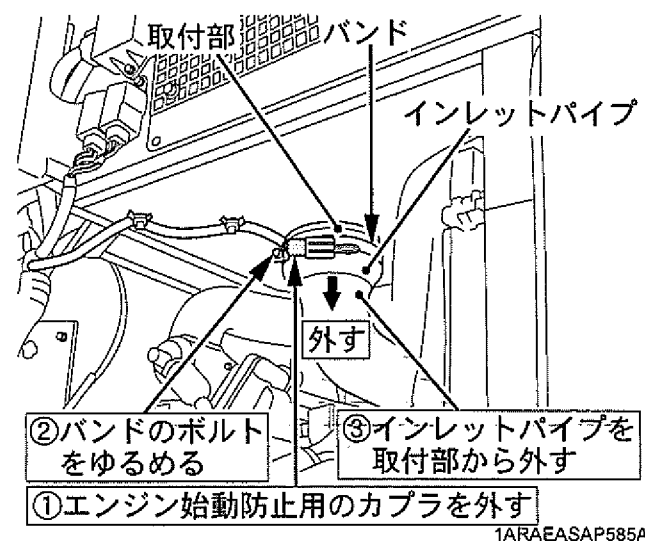


9. 転席後の添加装置のタンク、タンクステー等を外します。

10. 転席後カバーに収納しているインレットパイプのごみ侵入防止キャップをホルダから取外したあと、運転席後カバーを取外します。

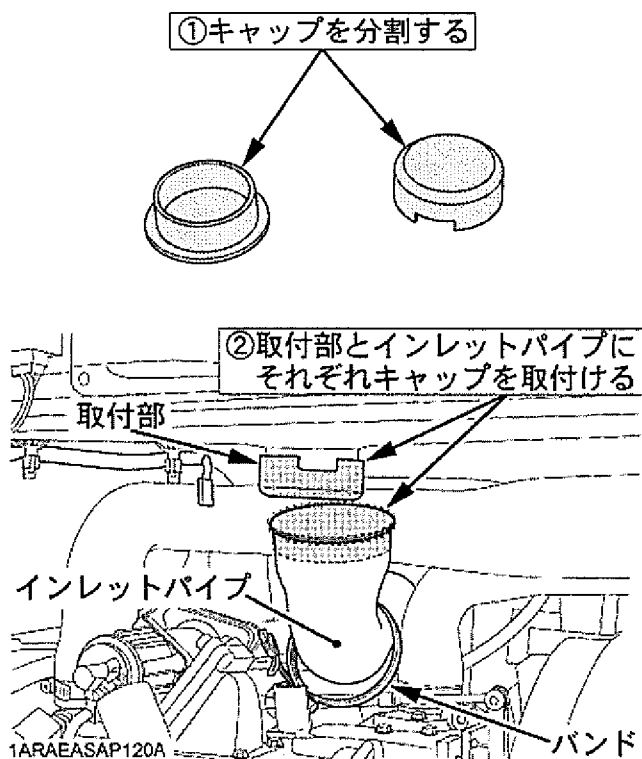


11. インレットパイプを取付部から外します。



メンテナンス

12. ごみ侵入防止キャップを取付部とインレットパイプにそれぞれ取付けます。



重要

- * インレットパイプを脱着するときは、インレットパイプ内にごみなどの異物が入らないように注意してください。エンジンの故障の原因となります。

補足

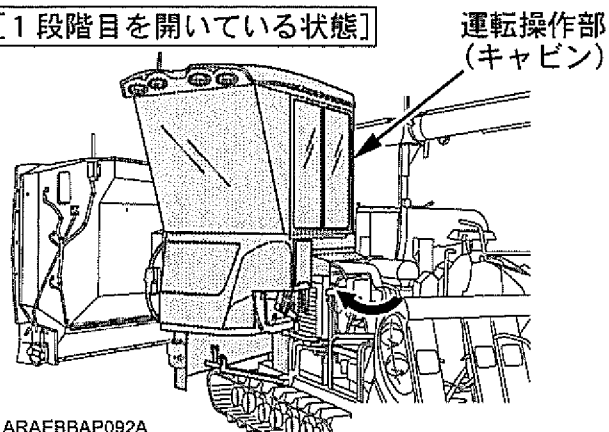
キャップは落下しないようにきちんと取付けてください。

13. 運転操作部を開きます。

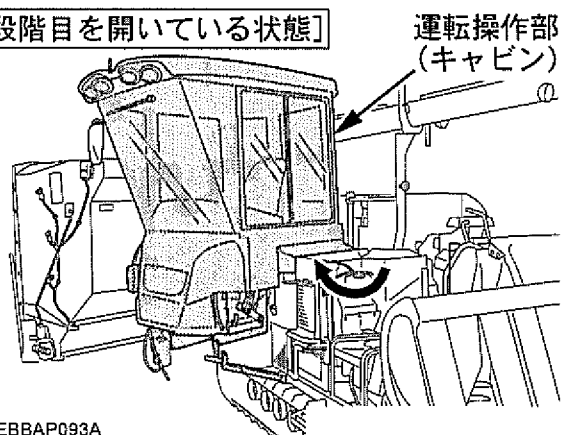
補足

運転操作部は、2段階開きます。メンテナンスなどで必要に応じて開度を選んでください。

[1段階目を開いている状態]

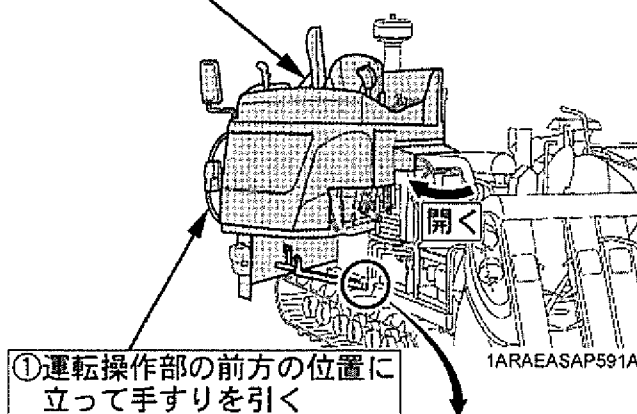


[2段階目を開いている状態]



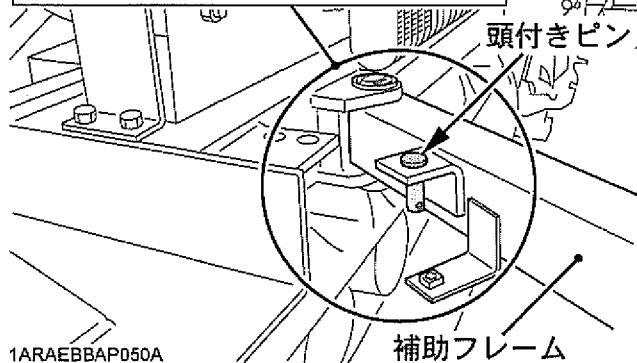
メンテナンス

運転操作部

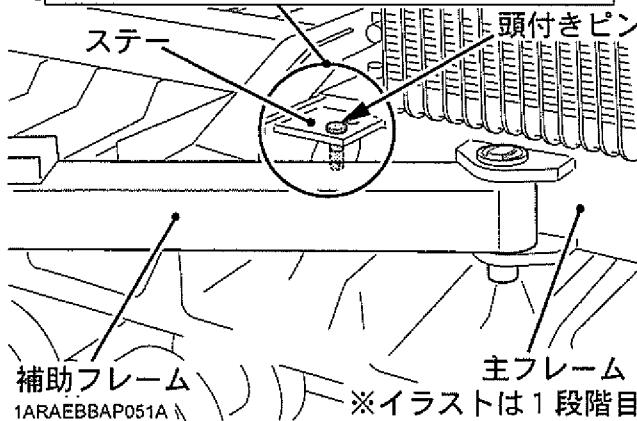


①運転操作部の前方の位置に立って手すりを引く

②いったんこの位置で停止したあと、頭付きピンを取外す

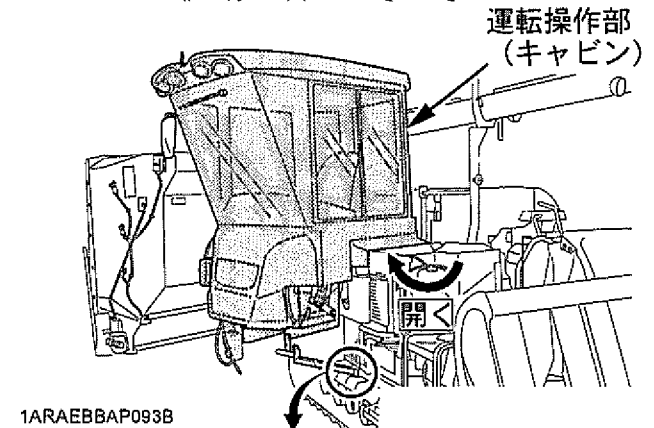
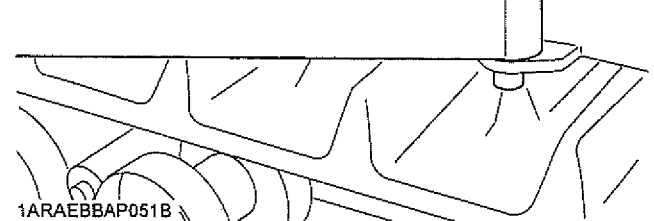
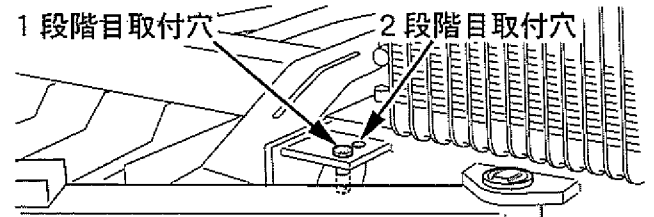


③運転操作部を主フレーム側に動かし、主フレーム側のステーと補助フレームの取付穴の穴位置を合わせて頭付きピンを差込んで固定する



補 足

* 運転操作部を2段階目まで開いたときは、2段階目の取付穴に頭付きピンとスナップピンを差込んで固定してください。



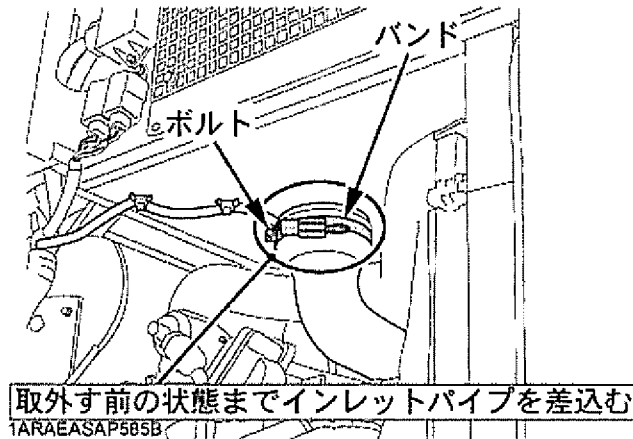
メンテナンス

◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

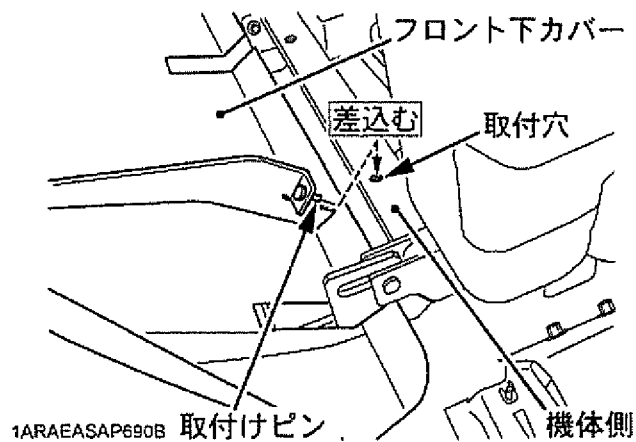
重 要

インレットパイプを取付けるとき、取付部にしっかりと差込んだあと、バンドのボルトを締めるとき、締め忘れ又は、締め過ぎに注意してください。



補 足

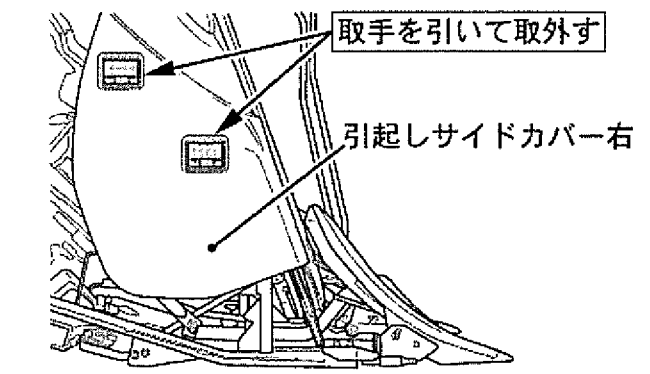
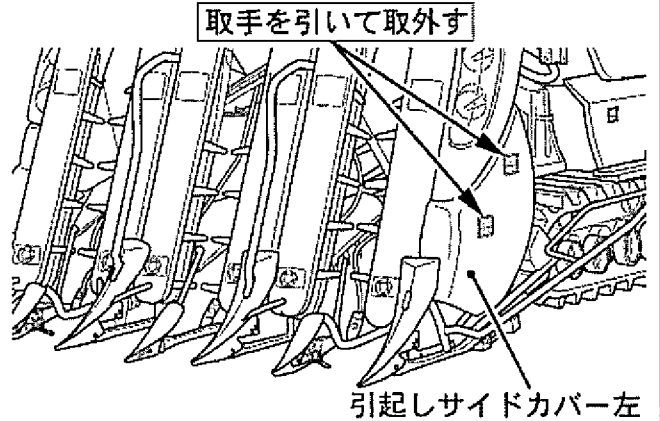
フロント下カバーを取付けるときは、取付けピンを機体側の取付穴に必ず差込んでから取付けてください。



■引起しサイドカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた



1ARAEASAP172B

引起し爪を全て上側に倒したあと、引起しサイドカバーを取付けます。

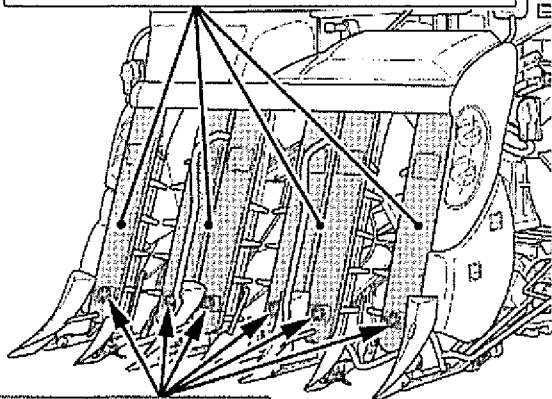
メンテナンス

■引起しカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

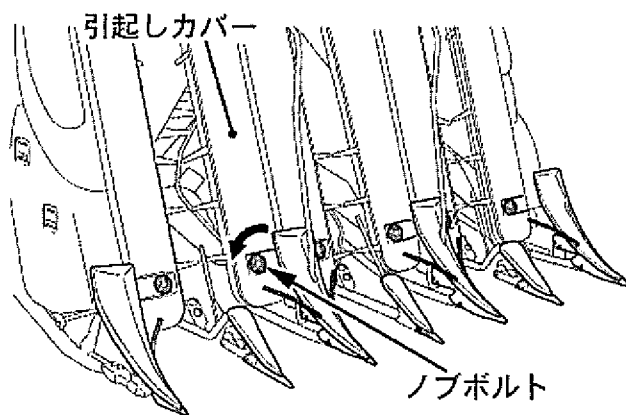
◆取外しかた

②引起しカバーを少し持上げて取外す



1ARAEASAP668H

①ノブボルトを外す



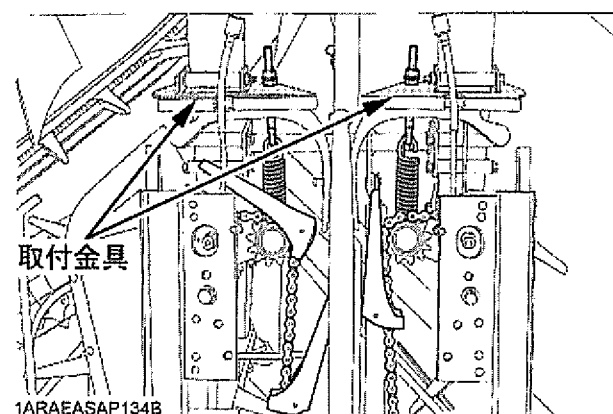
1ARAEASAP063D

◆取付けかた

引起しカバーを取付けてノブボルトを締付けてロックします。

補 足

引起しカバーを取付けるとき、上部にある取付金具に引掛けてください。



1ARAEASAP134B

メンテナンス

3. 各部の掃除と注油のしかた

きかいの故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

⚠ 警告

- * エンジンを必ず止めてください。
- * 取外したり、開いた回転部のカバー類は衣服などが巻き込み危険ですので必ず取付けてください。
- * 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
- * バッテリー、マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので、取除いてください。

⚠ 注意

- * 刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- * 空運転するときには必ず機体各部の開いたところは閉じ、カバー類を取付けてください。
- * オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品が劣化します。)
- * 刈刃やカッタの掃除・注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

- * 水洗いするときは、電装部品に水を掛けないでください。故障の原因になります。
- * 取外したボルトやナットは、必ず締付けてください。トラブルの原因となります。

補 足

- * 湿田で作業したあとは、クローラ及び周辺の泥を必ず取除いてください。

メンテナンス

■各部の注油

⚠ 警告

- * 回転物や可動部に手や腕など体を近付けないでください。巻込まれてケガをするおそれがあります。特に機械が動いているとき、油差しを使っての注油作業や注油後の確認を行なうときは、じゅうぶん注意してください。
- * 木片などで車止めをし、暴走を防いでください。
- * そで口はきっちり止めて、はち巻き、首巻き、腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
- * 刈取部、引起し部などの各部を開いて作業を行なうときは、下記事項を遵守してください。
- 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
- 傾斜地では、各部の開閉は行なわないでください。
- 刈取部、引起し部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- 各部を開いた状態で走行をしないでください。
- 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- * 刈取部を開いた状態で作業するときは、枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部の開閉を行なうときは、機体を最下降位置にしてください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

⚠ 注意

- * エンジン始動時やクラッチレバーを操作するときは、ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

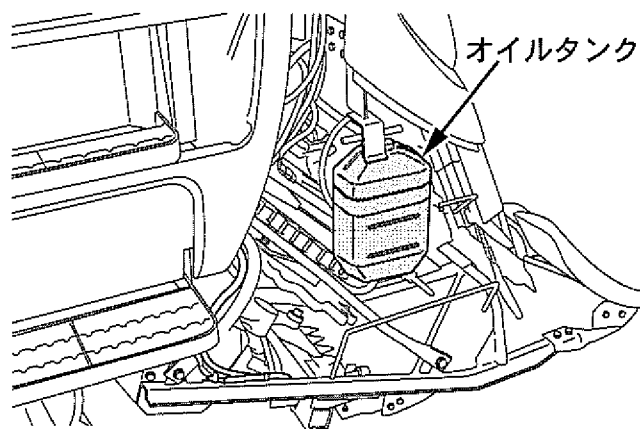
機体各部の掃除が終わったあと又は、刈取り作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

◆自動集中注油装置による注油

自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補 足

- * 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では、気温の上がる昼間に注油してください。
- * 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。
- 注油のしかた
 1. 平たんな場所に刈取部を地面から5～15 cmの位置にしたあと、エンジンを停止します。
 2. 引起しサイドカバー右を取外し、オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



1ARAESAP328B

メンテナンス

重要

* 指定のオイル以外は使用しないでください。また、廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると、ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

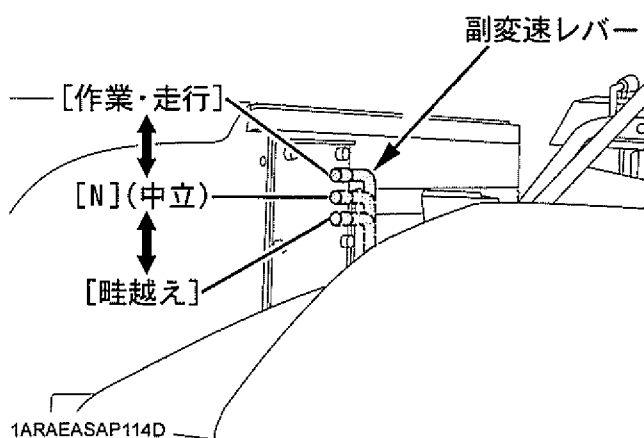
オイルの種類	オイルタンク量
クボタ純正オイル D30 又は D10W-30	約 4ℓ

- エンジンを再始動したあと、楽刈アクセルスイッチを「切」にして自動アクセル制御を解除します。
- アクセルダイヤルを回して、エンジン回転数を中速回転（約2000rpm）にしたあと、作業レバーを刈取「入」位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

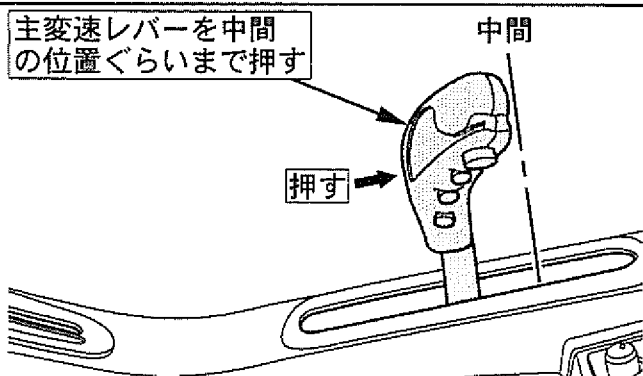
補足

* チェーンは中速回転で注油してください。
* 注油したときチェーンが停止していると、オイルが1箇所に集中するため、ベルトやカバーにオイルが付着したり、チェーンのスリップの原因となります。

- 副変速レバーを「N」（中立）位置にしたあと、駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで押し



主変速レバーを中間の位置ぐらいまで押す

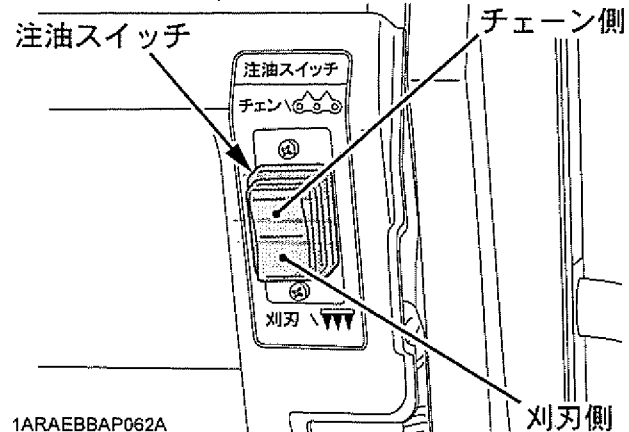
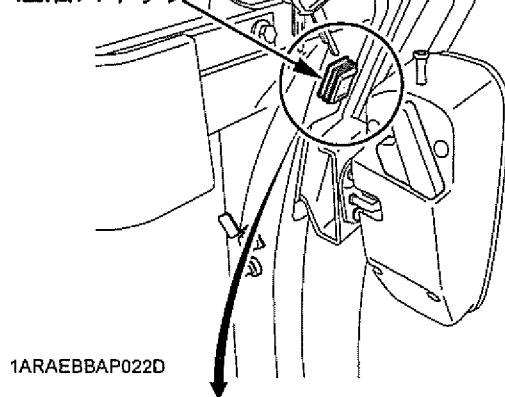


- 注油スイッチを押して各部チェーンと刈刃の

両方共に行ないます。

- * 各部チェーンの注油…注油スイッチを上側へ7～10秒間連続で押す。
- * 刈刃の注油……注油スイッチを下側へ5～7秒間断続で押す。

注油スイッチ



メンテナンス

重要

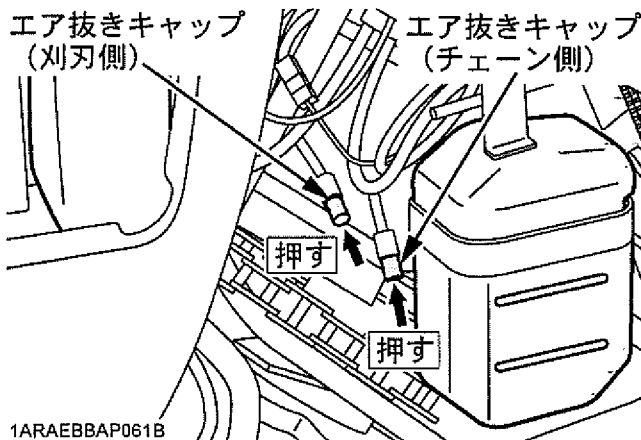
- * オイルタンク内のオイルが空の状態では注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
 - * 万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り、注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は、エア抜きキャップを押し、エア抜きしてから作動してください。
 - * 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく、故障の原因になります。
6. エンジンを停止したあと、各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

補足

- * 注油されていないときは、各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。
 - * 最初の1回目は配管内部にオイルがゆきわたり、配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約30 秒かかります。
7. 主変速レバーを[停止]位置にしたあと、副変速レバーを[作業・走行]位置にします。

◆エア抜きの方法

チェーン側と刈刃側のエア抜きキャップをそれぞれ押してから、注油スイッチを押して、油を送出してください。



1. 注油後2～3分間そのままの状態でも運転します。
2. 主変速レバーを[停止]位置にし、エンジンを止めたあと、引起しサイドカバー右を取付けます。

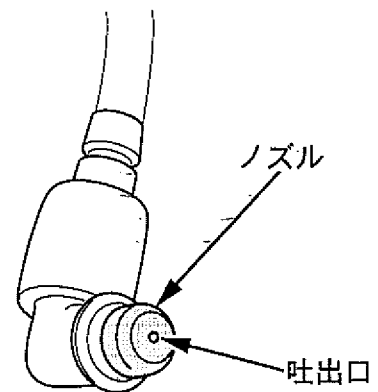
◆注油箇所・集中注油ノズルの掃除・グリース塗布自動集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は、油差しで行なってください。

1. 自動集中注油箇所と掃除のしかた

ノズルからオイルが出ていないときは、エンジンを必ず止めて、各ノズルの吐出口の掃除を行なってください。掃除を行なうときは、水洗い又は圧縮空気などを使用してください。

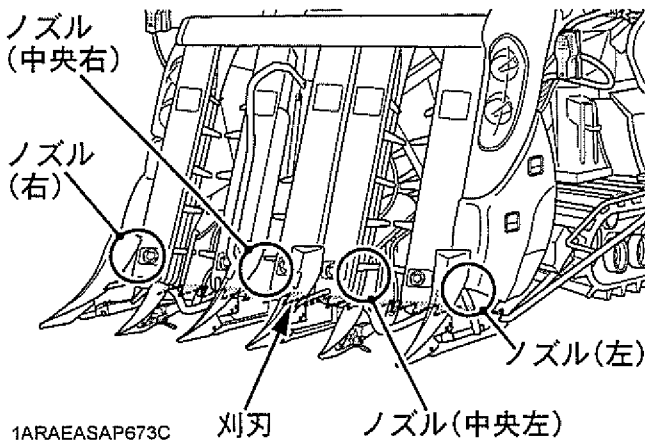
補足

- * ノズル先端部の吐出口の掃除を行なうときは、必ず針などを使用してください。つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また、各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を取外すと掃除が容易に行なえます。

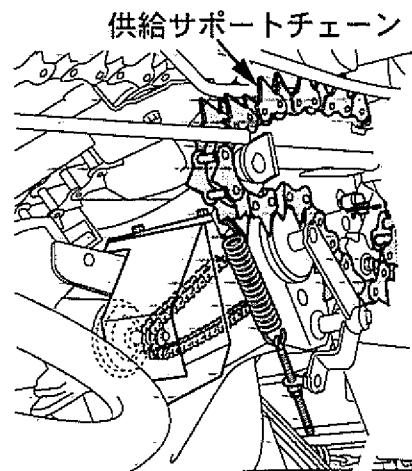
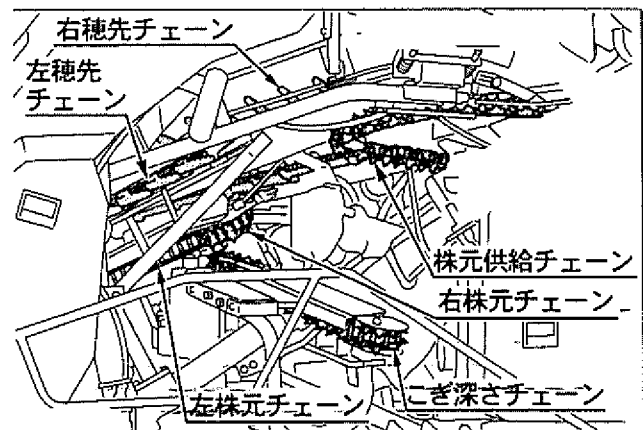
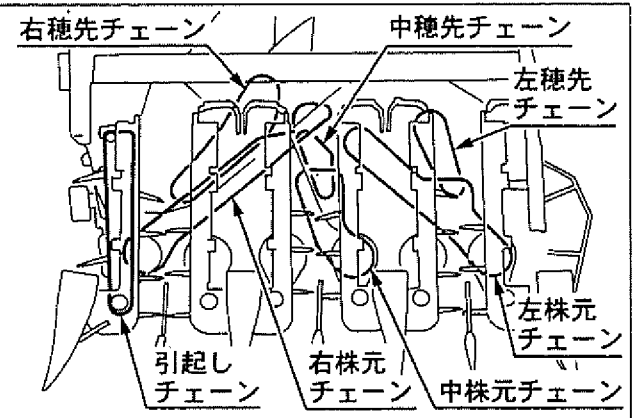
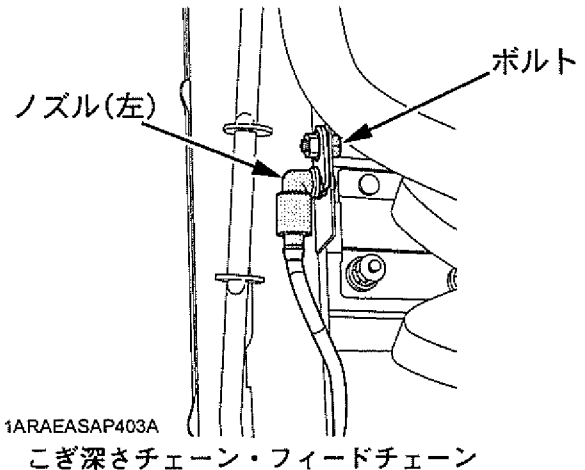
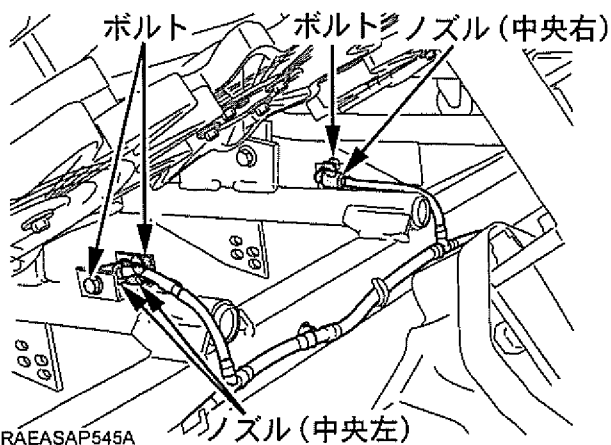
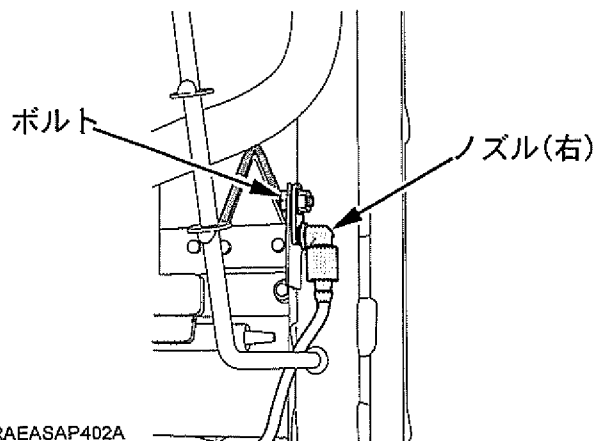


メンテナンス

●刈刃



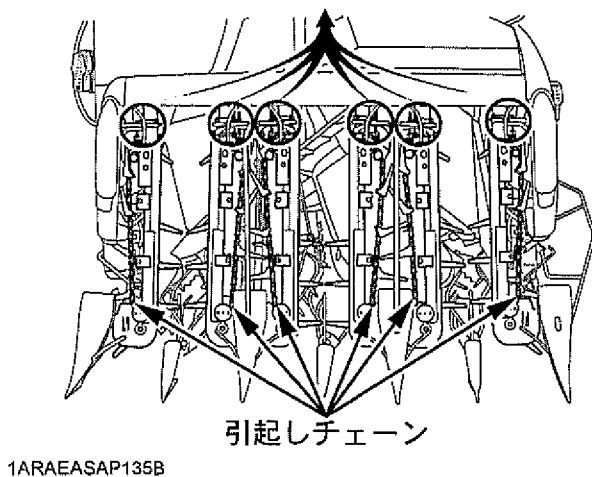
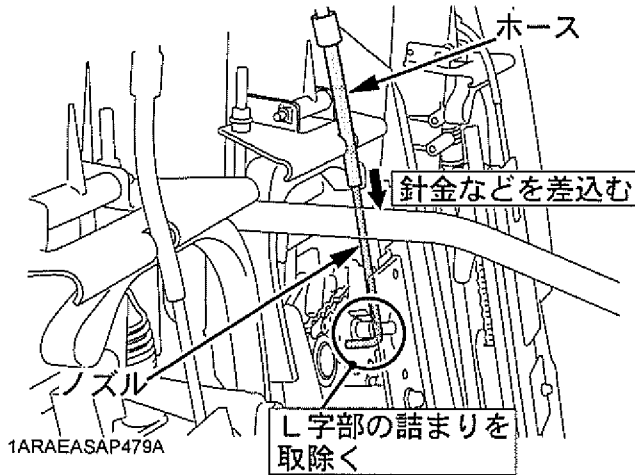
刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし、泥などの異物を取除いてください。また、引起しサイドカバー左右を取外したあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後はノズルを取付けたあと、引起しサイドカバー左右を取付けてください。



メンテナンス

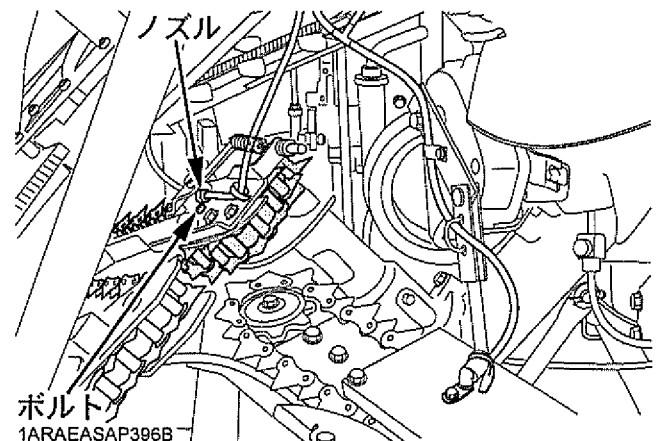
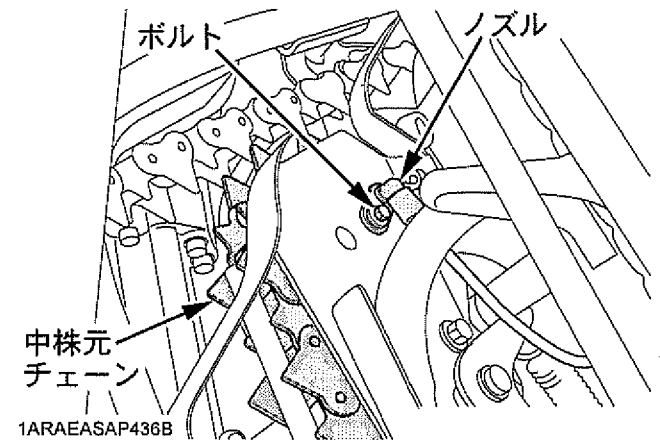
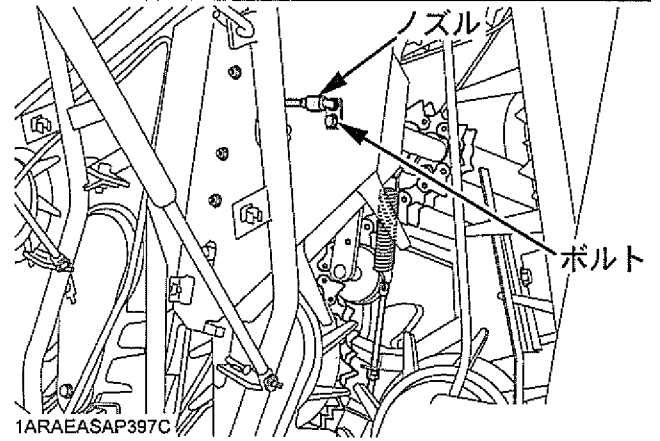
●引きしチェーン

各引きしカバーを取外したあと、ホースをノズルから抜き取り、針金などでL字部の詰まりを取除いてください。掃除後は、各引きしカバーを取付けてください。



●右穂先チェーン

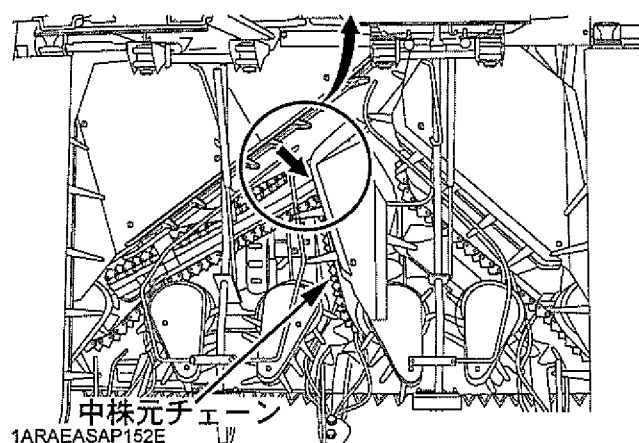
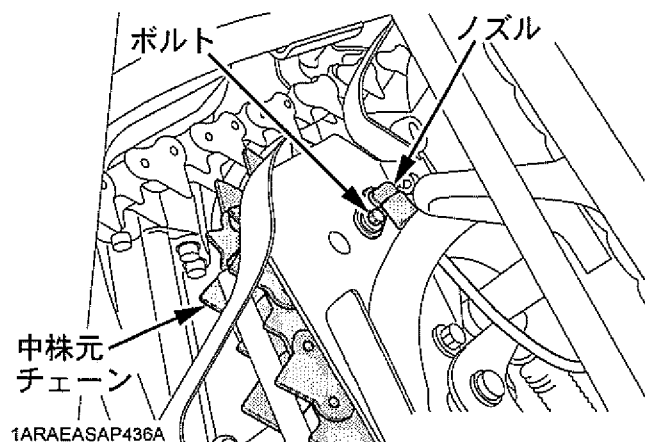
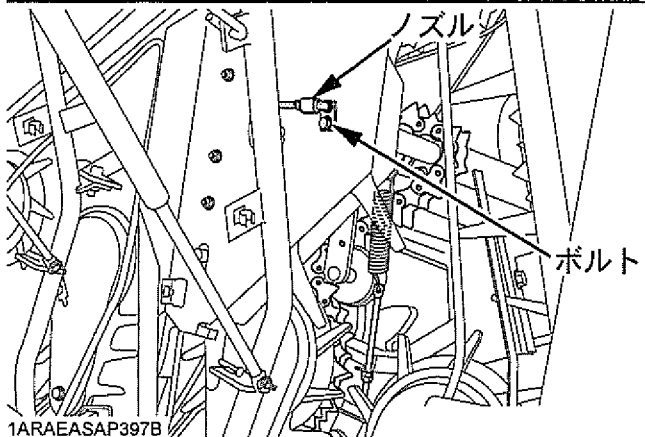
ボルトを外して右穂先カバー上を取外したあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、右穂先カバー上を取付けてください。



●中穂先チェーン・中株元チェーン

引きし部を開いたあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、引きし部を閉じてください。

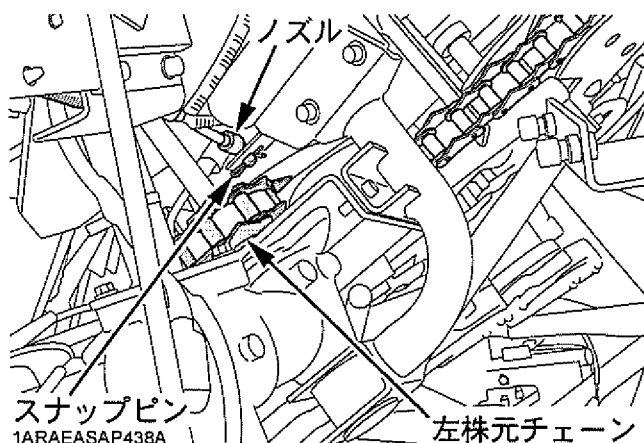
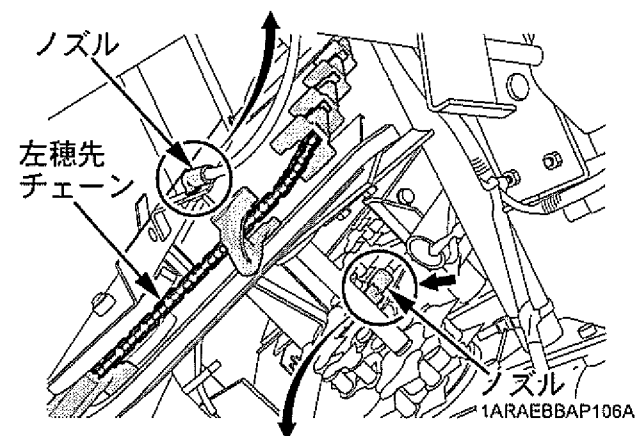
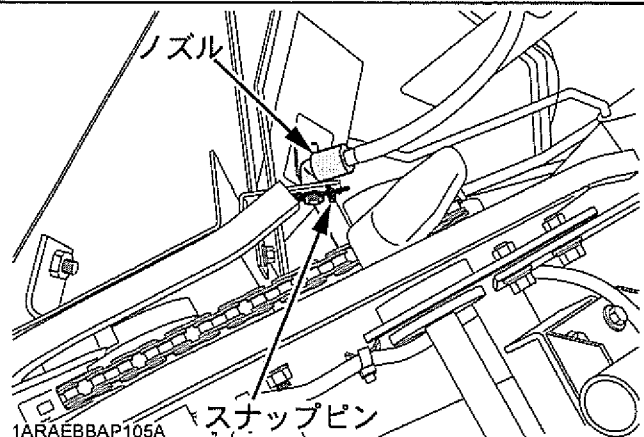
メンテナンス



●左穂先チェーン・左株元チェーン

刈取左サイドカバーを取外したあと、スナップピンを取外してノズルを外して掃除してください。

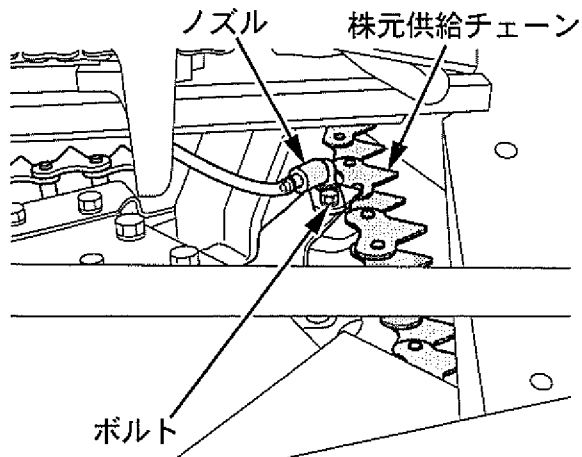
掃除後は、スナップピンを取付けたあと、ノズルを取付け刈取左サイドカバーを取付けてください。



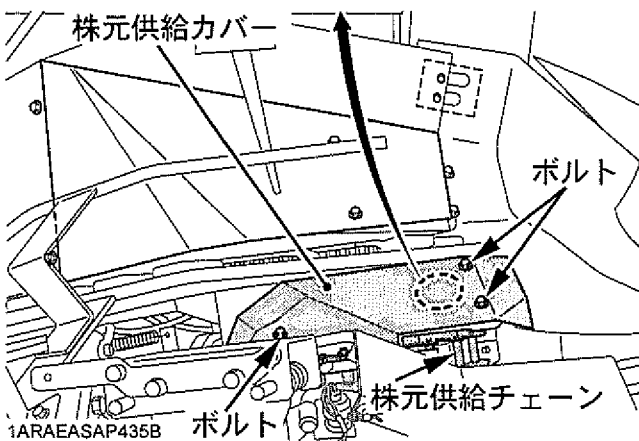
●株元供給チェーン

ボルトを外し、株元供給カバーを取外したあと、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、株元供給カバーを取付けてください。

メンテナンス



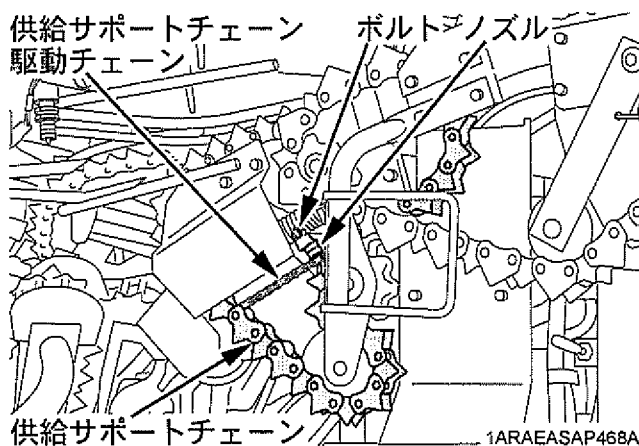
1ARAEAP077A



1ARAEASAP435B

●供給サポートチェーン

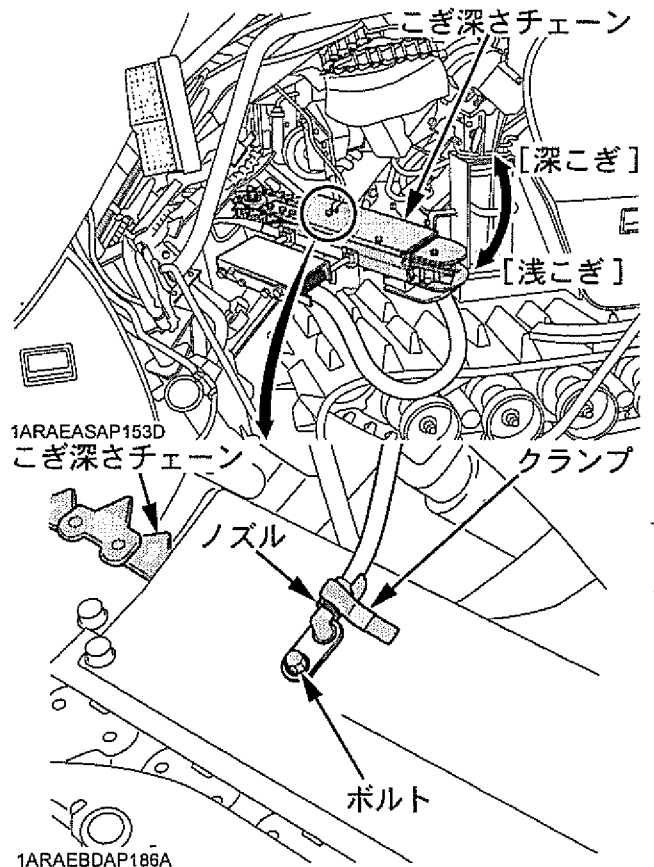
左サイドカバー上1を取外したあと、ボルトを取外し、ノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、左サイドサイドカバー上1を取付けてください。



1ARAEASAP468A

●こぎ深さチェーン

こぎ深さチェーンを浅こぎ位置にしたあと、クランプを外し、ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取付けたあと、クランプをしてください。



1ARAEASAP153D

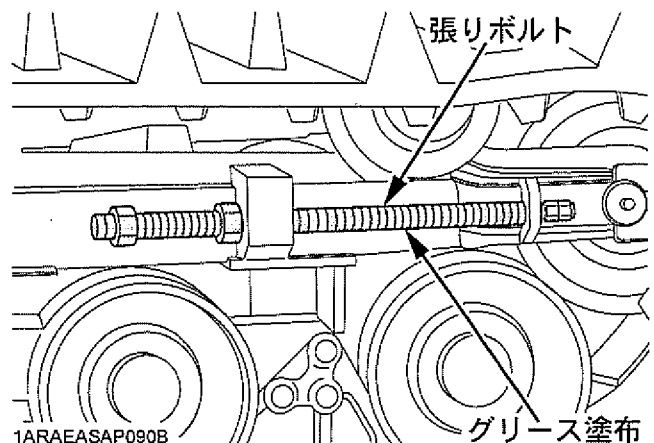
こぎ深さチェーン

1ARAEBDAP186A

2. グリース塗布

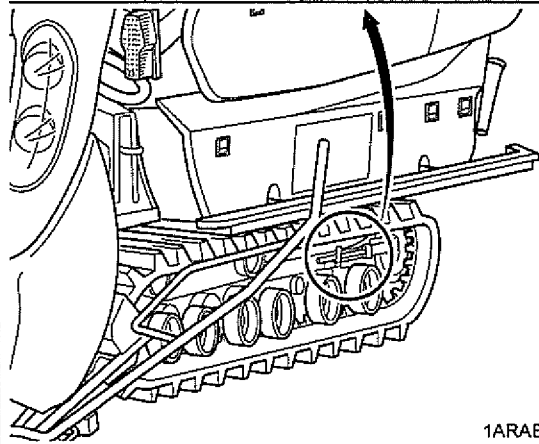
グリースを塗布してください。

●クローラ張りボルト (左, 右)



1ARAEASAP090B

メンテナンス



1ARAEASAP668L

◆注油・掃除後の処置と確認

注油・掃除終了後は、取外したり、開閉した掃除口カバーや安全カバーは必ず取付けてください。

4. 定期点検

定期点検は、収穫機作業を行なう人が定期的に行なう点検です。

収穫機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくとは故障や事故の原因となり、ひいては収穫機の寿命を短くしてしまいます。

収穫機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。

⚠ 警告

- * 各部の調整・点検・交換を行なうときは、エンジンを必ず停止させ、各レバー類を「切」位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。
- * 取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

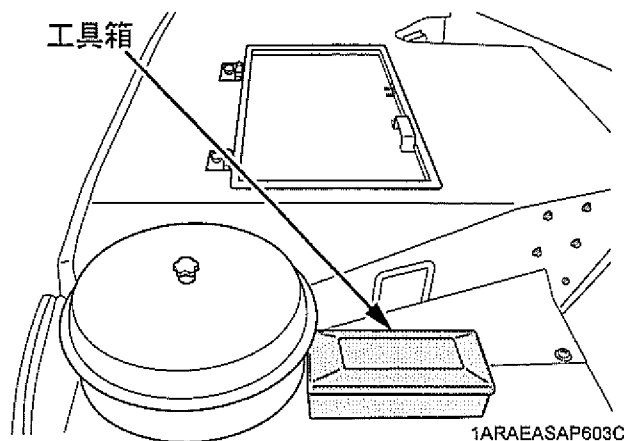
⚠ 注意

- * 点検・作業するときは、駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。もし刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを「ロック」位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- * エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは、内部がじゅうぶん冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。
- * オイル交換中は火気厳禁。
- * 刈刃やカッタの掃除や注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
- * 機械は平たんで、周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリー、マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因となります。
- * 燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。

補 足

- * 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先又は、整備工場で行なってください。
- * 点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目安として早目の点検をお願いします。
- * 工具箱は下図の位置にあります。

メンテナンス



5. オイル、フィルタ類の交換と チェーン、ベルト、クローラの張り調整

1. 新車時は収穫機の回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんので、ならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって、オイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期20又は、50時間で張り調整をしてください。(交換したときも同様です。)

6. 廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- * 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- * 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- * 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

7. 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤まると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意

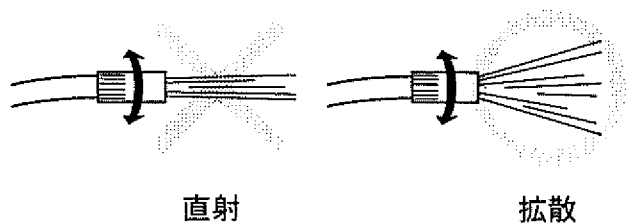
機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により、高压の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例)

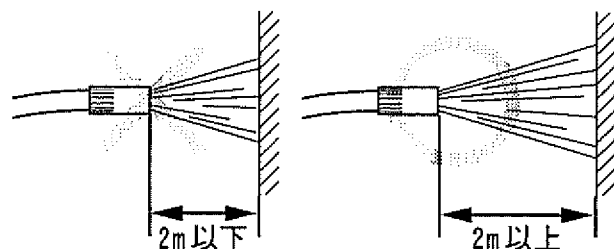
- (1) シール・ラベルの剥がれ
- (2) 電装部品、エンジン・ラジエータ室内への浸入による故障
- (3) クローラ、タイヤ、オイルシール等のゴム類、化粧カバー等の樹脂部品、ガラス等の破損
- (4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは、購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- エンジン本体
- トランスミッション
- ギヤ（ベベルギヤを含む）
を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST 含む）
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

重要

分解・調整・交換などを自力行なうと機械のトラブルの原因となります。また、メーカー保証の対象外となりますのでご注意ください。

メンテナンス

8. 定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
冷却水（リザーブタンク）	補水・交換	作業前又は、作業後	165
ウォッシュ液	補給		168
◆エンジン部			
ファン駆動ベルト	交換	500 時間ごと	182 ☆
逆流ファン切換えワイヤ	交換	500 時間ごと	☆
エアクリーナエレメント	交換	50 時間ごと	169
	掃除	300 時間ごと	
インレットパイプ (エアクリーナ)	締付け	150 時間又は、 6 ヶ月月ごとの早いほうで点検・処置	170
	交換	300 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換	
燃料フィルタカートリッジ	交換	400 時間ごと	173
油水分離器	掃除	100 時間ごと	172
エンジンオイルフィルタ カートリッジ	交換	初回:50 時間、それ以降 200 時間ごと (エンジンオイルの交換と同時に交換)	174
燃料ホース	締付け	150 時間又は、 6 ヶ月ごとの早いほうで点検・処置	170 ☆
	交換	300 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換	
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	☆
オイルドレーンゴムホース	締付け	150 時間又は、 6 ヶ月ごとの早いほうで点検・処置	170 ☆
	交換	300 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換	
ラジエータホース	締付け	200 時間又は、 6 ヶ月ごとの早いほうで点検・処置	170 ☆
	交換	400 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換	
排水ホース	締付け	200 時間又は、 6 ヶ月ごとの早いほうで点検・処置	170 ☆
	交換	400 時間又は、2 年ごとの早いほうで交換	
防じんあみ、 ラジエータフィン、 HST オイルクーラフィン、 トランスミッション オイルクーラフィン	掃除	50 時間ごと	171
エンジン正逆流ファン部	補給	500 時間ごと	164

●参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。

●上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
◆走行・操作部			
ミッション駆動ベルト	調整	初回又は、交換後:20 時間後、 それ以降 100 時間後	183 ☆
	交換	500 時間ごと	
駐車ブレーキワイヤ	調整	50 時間ごと	178 ☆
	交換	300 時間ごと	
ブレーキディスク	交換	500 時間又は、2 年ごとの早いほうで点検	☆
HST オイルフィルタ カートリッジ	交換	初回:50 時間後、それ以降 300 時間ごと (油圧オイルタンクオイルの交換と 同時に交換)	174 ☆
油圧オイルタンクフィルタ	洗浄	300 時間ごと	174 ☆
	交換	初回:50 時間後、それ以降 600 時間ごと (油圧オイルタンクオイルの交換が 2 回目に交換)	
トランスミッションオイル フィルタカートリッジ	交換	初回:50 時間後、それ以降 300 時間ごと (トランスミッションケースオイルの 交換と同時に交換)	174 ☆
クローラ	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	208 ☆
	交換	800 時間ごと	
反射器	交換	破損しているとき	☆
クローラガイド	交換	800 時間ごと	☆
トラックローラ、 イコライザボス	交換	800 時間ごと	210
キャリアローラ、 ボールベアリング 及びシール、 モンローリンク部のブッシュ	交換	800 時間ごと	☆
車軸のオイルシール	交換	1000 時間ごと	☆
ドライブローラ (スプロケット)	点検	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	210 ☆
	入換え	200 時間ごと	
	交換	400 時間ごと	
揺動転輪部	補給	作業シーズン終了後	163
固定転輪部			
可動転輪部			
スイングアーム部			
トラックフレーム部			
ボス支部			

●参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。

●上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
◆刈取部			
刈取駆動ベルト	調整	初回又は、交換後:20 時間後、 それ以降 50 時間ごと	183 ☆
	交換	500 時間ごと	
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回又は、交換後:50 時間後 それ以降 100 時間ごと	183 ☆
	交換	500 時間ごと	
引起しチェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	186 ☆
	交換	300 時間ごと	
引起し爪	交換	300 時間ごと	
引起し 65 ローラの ベアリング	交換	500 時間ごと	☆
引起しスプロケット、 引起しテンションス プロケット、 引起し駆動シャープピン	交換	500 時間ごと	☆
引起しフレーム、 引起しカバー	交換	1000 時間ごと	☆
スライドレール、 クッションゴム	交換	1000 時間ごと	☆
供給サポートチェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	191 ☆
	交換	300 時間ごと	
供給サポートチェーン駆動 チェーン	交換	300 時間ごと	191 ☆
供給サポートチェーンの 駆動シャープピン、 ローラベアリング	交換	500 時間ごと	☆
供給サポートチェーンの駆動 スプロケット	交換	300 時間ごと	☆
右穂先チェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	187 ☆
	交換	300 時間ごと	
右穂先爪	交換	300 時間ごと	

●参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。

●上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
右株元チェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	188 ☆
	交換	300 時間ごと	
	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	188 ☆
	交換	600 時間ごと	
右株元チェーンのローラ ボールベアリング	交換	500 時間ごと	☆
右穂先チェーンのローラ ボールベアリング、 アイドルsprocket	交換	500 時間ごと	☆
右穂先カバー、 右穂先フレーム	交換	1000 時間ごと	☆
右株元当て板、 左穂先フレーム（上、下）	交換	1000 時間ごと	☆
左株元レール、 供給フレームガイド、 供給ガイド、 株元押え	交換	800 時間ごと	☆
中穂先チェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	187 ☆
	交換	400 時間ごと	
中穂先爪	交換	400 時間ごと	
中株元チェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	188 ☆
	交換	300 時間ごと	
	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	188 ☆
	交換	600 時間ごと	
中株元チェーンのローラ ボールベアリング	交換	500 時間ごと	☆
中穂先チェーンのローラ ボールベアリング、 アイドルsprocket	交換	500 時間ごと	☆
中穂先フレーム	交換	1000 時間ごと	☆

●参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。

●上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
株元供給チェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	188 ☆
	交換	300 時間ごと	
	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	188 ☆
	交換	600 時間ごと	
株元供給チェーンのローラ ボールベアリング、 テンションローラボール ベアリング	交換	500 時間ごと	☆
左穂先チェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	187 ☆
	交換	400 時間ごと	
左穂先爪	交換	400 時間ごと	
左株元チェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	188 ☆
	交換	300 時間ごと	
	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	188 ☆
	交換	600 時間ごと	
左株元チェーンのローラ ボールベアリング	交換	500 時間ごと	☆
左穂先チェーンのローラ ボールベアリング、 アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	☆
こぎ深さチェーン	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	191 ☆
	交換	300 時間ごと	
	調整	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 100 時間ごと	☆
	交換	600 時間ごと	
こぎ深さテンションローラの ボールベアリング	交換	500 時間ごと	☆
こぎ深さチェーン押え	交換	800 時間ごと	☆
こぎ深さフレームガイド	交換	1000 時間ごと	☆
刈刃	調整	100 時間ごと	197 ☆
	交換	200 時間ごと	

●参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。

●上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
刈刃クランクピン、 ローラ、 ベアリング、 ベアリングホルダ、 オイルシール	交換	600 時間ごと	☆
株元センサ	交換	500 時間ごと	☆
穂先センサ (株元側、穂先側)	交換	500 時間ごと	☆
パッカ	交換	800 時間ごと	☆
刈取駆動ギヤカバー部	補給	分解時	165 ☆
刈取部各ケース			
刈取軸受			
◆カッタ部			
カッタ駆動ベルト	調整	初回又は、交換後:20 時間後、 それ以降 100 時間ごと	193 ☆
	交換	400 時間ごと	
カッタ刃	調整	300 時間ごと	☆
	交換	500 時間ごと	☆
供給軸と切断軸のナット	増締め	初回又は、交換後:50 時間後、 それ以降 200 時間ごと	☆
各ベアリング	交換	1000 時間ごと	☆
◆キャビン (D Xのみ)			
コンプレッサ駆動ベルト	調整	作業シーズン前又は、後	185 ☆
	交換	2 年ごと	
冷媒ガス	点検	2 年ごと	177 ☆
内気・外気フィルタ	掃除	使用時間が 30 時間ごと	176
◆電装部			
バッテリー	充電	インジケータの色が黒色のとき	201
	交換	インジケータの色が透明のとき	
ワイヤハーネス、 バッテリーコード	点検	50 時間ごと	201
	交換	破損しているとき	☆
ヒューズ・ スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	206
	交換	破損しているとき	☆
ランプ (電球)	点検	100 時間ごと	208
	交換	破損しているとき	☆
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	208
	交換	破損しているとき	☆

●参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。

●上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

9. 給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期 (アワメータ表示時間)		容量・規定量 (L)	種類	参照 ページ
			点検	処置			
燃料	燃料タンク	給油	作業前 又は 作業後	—	・容量…約 100	ディーゼル軽油	156
オイル	エンジン	補給・交換		・初回… 50 時間目 ・2 回目以降 …200 時間 ごと又は、 1 年ごとの 早いほうで 交換	・容量…約 12 規定量 オイルゲージ の下限と 上限の間	クボタ純オイル D30 又は、D10W-30	157
	集中注油オイルタンク	補給		—	・容量…約 4	クボタ純オイル D30 又は、D10W-30	138
	トランスミッションケース	補給・交換	50 時間 ごと	・初回… 50 時間目 ・2 回目以降 …300 時間 ごと	規定量 …約 12.3 検油口から オイルがにじ むまで	クボタ純オイル NEW UDT 又は、 スーパーUDT	159
	注油オイルタンク				規定量…約 28 検油口から オイルがにじ むまで		161
	刈取 HST ギヤケース	交換	—	・初回… 50 時間目 ・2 回目以降 …300 時間 ごと	・容量…約 0.3		160
	HST 入力フランジ	交換	—	分解時	・容量…約 0.2		162 ☆
	刈刃駆動ケース	補給・交換			・容量 …2.2~2.3		160 ☆

●参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先又は、整備工場で行なってください。

●上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により、異なる場合があります。

重 要

[各部への補給と交換]

- ・点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
- ・使用するオイル・グリースは、指定のクボタ純オイル・スベアグリースを使用してください。
- ・補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

メンテナンス

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期 (アワメータ表示時間)		容量・規定量 (L)	種類	参照ページ
			点検	処置			
水・液	冷却水 (リザーブタンク)	補水・交換	作業前又は作業後	2年ごと(冬季停止時は排出又は、不凍液を入れる)	* 規定量 タンク側面のL(下限)とF(上限)の間 L (LOW)・・・0.15 F (FULL)・・・1.1	清水	165
	ウォッシャー液【DX】	補給		-	・容量…約 1.2	自動車用ウォッシャー液	168

- 参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先又は、整備工場で行なってください。
- 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により、異なる場合があります。

重 要

[各部への補給と交換]

- ・点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
- ・使用するオイル・グリースは、指定のクボタ純オイル・スペアグリースを使用してください。
- ・補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

メンテナンス

10. 燃料、オイル、グリースの

点検・補給・交換

▲ 注意

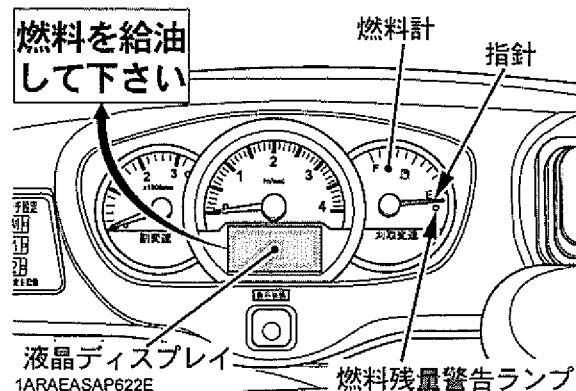
- 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

重 要

- 点検するときは、水平で平坦な場所に収穫機移動して行なってください。傾いていると正しいオイルの量が測定できません。
- 燃料やオイルを補給又は、交換したあと、こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭取ってください。また、燃料もれや油もれがあるときは購入先に連絡してください。
- 収穫機の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
 - ・廃油は使用しないでください。
 - ・オイルを補給するときは、現在使用しているオイルと同じメーカー・同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また、異なるメーカー・異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは、オイルを全て排出してから新しいオイルと交換してください。
 - ・燃料やオイルを補給・交換するときはゴミや異物の混入を防ぐため、給油口付近を掃除してください。また、給油口からゴミなどの異物を入れないでください。
 - ・オイルを補給するとき、規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。
 - ・使用するオイル・グリースは、必ず指定のクボタ純オイル・スベアグリース・協同油脂(株)製耐熱グリース（パワーライトWRNO. 1）を使用してください。

■燃料の補給

燃料計の指針が[E]（空）に近づくと、燃料残量警告ランプが点灯すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイに「燃料を給油して下さい」と表示し、ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。



◆補給

燃料を給油するときは平坦な場所でエンジンを止め、燃料キャップを外してください。また、メインスイッチのキーを[入]位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき、ブザーが鳴ります。また、ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに「燃料が満タンです」と表示します。給油後は燃料キャップを取付けてください。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約100ℓ

補 足

- *満タンお知らせ機能は、ブザーが5回鳴ると停止します。
- *ブザーが鳴ったあと、あふれさせないように注意してください。
- *満タンお知らせ機能は下記の条件のとき、はたらかない場合があります。

メンテナンス

- エンジン停止後約20秒間
- 給油中に機体を揺らしたり、急激に給油したとき
- 給油量が少ないとき
- 機体が極端に傾いているとき

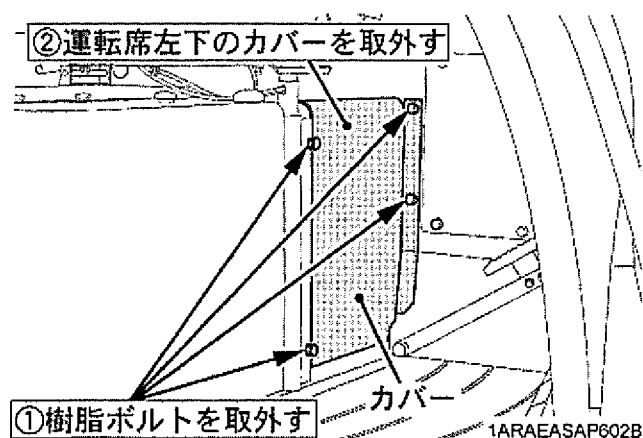
■エンジンオイルの点検・補給・交換

⚠ 注意

*交換をするときは、必ずエンジンを止めて、エンジンがじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドするおそれがあります。

エンジンのオイル量を点検・補給・交換をするときは、運転席左下のカバーを取外してください。

点検・補給・交換後は、運転席左下のカバーを取付けてください。

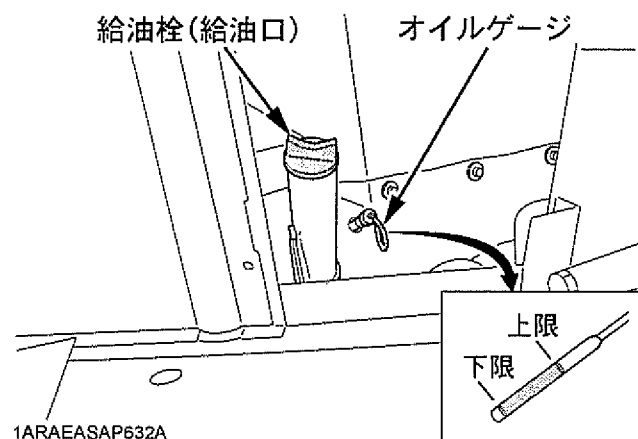


重要

エンジンオイルをオイルゲージの上限以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

◆点検・補給

エンジン停止後、数分たってからオイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、運転操作部を開いて給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

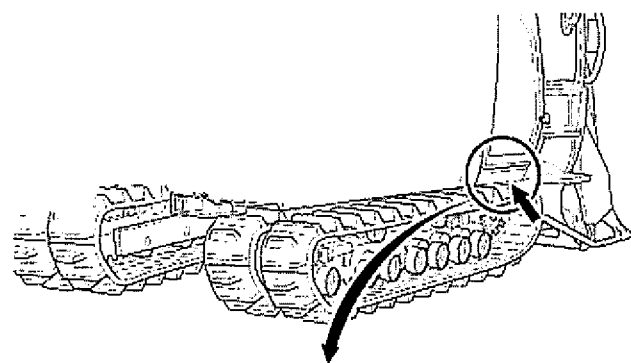


◆交換

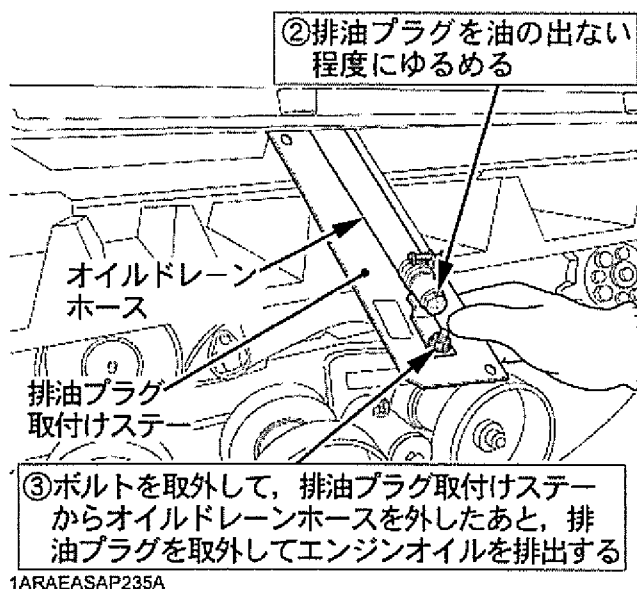
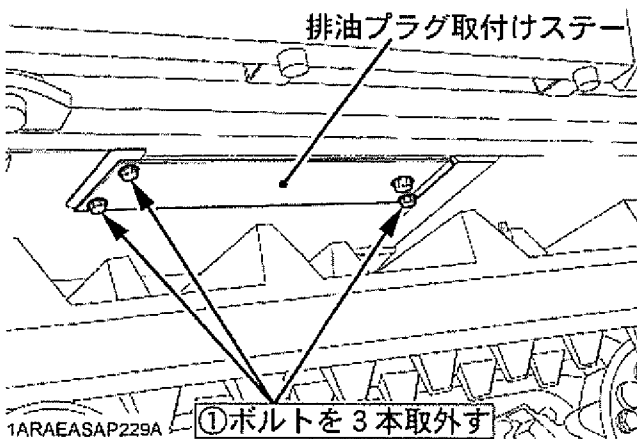
オイルの交換と同時に、エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。

●排油のしかた

1. ボルトを3本取外し、排油プラグ取付けステーを機体から取外したあと、排油プラグ取付けステーをオイルドレインゴムホースといっしょに引出して、準備している容器の上で排油プラグを外し、オイルを排出します。



メンテナンス



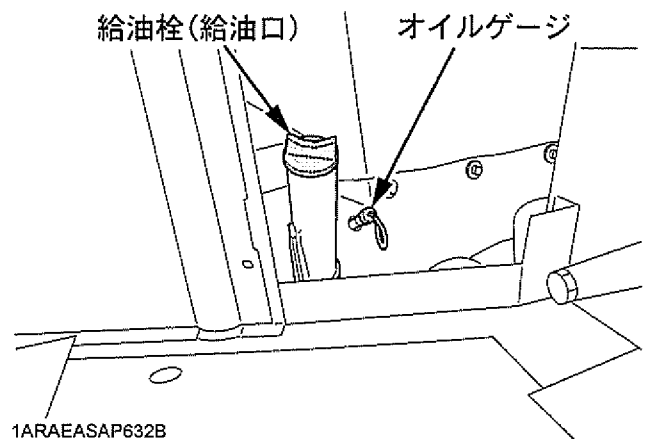
2. 排油プラグを取付けます。
3. ホースと一体となっている排油プラグを排油プラグ取付けステーに取付けます。
4. 排油プラグ取付けステーを機体に取り付けます。

重 要

排油プラグを締め忘れると油もれが発生したり、取付けステーを付け忘れると、ホースがクローラと接触して破損するおそれがあります。

●給油のしかた

1. 運転席左下のカバーを取外します。
2. 給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を締付けます。



重 要

指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。また、気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル量
15℃未満	クボタ純正オイル ディーゼルエンジン用 D10W-30スーパーCD	12.3ℓ
15℃以上	クボタ純正オイル ディーゼルエンジン用 D30スーパーCD又は D10W-30スーパーCD	

※ D10W-30 スーパーCD, D10W-30

スーパーCFはオールシーズン用です。

3. エンジンを始動し、アイドリング状態で約1分間運転します。
4. エンジンを停止したあと、5分間以上たってからオイル量の点検を行ないます。
5. オイルが不足しているときは、規定量になるまでオイルを追加補給します。
6. 運転席左下のカバーを取付けます。

メンテナンス

■トランスミッションケースオイルの

点検・補給・交換

⚠ 警告

*刈取部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。

*刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。

トランスミッションケースのオイル量を点検するときは、刈取部を最上昇位置にしたあと、刈取下降ロックスイッチを「ロック」位置にして刈取部の下降防止を行なってください。また、オイルの補給・交換を行なうときは、刈取部を開いてください。点検後は、刈取部を降ろし、補給・交換後は刈取部を閉じてください。

◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

◆交換

補 足

オイルの交換と同時に、HST オイルフィルタカートリッジ・トランスミッションオイルフィルタカートリッジも交換してください。

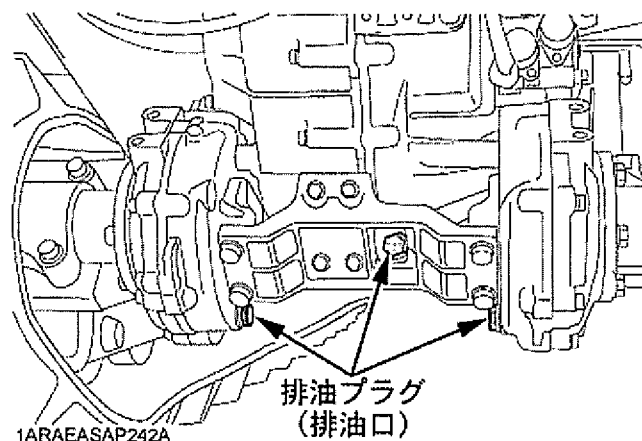
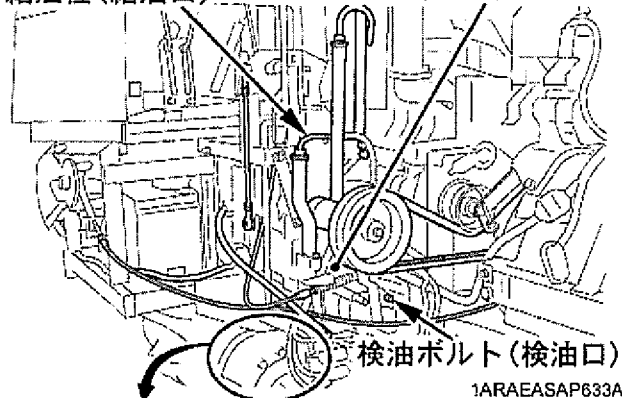
●排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて、検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓と検油ボルトを締付けてください。

給油栓(給油口) ニートランスミッションケース



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルNEW UDT 又は、スーパーUDT	約120

重 要

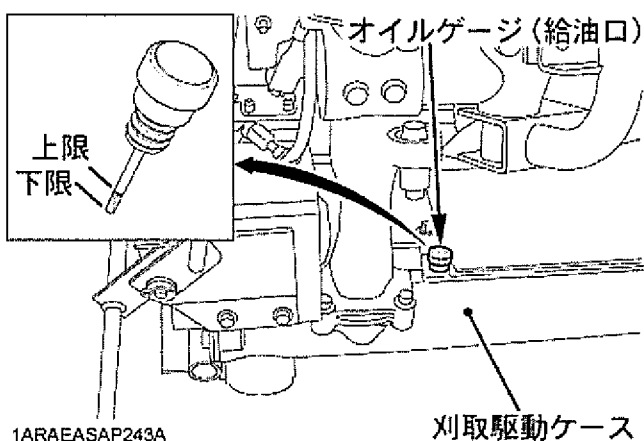
給油したあと、エンジンをアイドリング状態で約1分間運転してエンジンを停止し、5分間以上たってから、再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは、オイルを追加補給してください。

メンテナンス

■刈刃駆動ケースオイルの補給

◆給油

刈取部を接地させたあと、オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み、オイルゲージをいっぱいまで押し込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルNEW UDT 又は、スーパーUDT	2.2~2.3ℓ

■刈取HST ギヤケースオイルの

点検・補給・交換

◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

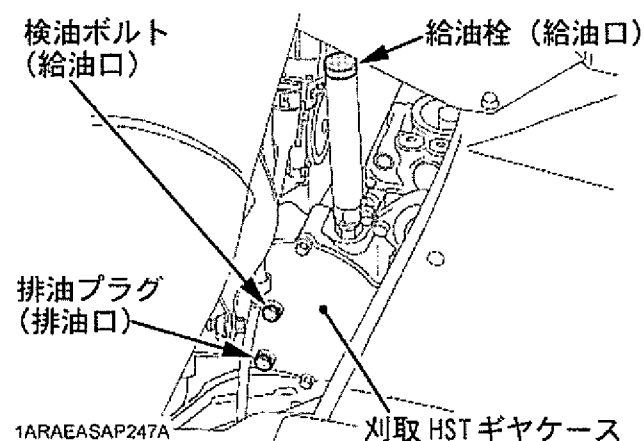
◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて、検油口からオイルが出てくるまで給油口から給油し、給油栓と検油ボルトを締付けてください。



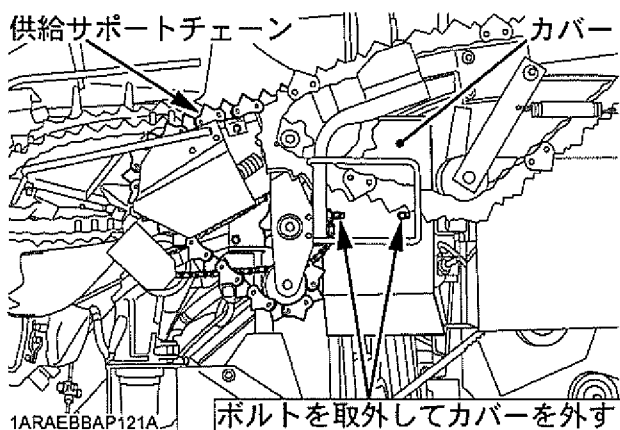
オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルNEW UDT 又は、スーパーUDT	約0.3ℓ

メンテナンス

■油圧オイルタンクオイルの

点検・補給・交換

油圧オイルタンクのオイル量を点検するときは、供給サポートチェーン内側のカバーを取外してください。点検・補給・交換後は、カバーを取付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルNEW UDT 又は、スーパーUDT	約28ℓ

重 要

給油したあと、エンジンをアイドリング状態で約1分間運転してエンジンを停止し、5分間以上たってから再度点検を行ないオイルが不足しているときは、規定量になるまでオイルを追加補給してください。

補 足

規定オイル量は工場出荷時の給油量です。オイル交換後の実際に補給するオイル量は、ホース内などに残っているオイルにより、少し少なくなります。

◆点検・補給

オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

◆交換

補 足

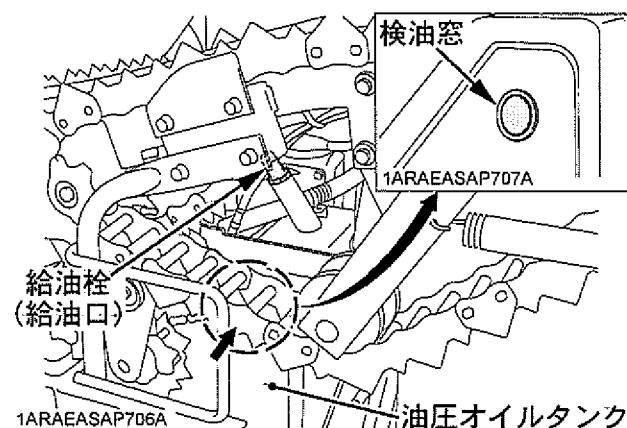
オイルの交換と同時に、HST オイルフィルタカートリッジ、トランスミッションオイルフィルタも交換してください。

●排油のしかた

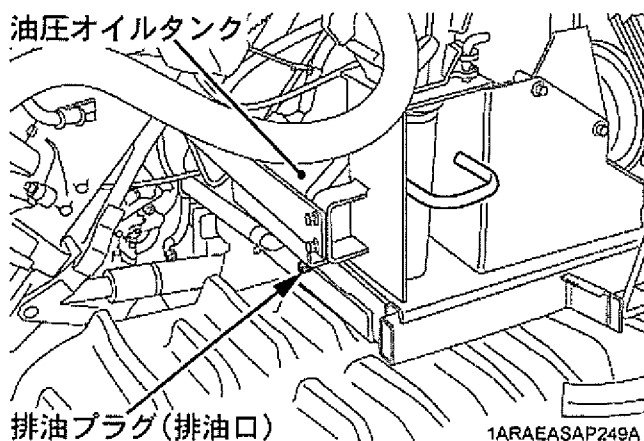
給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて、給油口から規定量オイルを給油し、オイルゲージを差込んでください。



メンテナンス



■HST 入力フランジのオイルの補給・交換

⚠ 警告

- * 刈取部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。
- * 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。

HST入力フランジのオイルを補給・交換するときは、刈取部を開いてください。補給・交換後は刈取部を閉じてください。

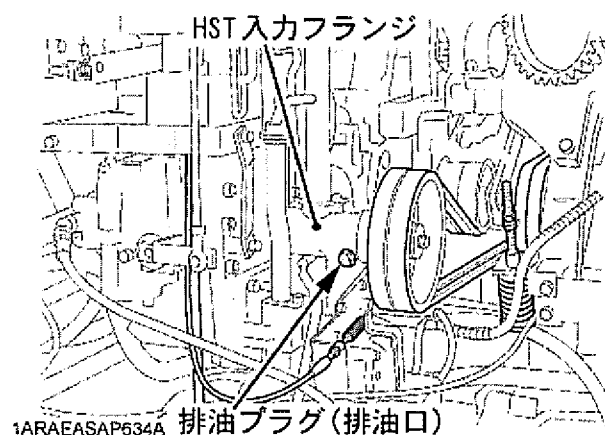
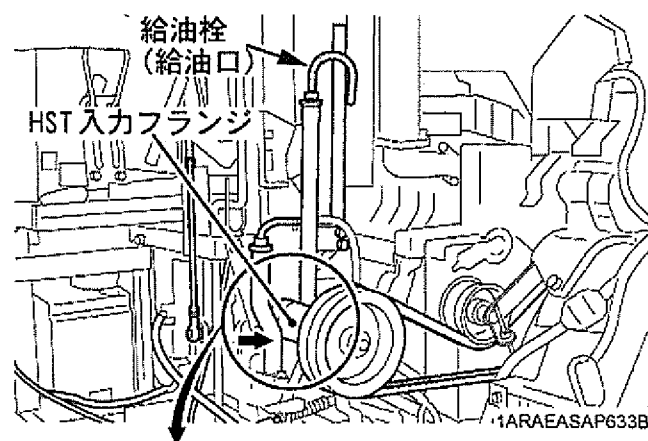
◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を締付けてください。



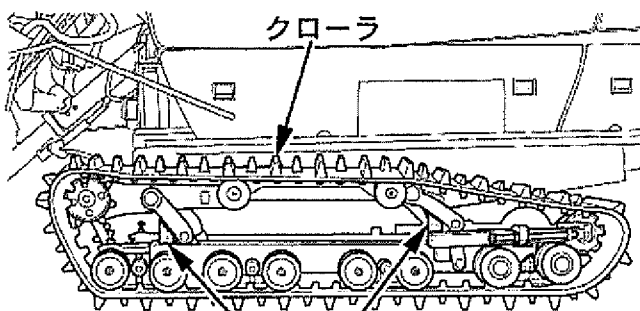
オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルNEW UDT 又は、スーパーUDT	約0.2ℓ

■各部のグリース

⚠ 警告

- * グリースの補給を行なうときは、エンジンを必ず止めて行なってください。
- * クローラ周辺部にグリースを補給するときは、平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にして刈取部の下降防止を行なってください。

メンテナンス



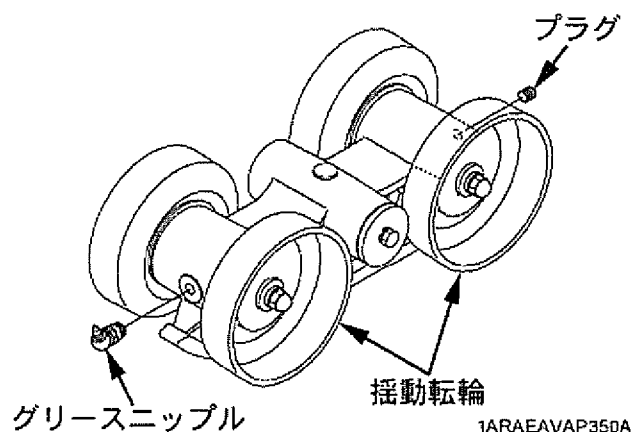
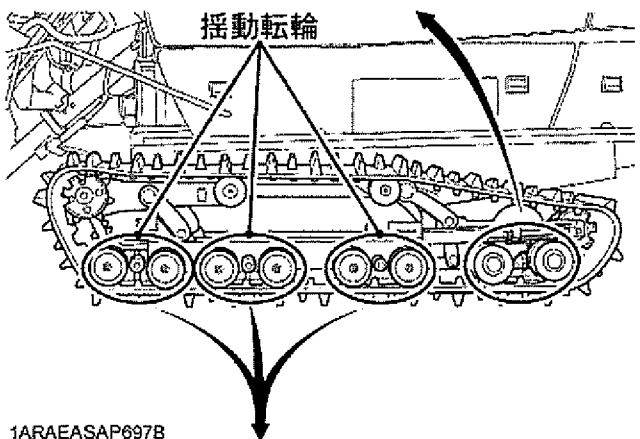
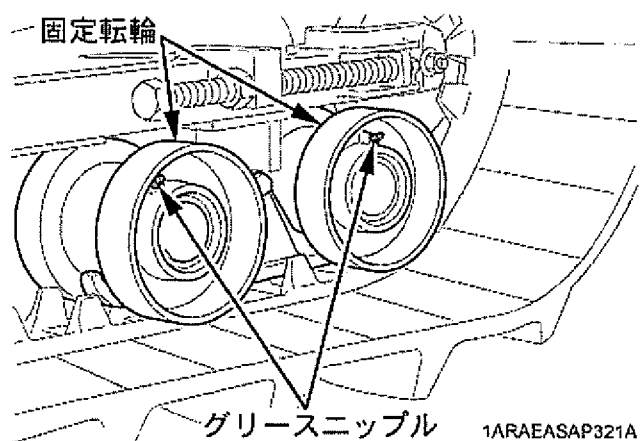
11ARAEASAP697A

※イラストは左側

◆揺動転輪部（左、右各 3 箇所）

◆固定転輪部（左、右各 2 箇所）

揺動転輪部のグリース補給は、六角レンチでプラグを取外してから行なってください。また、プラグを取外した穴からグリースがはみ出てきたら補給を中止してプラグを取付けてください。



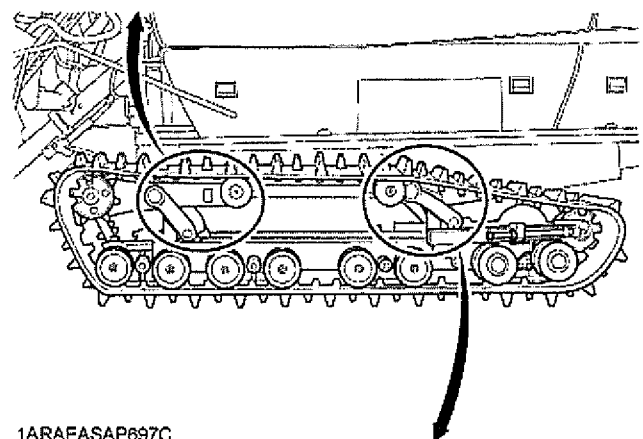
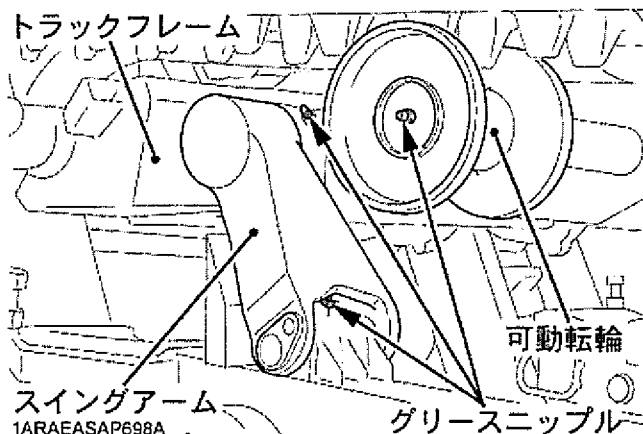
◆ボス支点部（左、右各 2 箇所）

◆可動転輪部（左、右各 2 箇所）

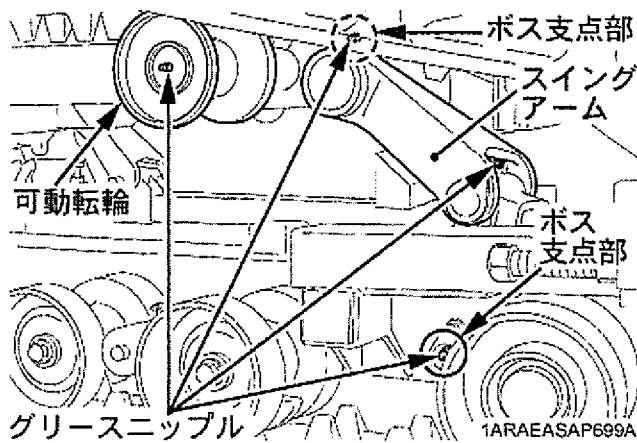
◆スイングアーム部（左、右各 2 箇所）

◆トラックフレーム部（左、右各 1 箇所）

水平操作手動スイッチの「上」を押して機体を最上昇位置にしてください。

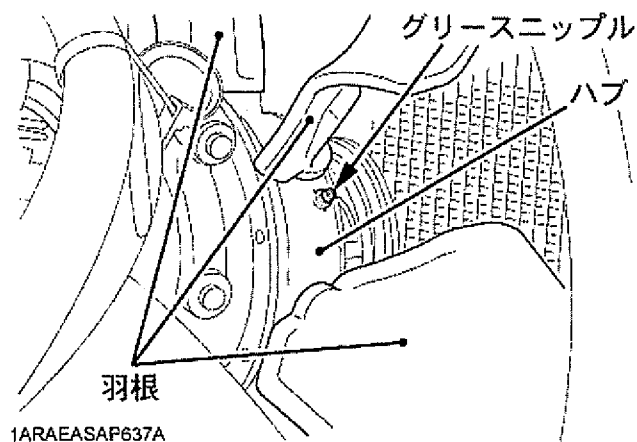
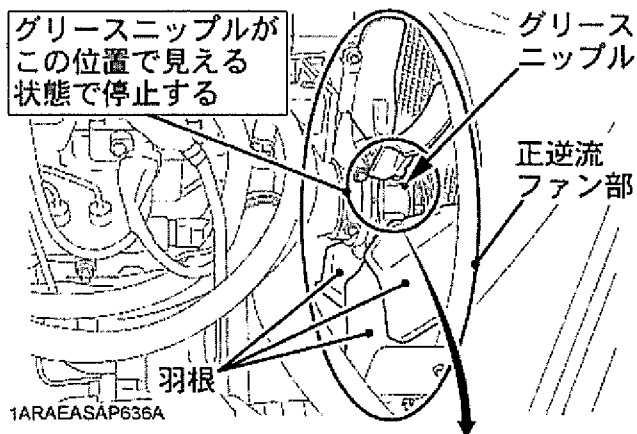


メンテナンス

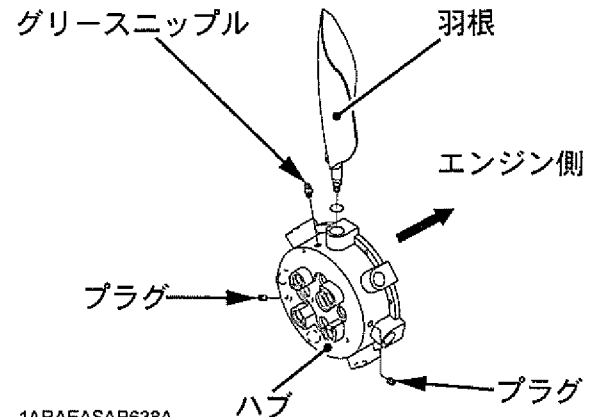


◆エンジン正逆流ファン部

1. 運転席後カバーを除外します。
2. エンジンを始動したあと、逆流ファンの羽根を取付けているハブにあるグリースニップルを、下図の位置付近で停止するようにエンジンを停止します。



3. ハブに2箇所あるプラグのどちらかを取外したあと、グリースニップルからグリースを補給します。



重要

補給するグリースは、必ず指定の協同油脂(株)製耐熱グリース（パワーライトWR NO. 1）を使用してください。指定の耐熱グリース以外のグリースを使用すると、エンジン正逆流ファン部が故障するおそれがあります。

補足

補給する耐熱グリースの協同油脂(株)製耐熱グリース（パワーライトWR NO. 1）については購入先に連絡してください。

4. 取外したプラグの取付穴からグリースがはみ出してくると補給を中止したあと、シールテープをプラグに巻いて取外したところにプラグを取付けます。

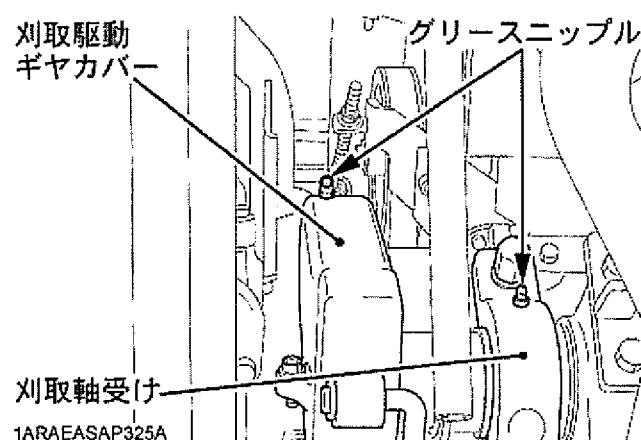
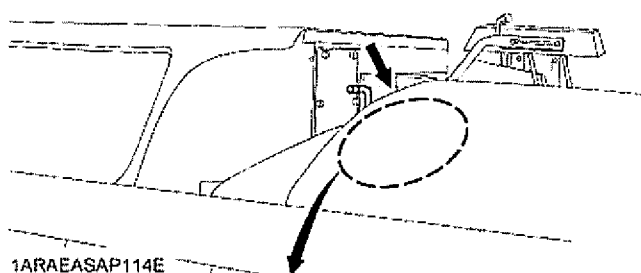
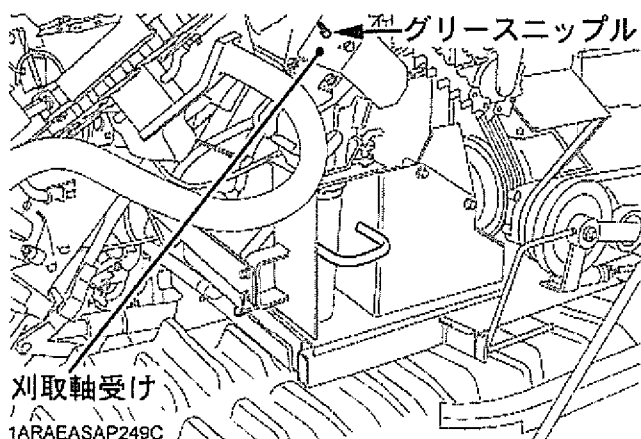
補足

- * シールテープについては購入先に連絡してください。
- * グリースを補給したあと、エンジンをしばらく動かすと逆流ファンの周りにグリースがにじみ出ることがありますが異常ではありません。

5. 運転席後カバーを取付けます。

メンテナンス

◆ 刈取部



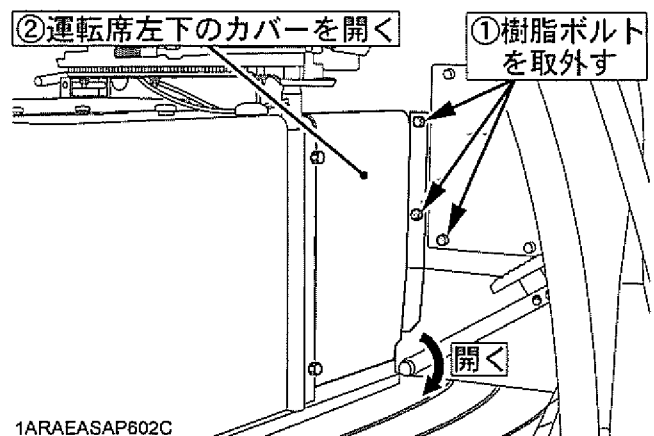
11. ラジエータ冷却水の点検・補給・交換

⚠ 注意

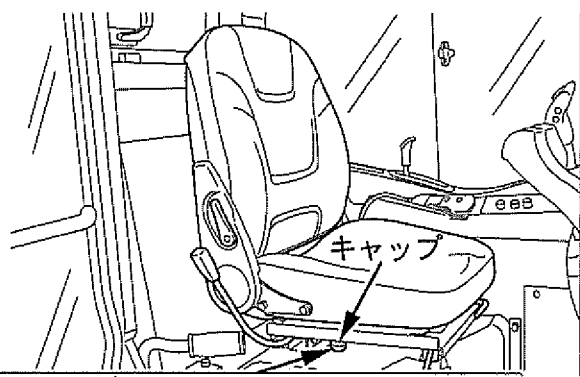
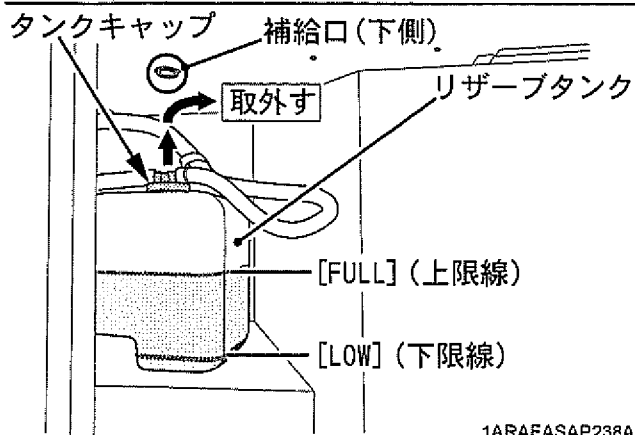
- * ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。
- * 異なるメーカーの不凍液を混用しないでください。

◆ 点検・補給

1. 運転席左下のカバーを開きます。
2. リザーブタンク内の冷却水が [LOW] (下限線) と [FULL] (上限線) の間にあるか確かめます。
3. リザーブタンク内の冷却水が [LOW] (下限線) より少ないときは、清水を補給します。
 - (1) リザーブタンクのタンクキャップを取外します。
 - (2) 運転席下側にある冷却水補給口のキャップを取外します。
 - (3) 付属部品のごうごとホースを使用して清水を補給します。



メンテナンス



キャップを取外し、付属部品の
じょうごとホースを使用して清水を補給

1ARAEBBAP027E

4. 冷却水補給口のキャップを取付けたあと、
運転席左下のカバーを閉じます。

重要

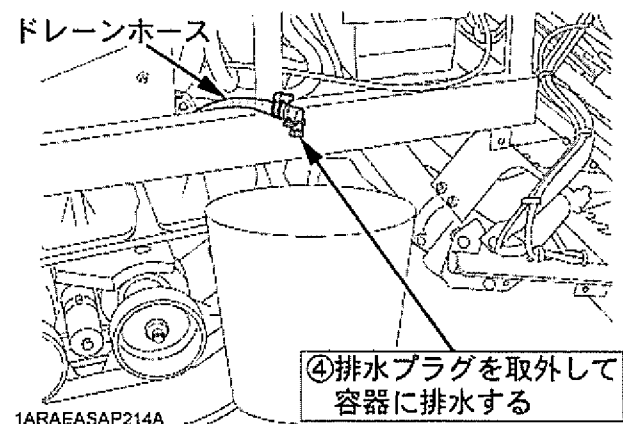
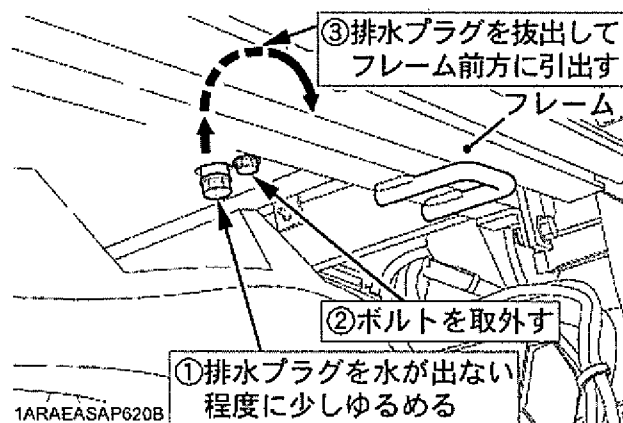
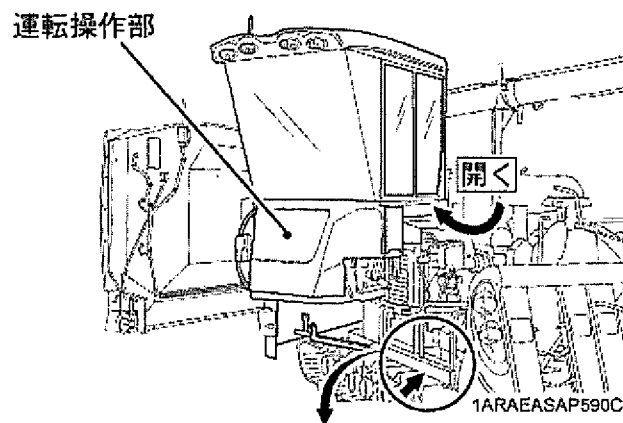
冷却水が自然に不足したときは、必ず清
水を補給してください。不凍液を補給す
ると濃度が濃くなりエンジンやラジエー
タの故障の原因となります。

補足

[FULL] (上限線) の線以上は補給しない
でください。

◆交換

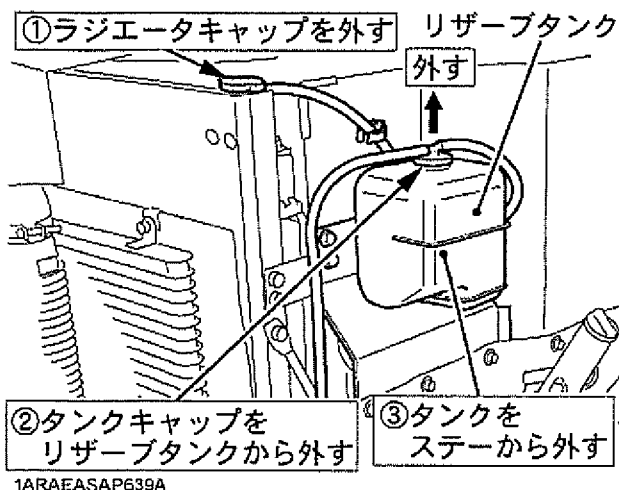
1. 運転操作部を開きます。
2. ボルトを取外し、排水プラグを排水ホース
といっしょに引出して、準備している容器
の上で排水プラグを外し、排水します。



3. ラジエータキャップを外します。

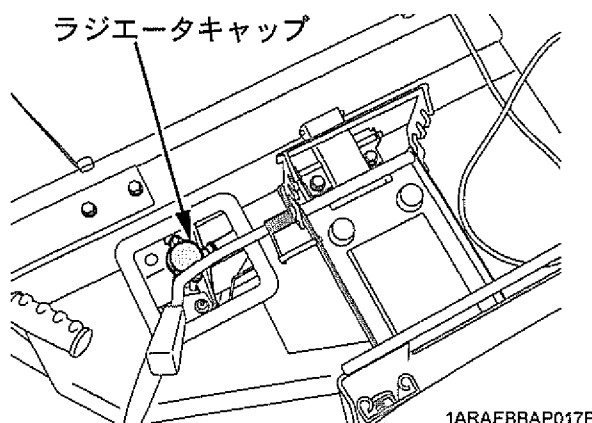
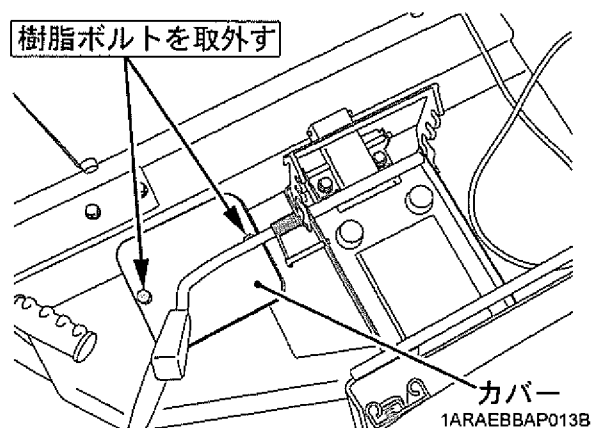
メンテナンス

4. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと、ステアからリザーブタンクを外して排水します。



補 足

ラジエータキャップは、運転操作部が閉じているとき、運転席右下にあるカバーを取外すと見えます。



5. 水道水でゴミやさびが出なくなるまで洗います。
6. リザーブタンクを取付けます。

7. ドレインホース側の排水口をボルトで取付けて、排水プラグを締付けたあと、目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重 要

- * 不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- * 不凍液を使用する場合は、ラジエータ保淨を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保淨剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- * クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。
- * 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり、排水プラグ部を機体に取り付け忘れると、ホースが破損するおそれがあります。
- * 不凍液混合比は、寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して、下表を参照して混合比を決めてください。また、不凍液はエチレングリコール（EG）タイプのロングライフクーラントをご使用ください。

メンテナンス

●不凍液混合比率表

外気温度 (℃)		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比 率	水 (%)	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液 (%)	15	20	25	30	35	40	45	50	55

※出荷標準：不凍液50%

※ラジエータ容量：7.9L

(リザーブタンク容量は含まない)

※新しい冷却水と交換を行なったあとは、必ず不凍液を入れて、5分間エンジンを空回転し、不凍液の混合を早めてください。そのあと、冷却水が冷えてからラジエータキャップを取外して冷却水の補給とリザーブタンクの水量をたしかめておいてください。

8. ラジエータキャップ及びリザーブタンク、キャップを取付けます。

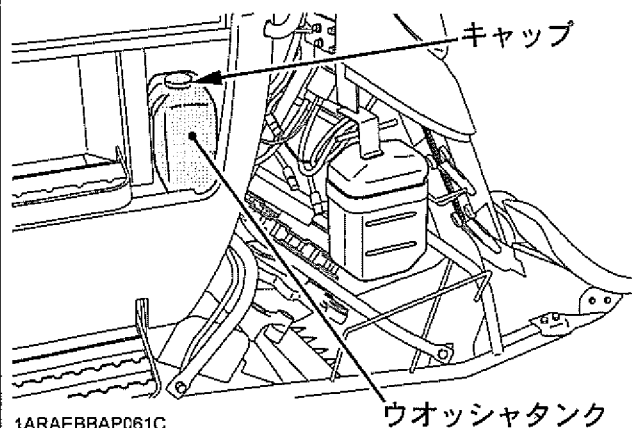
9. 運転操作部を閉じます。

12. ウオッシャ液の補給

■ウオッシャ液の補給

ウオッシャタンクのキャップを取外して、自動車用のウオッシャ液を補給してください。補給後は、キャップを取付けてください。

[DX 仕様]

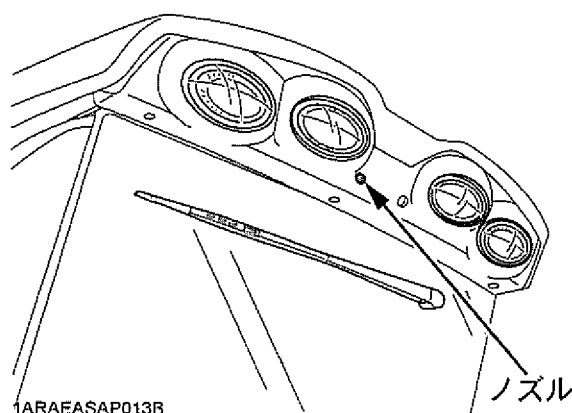


1ARAEBBAP061C

ウオッシャ液の種類	ウオッシャタンク容量
自動車用ウオッシャ液	約1.2L

重 要

- * ウオッシャタンクに清水などウオッシャ液以外の液体を入れないでください。寒冷時に凍結して故障の原因となります。
- * ウオッシャ液が入っていない状態で、ワイパ・ウオッシャスイッチを押さないでください。ポンプの故障の原因となります。
- * ウオッシャタンク内にごみが混入すると、ノズルが詰まりウオッシャ液が出なくなるおそれがあります。



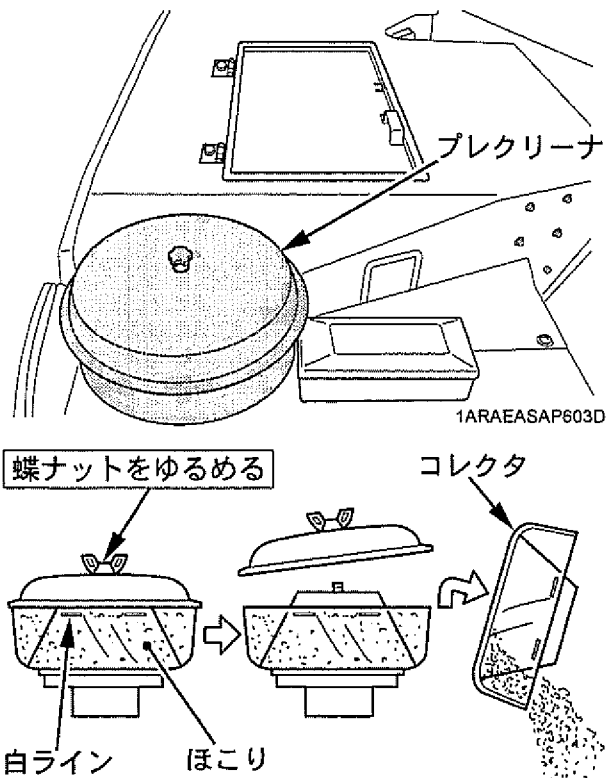
1ARAEEASAP013B

メンテナンス

1 3. クリーナの点検・掃除・交換

■プレクリーナの点検・掃除

ほこりの量がプレクリーナのコレクタ側面の白ラインを越えているときは、蝶ナットをゆるめて次の要領でほこりを取除いてください。



11RAEAPAP278A

重 要

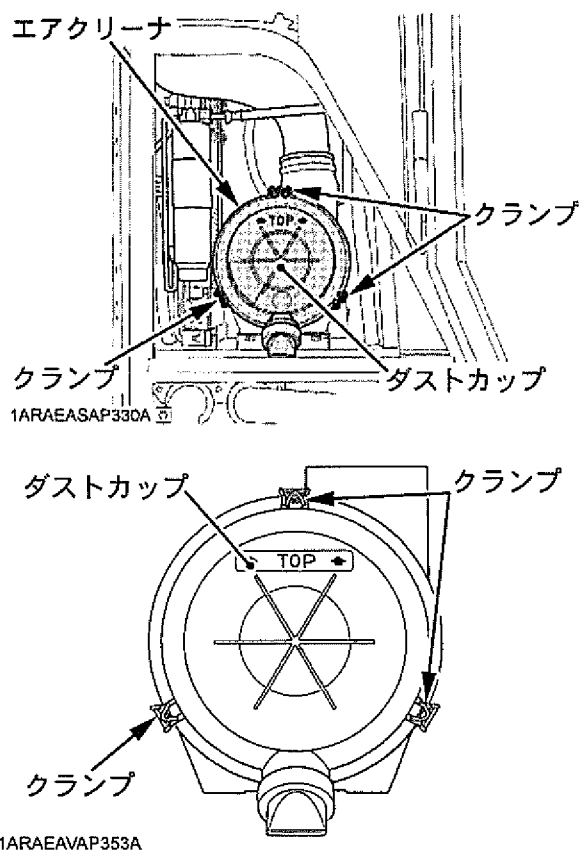
乾式のフィルタなのでオイルは入れないでください。

補 足

ほこりが溜まるとエアクリーナの詰まりの原因となります。

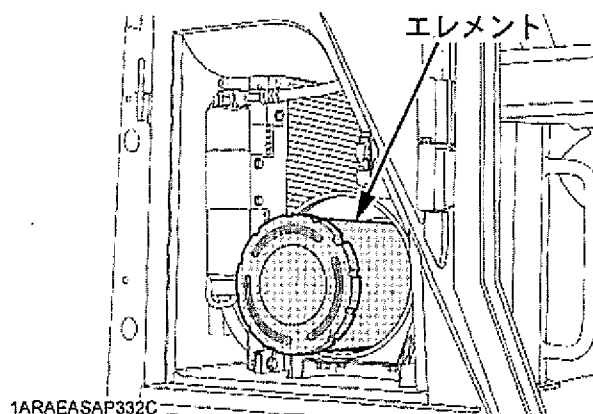
■エアクリーナの点検・掃除・交換

防じんカバーを開く又は、取外したあと、クランプ3箇所を外してダストカップを取外してください。



◆点検・掃除・交換

エアクリーナエレメントの点検を行ない、掃除又は、交換を行なってください。エレメントを掃除するときは、エレメントを引抜いて取外したあとエレメントの内側から空気を吹きつけるか、又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や300 時間経過しているときは、交換してください。作業終了後は、ダストカップを取付けて、防じんカバーを閉じてください。



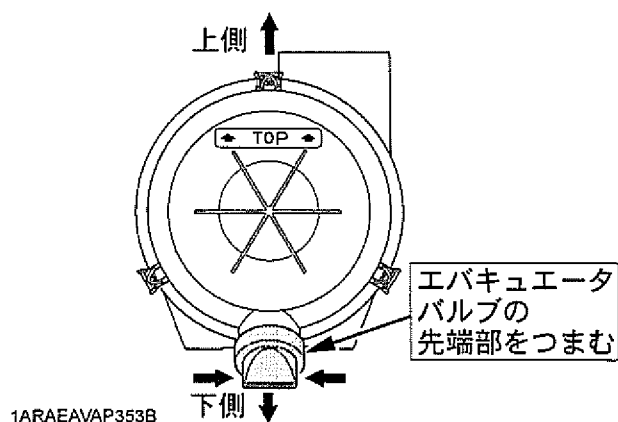
メンテナンス

重 要

- * 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。
- * エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
- * エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は、たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
- * エレメントを掃除する場合、エアの圧力は205kpa (2.1kgf/) をこえないよう注意し、エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また、エアはエレメントの内側から外側に通してください。

補 足

- * エアクリーナの点検を行なったときは、ダストカップのエバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。
- * ダストカップを取付けるときは[TOP]の文字を上側にしてください。



14. パイプ、ホース類の点検・交換

⚠ 注意

- * 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出し、ヤケドをするおそれがあります。
- * 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン、エアクリーナ、プレクリーナ、ラジエータ、各オイルクーラ、燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し、油もれや水もれが発生しているときやゆるんでいるときは、パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重 要

- * オイルドレーンゴムホースが破損していると、エンジンが焼付を起します。
- * 油もれや水もれをしていなくても、2年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。

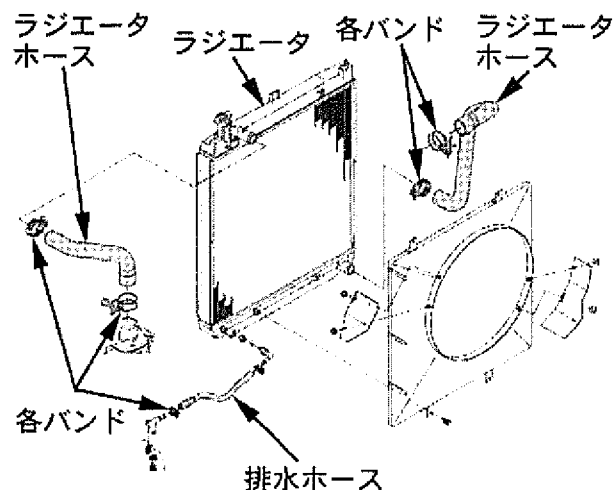
◆交換

交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ、締付不足がないよう取付けてください。

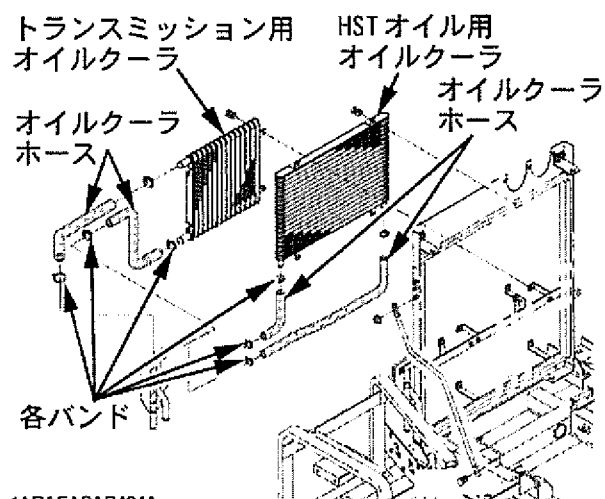
補 足

フューエルパイプ交換後は、メインスイッチのキーを[入]位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

メンテナンス

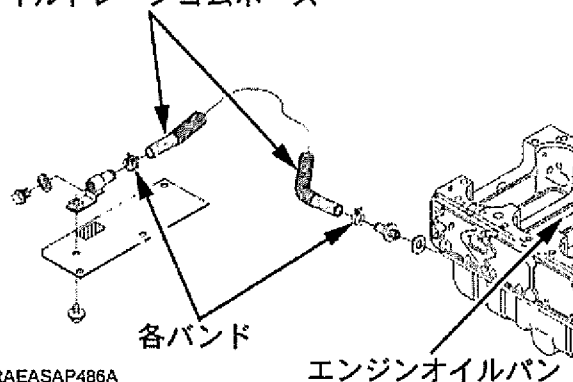


1ARAESAP483A

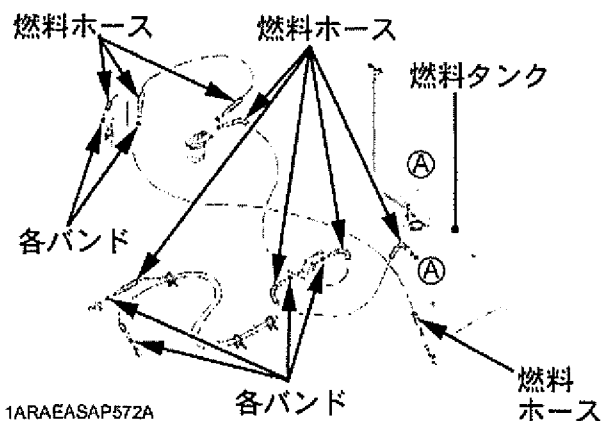


1ARAESAP484A

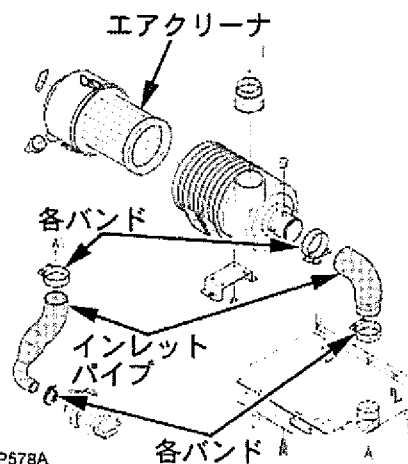
オイルドレングムホース



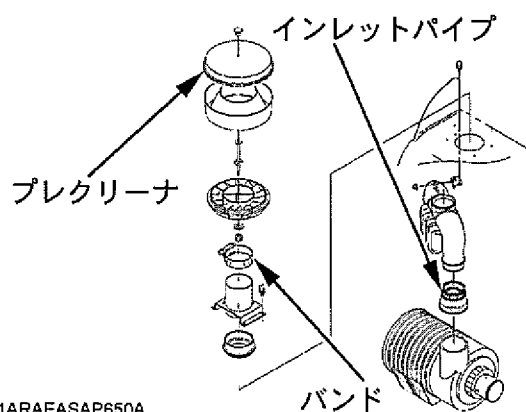
1ARAESAP486A



1ARAESAP572A



1ARAESAP578A



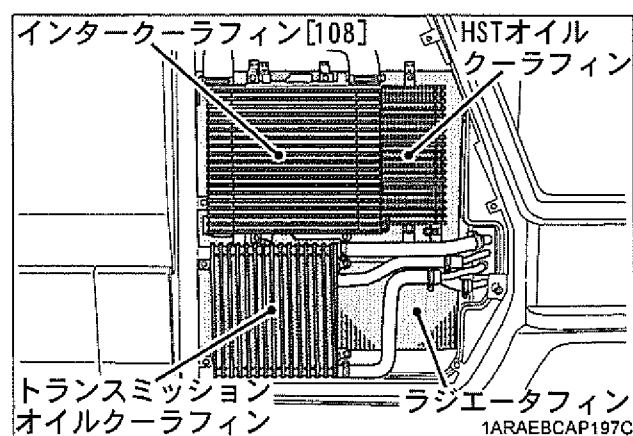
1ARAESAP650A

15. 防じんあみ, 各フィンの掃除

◆掃除

防じんカバーを取外したあと、圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

●エンジン部



1ARAEBAP197C

メンテナンス

重 要

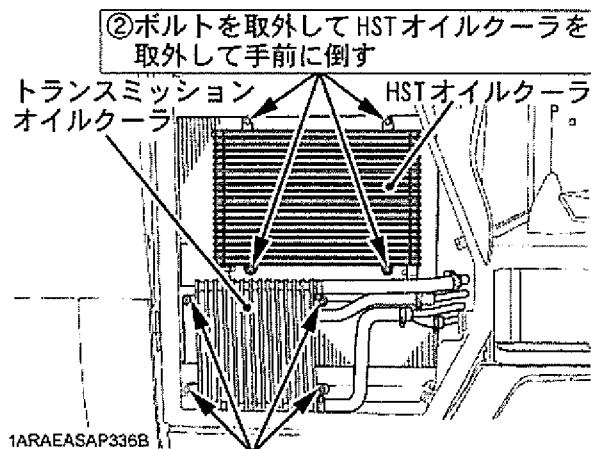
ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して、各フィンの掃除をしないでください。ラジエータフィンを傷めると、ラジエータの機能を低下させる原因になります。

補 足

ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は、ボルトを取外して各オイルクーラを手前に倒してから掃除してください。

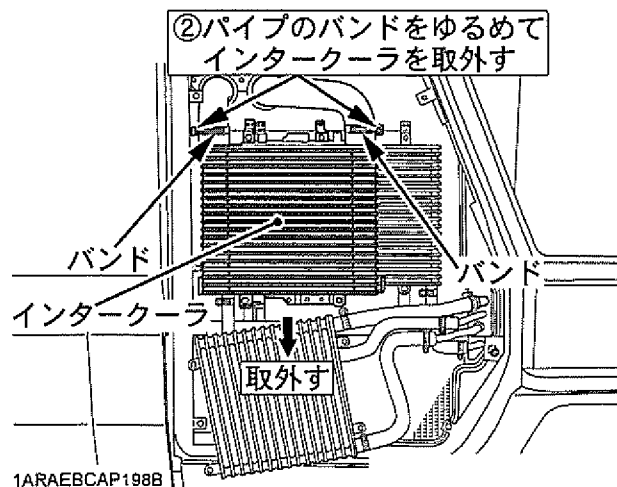
●取外しかた

1. ボルトを取外したあと、各オイルクーラを手前に倒します。



①ボルトを取外してミッションオイルクーラを取外して手前に倒す

2. 逆の手順で取付けたあと、防じんカバーを取付けます。



16. 油水分離機（セパレータ）の

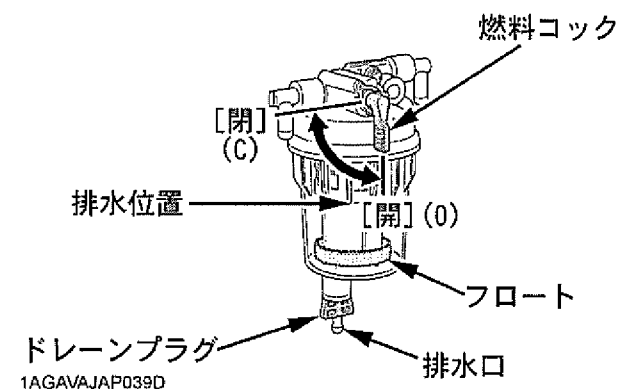
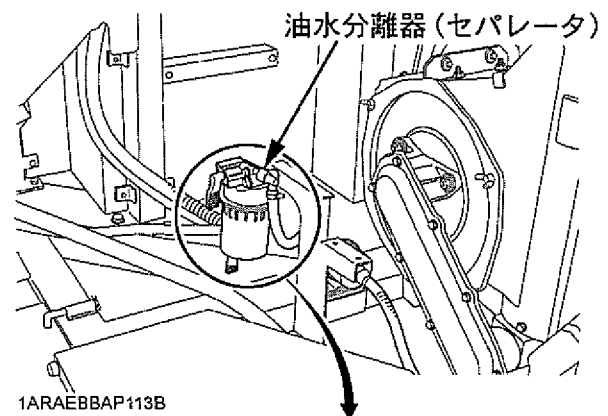
点検・排水

◆点検

点検を行なったとき、セパレータのカップに水が貯まり、赤いフロート（浮輪）が排水位置（白線）まで上昇したときは排水してください。

◆排水

1. セパレータの燃料コックを[閉] (C) 位置にします。
2. リングナットをゆるめてカップを取外し、排水及びゴミの排出をします。
3. カップをリングナットで取付けたあと、燃料コックを[開] (O) 位置にします。



重 要

○リングは傷付けないようにしてください。また、カップに正しく入れて組付けてください。

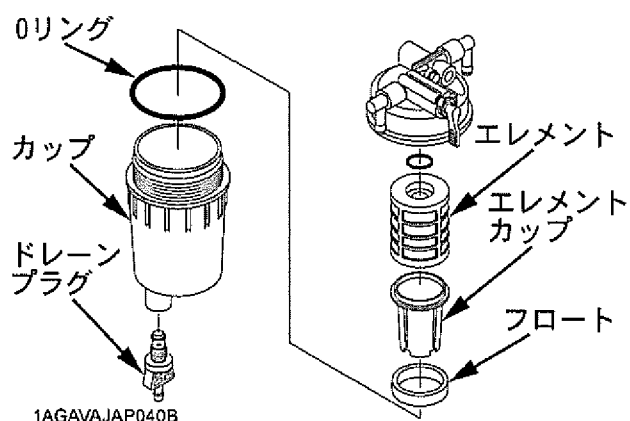
メンテナンス

◆掃除

1. ◆排水の手順でカップ内の水を排出します。
2. カップをゆるめて取外します。
3. カップやエレメントなどを軽油で洗浄します。
4. 取外した逆の手順でセパレータを取付けます。
5. ドレインプラグを締付けたあと、燃料コックを[開] (O) 位置にします。

重 要

組付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。



○リングは傷付けないようにしてくださいまた、カップに正しく入れて組付けてください。

補 足

- * 赤いフロートを捨てないでください。
- * 排水後は、スイッチキーを[入]位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

17. フィルタカートリッジ類の洗浄・交換

■燃料フィルタカートリッジの交換

交換は燃料を給油する前に行なってください。

重 要

燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し、エンジンの故障の原因となります。

補 足

交換後は、メインスイッチのキーを[入]位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

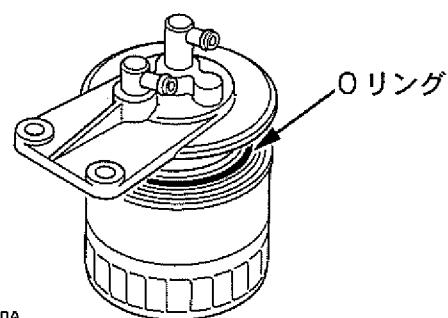
◆交換

1. セパレータの燃料コックを[閉]位置にします。
2. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補 足

取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。

3. 新しいカートリッジは○リングに燃料を薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



重 要

○リングは傷つけないようにしてください。また、溝にきちんと入れて組付けてください。

5. セパレータの燃料コックを[開]位置にします。

メンテナンス

■エンジンオイルフィルタ

カートリッジの交換

エンジンオイルフィルタカートリッジの交換を行なうときは、グレンタンクを開いてください。交換後は、グレンタンクを閉じてください。

◆交換

補 足

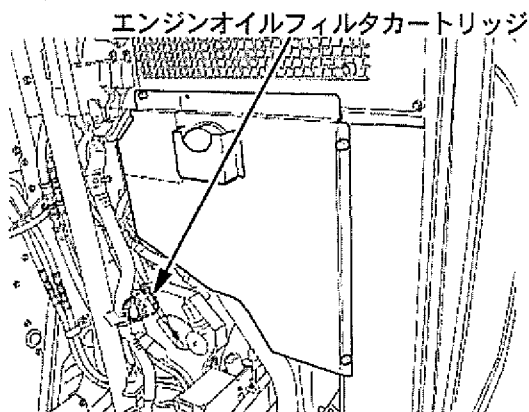
エンジンオイルフィルタカートリッジは、エンジンオイルの交換と同時に交換してください。

1. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補 足

取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。

2. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
3. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと、5分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめておいてください。



重 要

- * 新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

- * エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、エンジンの故障の原因となります。

補 足

オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

■ HST オイルフィルタカートリッジ、 トランスミッションオイル

フィルタカートリッジの交換、
HST油圧オイルタンクフィルタの
洗浄・交換

⚠ 注意

- * 運転操作部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
- * 傾斜地では、運転操作部の開閉は行なわないでください。
- * 運転操作部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

◆交換

補 足

HSTオイルフィルタカートリッジとトランスミッションオイルフィルタカートリッジは同時に交換を行なってください。また、油圧オイルタンクフィルタの洗浄又は、交換も同時に行なってください。

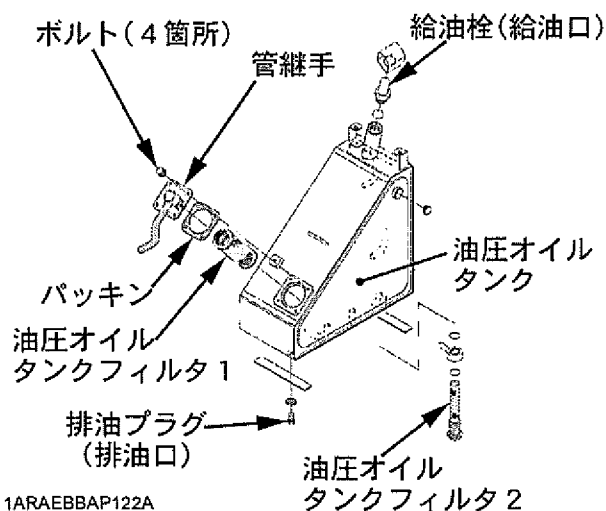
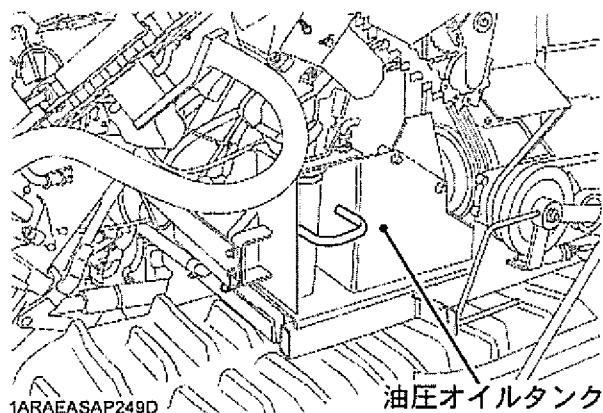
1. 左サイドカバー上1，下1を取外します。
2. 油圧オイルタンクの給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出します。
3. ボルトを取外して管継手を外します。

メンテナンス

重 要

* 管継手を取外すとき、パッキンが破れないようにゆっくりと外してください。

4. 油圧オイルタンクフィルタを取外したあと、フィルタが汚れているときは、軽油などで洗浄し、破損しているときは交換します。



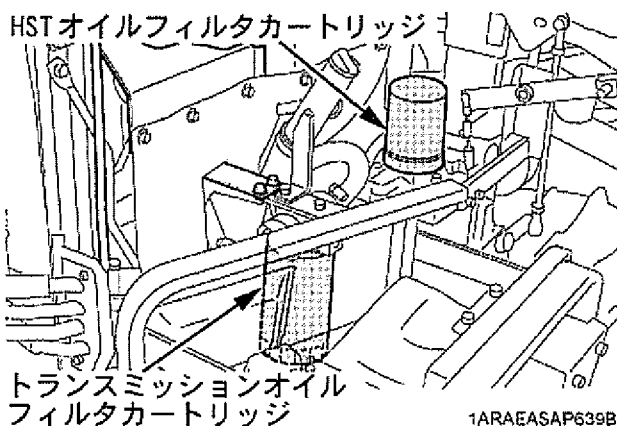
4. 取外した逆の手順で油圧オイルタンクフィルタ、管継手を取付けます。

補 足

管継手を取付けるときは、液状パッキンを塗布してください。液状パッキンについては、購入先に連絡してください。

5. 排油プラグを締付けます。
6. 運転操作部を開きます。

7. 専用工具を使ってHST オイルフィルタカートリッジ及びトランスミッションオイルフィルタカートリッジを取外します。



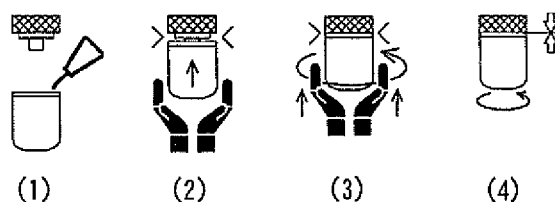
補 足

取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。

8. 新しいオイルフィルタカートリッジを取付けます。

重 要

- * 新しいカートリッジを取付けるときは、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。また、オイルフィルタカートリッジを交換するときに、ごみなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、HST の故障の原因となります。
- * 新しいオイルフィルタカートリッジを取付けるときは、下記の手順で取付けてください。



※イラストはトランスミッションオイルフィルタカートリッジ

11ARAEEASAP375A

- (1) オイルフィルタカートリッジの取付面にオイルを薄く塗る

メンテナンス

- (2) オイルフィルタカートリッジが傾かないように、両手で持ちながら取付ける
- (3) ゆるまない程度まで締付ける
- (4) オイルフィルタカートリッジと取付部にすき間がないことを確認する

9. 運転操作部を閉じます。

10. 205ページの項を参照し、オイルを規定量給油します。

補 足

オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけ油圧タンクオイル、トランスミッションオイルの油面が下がります。

11. 左サイドカバー上1，下1を取付けます。

重 要

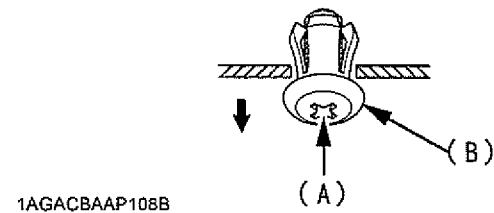
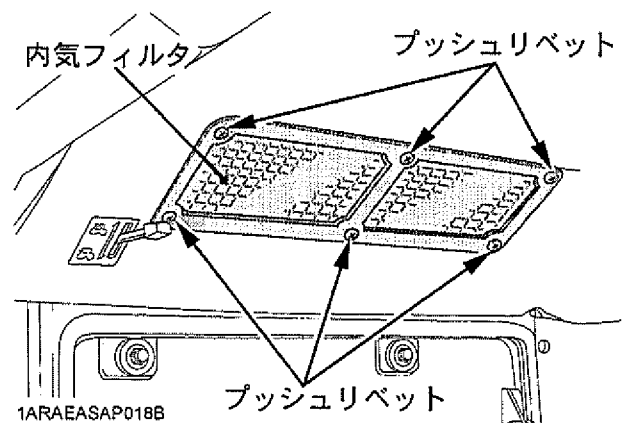
給油したあとエンジンを約1分間以上負荷をかけずに回転させて、オイルゲージで点検を行ない、下限より少ないときは、オイルを追加補給してください。

■ キャビン内気、外気フィルタの掃除・交換

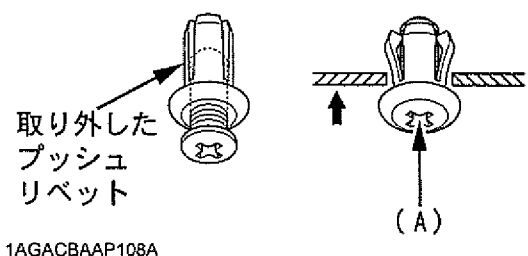
フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように掃除してください。

◆内気フィルタの掃除・交換

1. プッシュリベットを取外して、内気フィルタを取外します。取外すときは、プッシュリベットの周辺(B)部を手で押さえて(A)部を(+)ドライバーで左に回します。



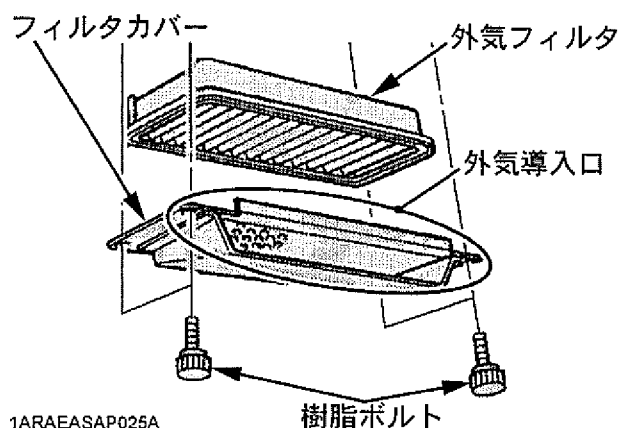
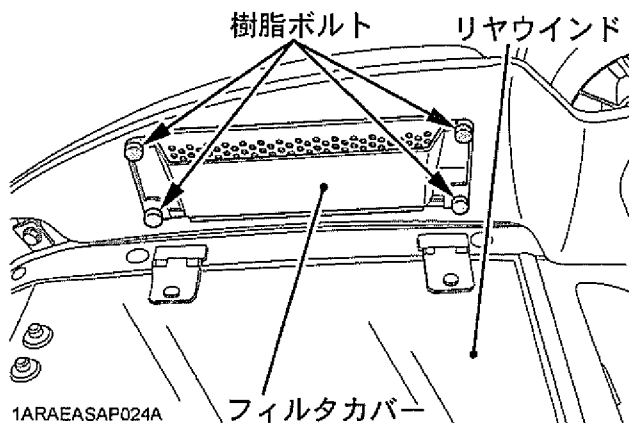
2. 内気フィルタを掃除します。掃除を行っても汚れの取れないときや、損傷しているときは交換してください。
3. 内気フィルタを取付けます。取付けるときは、プッシュリベットを内気フィルタに差込み、(A)部を押しプッシュリベットを固定します。



◆外気フィルタの掃除・交換

1. 樹脂ボルトを取外して、フィルタカバーと外気フィルタを取外します。
2. 外気フィルタを掃除します。掃除を行っても汚れの取れないときや、損傷しているときは交換してください。

メンテナンス



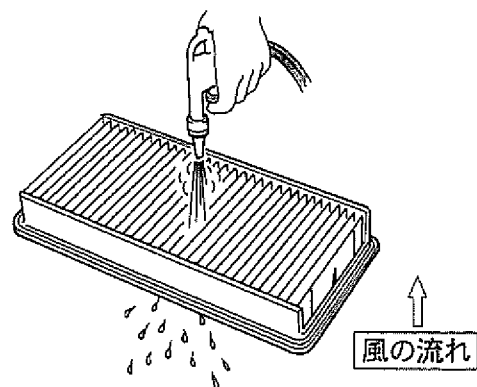
3. 外気フィルタとフィルタカバーを取付けます。

重 要

- * エLEMENTは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は、たたいたり固い物に当てて変形させるとエアコンの故障の原因となりますのでしないでください。
- * 外気フィルタを取付けるときは、傾きがないように確実に取付部に差込んでください。

補 足

- * 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。



- * 汚れが著しいときは、家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させてください。
- * フィルタカバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

■ 冷媒（ガス）量の点検

冷媒が不足するとエアコンが冷えなくなります。下記要領で点検し、冷媒が不足しているときは、購入先に連絡して補充してください。

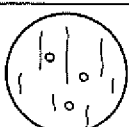
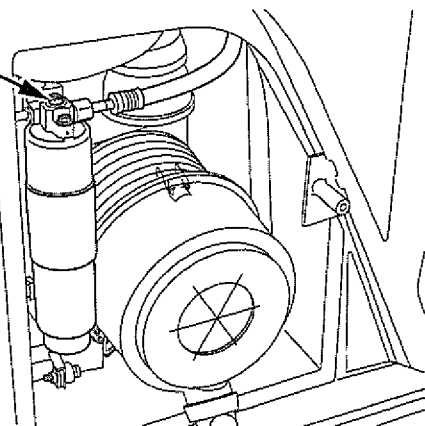
◆点検

1. エアコンを下記の条件で運転します。
 - 外気温：30度以上
 - エンジン回転数：約1500rpm
 - 内外気切換えレバー：[内気循環] 位置
 - 温度調整つまみ：左端（最強冷位置）
 - ファンスイッチ：[3]（風力最強位置）
 - エアコンスイッチ：[入] 位置
 - 窓（左、後）を全開、ドア全開
2. 防じんカバーを開きます。
3. サイトグラスにより、冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。
4. レシーバに流れている冷媒ガスを、サイトグラスから確認します。

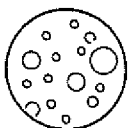
メンテナンス

サイトグラス

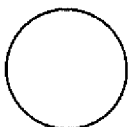
1ARAEBCAP239A



適正…流れの中にほとんど気泡が含まれていない。



不足…流れの中に気泡が含まれている。
(気泡が連続的に通過)



なし…無色透明

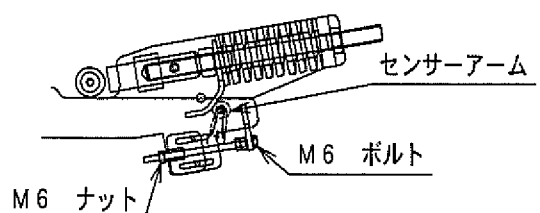
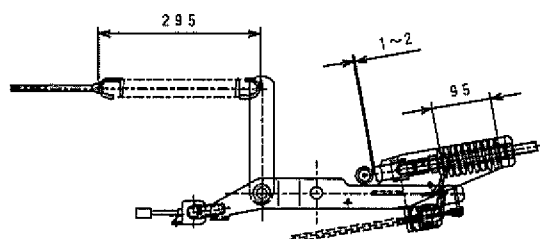
1AGALAFAP320A

5. エンジンを停止し、ファンスイッチとエアコンスイッチを[切]位置にします。
6. 防じんカバーを閉じます。

18. 感知装置の点検・調整

◆満了感知装置の装備位置

下図に示すように進行方向左側のサイドカバーの内側に装備しています。



M6 ナットを緩め、M6 ボルトを締め込み感知した位置から3回転緩め、再度 M6 ナットでロックしてください。

(調整後、センサーアームを手で動かし2~3mm動かし感知することを確認してください。)

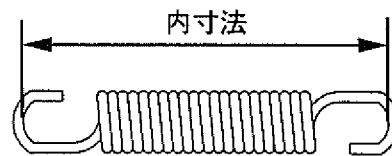
注意

感知装置は出荷時に調整済みですので再調整する場合は、販売店まで連絡してください。

19. 各部ワイヤの点検・調整

補足

スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。



1ASADACAP390A

■ 駐車ブレーキワイヤの点検・調整

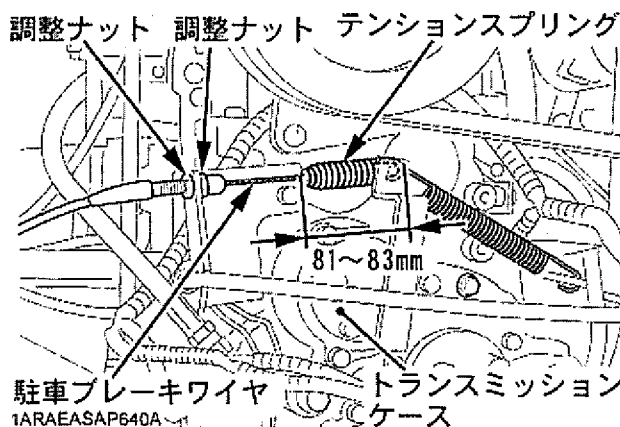
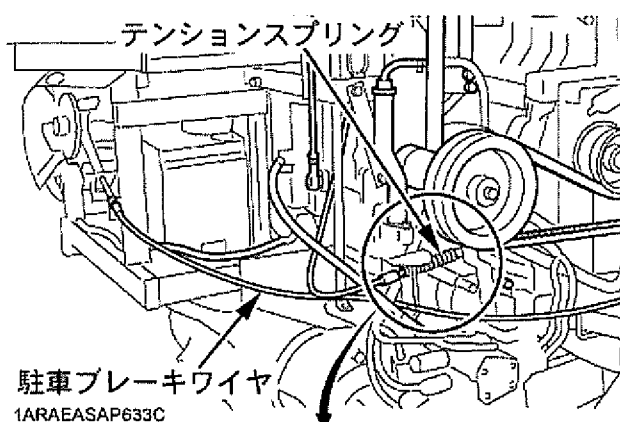
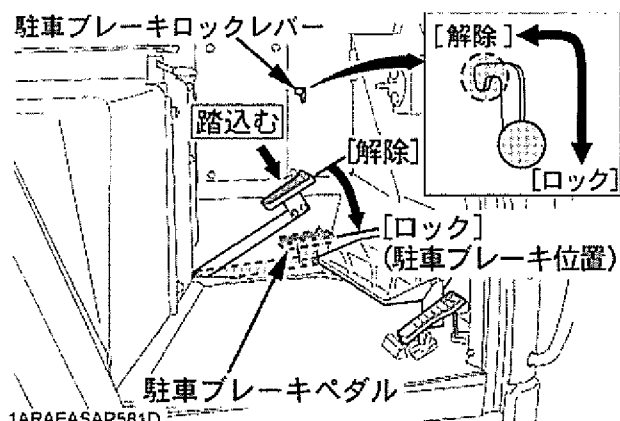
▲ 注意

- * 刈取部の開閉を行なうときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。
- 傾斜地では、刈取部の開閉は行なわないでください。
- * 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- * 刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- * 刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

メンテナンス

テンションスプリングの長さを81～83 mm に調整します。

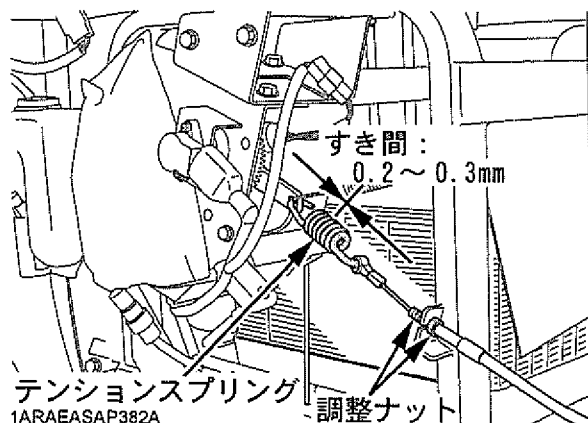
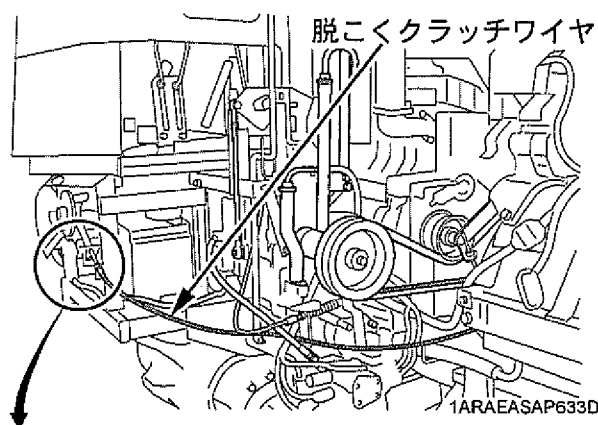
1. 駐車ブレーキを掛けます。
2. 刈取部を開きます。
3. 調整ナット2個をゆるめて、調整します。



4. 調整ナットを締め付けます。
5. 刈取部を閉じます。
6. 駐車ブレーキを解除します。

■ ロールベアラクラッチワイヤ（脱穀クラッチワイヤ）の点検・調整

1. 刈取部を開きます。
2. メインスイッチのキーを〔入〕位置にしたあと、ロールベアラ・刈取クラッチレバーを刈取〔入〕の位置にします。
3. メインスイッチのキーを〔切〕位置にします。
4. 調整ナットを2個ゆるめてテンションスプリングのすき間を0.2～0.3mmの範囲の内に調整します。



5. ロールベアラ・刈取クラッチレバーを〔切〕の位置にします。
6. 調整ナットを締め付けたあと、刈取部を閉じます。

メンテナンス

20. 各部ベルトの点検・調整

▲ 注意

- *刈取部，引起し部，運転操作部，ロールベアラなどの各部を開いて作業を行なうときは，下記事項を遵守してください。
- 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて行なってください。
- 傾斜地では，各部の開閉は行なわないでください。
- 刈取部，引起し部，ロールベアラカバーを開いたときは，閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- 各部を開いた状態で走行をしないでください。
- 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- *刈取部を開いた状態で作業するときは，枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。
- *刈取部の開閉を行なうときは，機体を最下降位置にしてください。
- *取外したカバー類は，必ず取付けてください。

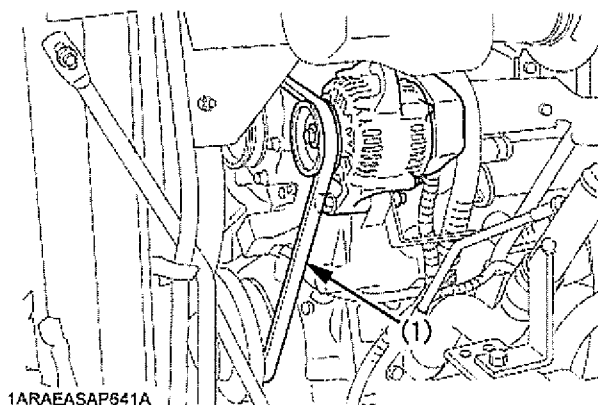
下表を参照して、各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検箇所	図番	名 称	サイズ	本 数 (本 / 台)	張 り 調 整	
					テンションスプリング 取付け長さ (mm)	たわみ 量 (mm)
エンジン・刈取部周辺	(1)	ファン駆動ベルト	A48 (コグ)	1	—	10～12
	(2)	コンプレッサ駆動ベルト	A37	1	—	3～5
	(3)	ミッション駆動ベルト	特 C60 コグ	2	A 20～23 (テンションロッドの出代)	—
	(4)	ベアラ駆動ベルト	特 B60 コグ	3	B 0.2～0.3 (すき間) (145ページ参照)	—
	(5)	刈取駆動ベルト	特 C48	1	C 140～144	—
	(6)	補助搬送 (突起付) ベルト	—	5	—	10～15

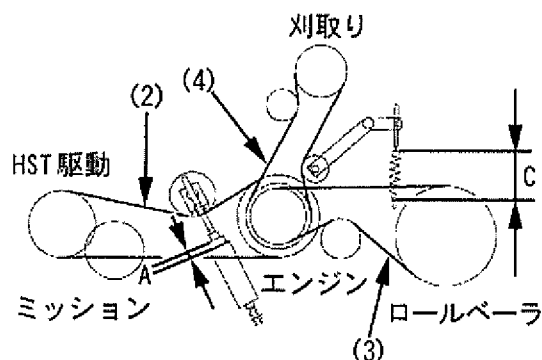
重 要

ベルトの交換を行なうときは、2本又は、3本同時に交換してください。単品で交換すると、新しく交換したベルトの寿命が短くなるおそれがあります。

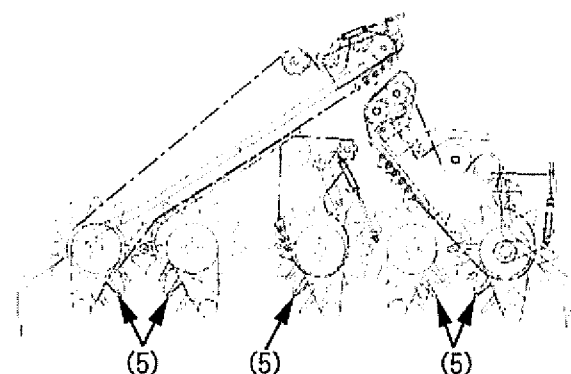
メンテナンス



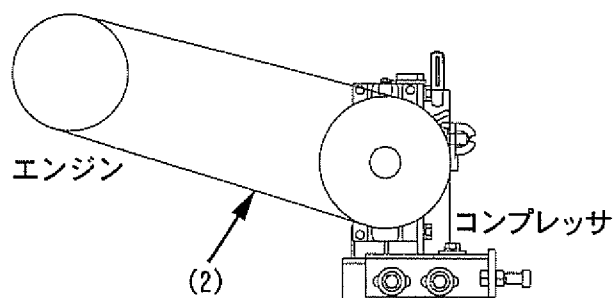
1ARAEASAP641A



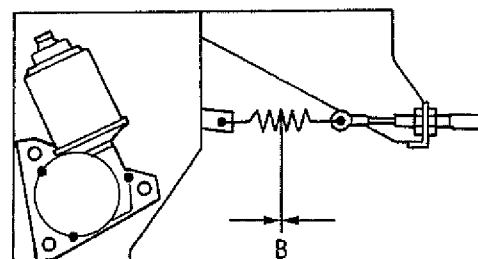
1ARAEASAP352A



1ARAEASAP353A



1ARAEASAP351A



1ARAEPAP202F

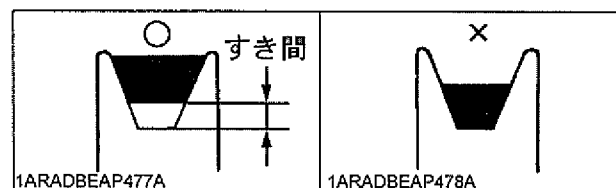
◆点検

各部のベルトを点検するときは、下記の事項をよく確認してください。

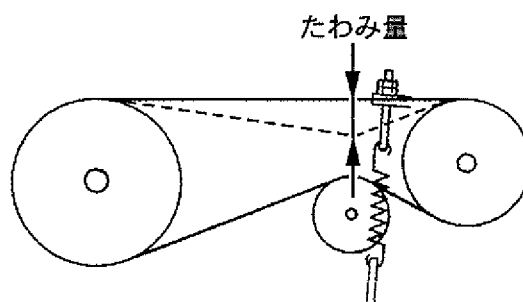
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		
1ARADBEAP474A	1ARADBEAP475A	1ARADBEAP476A

- ## 2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



- ### 3. ベルトの伸び (たわみ量)



1ASADACAP384A

上記の事項を確認したとき、異常があればベルト交換又は、ベルトの張り調整を行ってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

メンテナンス

重要

ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は、張り調整を行なってください。

補足

スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。

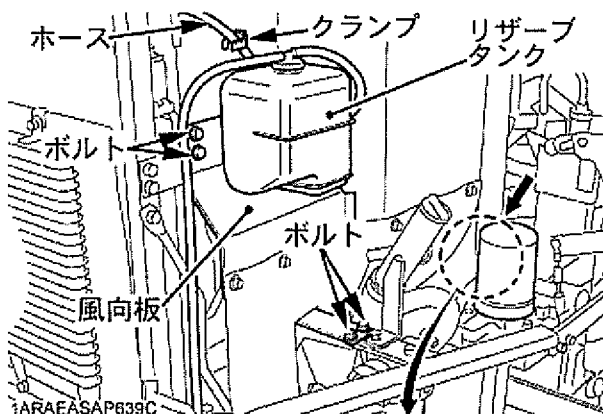


1ASADACAP390A

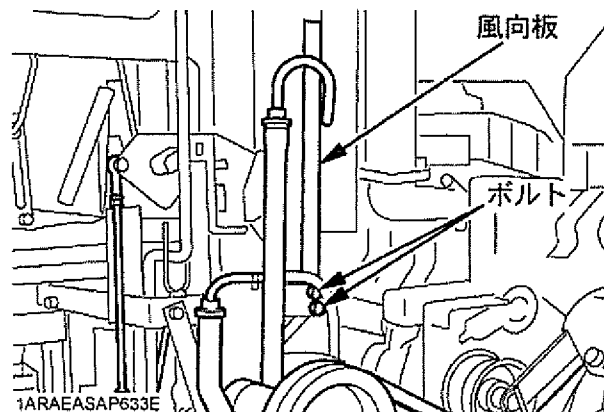
■ファン駆動ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を押したとき（約 100～110N {10～11kgf} の荷重）のたわみ量を 10～12mm に調整します。

1. 運転操作部を開きます。
2. リザーブタンクのホースを風向板に固定しているクランプを解除します。
3. ボルトを取外して風向板を取外します。

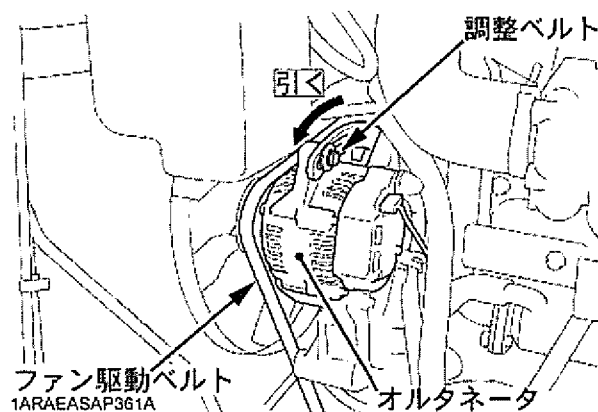


1ARAEASAP639C

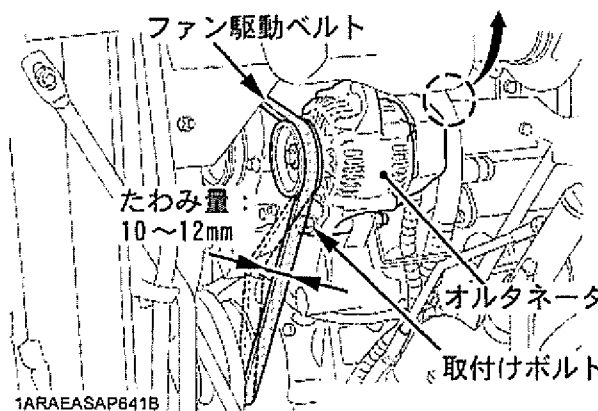


1ARAEASAP633E

4. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
5. オルタネータを引っ張ります。
6. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。



1ARAEASAP361A



1ARAEASAP641B

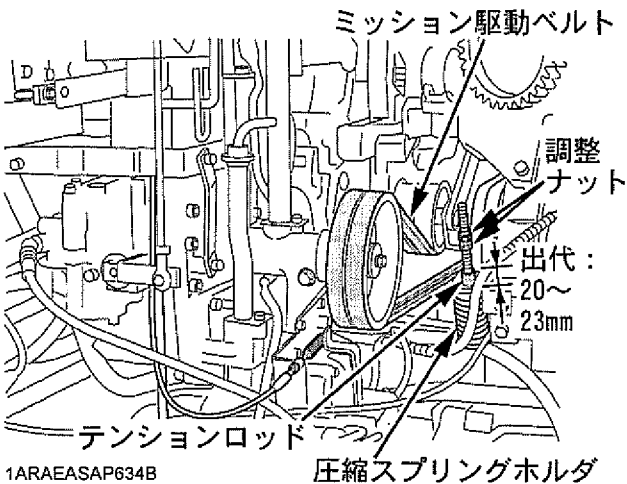
7. 風向板を取付けたあと、リザーブタンクのホースをクランプして固定します。
8. 運転操作部を閉じます。

メンテナンス

■ミッション駆動ベルトの点検・調整

テンションロッドの出代を20～23mmに調整します。

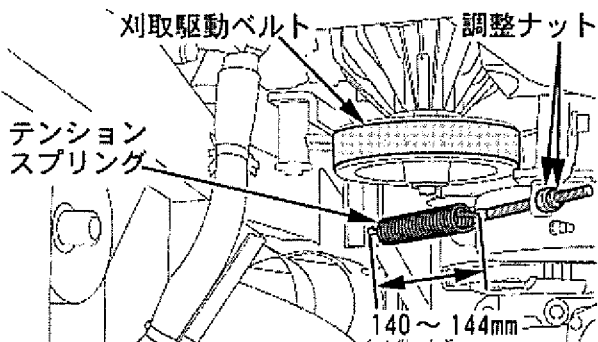
1. 刈取部を開きます。
2. 調整ナット2箇所をゆるめて、調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、刈取部を閉じます。



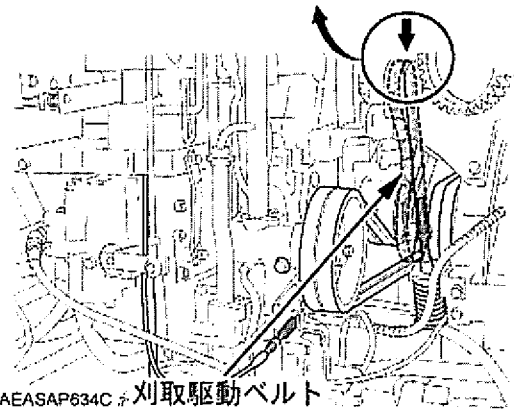
■刈取駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを140～144mmに調整します。

1. 刈取部を開きます。
2. 調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと、刈取部を閉じます。



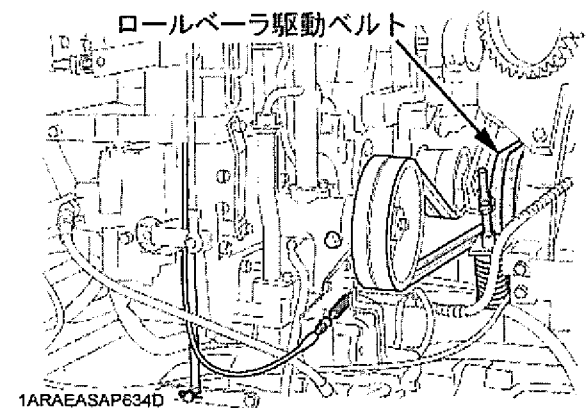
※イラストは運転席から見た状態



■ロールベアラ駆動ベルトの点検・調整

調整については、145ページを参照してください。

(ワイヤとベルトの張り調整は同じです。)

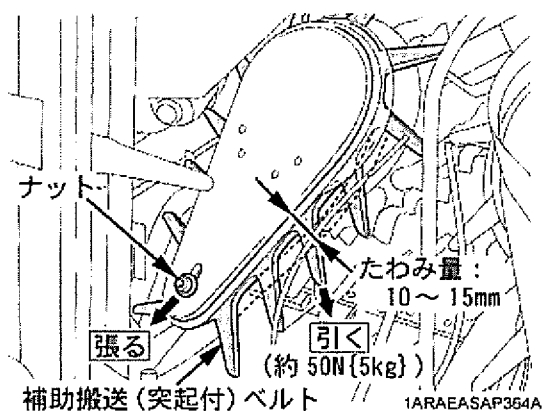
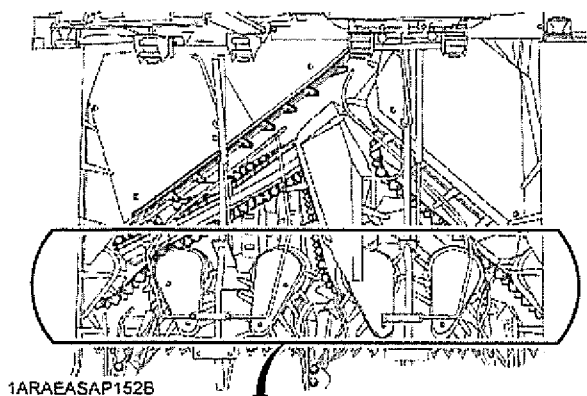


■補助搬送（突起付）ベルトの点検・調整

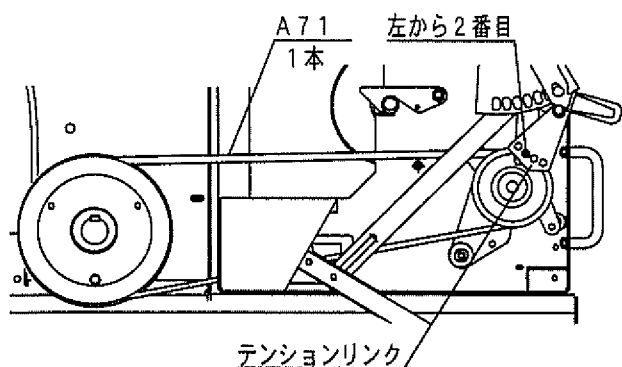
指先でベルトの中央部を引いたとき（約50N [5kgf] の荷重）のたわみ量を10～15mmに調整します。

1. 引起しサイドカバー左、右を取外します。
2. 引起し部を上側を開きます。
3. ナットをゆるめます。
4. 張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。
5. 同じ要領で全てのベルトの調整を行ないます。
6. 引起しサイドカバー左、右を取付けます。
7. 引起し部を閉じます。

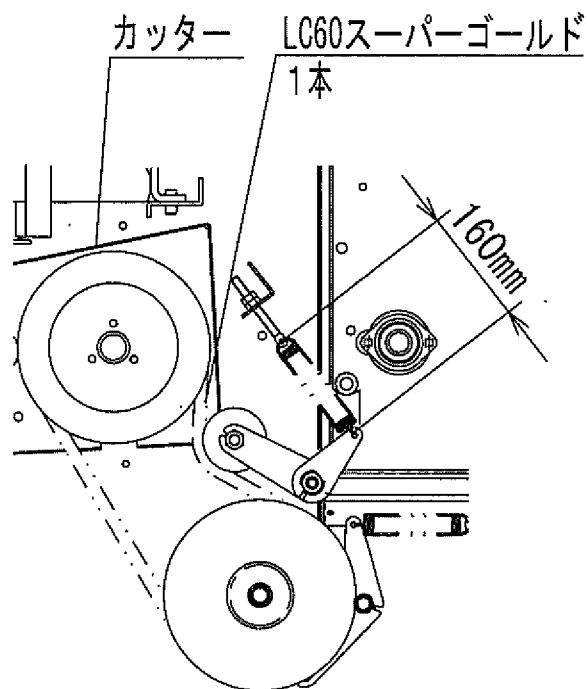
メンテナンス



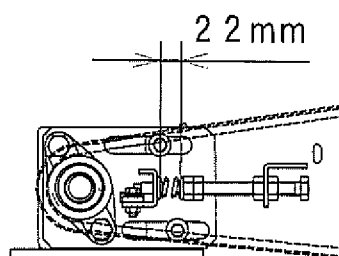
- ロールベラー部のベルトの調整
 - ・ ネット駆動ベルト
テンションリンクをは左から 2 番目に取り付けてください。



- ・ カッター駆動ベルト
バネの長さが 160mm になるようにしてください。



- ・ コンペアーベルト
バネ長を 22mm にしてください



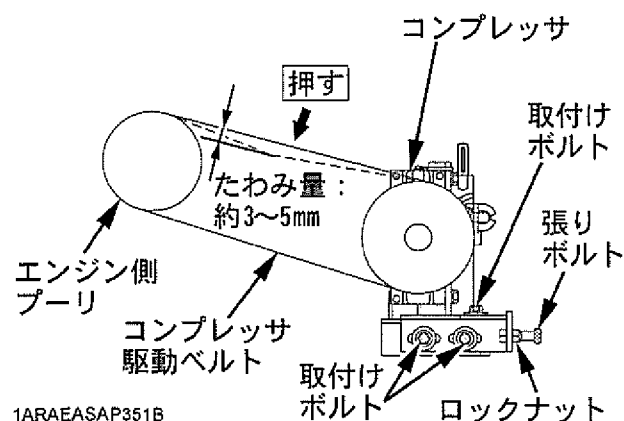
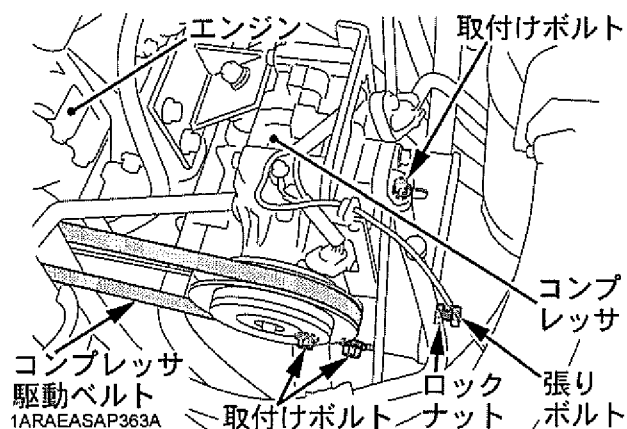
メンテナンス

■コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を押したとき（約 16N{1.6kgf} の荷重）のたわみ量を 3～5 mm に調

整します。

1. 運転操作部を開きます。
2. コンプレッサの取付けボルトをゆるめま
- す。
3. 張りボルトのロックナットをゆるめたあ
- と、張
- りボルトで調整します。
4. 張りボルトのロックナットを締付けたあ
- と、コ
- ンプレッサの取付けボルトを締付けます。
5. 運転操作部を閉じます。



21. 各部チェーンの点検・調整

⚠ 注意

* 刈取部、引起し部などの各部を開いて作業を行なうときは、下記事項を遵守してください。

● 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。

● 傾斜地では、各部の開閉は行なわないでください。

● 刈取部、引起し部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。

● 各部を開いた状態で走行をしないでください。

● 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

* 刈取部を開いた状態で作業するときは枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。

* 刈取部の開閉を行なうときは、機体を最下降位置にしてください。

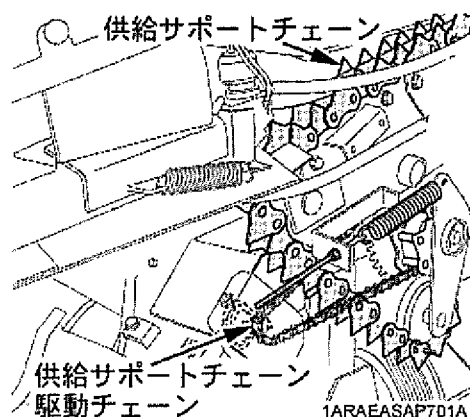
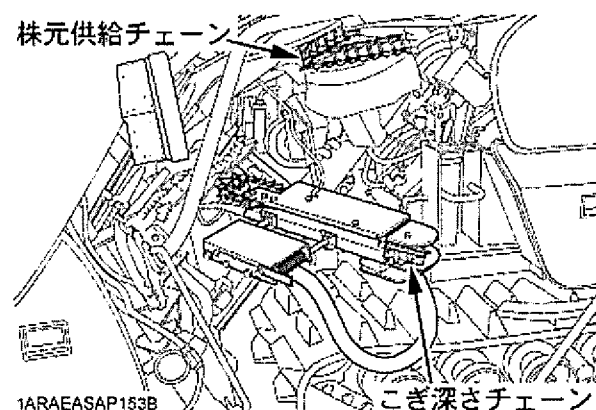
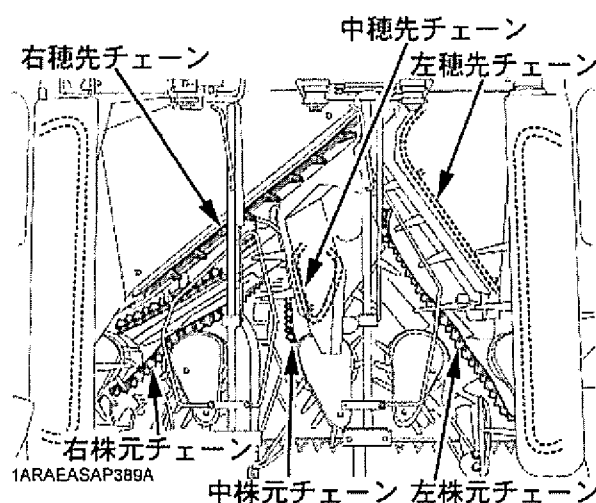
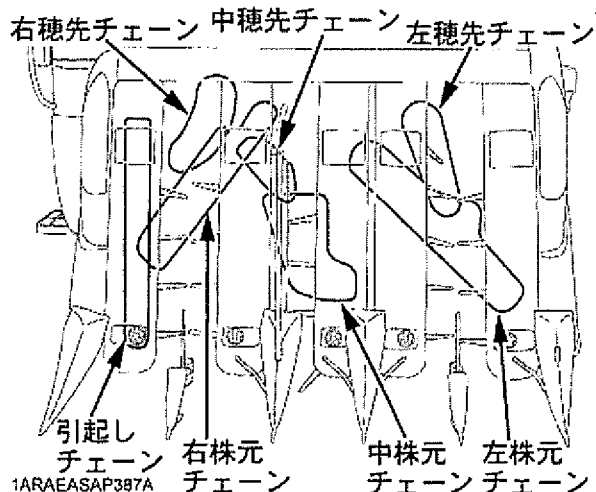
* 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

メンテナンス

◆点検

各部のチェーンを点検して、ゆるみがあるときは調整してください。

●点検箇所

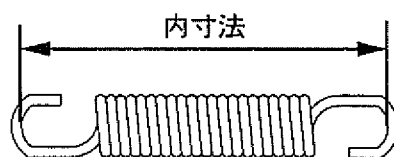


◆調整

チェーンが伸びているときは、張り調整を行なってください。

補 足

スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。



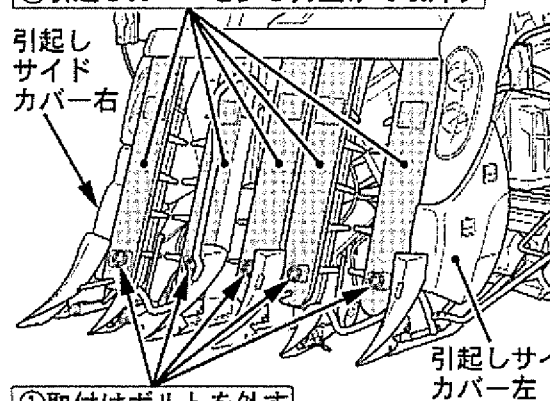
11ASADACAP390A

■引起しチェーンの点検・調整

引起しテンションフックとテンションスプリングの段差を0.5～2.5mmに調整します。

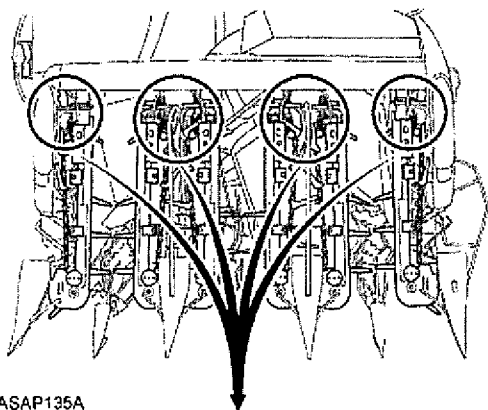
1. 引起しカバー及び引起しサイドカバー左、右を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整します。
3. ロックナットを締付けます。

②引起しカバーを少し持ち上げて取外す

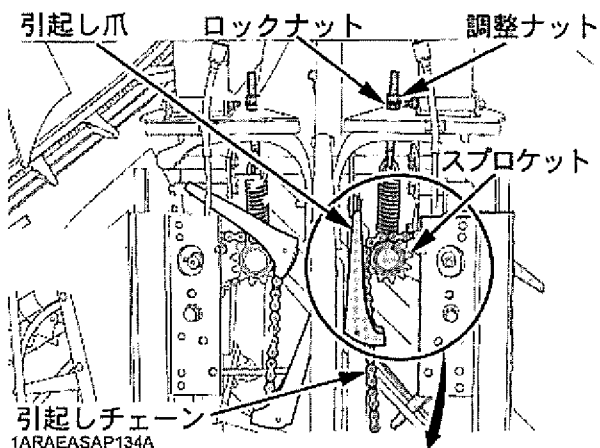


①取付けボルトを外す

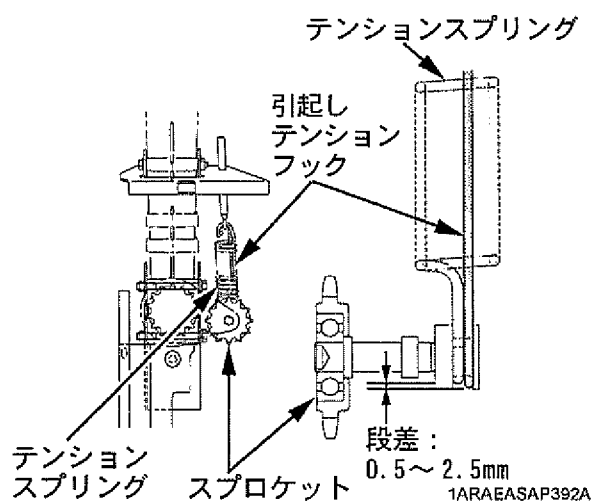
メンテナンス



1ARA-EASAP135A



1ARA-EASAP134A



1ARA-EASAP392A

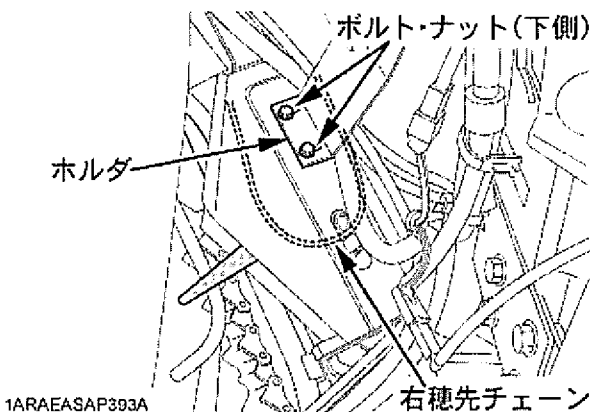
補足

*調整は全条行なってください。

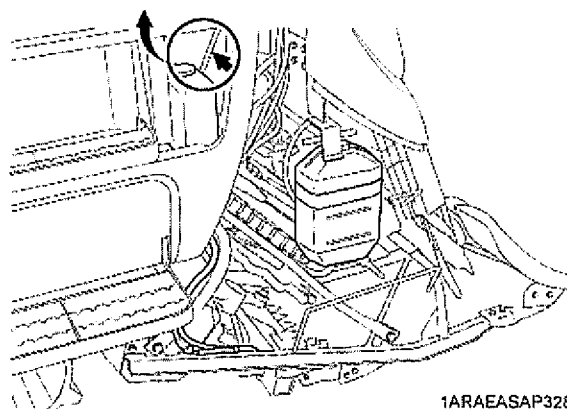
4. 引きしカバーを取付けたあと、引きしサイドカバー左、右を取付けます。

■右穂先チェーンの点検・調整

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは、2箇所のボルト・ナット（下側）をゆるめてホルダを前方に張ってください。また、ホルダの調整ができなくなったときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。



1ARA-EASAP393A

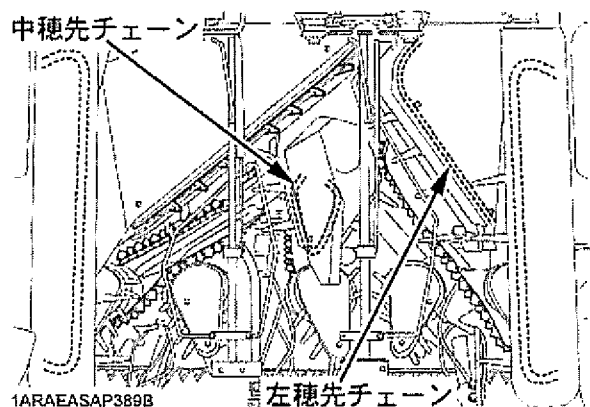


1ARA-EASAP328C

■中穂先チェーン、左穂先チェーンの点検

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。

1. 引きし部を開きます。
2. 点検を行なったあと、引きし部を閉じます。



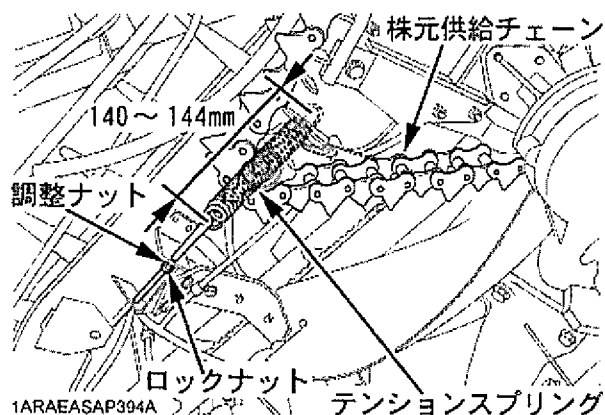
1ARA-EASAP389B

メンテナンス

■株元供給チェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さを140～144mmに調整します。

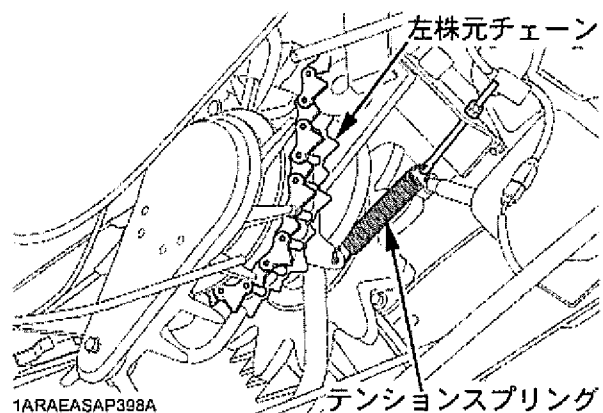
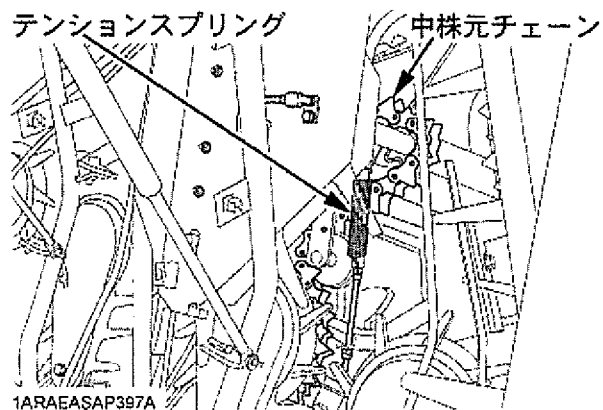
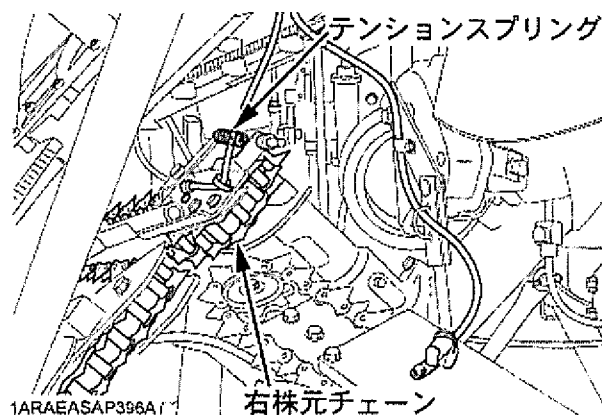
1. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。



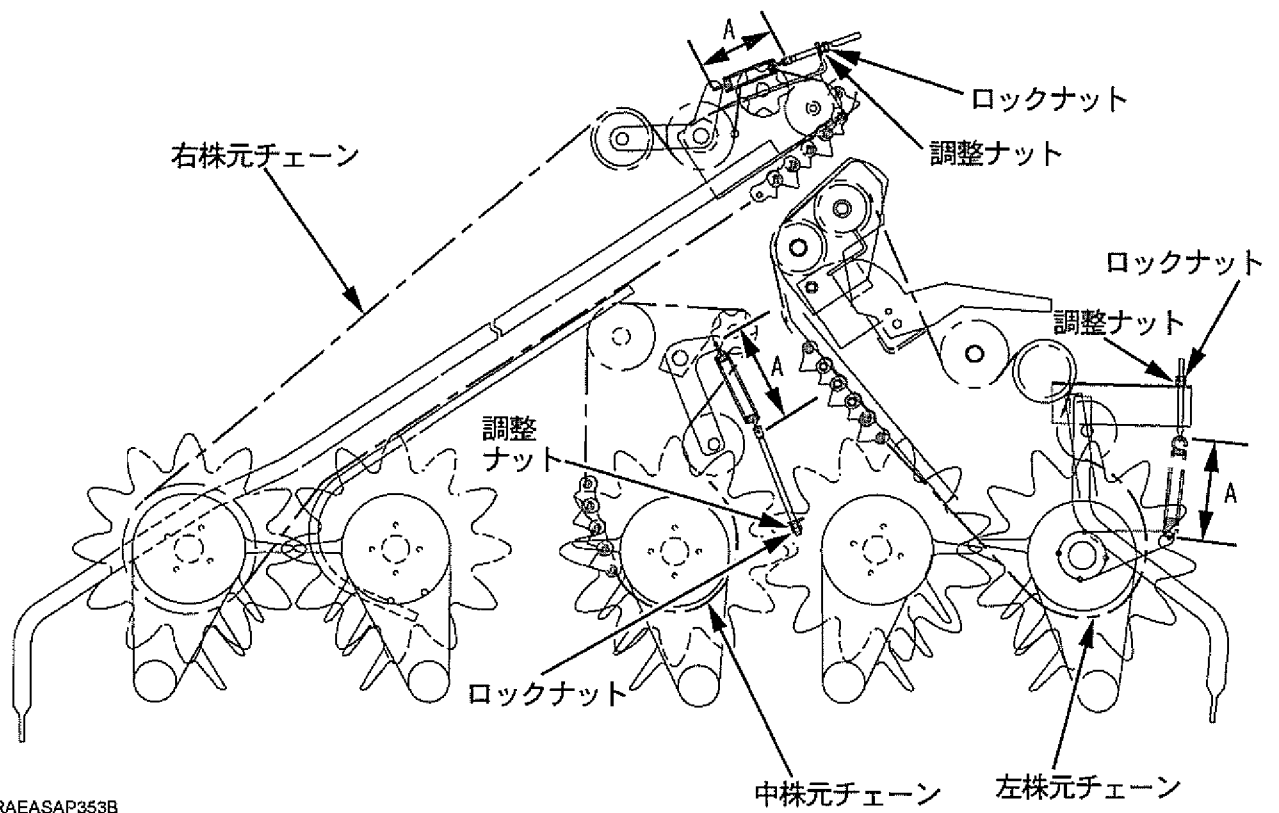
■右株元チェーン，中株元チェーン， 左株元チェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さA寸法を140～144mmに調整します。

1. 引きし左サイドカバーを取外したあと、引きし部を開きます。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと、引きし部を閉じ、引きし左サイドカバーを閉じます。



メンテナンス

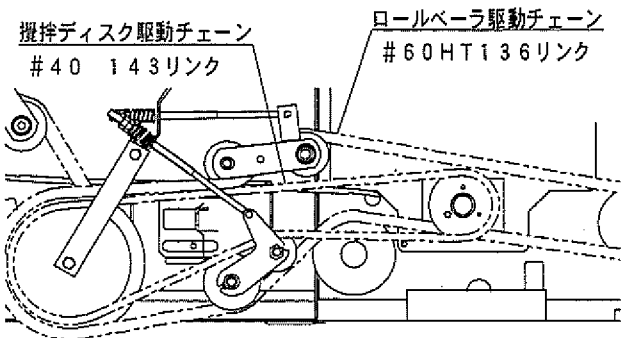


1ARAEASAP353B

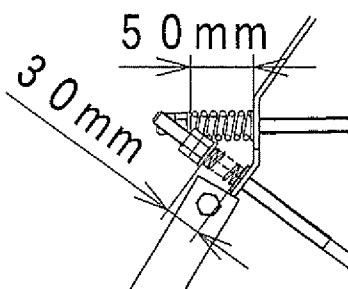
メンテナンス

■ ロールベアラ部チェーンの点検・調整

● ロールベアラ、攪拌ディスク駆動チェーン



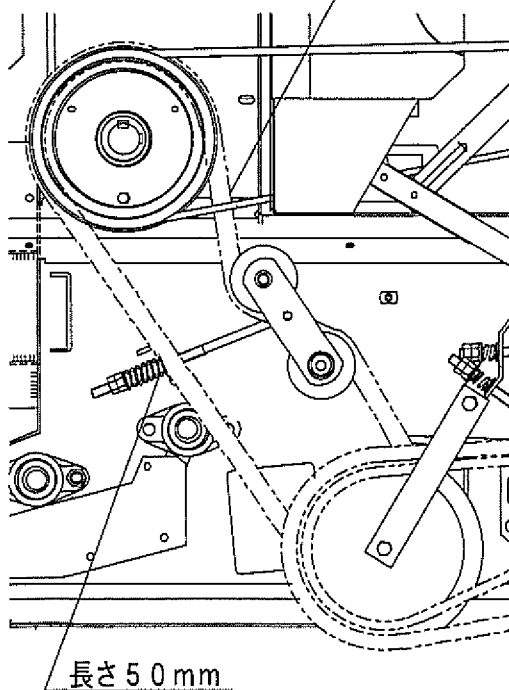
チェーンが伸びたときはバネの長さを
下図のよう調整してください。



● タイトチェーンの駆動チェーン

タイトチェーンの駆動チェーン

#80 75リンク

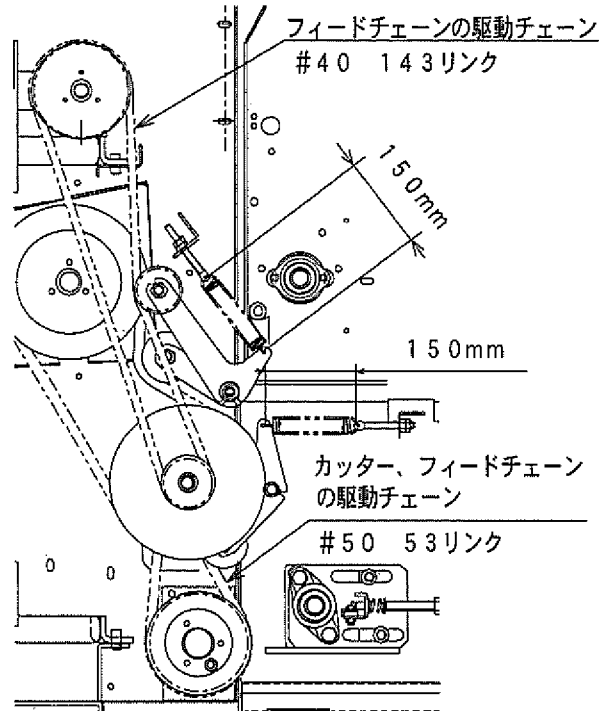


チェーンが伸びたときはバネの長さを
50mm

にしてください。

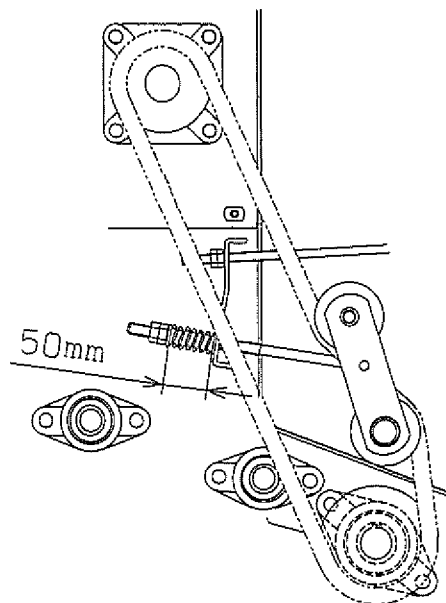
● カッター、フィードチェーンの駆動チェーン

フィードチェーンの駆動チェーン



チェーンが伸びたときはバネの長さを
いずれも150mmにしてください。

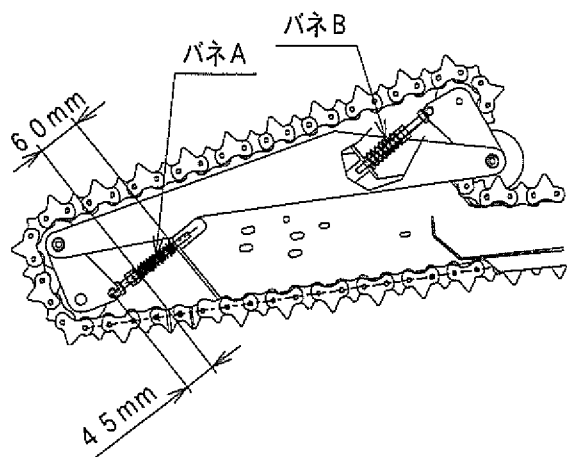
● コンベアベルト駆動チェーン



チェーンが伸びたときはバネの長さを
50mmにしてください。

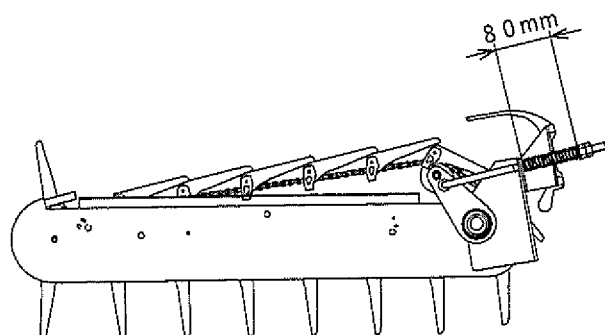
メンテナンス

● ギャザリングチェーン



チェーンが伸びたときはバネAの長さを60mmになるようにバネB部で調整してください。

● 穂先チェーン



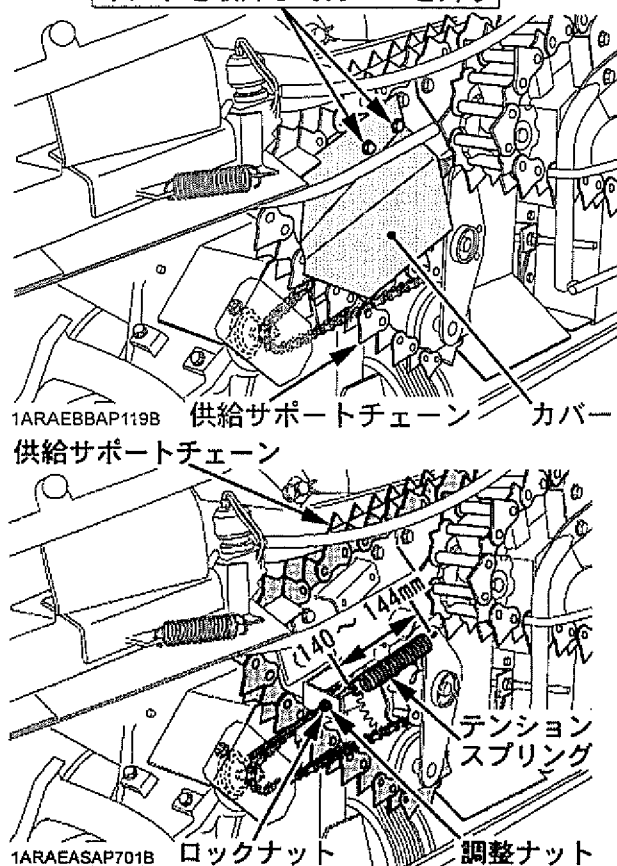
チェーンが伸びたときはバネの長さを80mmになるように調整してください

■ 供給サポートチェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さを140～144mmに調整します。

1. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行います。
2. ロックナットを締付けたあと、供給サポートチェーンのカバーを取付けて左サイドカバー上1を取付けます。

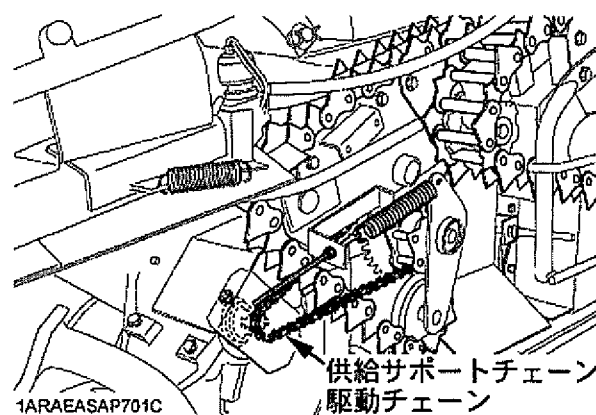
ボルトを取外してカバーを外す



■ 供給サポートチェーン

駆動チェーンの点検

チェーンが伸びたときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。

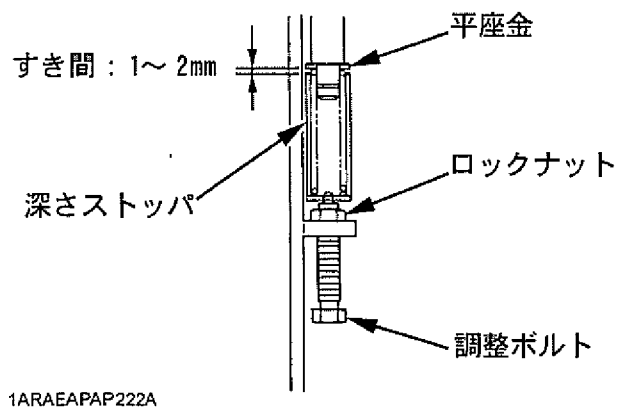
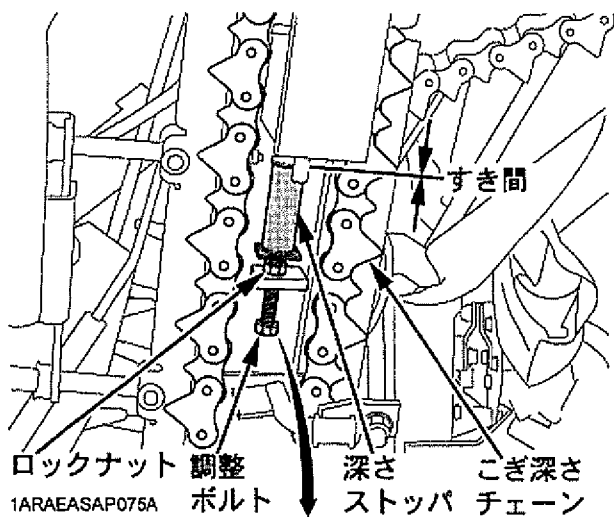


メンテナンス

■こぎ深さチェーンの点検・調整

深さストッパとテンションアームの平座金のすき間を1～2mmに調整します。

1. メインスイッチのキーを[入]位置にしたあと、手動こぎ深さスイッチを操作してこぎ深さチェーンを最深こぎ位置（こぎ深さチェーン最上昇位置）にします。
2. メインスイッチのキーを[切]位置にします。
3. ロックナットをゆるめて、調整ボルトで調整を行ないます。
4. ロックナットを締付けます。



メンテナンス

2.2. カッター部の点検・調整



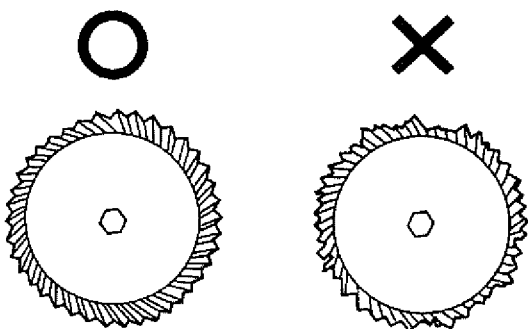
警告

- * 平坦な場所でエンジンを必ず停止して行なってください。
- * 手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。

補足

- * わらくずなどは取除いてください。

カッターの駆動ベルトを外しプーリーを手で回転させ刃先の磨耗状態を確認します。刃先が磨耗したり、欠けているときは交換してください。



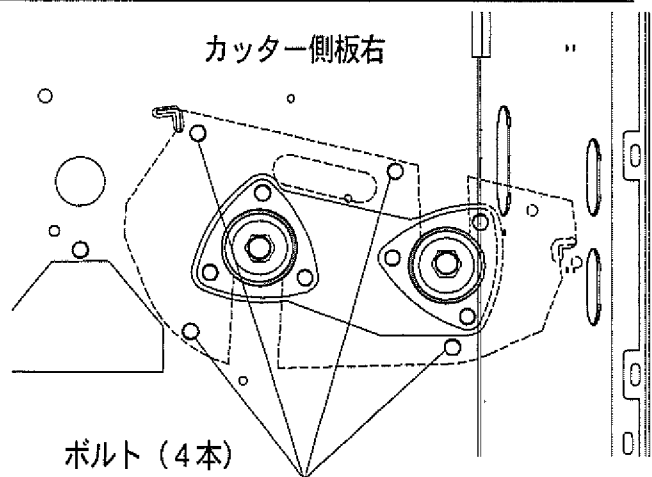
カッターの刃の交換、調整はカッターをロールベアから引き抜いて行ってください。

注意

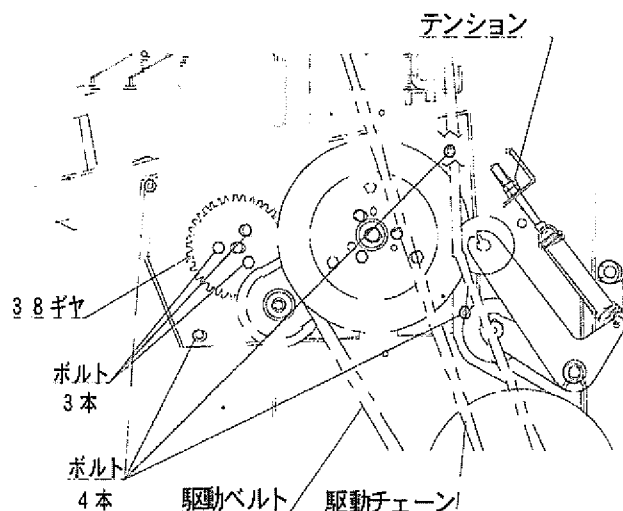
カッターの引き出しはクレーンのあるところで行ってください。人手で行う時は4人で作業してください。必ず手袋をし、直接カッターの刃に触れないでください。

● カッターの外し方

1. カッターカバー外、フロントカバーL、フロントカバーRを外してください。
2. ロールベア右の右上図のボルト4本はずしてください。

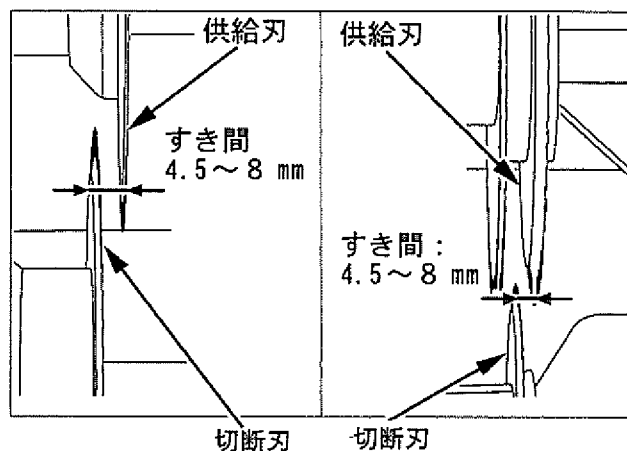


3. 駆動チェーンと駆動ベルトのテンションを緩めチェーンとベルトを外してからボルト4本を外し、カッターを引きだしてください。



● 点検

1. 両端部の 切断刃 と供給刃のすき間を確認し、4.5 ~ 8.0mm の範囲から外れているときは調整を行ないます。



メンテナンス

● 調整

1. 38ギヤのボルトを3本はずします。
2. 38ギヤを左又は、右に回して切断刃と供給刃の隙間を調整します。隙間は左に回すと大きくなり右に回すと小さくなります。

* この調整はカッターをロールベアラに固定した状態で行ってください。

重要

- * 38ギヤを左に回した場合（すき間を大きくした場合）は、38ギヤとボス部にすき間ができるため、38ギヤを軸方向に必ず押込んだ状態ですき間を調整してください。
- * すき間は、株元側と穂先側の両端部で測定してください。

◆ 切断軸と供給軸の増締め

1. 2人作業で株元側から切断軸と供給軸をそれぞれ増締めをします。

重要

- * 軸の締付けトルクは $98.0 \sim 117.6 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1000 \sim 1200 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) です。確実に締付けてください。組付け時、刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと、刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

- (1) カッタフレーム内側から切断軸又は、供給軸の終端部の六角部にそれぞれスパナを掛けて固定します。
- (2) カッタフレーム外側から切断軸又は、供給軸の六角部にそれぞれスパナを掛けて増締めします。このとき、供給軸は時計方向、切断軸は反時計方向に締付けます。

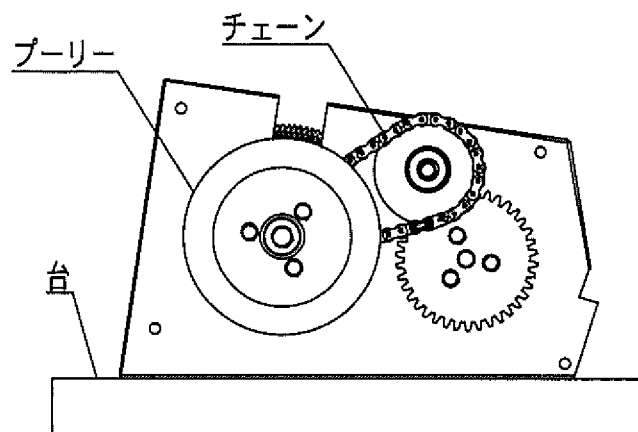
■ カッタ刃の交換



警告

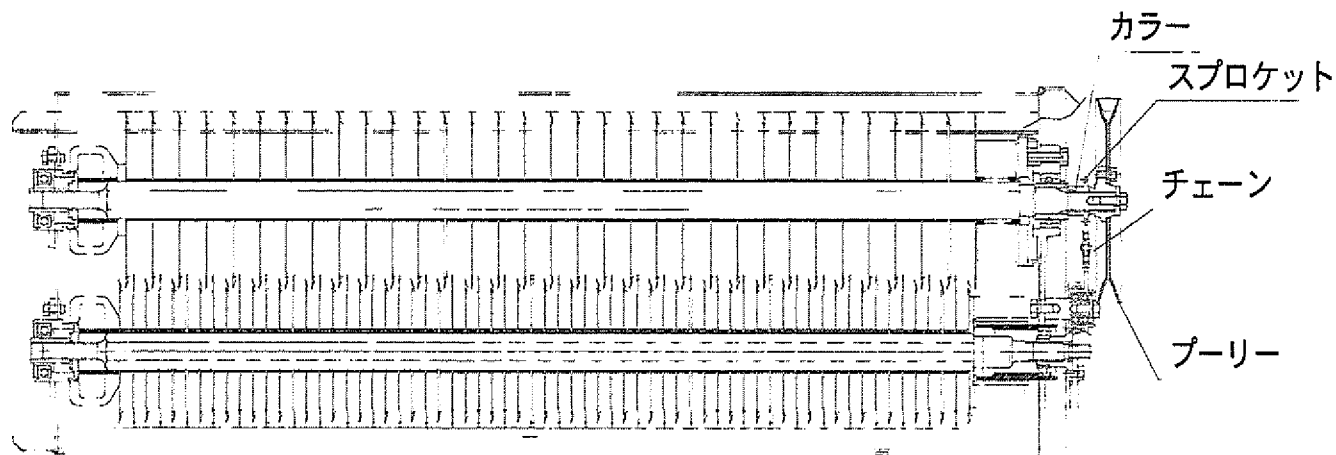
- * カッタ刃を交換するときは、エンジンを必ず止めてください。
- * 手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。
- * 切断軸完備を外すときは、2人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。
- * 切断軸アッシの分解・組立て作業は2人作業で行なってください。

1. カッターをロールベアラから外したら上下さかさまに台に置いてください。



メンテナンス

2. プーリー、チェーン、スプロケット、カラーをはずします。



3. 切断軸完備をとりはずします。

4. カッタ刃（切断刃）の交換を行ないます。交換作業を行なうときは、必ず補助者と共に2人作業で行なってください。

(1) 切断軸アッシを安定した場所に置き、穂先側のロックナット、調整ナットと順番に取外して分解します。

(2) 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態でカッタ刃の取付け方向（刃先の向き）や大きさ（大、小）に注意しながら交換を行ないます。

重 要

- * 組付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると、切断軸が軸振れを起こして異音が発生したり破損する原因となります。
- * 組付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると、カッタ刃と供給刃のすき間及びカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ、上記の軸振れを起こすことやわらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

5. 切断軸完備をカッターフレームに組付けます。

6. 切断軸ナットを増締め要領〔194 ページ〕で締め付けます。

重 要

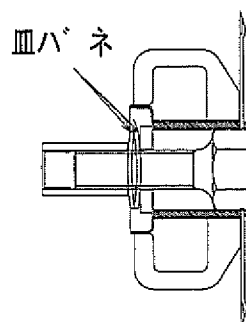
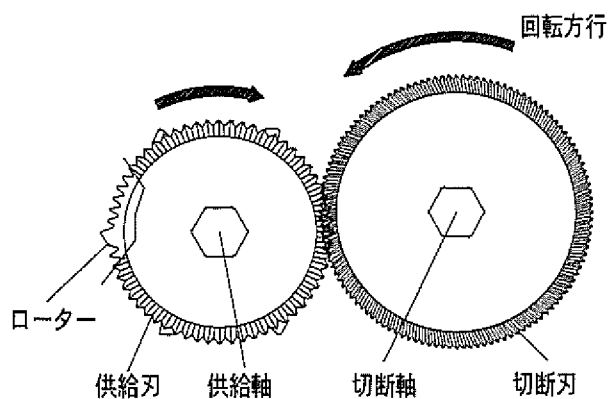
- * 軸の締め付けトルクは $98.0 \sim 117.6 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1000 \sim 1200 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) です。確実に締め付けてください。
- カッタ刃と供給刃が接触していないかまた、手で切断軸を軽く回して確かめてください。

7. 取り外した逆の手順で各部品の取り付けを行います。

8. カッターを本体に組み付けます。

補 足

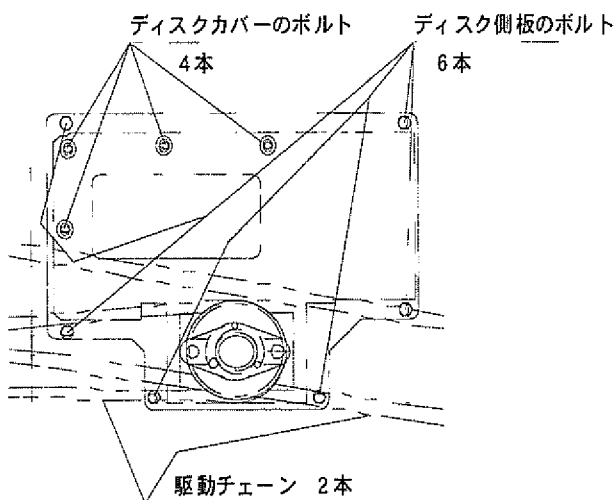
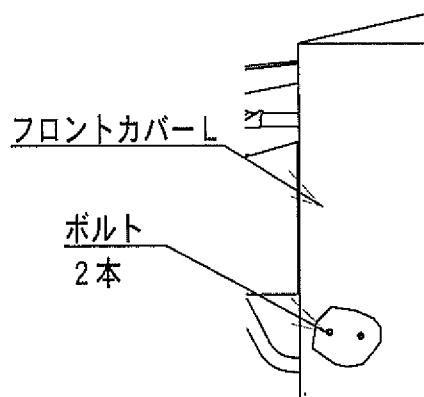
- * 取付方向（刃先やローターの向き）を間違えると切断性能や送り性能が悪くなります。
- * サラバネ2枚は下図のように組みつけてください。
- * 刃、ローターの向きと回転方向は下図のようになります。



23. スピンナー部の点検・調整

スピンナー部アッシを本体から引き抜いて点検調整してください。

- ① フロントカバーL 内のボルトを2本外します。



- ② フロントカバーR を外し、駆動チェーンを2本はずします。
- ③ ディスク側板のボルト6本とディスク

- カバーのボルト4本をはずしスピンナー部アッシを本体から引き抜きます。
- ④ スピンナーやスピンナー根が磨耗したり変形すると攪拌性能が悪くなる場合があります。そのときは交換してください。

メンテナンス

24. 刈刃の点検・調整

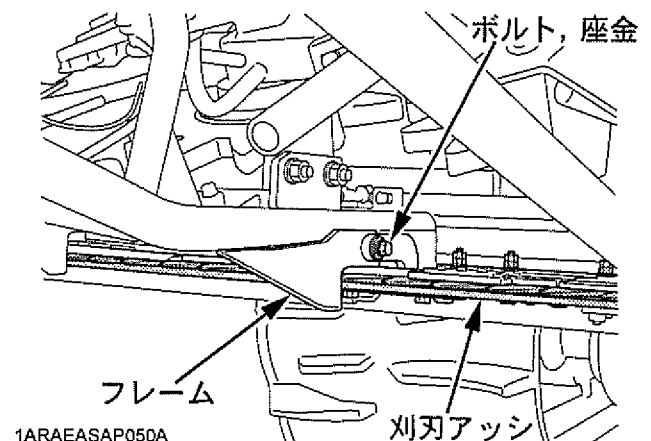
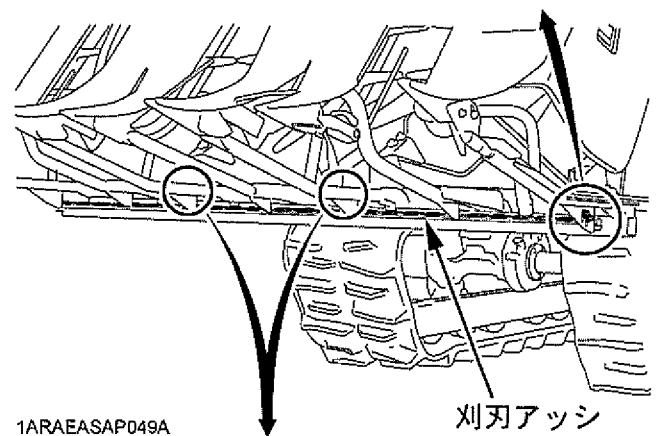
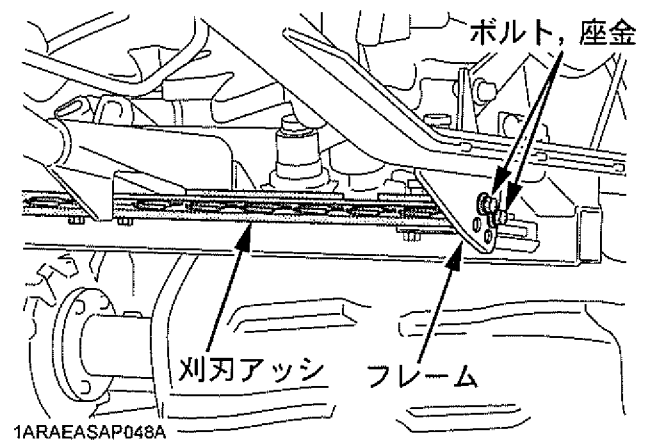
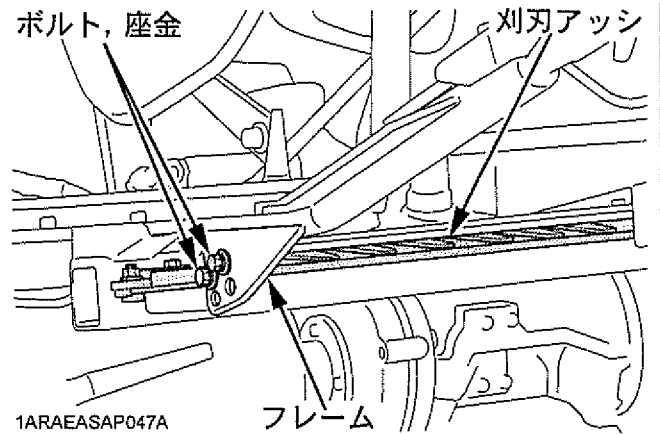
⚠ 注意

- * 平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。
- * 刃部に手を掛けしないでください。不用意に刃が動くと危険です。
- * 脱着作業は手袋をして、2人で刈刃の両端を持って行なってください。

刈刃の刃先が摩耗してきたり、欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり、引抜きを起こすことがありますので、早目の点検・調整・交換を行なってください。

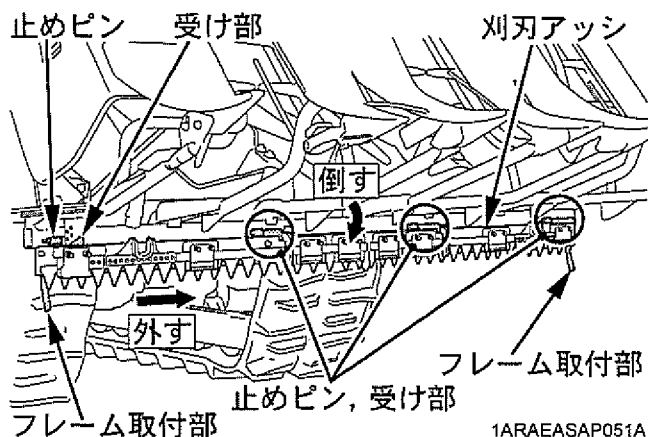
◆点検・取外し

1. 自動車体水平制御の手動スイッチの【上】を押して、機体を最上昇位置にします。
2. 刈取部を最上昇させたあと、刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にし、スイッチロック金具をセットして、刈取部の下降防止を行なったあと、エンジンを停止します。さらに枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。
3. 刈刃アッシをフレームに取り付けているボルト、座金各6個を外して、刈刃アッシを下側に倒します。（刈刃オープン）

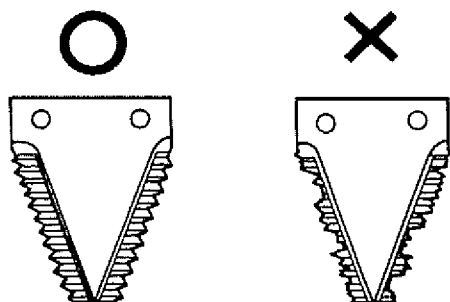


メンテナンス

4. 左、右のフレーム取付部と刈刃アッシを持ち2人作業で刈刃アッシを左側に移動して、止めピンを受け部から外し刈刃アッシを取外します。



5. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し、動きがかたいときは、注油、グリース塗布やすき間調整を行ないます。また、刃先が摩耗したり、欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼してください。



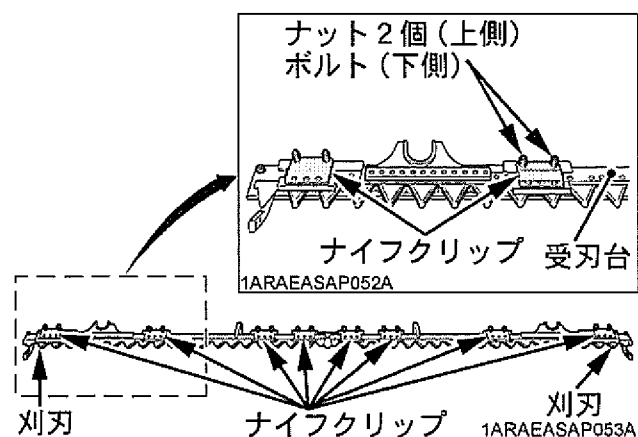
◆すき間調整

すき間を測定するときは、すき間ゲージを使用してください。

補 足

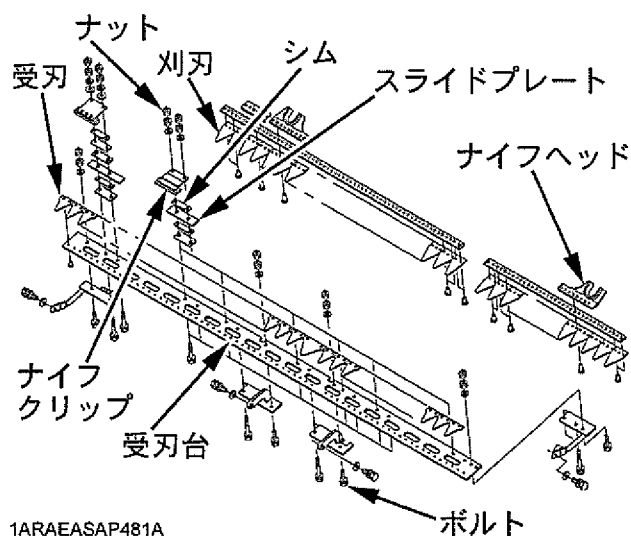
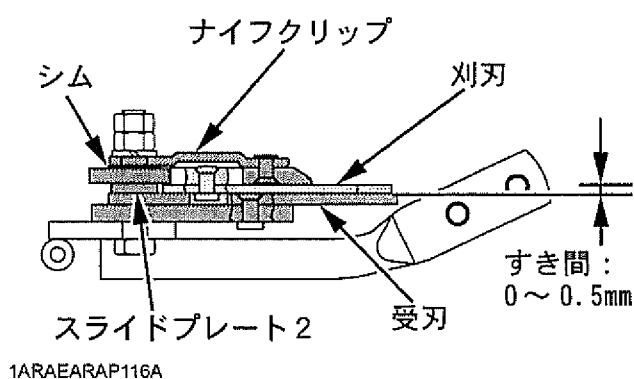
専用工具については、購入先にご相談ください。

1. ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップを受刃台から外します。
2. 刈刃を取外したあと、ワイヤブラシなどで泥やさびを取除きます。



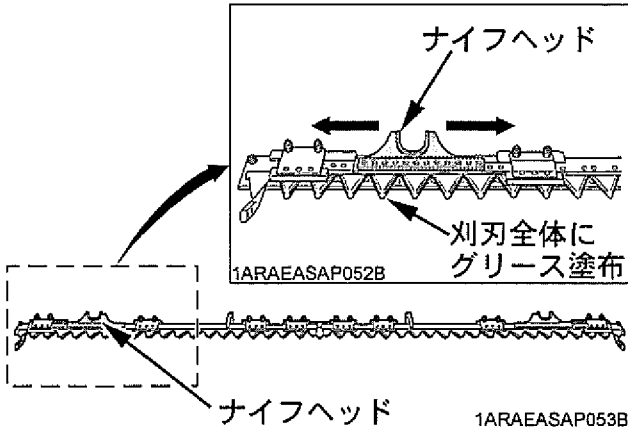
3. 刈刃と受刃のすき間を0～0.5mmに調整します。

- (1) ナイフクリップとスライドプレート2の間にあるシムを増減して調整したあと、ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を0～0.5mmに調整します。



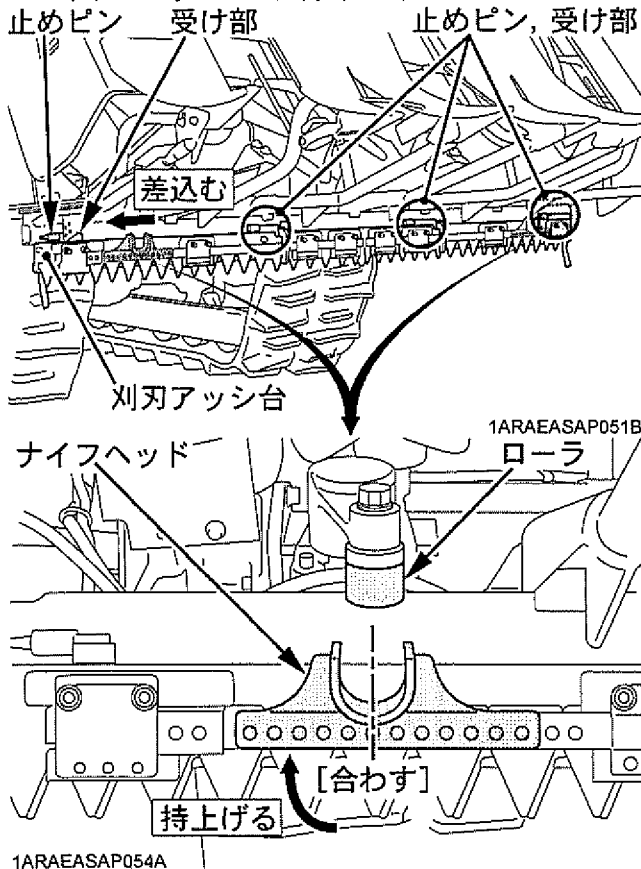
メンテナンス

- (2) ナイフヘッドを持ち、刈刃を左、右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない、異常がなければ刈刃全体にグリースを塗布します。



◆取付け

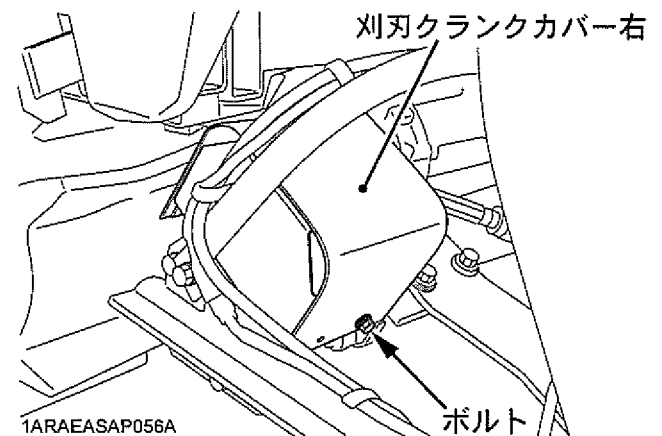
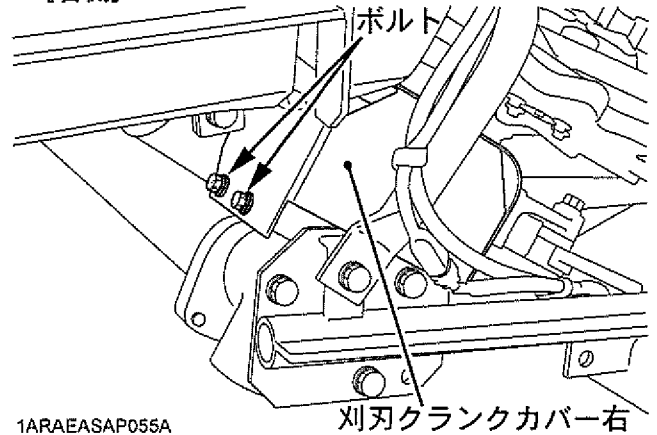
- 2人作業で刈刃アッシを垂直の状態にして持ち、右側の止めピンを少し受け部に差し込み、中央・左側の止めピンを受け部の穴に合わせてから、刈刃全体を右側に移動して刈刃アッシを取付けます。
- 刈刃アッシの左右のナイフヘッドとローラの位置を合わせてから、刈刃アッシを水平状態まで持上げて、ボルト、座金各6個で刈刃アッシを取付けます。



◆刈刃クランクロッドの調整

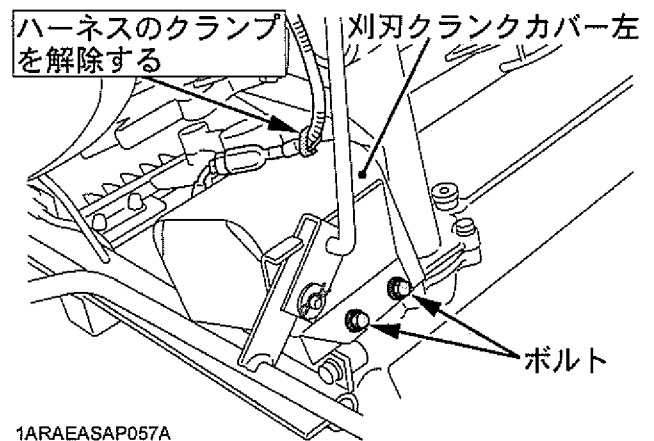
- ボルトを取外して刈刃クランクケース左右を取外します。

[右側]

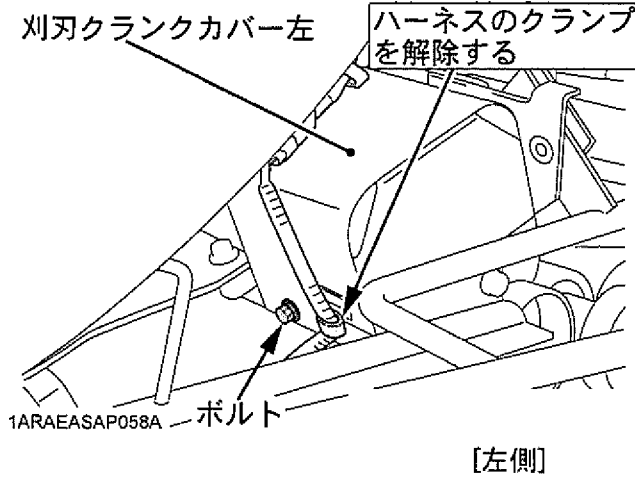


[右側]

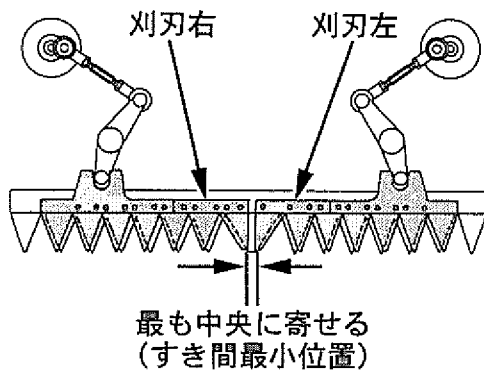
[左側]



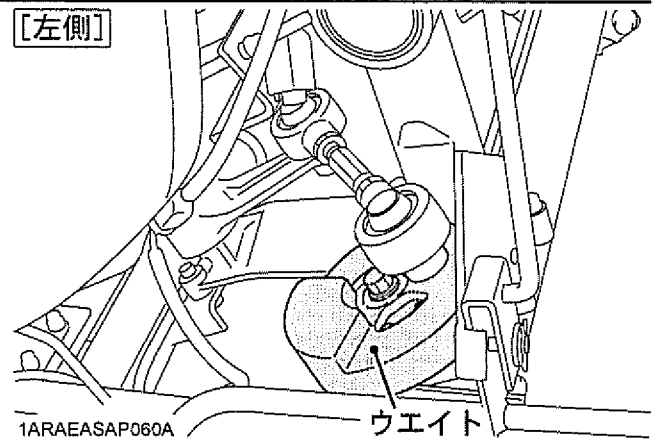
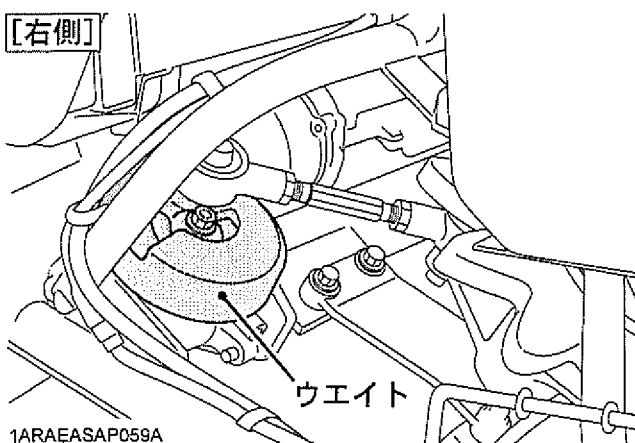
メンテナンス



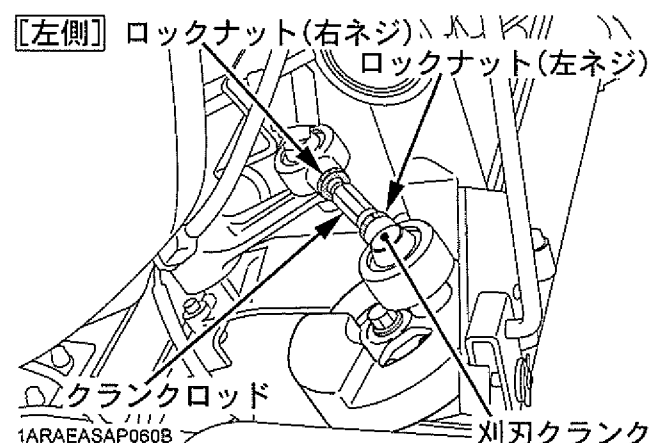
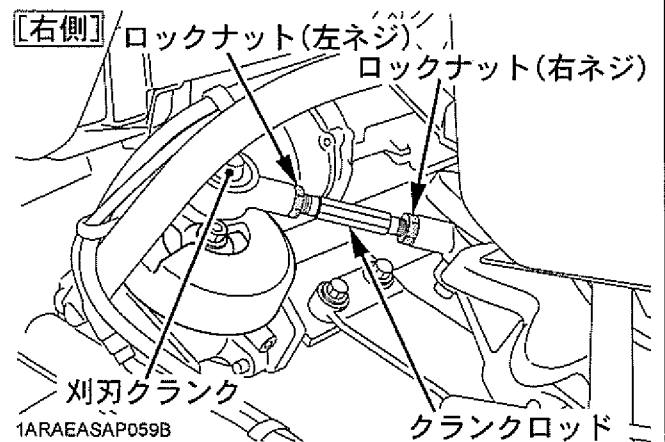
2. 左, 右にある刈刃クランクのウエイトを手で回して左, 右の刈刃を最も中央に寄せた状態 (中央のすき間最小位置) にします。



11ARA-EASAP061B



3. クランクロッド左, 右のロックナット 2 個をそれぞれゆるめます。

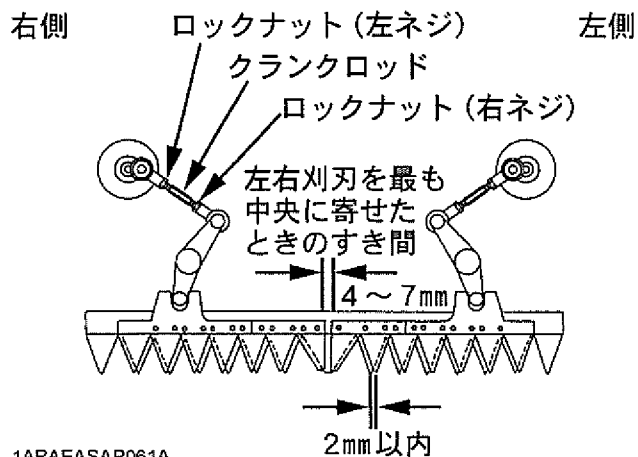


補 足

クランクロッドには右ネジと左ネジがあります。

メンテナンス

4. クランクロッドを回して、刈刃と受刃のセンタのずれを2 mm 以内に調整します。
5. 刈刃中央部で、左右の刈刃のすき間が4～7 mm の範囲から外れているときは、再度3. の調整を行なって4～7 mmの範囲になるよう調整します。



6. クランクロッドのネジ部にネジロックを塗布したあと、ロックナットを締付けます。

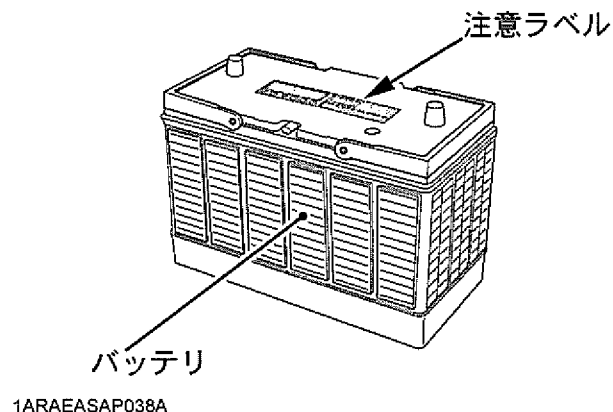
補 足

ネジロックは、購入先に連絡して入手してください。

7. 刈刃クランクカバー左、右を取付けます。

25. バッテリーの点検・交換

バッテリー上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



⚠ 危険

- * バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（-）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリーのガスで引火爆発するおそれがあります。
- * バッテリーを取扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となります。
- * 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤ると引火爆発するおそれがあります。
- * この12V バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- * 急速充電は厳禁です。
- * 開封は厳禁です。（密封タイプ）

メンテナンス

⚠ 警告

* バッテリーを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補 足

出荷時は、補水不要のバッテリーです。

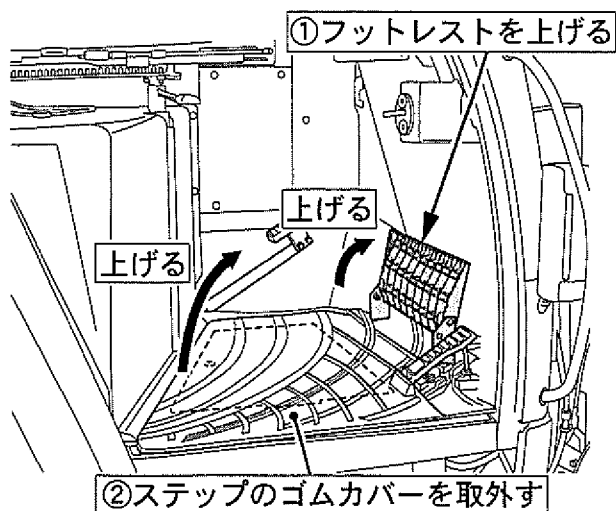
⚠ 危険

バッテリーが破損や傾いたりして、液もれが発生しているとき……

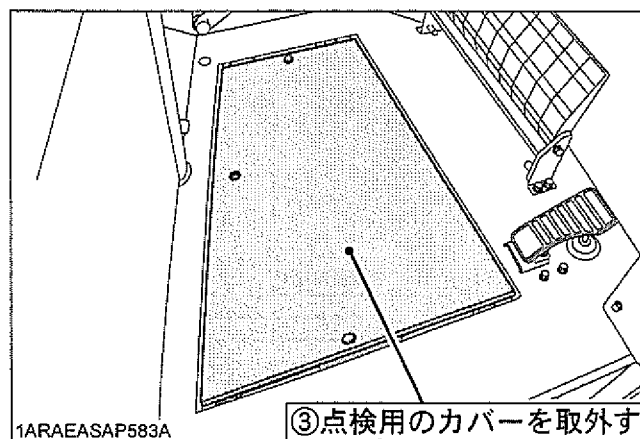
* バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

* バッテリーの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

1. ステップのゴムカバーの下にある、点検用のカバーを取外します。



1ARAESAP124C

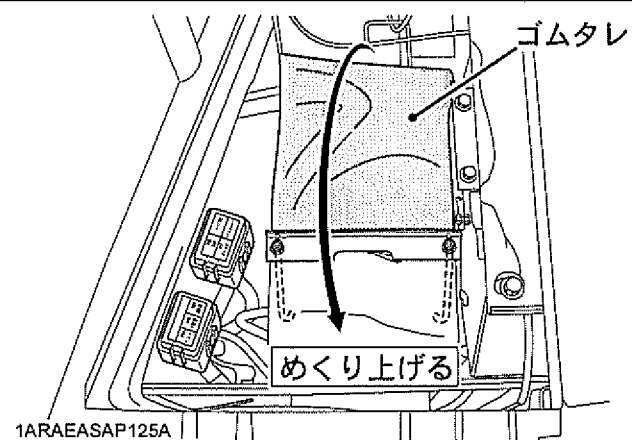


1ARAESAP583A

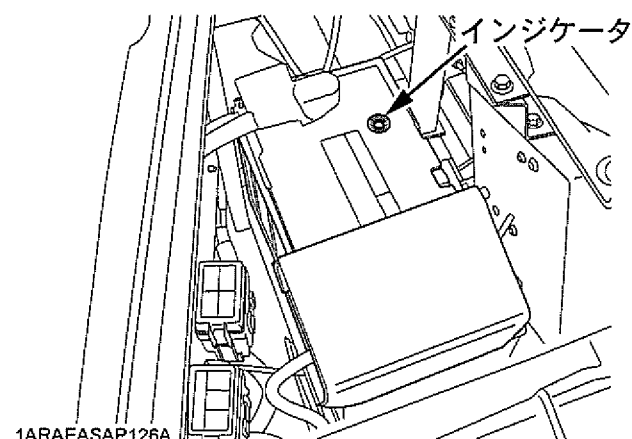
2. ゴムタレをめくり上げてバッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

(1) バッテリー上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し、処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



1ARAESAP125A



1ARAESAP126A

メンテナンス

補 足

インジケータは真上から確認してください。

- (2) バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。

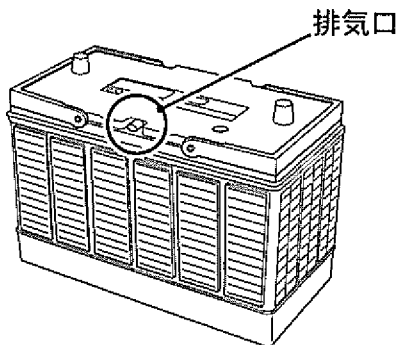
重 要

液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

- (3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



1ARA-EASAP038B

- (4) バッテリーケーブルの破損や(+)端子、(-)端子にゆるみや腐食がないか確認し、ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。

3. 点検用のカバーを取付けたあと、ゴムカバーを取付けます。

◆ 補充電・交換

⚠ 警告

* バッテリーは、以下の順序で取換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。

● 取外し… (-) 端子側 (アース側) から外す。

● 取付け… (-) 端子側 (アース側) を最後に接続する。

* バッテリーを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液 (希硫酸) のもれにより、失明やヤケドをするおそれがあります。

* バッテリーを機体に取り付けた状態で充電は避けてください。バッテリーの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

* バッテリーの取付け方向を間違えないでください。(+) と (-) が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。

* バッテリーを投げたり、落としたり斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリーに入っている電解液 (希硫酸) により、失明やヤケドの原因となることがあります。

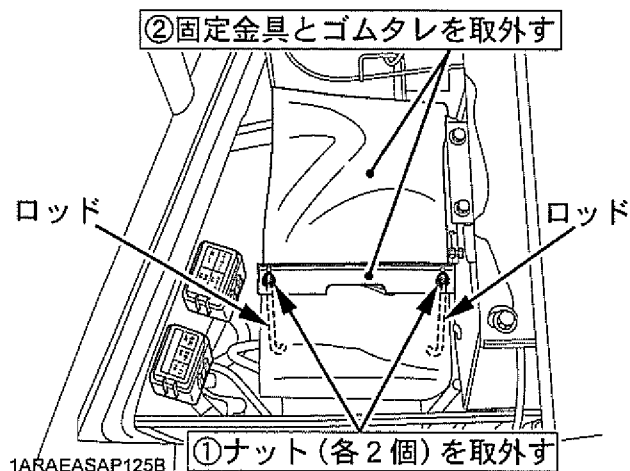
次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また、補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリーの寿命ですので交換を行なってください。

メンテナンス

- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が、いつもより低い。

1. バッテリーを機体から取外します。

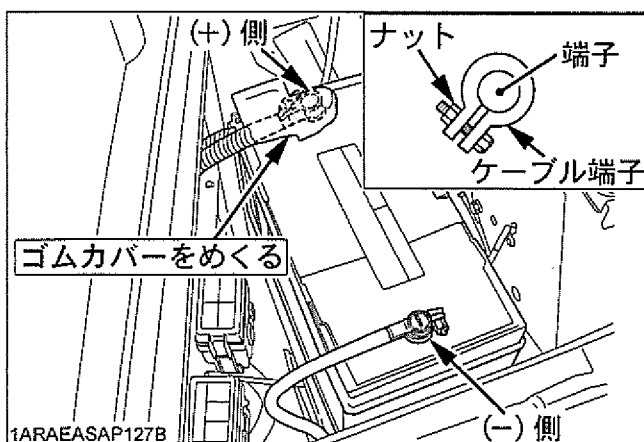
(1) 固定金具とゴムタレを取外します。



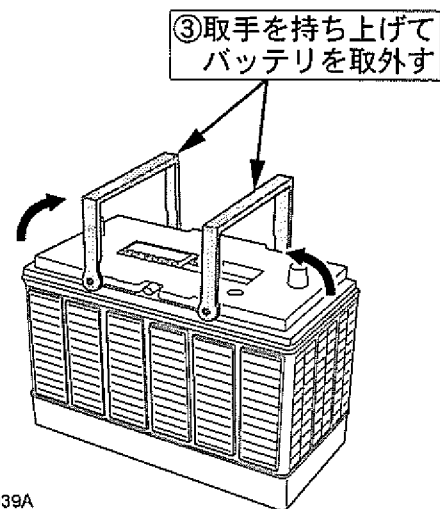
補足

固定金具を取外すとき、バッテリーをバッテリー取付台に固定しているロッドも同時に取外してください。

(2) ケーブル端子のナットをゆるめて、端子からケーブル端子を取外します。取外すときは、必ず (-) 側から取外してください。



(3) バッテリーの両端にある取手を持上げてバッテリーを取外します。



重要

バッテリーを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また、充電は、バッテリーの (+) を充電器の (+) 側に、バッテリーの (-) を充電器の (-) 側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重要

- * バッテリーを交換するとき、バッテリーは下記指定のバッテリーを使用してください。電圧や容量が違くと故障の原因となります。
バッテリー形式：105E41R
- * バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- * バッテリーはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。
- * 機械にバッテリーを搭載した状態で急速充電をしないでください。

メンテナンス

補水が必要なバッテリーの場合

(補水が不要なバッテリーの説明と異なる部分の説明です。)

◆点検・補水

⚠ 危険

バッテリーには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリーの2種類があります。補水が必要なバッテリーについては、以下の事を守ってください。

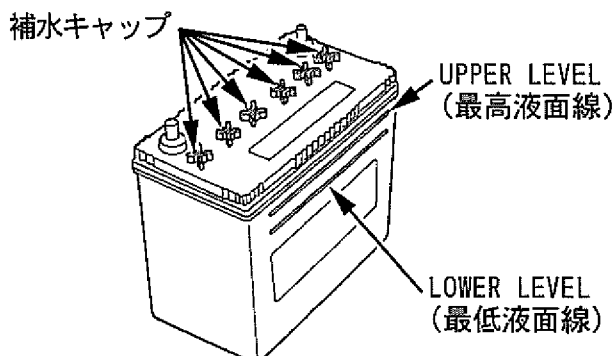
*バッテリーは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。

LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐにUPPER LEVEL とLOWER LEVEL の間に補水してください。

*バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

1. バッテリー液の量を点検し、[UPPER LEVEL]（最高液面線）と[LOWER LEVEL]（最低液面線）の間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。



1ASADACAP478A

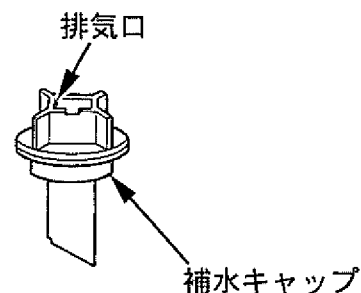
重 要

- * バッテリー液が不足して極板が空気中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。
- * バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
- * バッテリーに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



1ASADACAP479A

◆補充電・交換

⚠ 注意

補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

メンテナンス

1. 充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
また、充電は、バッテリーの(+)を充電器の(+)側に、バッテリーの(-)を充電器の(-)側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
2. 充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

26. 電気の各配線コード、 各ヒューズの点検・交換

⚠ 注意

配線コード被覆の損傷やコネクタ(端子)の接触不良によるろう電やショート(短絡)は火災の原因となります。

◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ(端子)の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、購入先へ連絡して修理を依頼してください。

◆各ヒューズの交換

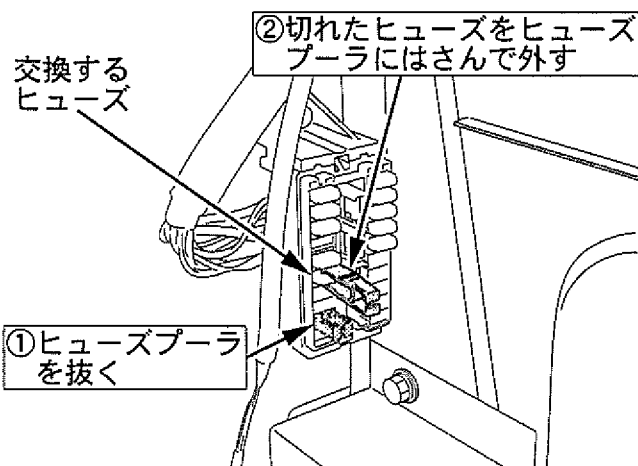
ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

重 要

- *新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
- *ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先に連絡して修理を依頼してください。

補 足

ヒューズを交換するときは、ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ(ヒューズ抜き)を使用してください。

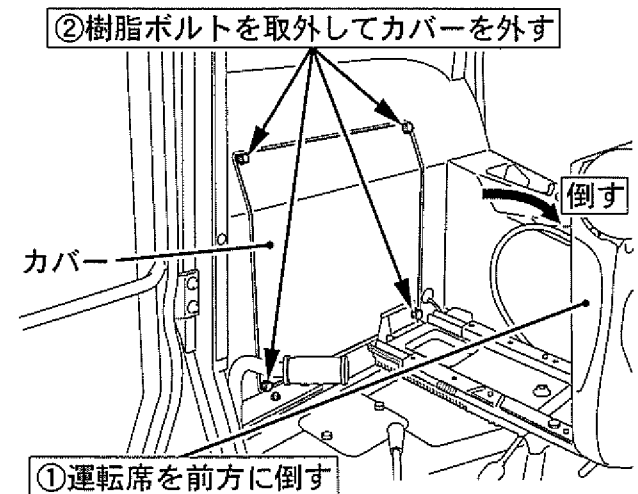


1ARAESAP345A

1. ヒューズボックスのカバーを外します。
2. 切れたヒューズを外します。
3. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。
4. ヒューズボックスのカバーを取付けます。

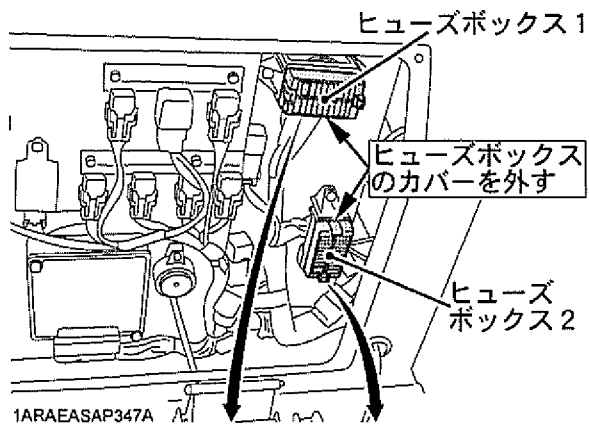
●運転席後部

運転席を前方に倒したあと、樹脂ボルトを取外して運転席後部のカバーを取外してください。交換後は、運転席後部のカバーを取付けてください。



1ARAEBBAP067A

メンテナンス



A		I	A		I
B		J	B	O	J
C	S	K	C		K
D		L	D	P	L
E	T	M	E	Q	M
F		N	F		N
G	U	O	G	R	-
H		P	H		-
	V	Q			-
ヒューズ抜き		R	ヒューズ抜き		-

1ARAEBBAP079A

ヒューズボックス1

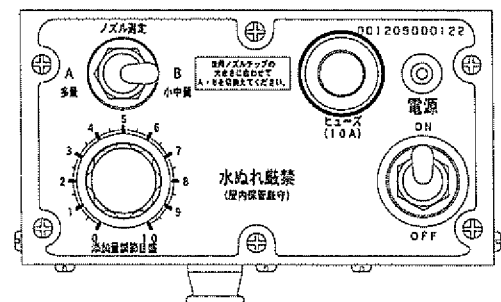
	回路	容量(A)
A	マイコン・パネル・メータ	5
B	センサ	5
C	エンジン	10
D	オルタネータ・燃料ポンプ	10
E	油圧バルブ	15
F	こぎ深さモータ	25
G	逆流ファンモータ	20
H	添加機	15
I	刈取変速モータ	20
K	ハイサイドスイッチ	5
L	ウインカ・ブザー	10
N	分草かんオープンモータ	20
O	ペーラ	15
P	キャビン	7.5
Q	ワイパ・ウォッシャ	20
S	予備ヒューズ	7.5
T	予備ヒューズ	10
U	予備ヒューズ	20
V	予備ヒューズ	25

ヒューズボックス2

	回路	容量(A)
A	メインスイッチ (直B)	30
B	マイコン・メータ (直B)	5
C	ラジオ (直B)	5
D	本機作業灯 (直B)	30
F	制動灯・後退灯	10
G	前照灯	15
H	油圧ポンプ	10
I	ラジオ	15
J	バックモニタ	10
K	コンデンサファン	20
L	スイッチ (エンジン始動)	5
N	電源ソケット	15
O	予備ヒューズ	5
P	予備ヒューズ	10
Q	予備ヒューズ	15
R	予備ヒューズ	30

ヒューズホルダー (添加器)

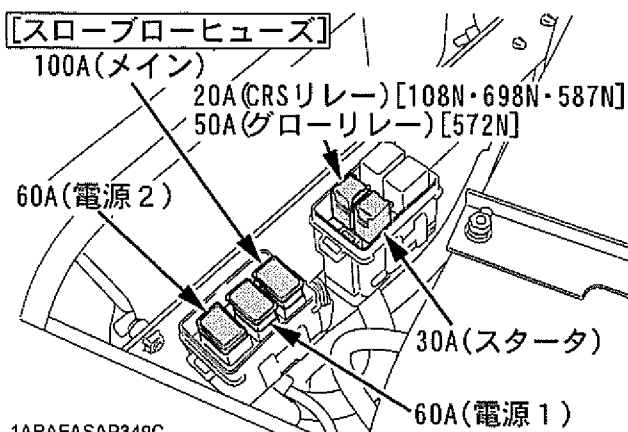
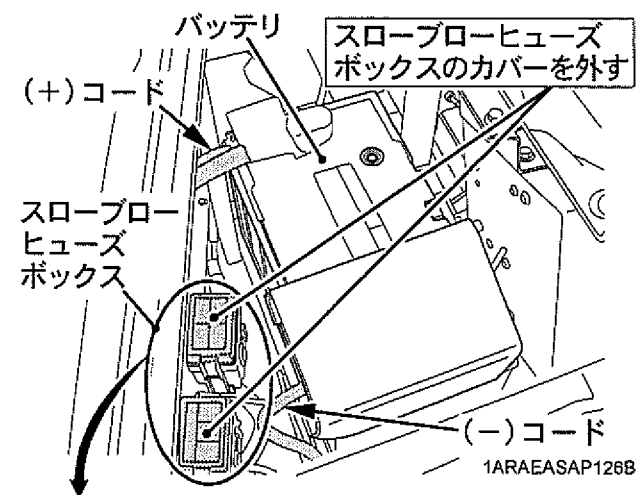
添加器のポンプが作動しない場合はキャビン内コントローラーのヒューズ (10A管ヒューズ) が切れていないか確認してください。



◆スローブローヒューズ・バッテリー (+)

コードヒューズの点検・交換
スローブローヒューズは、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し、切れているときは新しいヒューズと交換してください。

メンテナンス

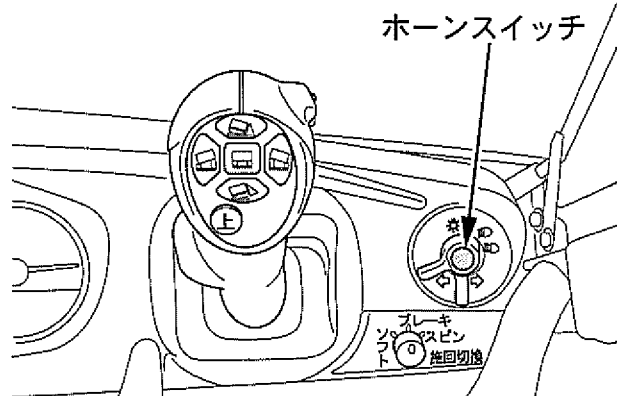


■ランプ（電球）の点検・交換

ホーンスイッチの点検
ランプ（電球）切れがないか点検し、切れているときは交換してください。また、ホーンスイッチを押して点検し、鳴らないときは、配線やヒューズを確認してください。

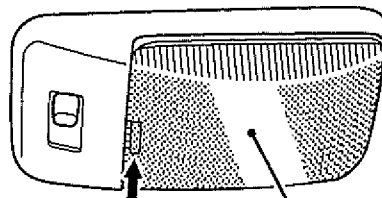
重要

*ハロゲンランプ（作業灯、ヘッドランプ）の交換をしたとき、ランプの表面に指紋などの油分が付着したときは、きれいにふきとってください。破損の原因になります。



●ルームランプ[D X仕様]

カバーの凹部にマイナスドライバなどの先端部を差込み、下方向に押して取外して、電球を交換してください。



ルームランプのカバー

1ARAEASAP014B

27. クローラの点検・調整

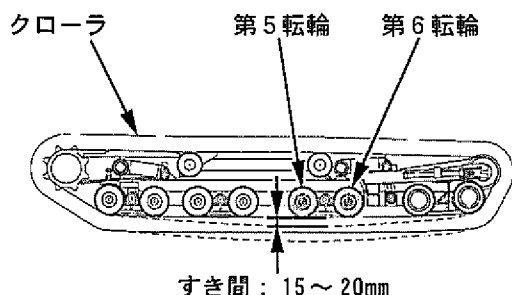
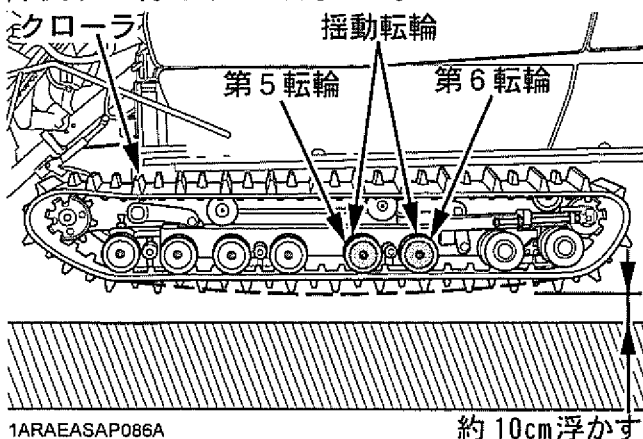
⚠ 注意

- *点検・調整を行なうときは、エンジンを必ず止めて行なってください。
- *平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを「ロック」位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。
- *ジャッキアップを行なうときは、コンクリートなど地面の固い場所でバランスのとれた位置にして作業してください。
- *ジャッキは持上荷重が2トン以上の物を使用してください。
- *機体にセットする木材やブロックなどは、じゅうぶんな強度があるので、セットするときは機体から外れないように注意しながら行ってください。

地面からクローラを約10cm 浮かした状態で、機体を最下降位置にし、クローラ下側上面と第5・第6の揺動転輪下端のすき間を15 ～

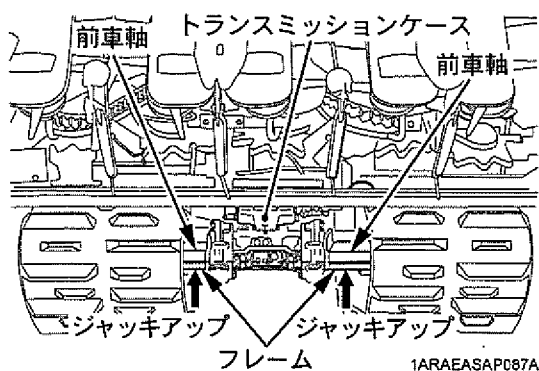
メンテナンス

20 mm に調整してください。また、調整は片側ずつ行なってください。



1ARAEASAP642A

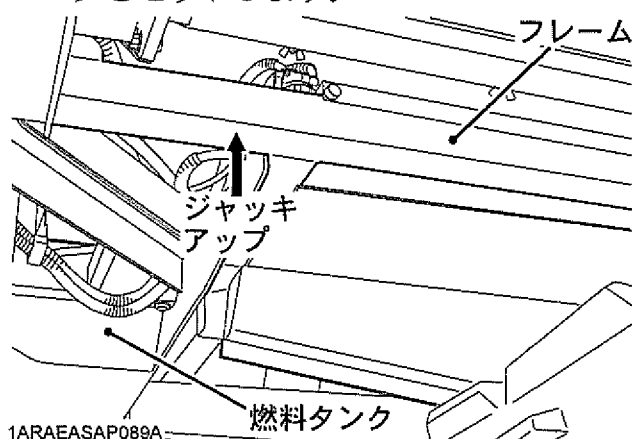
1. クローラを地面から10cm 程度浮かせます。
- (1) エンジンを始動したあと、刈取部を最上昇位置にします。
- (2) 刈取下降ロックスイッチを【ロック】位置にして刈取部の下降防止を行なったあと、エンジンを停止します。
- (3) 前部はトランスミッションケース部の前車軸後方にあるフレームに木材やブロックをセットします。



1ARAEASAP087A

- (4) 後部は機体フレームの下図位置に、調整

を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。



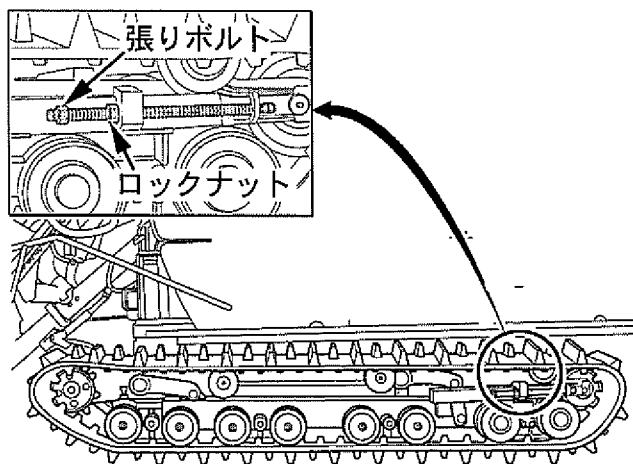
1ARAEASAP089A

- (5) エンジンを始動したあと、自動車体水平制御の機体昇降手動スイッチ【下】を押して機体を最下降位置にします。
- (6) エンジンを停止します。

重要

- * 燃料タンクにジャッキを当てないでください。破損し燃料漏れを起こすおそれがあります。
- * ジャッキアップを行なうときは、前車軸にジャッキをセットしないでください。前車軸が変形するおそれがあります。

2. クローラ後部にある張りボルトのロックナットをゆるめます。
3. 張りボルトでクローラを張りながら、すき間の調整を行ないます。



1ARAEASAP086B

メンテナンス

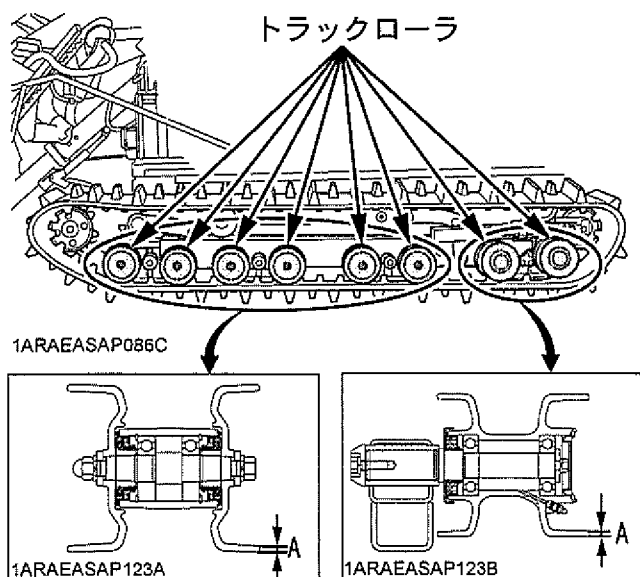
4. 左、右両方共に行ない調整後は、回り止めのロックナットを締付けます。
5. ジャッキ及びブロックや木材を取外します。

重 要

- * クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
- * クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期20時間目に点検してください。
- * クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため、下記事項を守ってください。
- 日光や雨による劣化防止のため、屋外に長期保管しないでください。
- オイルや燃料、農薬、肥料など油脂類の付着による劣化防止のため、クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■トラックローラ（転輪）の点検

トラックローラの下図A 寸法が、2 mm 以下になったとき又は、使用時間が800 時間経過したときの早いほうで交換してください。



※イラストは左側

補 足

交換を行なうときは、購入先に連絡してください。

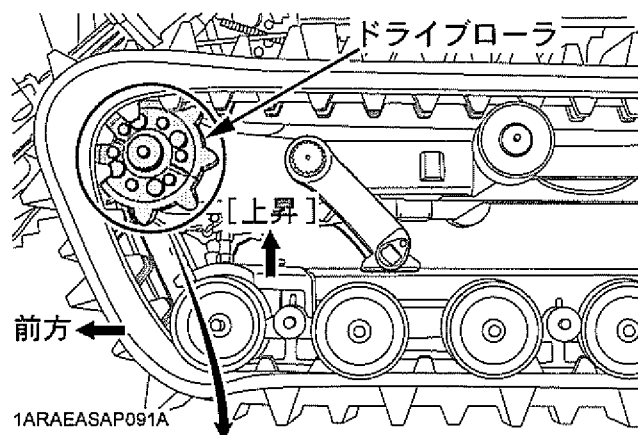
■ドライブローラの点検・左右入換え・交換

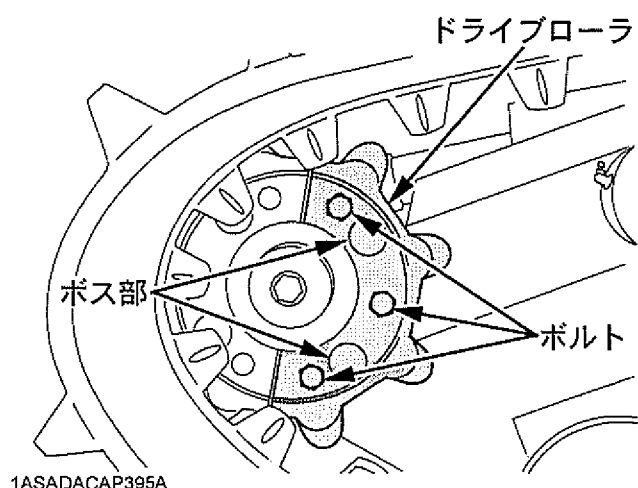
! 注意

点検・交換を行なうときには、平坦な場所でエンジンを必ず止めて行なってください。

◆点検

1. エンジンを始動したあと、自動車体水平制御装置の機体昇降手動スイッチの〔上〕を押して操作して機体を最上昇位置にします。
2. 刈取部を上げ、2分割式ドライブローラの位置が下図の位置になるように機体を前進させます。





3. 刈取部を降してエンジンを停止します。
4. ドライブローラを取付けているボルトを確認し、ゆるみや脱落が発生しているときは、購入先に連絡してください。

◆左右入換え

1. ◆点検の手順1. ～3. を行ないます。
2. クローラに接触していない側のドライブローラのボルト3本を外して、ドライブローラを外します。
3. 同じ要領で反対側（右側又は、左側）のドライブローラを外します。
4. ボス部側面に泥など異物が付着しているときは、異物を取除きます。
5. 左右のドライブローラを入換えたあと、ボルト3本でドライブローラをそれぞれ取付けます。

重 要

- * ボルトにはネジロック（スリーボンド #1234B又は、1305）を塗布し、締付トルクは1400kgf・cm のトルクレンチで締付けてください。また、1400kgf・cm を締付けるトルクレンチがないときの交換は、購入先又は、整備工場で行なってください。
 - * ドライブローラの左側と右側を同時に交換してください。締付けトルクが不足（締付不足）すると、ボルトやドライブローラの脱落の原因となります。
6. エンジンを再始動し、2分割式ドライブローラのもう一方の入換えを行なうため点検の手順1. ～ 3. を行ないます。
 7. 上記手順の2. ～ 5. の要領で左右のドライブローラの入換えを行ないます。

◆交換

左右入換えと同じ要領で新しいドライブローラと交換してください。

28. 刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日又は、翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

⚠ 注意

機体に本機カバーをかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所に収穫機を停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと、必要ときは各部に注油を行ないます。
3. 刈取部を地面に接地させます。
4. メインスイッチのキーを抜取ります。
5. 本機カバーを掛けます。

メンテナンス

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし、乾いた布で水分をふき取ってください。

- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを、完全に取除いてください。

重 要

- * 機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。
- * 作業シーズン終了後及び長期格納する前には、メンテナンスの〔給・注油（水）一覧表〕を参照して、各部の給・注油（水）を行なってください。

補 足

- * 各部にもみやわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、故障の原因となるのできれいに取除いてください。
- * 各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には、さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
- * 塗料のはがれた所には補修塗料を塗ってさびが発生しないようにしてください。

◆ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため、排水又は、不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

●排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。
2. ラジエータキャップに水なしと書いた札を掛けておいてください。

●不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって、ラジエータ及びリザーブタンクには、不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。

重 要

- * 冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも50%以下）、よく水と混ぜ合せてからお使いください。（ラジエータ容量……7.9L）
- * 不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- * 不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- * クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。
- * 機体に本機カバーをかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

メンテナンス

◆バッテリー

⚠ 危険

保管や持運びの際にバッテリーに火気を近付けたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

⚠ 注意

バッテリーを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチを[切]にしてください。

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリーを機体から取外してください。また、以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し、必要に応じて補充電を行ってください。（バッテリー液補水タイプは、補水してから補充電を行ってください。）
- バッテリーは保管中でも自己放電するので夏は1カ月、冬は2カ月に1回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行ってください。
- 次のような場所に保管してください。
 - (1) 直射日光が当たらない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
 - (2) 雨露が少なく、水没のおそれがない場所
 - (3) バッテリーの有害なガスや液、粉じんの発生が起こらない場所機体に取り付けている場合は、（－）側のケーブルを必ず取外してください。

◆各レバー・その他

重要

- * サイドシュートやリヤシュートをロープで押えないでください。変形するおそれがあります。
- * 刈取部を地面に降ろしたとき、刈取部の下に物が置かれているとトラブルの原因となります。

点検・整備が終わったあと、納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて、下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと、分草かんを収納します。
- アクセルダイヤルをいっぱい戻して止めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- ベーラ・刈取クラッチレバーは[切]位置にします。
- 車体水平制御は、機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのキーは、必ず抜取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

収穫機の不調と処置

警告

* 引起し部、運転操作部、グレンタンク、こぎ胴などの各部を開いて作業を行なうときは、下記事項を遵守してください。

- 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて行なってください。
- 傾斜地では、各部の開閉は行なわないでください。
- 引起し部、グレンタンクを開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- 各部を開いた状態で走行をしないでください。
- 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

* 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

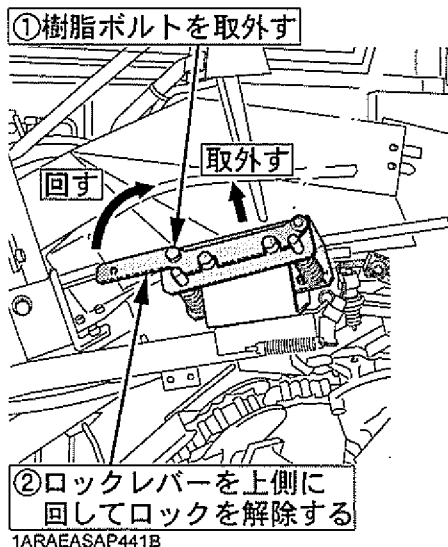
1. わらが詰まる

■ 自動エンジン停止装置がはたらいたとき

◆ 供給搬送

自動エンジン停止装置がはたらき、液晶ディスプレイに[刈取][詰まりを取り除く]と表示し、警報ブザーが鳴ったときには、掃除してください。

供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは、わら詰まり除去装置を取外して、わらを取除いてください。



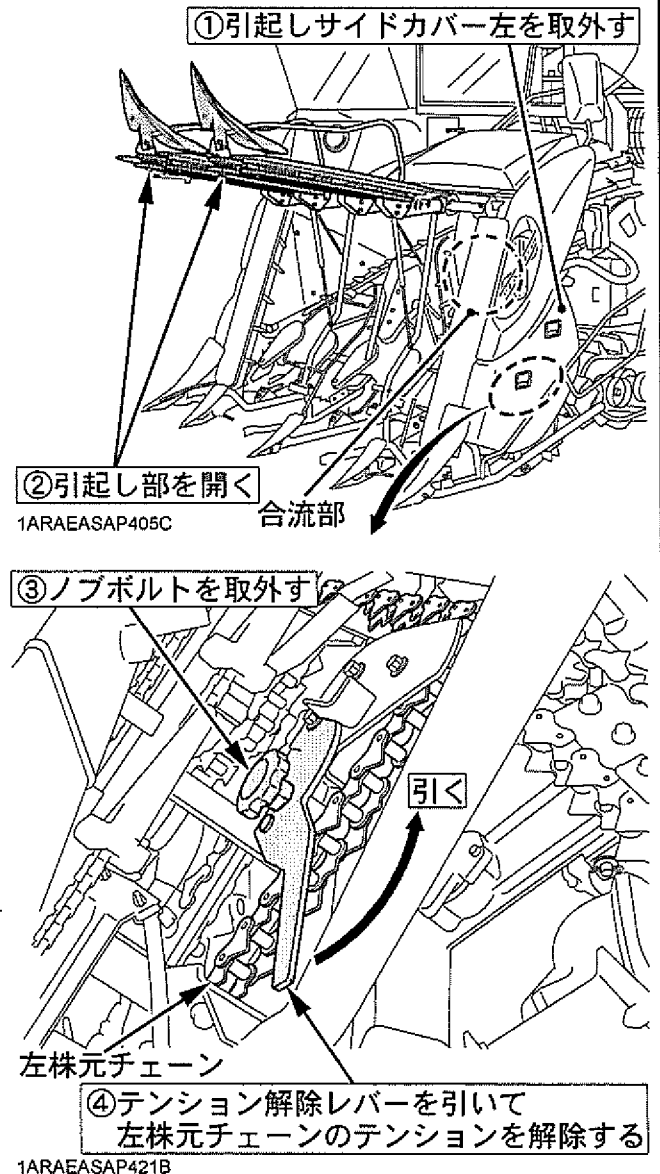
補足

* 必要に応じて刈取搬送部を開いてわらを取除いてください。

* 切断カッターの上部にも停止スイッチが装備されています。この部分のわらも取り除いてください。

■ わら詰まりの取除きかた (左、右株元チェーン合流部)

1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと、エンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー左を取外したあと、引起し部を開きます。
3. 左株元チェーンのテンションをゆるめます。



収穫機の不調と処置

4. わらを取除きます。
5. テンション解除レバーを引いて、左株元チェーンのテンションを張ったあと、ノブボルトを取付けます。
6. 引起し部を閉じたあと、引起しサイドカバー左を取付けます。

■シャープピンが破損したとき

引起しチェーン、供給サポートチェーンが動かなくなり、わらが刈取部前面に滞留したり、供給搬送部にわら詰まりが発生したときは、各引起しチェーン、供給サポートチェーンの駆動軸に差し込まれているシャープピンを確認し、折損しているときは購入先に連絡して交換してください。

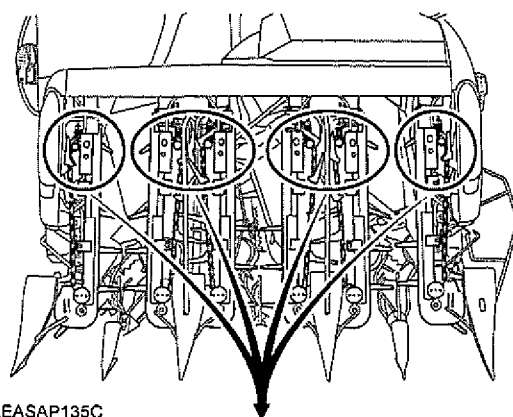
補 足

- * シャープピンは予備部品で運転席（シート）裏側の収納ボックス内に3個入っています。
- * 予備のシャープピン（品番：5H803-4695-0）がなくなったときは補充しておいてください。
- * 引起しチェーン用のシャープピンと供給サポートチェーン用のシャープピンは同じ部品です。

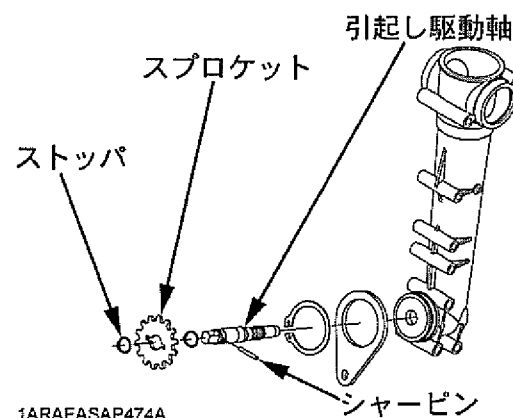
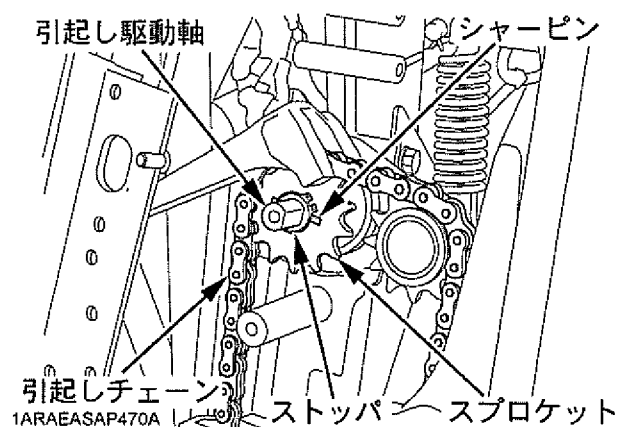
◆引起しチェーン駆動軸のシャープピン

刈取部前面にわらが滞留したときは、刈取作業をいったん中止し、シャープピンの確認を行なってください。

1. 平たんな場所に移動したあと、刈取部を地面に着くまで降ろしてエンジンを停止します。
2. 動いていない引起しチェーンの引起しカバーを取外します。
3. シャープピンを確認します。
4. 引起しカバーを取付けます。



1ARA-EASAP135C



◆供給サポートチェーン駆動軸

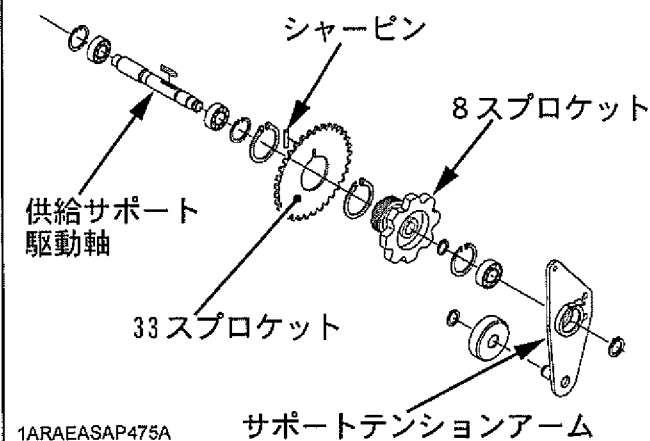
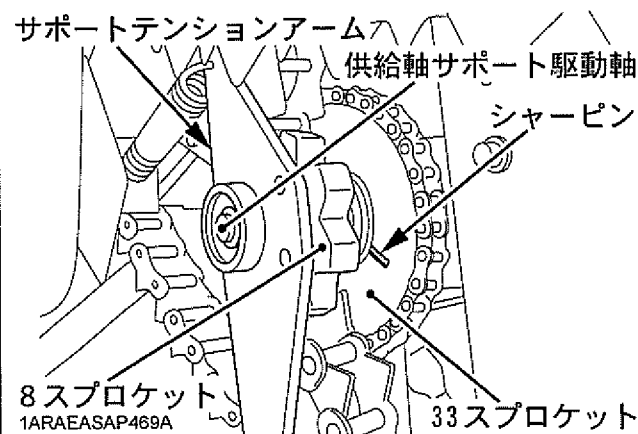
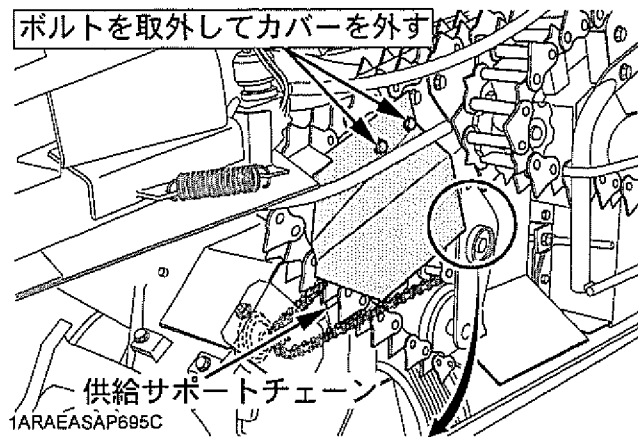
のシャープピン

供給搬送部にワラが滞留し、詰まりが発生したときは、刈取作業をいったん中止し、わらを取除いたあとシャープピンの確認を行なってください。

1. エンジンを停止したあと、わらを取除きます。
2. 左サイドカバー上1を取外したあと、供給サポートチェーンのカバーを取外します。

収穫機の不調と処置

3. シャーピンを確認します。
4. 供給サポートチェーンのカバーを取付けたあと、左サイドカバー上1を取付けます。



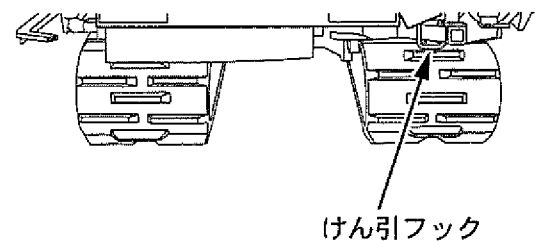
2. その他

■けん引フックについて

収穫機が自力で動けずけん引作業を必要とする場合は、機体の右側後方のけん引フックを使用してください。このとき、後方右側以外のロープ掛けフックは、けん引作業に使用しないでください。

重 要

この収穫機を使って、けん引作業はしないでください。故障の原因になります。



収穫機の不調と処置

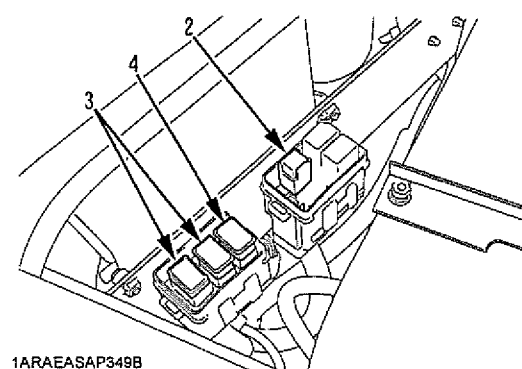
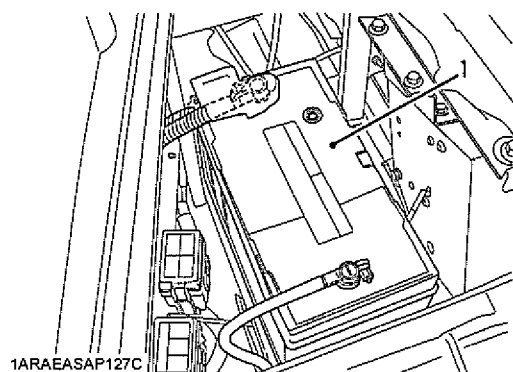
3. 不調診断（ロールベアラー部電装関係）

不調内容	診 断	処 置
マイコンリレーボックスが動作しない	1. ヒューズが切れている 2. コネクタが抜けている	1. ヒューズを交換する 2. コネクタを繋ぐ
満了感知しない	1. 電動モーターがロックし、カムセンサが押されていない 2. ゴミがひっかかりチャンバー閉センサ左右が押されていない	1. ブレーキを解除して電動モーターを回転させる 2. チャンバー閉センサ左右を掃除する
パトライトが回転するが点灯しない	電球が切れている	電球を交換する
パトライトが点灯・回転し続ける	タイマーアームがネジタイマーに乗ったままになっている	タイマーアームを下げる
断続音でブザーが鳴り続ける	ホサキセンサにゴミが引っ掛かり、押されたままになっています	ホサキセンサを掃除する
ホサキセンサを押し続けても断続音でブザーが鳴り続けない	タイマーアームがネジタイマーに乗ったままになっている	タイマーアームを下げる
連続音でブザーが鳴り続ける	ゴミがひっかかりチャンバー閉センサ左・右が押されていない	チャンバー閉センサ左右を掃除する
ホーンが鳴らない	コネクタが抜けている	コネクタを繋ぐ
作業クラッチを入れるとエンジンが止まる	1. 緊急停止スイッチが利いている 2. カッターツマリセンサにわらが詰まり、押されている	1. 緊急停止スイッチを解除する 2. カッターツマリセンサを掃除する
ホーンが鳴らない	コネクタが抜けている	コネクタを繋ぐ

付表

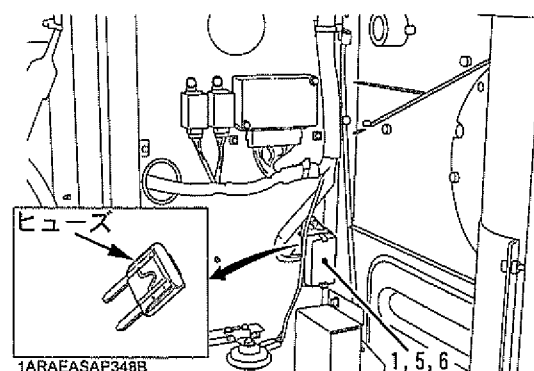
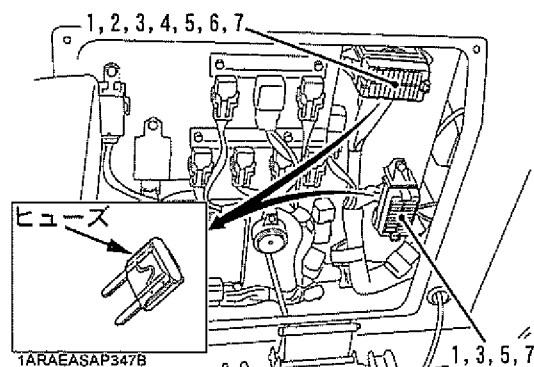
1. 消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆バッテリー・スローブローヒューズ



図番	品名	品番
1	バッテリー (11E41R)	07908-25090
2	スローブロー ヒューズ (30A)	3C581-7716-0
3	スローブロー ヒューズ (60A)	T1150-3050-0
4	スローブロー ヒューズ (100A)	5H801-4186-0

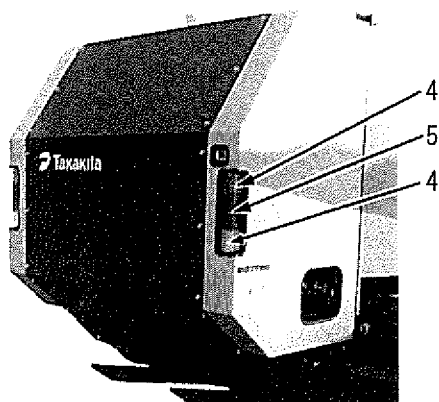
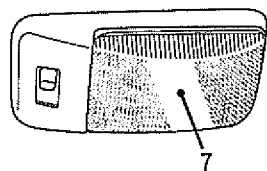
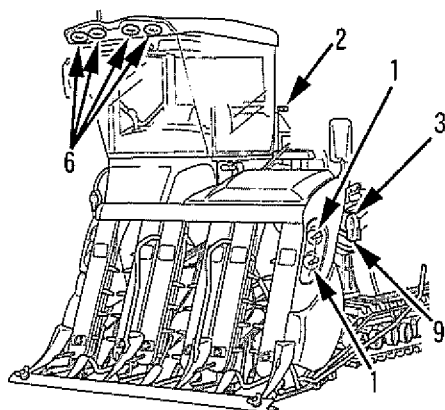
◆ヒューズ



図番	品名	品番
1	ヒューズ5A	T1065-3043-0
2	ヒューズ7.5A	T1065-3048-0
3	10A オートヒューズ	5H050-4162-0
4	15A オートヒューズ	5H050-4163-0
5	20A オートヒューズ	5H050-4164-0
6	25A オートヒューズ	5H050-4165-0
7	30A オートヒューズ	5H050-4166-0

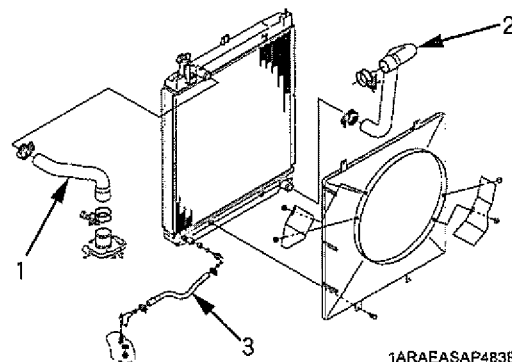
付表

◆ランプ（電球）



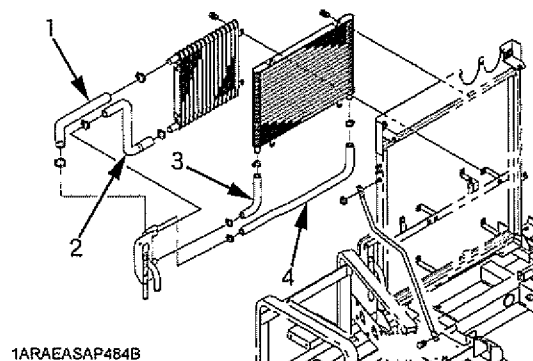
番号	品名	品番
1	バルブ (12V35W, ハロゲン)	T1275-9106-0
2	バルブ (12V55W)	K3611-5515-0
3	バルブ (12V21W)	T1370-9911-0
4	バルブ (12V21W)	T2255-9912-0
5	バルブ (12V21/5W)	5K110-6562-0
6	バルブ (12V5W, ハロゲン)	5H802-8893-0
7	バルブ (12V5W)	3C581-5422-0
8	バルブ (12V5W)	T1370-9914-0

◆ラジエータホース



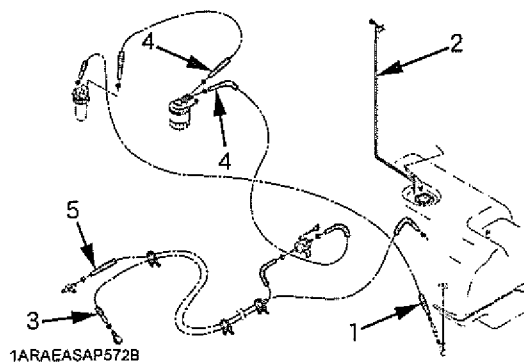
図番	品名	品番
1	ホース (1、ウォータ)	5H801-2555-0
2	ホース (2、ウォータ)	5H601-2556-0
3	ホース (ハイスイ)	5H804-2554-0

◆オイルクーラホース



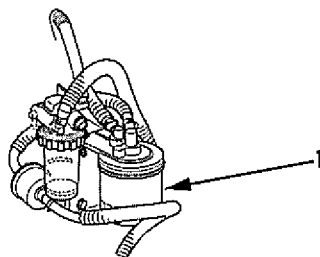
付表

◆燃料ホース



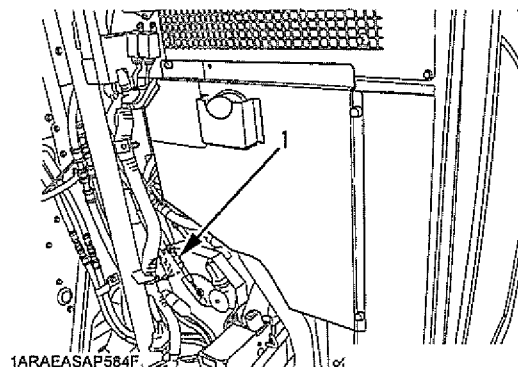
図番	品名	品番
1	フューエル チューブ	09661-81650
2	フューエル チューブ	09661-40900
3	フューエル チューブ	09661-82500
4	フューエル チューブ	09661-80380
5	フューエル チューブ	09661-43000

◆燃料フィルタカートリッジ



図番	品名	品番
1	フィルタ エレメント	15221-4317-2

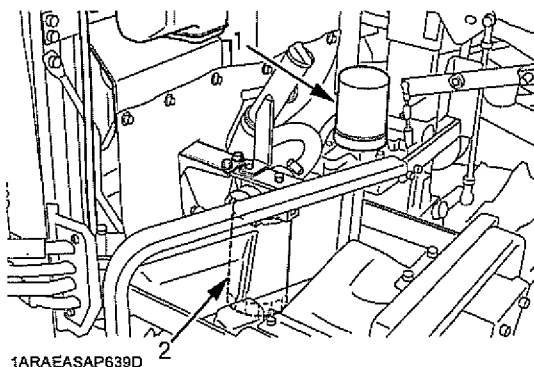
◆エンジンオイルフィルタカートリッジ



図番	品名	品番
1	フィルタ (オイル、 カートリッジ)	1C020-3243-3

◆ミッションオイルフィルタカートリッジ

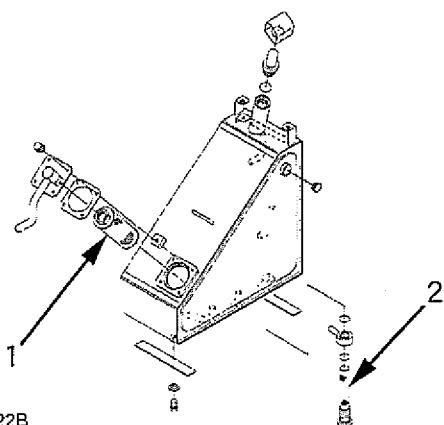
◆HSTオイルフィルタカートリッジ



図番	品名	品番
1	フィルタ (HST)	TA240-5990-0
2	フィルタ (スイコミ、TM)	5H801-1791-2

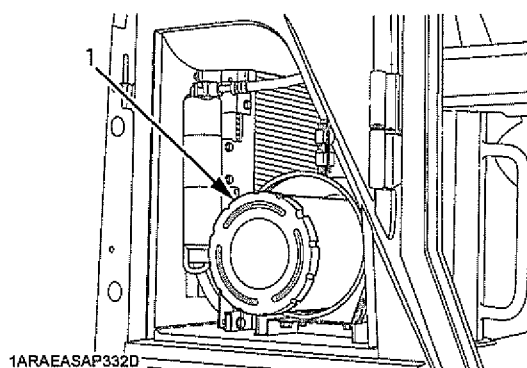
付表

◆油圧オイルタンクフィルタ



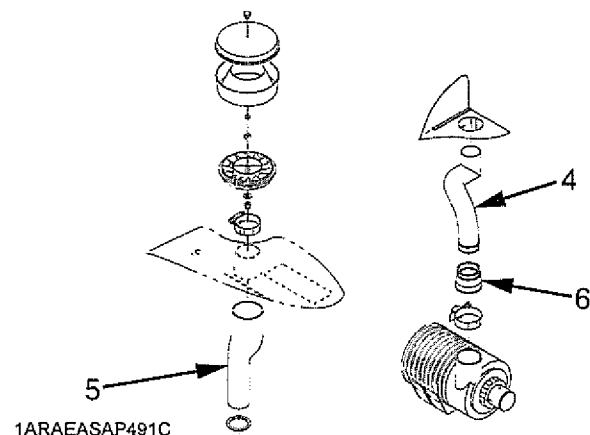
図番	品名	品番
1	フィルタ	59700-2611-2

◆エアクリーナ



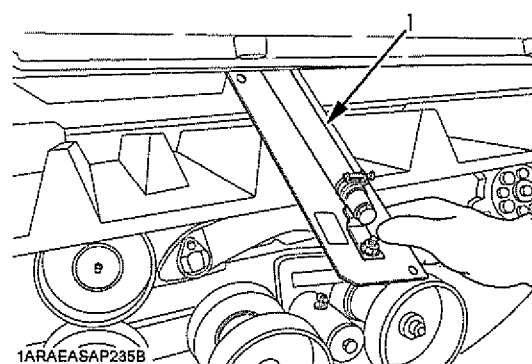
図番	品名	品番
1	エアクリーナエレメントアッシ	52600-2738-0

◆インレットパイプ



図番	品名	品番
1	ホース (Q1、インレット)	5H802-2628-0
	ホース (1、インレット)	5H801-2668-0
2	ホース (2、インレット)	5H807-2631-2
4	ホース (3、インレット)	5H802-2623-0
5	ホース (4、インレット)	5H802-2624-0
6	ホース (90Q、インレット)	5H690-2632-0

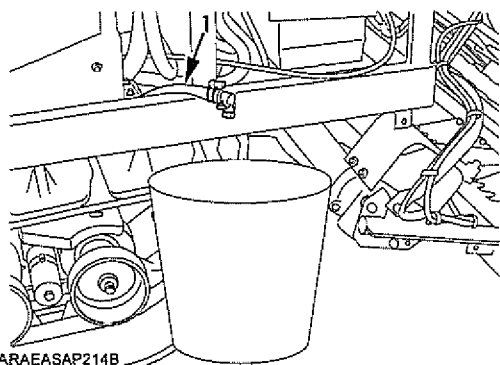
◆オイルドレーンゴムホース



図番	品名	品番
1	ホース (オイルドレーン)	5H601-2521-0

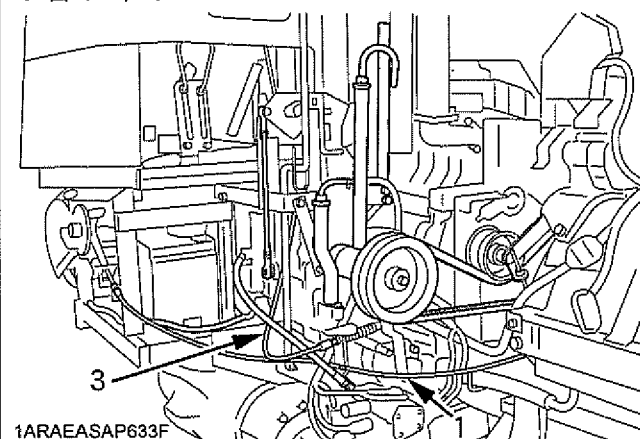
付表

◆排水ホース



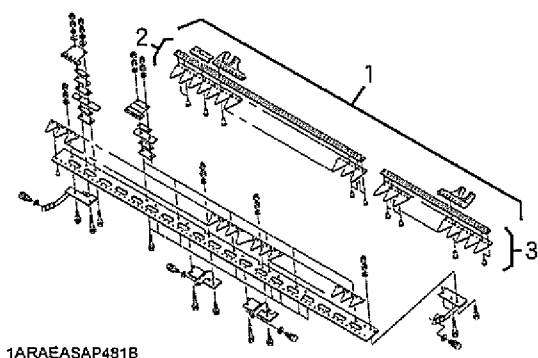
図番	品名	品番
1	ホース (ハイスイ)	5H801-2554-2

◆各ワイヤ



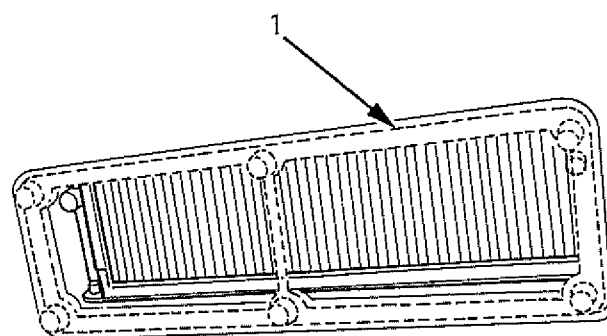
図番	品名	品番
1	ケーブル (ダックククラッチ)	5H801-3165-2
3	ケーブル(ブレーキ)	5H801-3216-3

◆刈刃

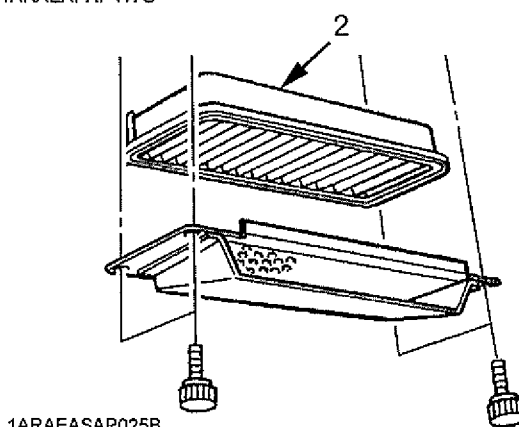


図番	品名	品番
1	刈刃アッシ	5H809-5901-4
2	刈刃コンプ (R)	5H809-5930-2
3	刈刃コンプ (L)	5H809-5920-2

◆エアコンフィルタ



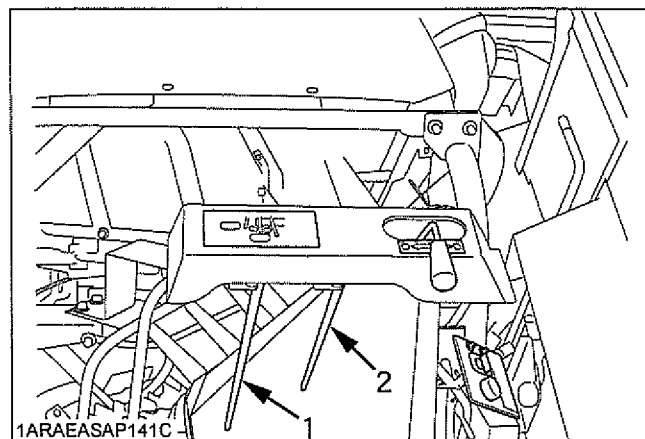
1ARAEPAP417C



1ARAESAP025B

図番	品名	品番
1	フィルタ (ナイキ)	T0270-7207-0
2	フィルタ (ペーパー)	TA043-7160-0

◆穂先センサ



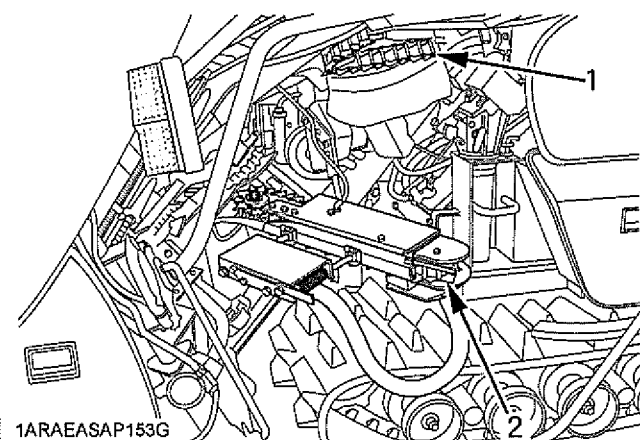
1ARAESAP141C

付表

図番	品名	品番
1	スイッチ、アッシ (ホサキ、250)	5H601-7560-2
2	スイッチ、アッシ (ホサキ、210)	5H601-7570-2

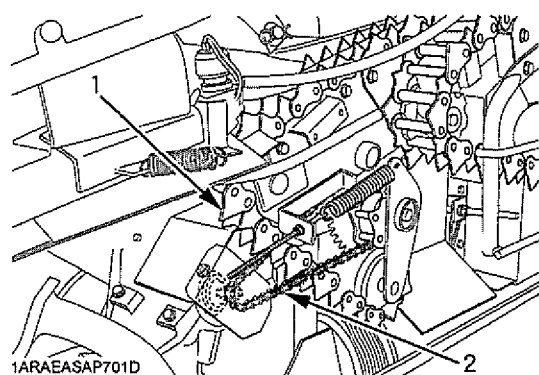
◆各チェーン

- 株元供給チェーン
- こぎ深さチェーン



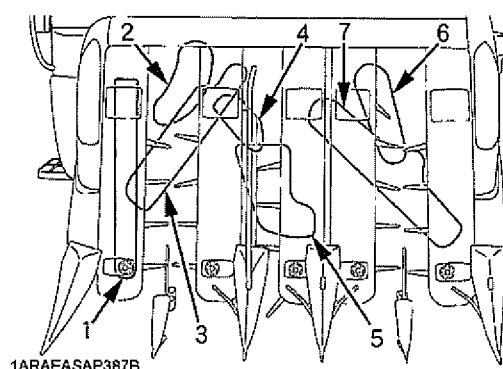
図番	品名	品番
1	チェーン、アッシ (37、キョウキュウ)	5H813-9610-0
2	チェーン、アッシ (39、キョウキュウ)	5H813-6610-0
3	チェーン、アッシ (46、フカサ)	5H601-7130-0

- 供給サポートチェーン
- 供給サポートチェーン駆動チェーン



図番	品名	品番
1	チェーン、アッシ (37、サポート)	5H803-6680-2
2	チェーン、アッシ (58、サポート)	5H803-6660-0

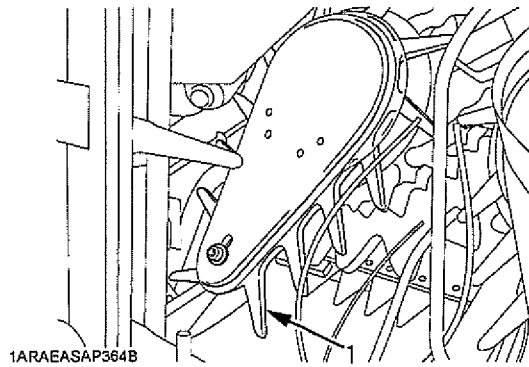
- 引起しチェーン
- 右穂先・株元チェーン
- 中穂先・株元チェーン
- 左穂先・株元チェーン



図番	品名	品番
1	引起しチェーン 爪アッシ	52200-5401-4
2	チェーン、アッシ (R、ホサキツメ)	5H813-6360-0
3	チェーン、アッシ (88、ミギ)	5H813-6360-0
4	チェーン、アッシ (C、ホサキツメ)	5H809-6905-2
5	チェーン、アッシ (39、ナカ)	5H813-6910-0
6	チェーン、アッシ (L、ホサキツメ)	5H809-6501-0
7	チェーン、アッシ (65、ヒダリ)	5H813-6320-0

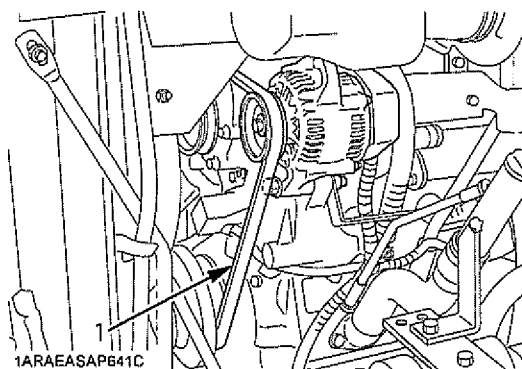
付表

◆突起付ベルト



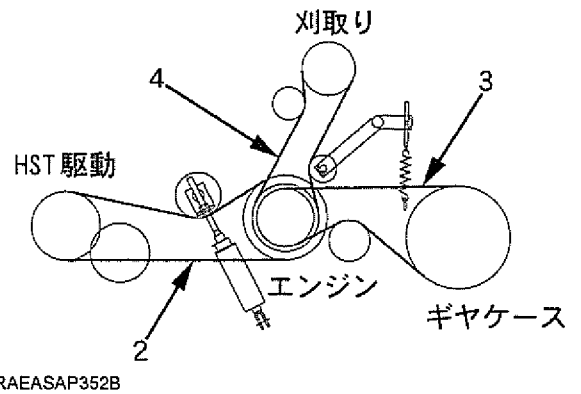
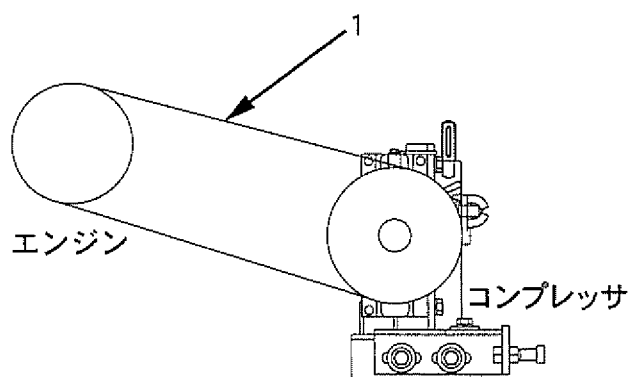
図番	品名	品番
1	ベルト (突起付)	5H601-6212-0

◆ファン駆動ベルト



図番	品名	品番
1	ベルト	1G517-9701-0

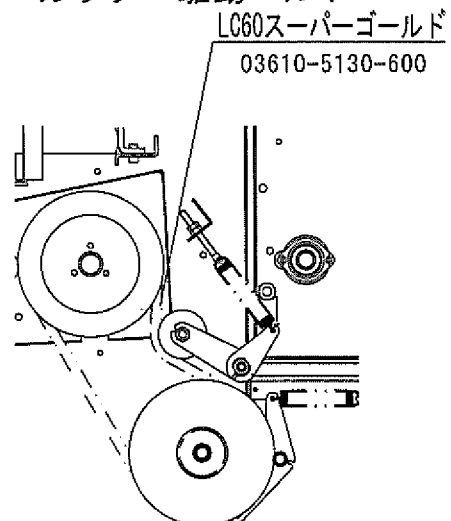
◆各ベルト



図番	品名	品番
1	V ベルト (A37)	5H690-3627-0
2	V ベルト、 アッシ(コグ C60)	5H602-1140-0
3	V ベルト、 アッシ(コグ B60)	5H801-1150-0
4	V ベルト、 アッシ(A49)	5H801-1170-2

◆ロールベアラ駆動ベルト

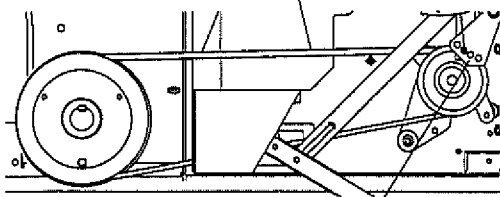
カッター駆動ベルト



付表

ネット駆動ベルト
(A71標準)

03610-0010-710

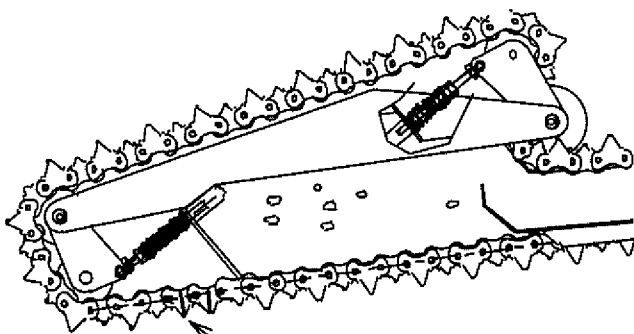
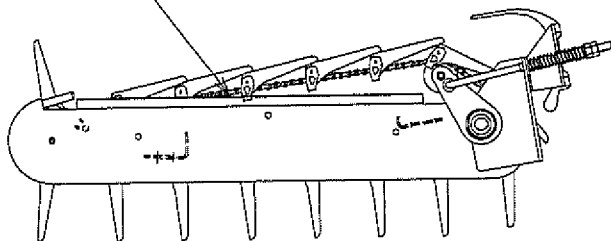


- ◆ロールベアラ部コンベアベルト
37107-6420-001

●フィードチェーン部

ホサキチェーンアッシ (128)

39101-5481-000



ギャザリングチェーン66

39101-5370-001

- タイトチェーン
39101-3280-000

- ◆タイトバー部シャーボルトセット
M8×40 (8T全ネジ) と
M8ナイロンナットが10セット
部品コード 01358-5080-40A

- ◆細断カッター部シャーボルトセット
M8×30 (8T全ネジ) と
M8ナイロンナットが10セット
部品コード 01358-5080-30A

- ◆攪拌ディスク部シャーボルトセット
M6×25 (8T全ネジ) と
M6ナイロンナットが10セット
部品コード 01158-5060-25A

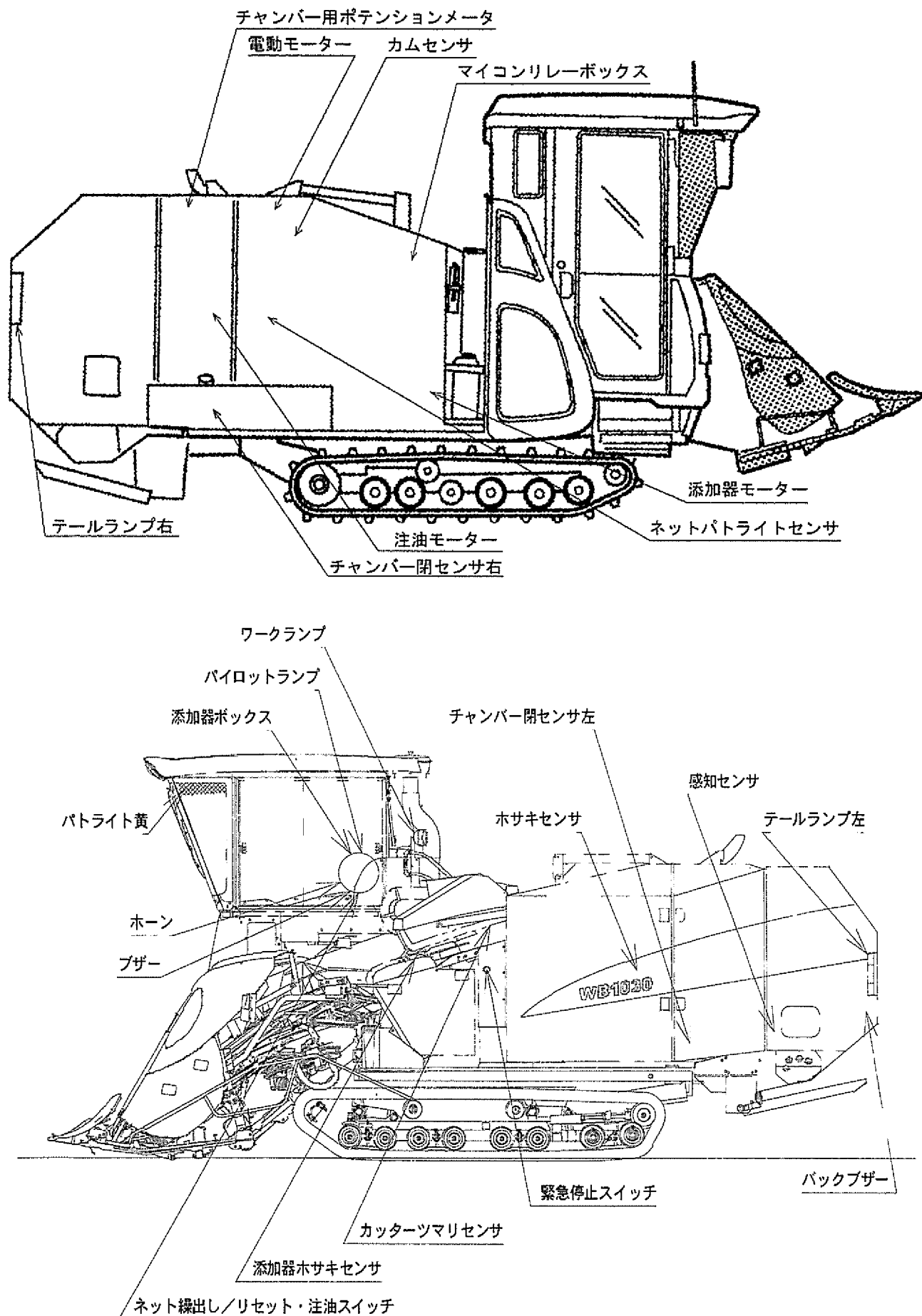
- ◆引き込み搬送部シャーボルトセット
M6×25 (8T全ネジ) と
M6ナイロンナットが10セット
部品コード 01158-5060-25A

- ◆ミッション部シャーボルトセット
M10×35 (8T全ネジ) と
M10ナイロンナットが10セット
部品コード 01158-5100-35A

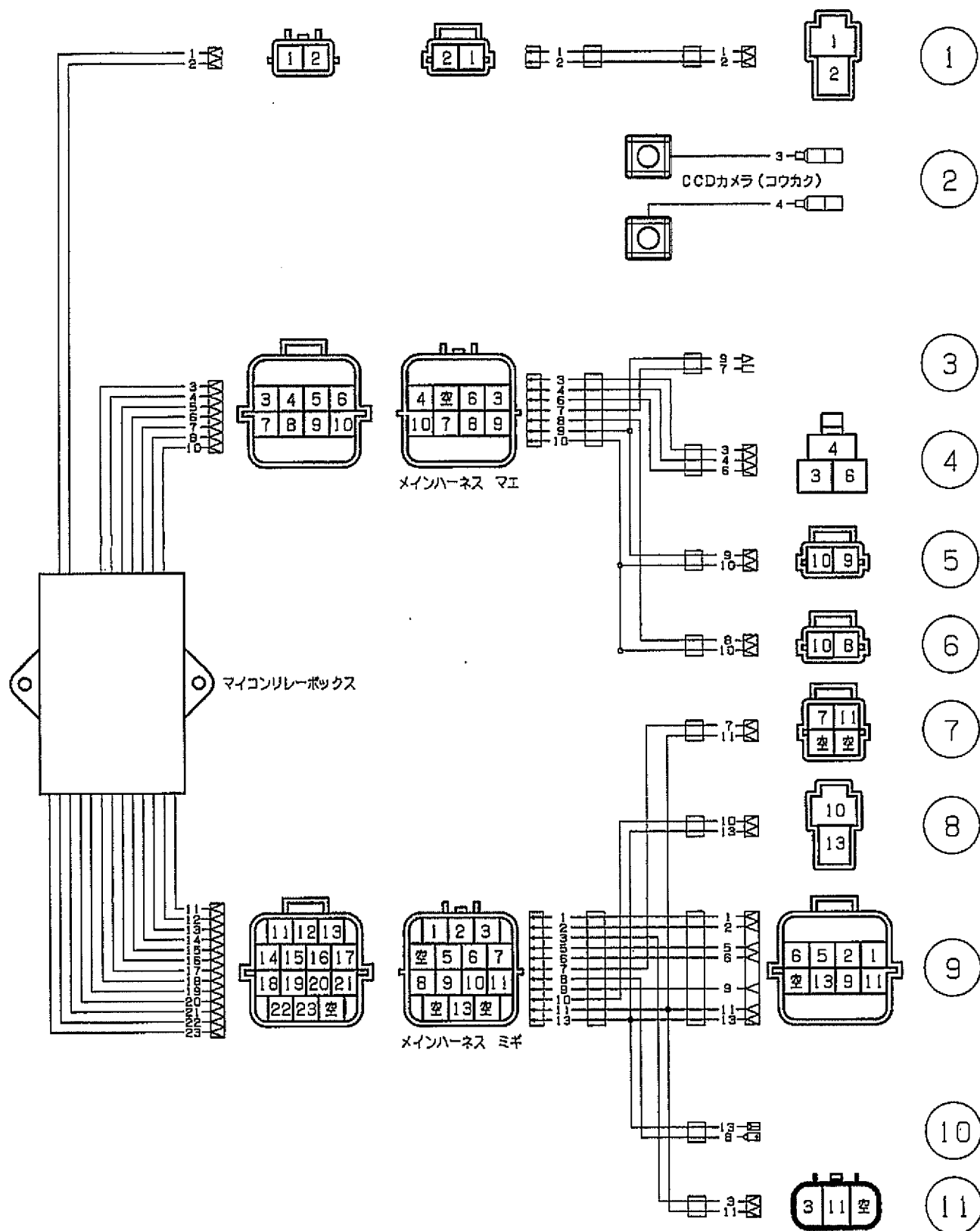
- ◆刈取部シャーピン
φ4×28
品番 (クボタ) 5H803-4695-0

付 表

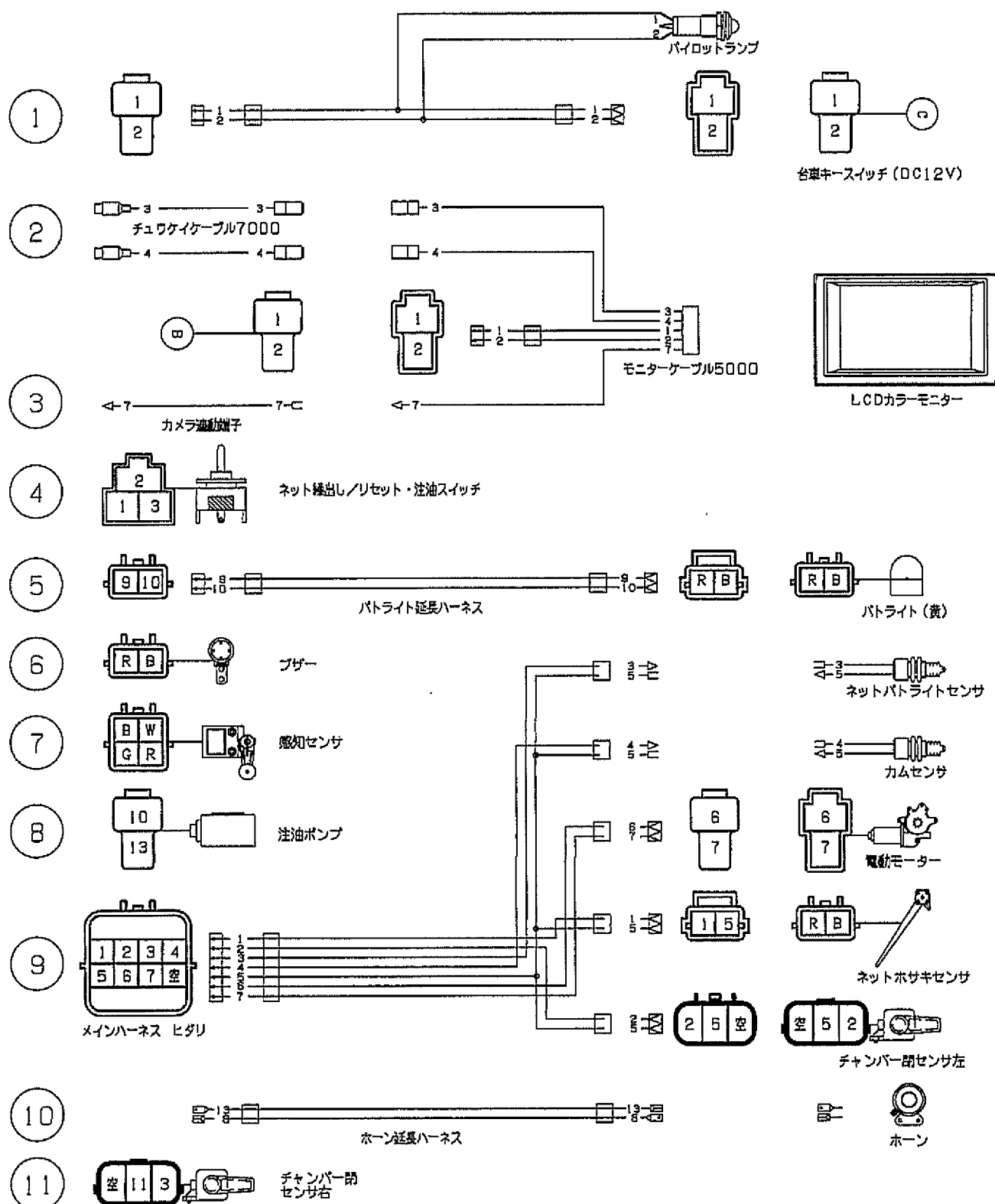
2. 電装の位置

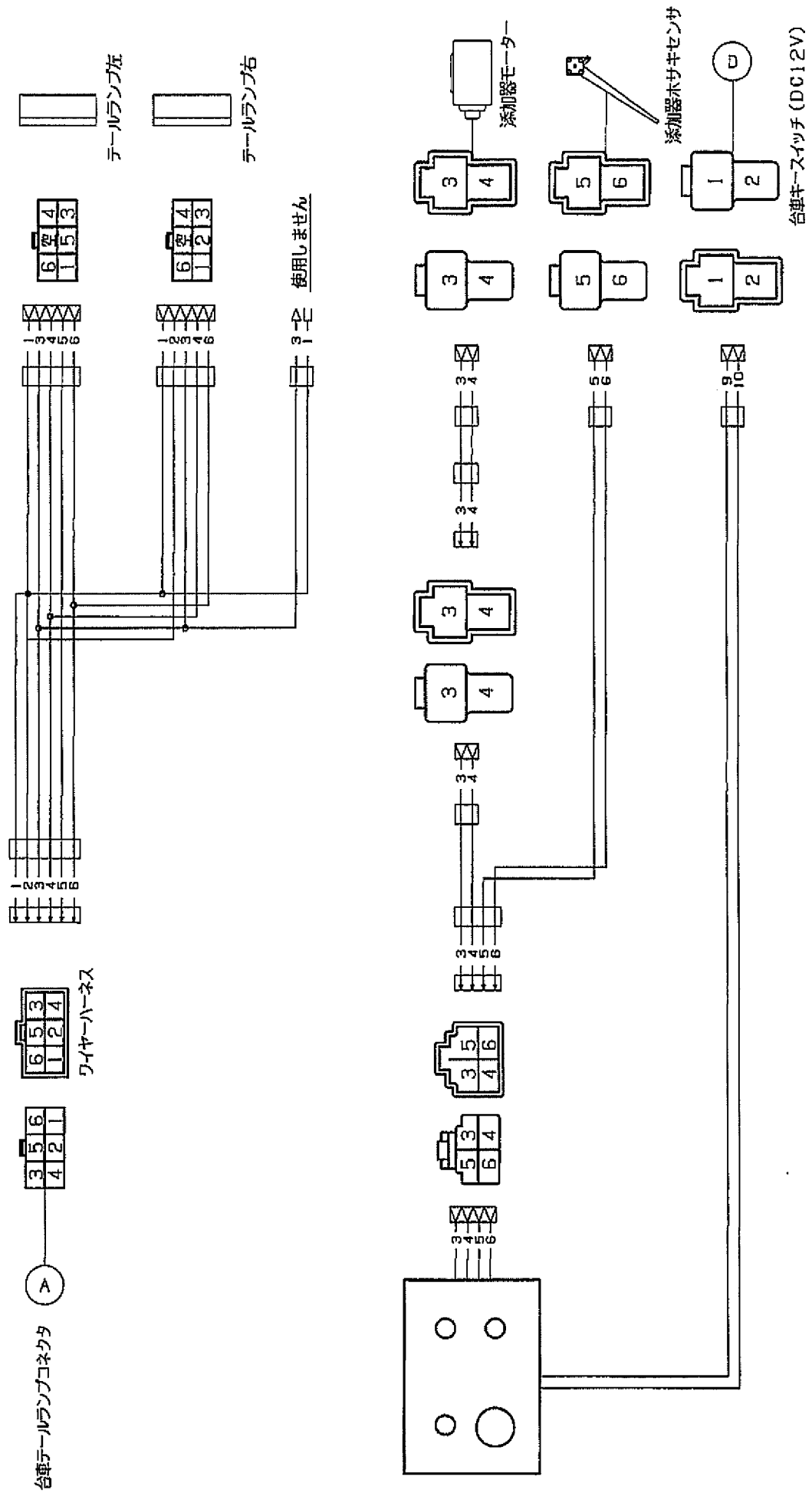


3. 配線図



付 表





付 表

4. 主要諸元

品名		自走ホールクロップ収穫機	
型式		WB1030	WB1030DX
機体の大きさ	全長 (mm)	5500	
	全幅 (mm)	2150	
	全高 (mm)	2330	2720
	質量 (kg)	4130	4230
エンジン	型式	クボタ V3600ME-TE3-C	
	種類	水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル (直噴)	
	出力/回転速度 (kw{PS}rpm)	52.9{72.0}/2600	
	始動方式	セルモーター式	
走行部	クローラー	中心距離 (mm)	1205
		幅×接地長 (mm)	450×1870
	平均接地圧 Kpa (kg/cm ²)		22.6{0.23} 24.7{0.25}
	変速方式		油圧モータ式 (HST)
	走行速度 (m/s)	前進	あぜ越え : 0~0.84
		後進	作業 : 0~1.60
			高速 : 0~2.61
刈取部	旋回方式		e-VCCT (ブレーキ・スピン・ソフトターン)
	刈幅 (mm)		1720~1770
	刈取条数 (条)		5
	変速段数		車速同調2段(独立HST) + 引きし2段
切断・形成部	切断方式		ディスクカッタ方式
	切断長		理論切断長30mm
	ベール方式		定径式 (チェーン・バー式)
	ベール寸法 (cm)		Φ100×幅85
	ベール重量 (kg)		約300 (水分60%)
	使用ネット幅 {mm}		1200、1000
	混合方式		ダブルディスク
	作業能率 (分/10a)		20~30

注)、作業能率は圃場条件、面積によって変わりますのであくまでも参考値としてください。

燃費 ; 約10L/H

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をご使用になりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社 **クキ**

本社工場 〒 518-0441 三重県名張市夏見 2828 番地
TEL 0595-63-3111(代)
FAX 0595-64-0857

札幌工場 〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠 2 条 3 丁目 1 番 20 号
TEL 011-781-1111(代) FAX 011-781-1113

札幌 〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠 2 条 3 丁目 1 番 20 号
TEL 011-781-1111(代) FAX 011-781-1113

豊富 〒 098-4110 北海道天塩郡豊富町大通り 12 丁目
TEL 0162-82-1245(代) FAX 0162-82-1885

北見 〒 099-2103 北海道北見市端野町 3 区 305-1
TEL 0157-56-3326(代) FAX 0157-56-3674

中標津 〒 086-1001 北海道標津郡中標津町東 1 条南 10 丁目
TEL 0153-72-2983(代) FAX 0153-72-3080

帯広 〒 082-0005 北海道河西郡芽室町東芽室基線 13-3
TEL 0155-62-3311(代) FAX 0155-65-3312

東北 〒 020-0891 岩手県柴波郡矢巾町流通センター南 3 丁目 2 番 6 号
TEL 0196-37-2841(代) FAX 0196-38-7225

南東北 〒 981-3602 宮城県黒川郡大衡村大衡字尾西 373 番 8 号
TEL 022-345-6951(代) FAX 022-345-6952

関東 〒 323-0012 栃木県小山市大字羽川字下田 66
TEL 0285-24-4481(代) FAX 0285-24-3791

関西 〒 518-0441 三重県名張市夏見 2828 番地
TEL 0595-63-3111(代) FAX 0595-64-0857

中国 〒 708-1123 岡山県津山市下高倉西 845-1
TEL 0868-29-3131(代) FAX 0868-29-3132

九州 〒 834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代 1389-163
TEL 0943-33-1311(代) FAX 0943-33-1312

南九州 〒 885-0003 宮崎県都城市高木町 4917 番 1
TEL 0986-38-4321(代) FAX 0986-38-4342

部 品 コ ー ド

3 9 1 0 1 9 9 1 0 0 0 7